

質問モナク、又左程重大ナル事柄デモナイノデアリマスカラ、省略致シマスガ、討論ニ入りマシテ満場一致、此政府案ヲ認メルト云フコトニ可決確定致シタ次第デアリマス、右報告致シマスニ院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決確定シ即日裁可ヲ奉請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通知ス三月七日法律第一號ヲ以公テ布セラル

### 二四 治安維持法案

#### 治安維持法

第一條 國體若ハ政體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二條 前條第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 第一條第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條 第一條第一項ノ目的ヲ以テ騷擾、暴行其ノ他生命、身體又ハ財産ニ害ヲ加フヘキ犯罪ヲ

煽動シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五條 第一條第一項及前三條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者亦同シ

第六條 前五條ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第七條 本法ハ何人ヲ問ハス本法施行區域外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

#### 附則

大正十二年勅令第四百三號ハ之ヲ廢止ス

右ハ十四年二月十八日本院ニ之ヲ提出ス二月十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ若槻內務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

我國ニ於キマシテ、無政府主義者、共產主義者其他ノ者ノ運動ガ近年著シク發展ヲ見ルニ至リマシテ、殊ニ露國、獨逸ノ革命ニ關スル過激ナル情報ハ一部ノ者ヲ刺戟致シマシテ、其運動ヲ一層深刻ニ導キタルノ感ガアリマス、續イテ其一部ノ者ハ外國ノ同志ト通謀シ、又ハ海外ヨリ資金ヲ仰ギ、過激ナル運動ヲ計畫實行セントスル者ガアリマス、運動自體モ組織的且ツ大規模ニ行ハントスル所ノ狀況ニ在リマス、而シテ最近各種ノ社會運動モ漸次熾ナラントスルノ狀況ニ在リマスノヲ奇貨ト致シテ、是等ニ對シテモ危險ナル思想行動ヲ鼓吹シ、以テ運動ヲ惡化セシメ、又ハ社會主義的過激運動ト提携セシムルヤウニ努メツ、アルヤウナ次第デアリマス、加之日露ノ國交



モ早晚回復ヲ見ルニ至ルコト、存ジマスガ、其結果ハ彼我ノ來往頻繁トナリ、過激運動者ハ各種ノ機會ヲ得ルニ至ルコトデアラウト思ハレマス、要スルニ各種ノ社會運動ハ漸ヲ追ウテ旺盛トナルコトデアラウト思ハレマス、此間過激ナル思想ヲ有スル者等ガ帝國ノ治安ヲ案ルノ目的ヲ以テ不穩ナル行動ニ出ヅルノ傾向ハ、益増加スベキモノト認ムルノ外ナイデアリマス、然ルニ是等ノ行動ニ對スル取締法規トシテハ刑法、治安警察法、新聞紙法、出版法等ガ存シテ居リマスケレドモ、其規定ガ不十分ニシテ、屢危險ナル行動ヲ全ク取締リ得ザル場合ガアリマスノミナラズ、其罰則ヲ適用シ得ル場合ト雖モ概ネ輕キニ失シマシテ、罰則ヲ賭シテ不穩ナル行動ヲ敢行セシムルノ結果トナリ、爲ニ取締ノ實ヲ擧グルコトヲ得ザルノ憾ガナイデアリマセヌ、以上ノ理由ニ依リマシテ本法案ヲ立案シタ次第デアリマスガ、法案ノ内容ハ、萬世一系ノ皇室ヲ奉戴シテ居ル、帝國ノ此國體ヲ變革シヤウトスルヤウナ事柄、又明治大帝陛下ノ大御心ニ依テ創定セラレタル、我が立憲政體ヲ變革シテ、議會否認ヲ爲スト云フヤウナ事ヲセントスルヤウナ事柄、又ハ私有財産制度ヲ根本カラ否認シテ共產主義ヲ行ハントスルガ如キ、我が國家組織ノ大綱ヲ破壊セントスルガ如キ、不法ナル結社——其謀議ト煽動及紋上ノ犯罪ヲ醸成スベキ目的ニ出デタル金品利益ノ授受ヲ禁ジテ、現今ノ過激ナル社會的運動中ニ存スル、最モ重大ナル危險ト弊害トヲ尠カラシムルト同時ニ、一般社會ヲ戒メ、不穩ナル行動ニ出ヅルガ如キ事ヲ豫防セントスルノガ、本案ノ趣旨デアアルノデアリマス、願クハ慎重ニ御審議ノ上、本案ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ切ニ希望致シマス

右ニ關シ星島二郎君、安藤正純君、清瀨一郎君、鳩山一郎君、田崎信藏君、有馬頼寧君、原夫次郎君、山口政二君及青木精一君ハ孰レモ質疑ヲ爲シ若槻內務大臣及小川司法大臣之ニ應答ス  
星島二郎君ノ質疑

吾々ハ現政府ヲ信任致シテ居ル一人デアリマス、普通選舉ヲ斷行セントシ、貴族院改革ヲ致サン

トスル現政府ヲ支持致シテ居ル一人デアリマス、然ルニ其與黨ニ屬スル私共ガ突如此法案ニ、而モ反對ノ意思ヲ以テ質疑ヲシナケレバナラヌト云フコトハ、洵ニ遺憾至極ニ存ズル次第デアリマス、私ハ今日ノ此法案ニ對シテ澤山ノ質疑ヲ致サレル方ガアリマスルカラ、極メテ自分ノ問ヒタイト思フ要點ダケヲ伺ッテ見タイト思フデアリマス、第一ニ本法ヲ提出スル根本ノ意思、而シテ現在政府ガ此日本ノ社會ニ對スル一種ノ思想政策ヲドウ云フ風ニ一體考ヘテ居ラレカ、ドンナ風ニ一體セラレントスルノカ、此根本ニ私ハ疑點ヲ持テ居ルデアリマス、近時成程表面カラ見マスト云フト、如何ニモ思想ハ動搖致シテ居ル、色々ナ社會現象ハ不安デアアル、併シ私ハ發達スル所ノ國家ハ常ニ動搖スルモノデアラウト思フデアリマス、其動搖ノ根源ニヨリ以テ向上シタト云フ若シ意思ガアルナラバ、其動搖ハ寧ろ歡迎致シテ宜シト思フデアリマス、死セシル平和ハ望マナイ、月ノ如キ世界ハ御互ガ望マナイ普通選舉ノ思想ニモ、貴族院ノ問題ニモ、婦人ノ參政權モ、奴隸制度ヲ否認スル此公娼制度ノ廢止案モ、有ユル意味ニ於キマシテ、其根源ヲモット立派ナル社會ニシタイ、モットヨリ良キ人間ヲシキ生活ヲ營ミタイト云フ根柢ガアルカラ、普通選挙ガ少々騒ガシクモ貴族院改革ガ少々激烈ニナリマシテモ、其事態ハ御互ガ歡迎センケレバナラヌノデアリマス、常ニ壓迫政策ヲ執ッテ居ル國ハ亡ンデ居ル、衰ヘテ居ル、露西亞ノ「ビータ」ニコラス「ハドウデアッタ、獨逸ノ「ビスマルク」ハドウ云フ政策ヲ執ッタ、獨逸ノ最後ハドウデアアル、今內務大臣ノ例示サレタ露西亞獨逸ハドウシテ亡ンダカト云フ根本ニ至リマスレバ、彼等ガ極端ニ壓迫政策ヲ執ッタカラ今日ノ状態ニナッタノデアアルマイカ、私ハサウ云フ意味ニ於キマシテ、若シ日本ガ歐米ノ例ヲ採ルナラバ、英吉利ノ如キ、亞米利加ノ如キ、實ニ此自由ノ極端マデヤルガ宜シイ、英國ニハ現ニ共產黨ガアル、此間モ實ニ英國ニ三百人四百人ノ共產黨ガ出來テモ、ソレガ爲ニ英國ノ國體ハビクトモスルノデナイト云フコトヲ現當局ガ言ウテ居ルデハナイカ、私ハ日本政府ノ當局者ガサウ云フ風ナ度胸デアツツテ欲シイノデアアル、亞米利加ハ普通選舉ヲ施行シテ相當年月ガ經ッテ居ル、亞米利加ハ極端ニ自由デアアル、其亞米利加ノ自由ノ中ニ今日社會黨ハ一向諸君振ハナイデハナイカ、ソレハ自由デアアルカラ宜シイノデアアル、鬱憤ガ晴ラセルカラ



宜シイノデ、露西亞ヤ獨逸ノヤウニ之ヲ壓迫シタラ、却テ反撥的ニ斯ウ云フ團體ガ醸成サレルノデアリマス、私ハ一體日本ハ今日ノ佛教ガヤツテ來タ、儒教ガヤツテ來タ、ソレ等ノ佛教ヤ儒教ノ其思想ノ根源ニ至レバ、隨分日本ノ國體ヤ政體ニモ合致シナイモノガアルカモ知レヌケレドモ、之ヲ十分消化シ盡シタ御互尊イ光榮アル歴史ヲ持ッテ居ルノデアアル、政府ハモウ少シ日本國民ヲ信賴シテ宜シイ、私ハサウ云フ意味合カラ日本ガ此光榮アル歴史ヲ持チ、殊ニ明治大帝ノ大御心ニ基イテ、明治ノ改革以來今日ノ所謂立憲政治ガ布カレタノデアリマス、立憲政治トハ何カ、言論ノ自由是ハ最も重要ナルモノデアリマス、集會結社ノ自由、是ハ最も自由ナルモノデアリマス、御互ガ既ニ經驗シ光榮アル歴史ヲ持チナガラ、今此大正ノ御代ニ將ニ普通選舉ヲ施行セラレ、貴族院モ改革セラレントスル際ニ、何故ソナニ慌テ、サウシテ之ヲ取締ルヤウナ法規ヲ必要トスルカ、私ハ只今ノ大臣ノ説明デハ十分ニ受取ラレナイノデアリマス、政府ハ此日本ノ光榮アル歴史ヲ信ジ、日本ノ國民ヲ信賴シテ、モット自由ニ、斯ウ云フ法案ヲ出サナイデ、自由ナル此立憲政治ノ根本ニ復ッテ、思想政策ノ樹立ノ上ニ一體如何ナル考ヲ持ッテ居ラレルノデアアルカ、其根本ヲ承リタイノデアリマス、私ハ當初政府ガ出來マシタ時ニ、無論此政府ハ普通選舉ヲヤル、貴族院ノ改革ヲヤル、此二大政綱カラ發スルモノトシマシテハ、當然現在ノ古臭イ新聞紙法ハ改正スルニ相違ナイ、現在ノ古イ所ノ治安警察法モ改正スルニ相違ナイ、斯ウ云フモノガ進ンデ普通選舉ヲ提出スル前ニ一體出ル筈デハナイカ、今ニ新聞紙法ノ改正モ治安警察法ノ改正モ出テ來ナイ時ニ、俄ニ未ダ十分ニ三派ガ練ルニ練ッテ練ラナイ前ニ斯ウ云フモノガ現レルト云フコトハ、私ハ洵ニ遺憾デアリマス、故ニ今日ノ世相ヲ見マシテ政府ハ思切ッテ自由ノ政策ニ出ヅル御意思ハナイカ、今後如何ナル方針デ此日本ノ思想、此日本ノ社會現象ニ對スル態度ヲ執ラレルカ、此根本ニ付テ十分ノ御説明ヲ先ヅ第一ニ承リタイト思フノデアリマス、第二番目ニハ此提案ヲサレマスマデニ、内務大臣或ハ司法大臣ハ有志ト會見サレマシテ色々ノ説明ヲサレマシタ、是ハ過激法案トハ全然違フノデアアル、過激法案ノ如キ内容ハ有ッテハ居ナイト云フコトヲ色々御説明ガアリマシタガ、私ハ靜ニ之ヲ見マスレバ、ドウシテモ往年憲政會ハ、殊ニ革新俱樂部ハ此壇上ニ於テ、實

ニ色々ナル奮闘激戰ヲシテ之ヲ葬ッタ、其歴史ヲ持テ居ル所謂社會運動取締法案、其沿革ヲ持ッテ居ルモノデアアル、其變形デアルト云フコトハ、是ハドウシテモ私ハ否マレナイト思フノデアリマス、此歴史此沿革ヲ持テ居ル法案、而シテ輿論ハ既ニ法文ノ文字ヤ或ハ字句ヨリモ、サウ云フ案ヲ出スト云フ其思想ノ根柢ニ疑ヲ挾ンデ、文句ヤ條文ヨリモサウ云フ案ヲ出スト云フ政府ノ方針ニ對シマシテ、既ニ反對ノ世論ガヤカマシイノデアリマス、之ヲ見テモ尙且此普通選舉ヲ斷行シヤウ、貴族院ノ改革ヲヤラウト云フ内閣ニシマシテ、私共ノ、其他ノ部面ニ於テハ絶對ニ信賴スル内閣ニシマシテ、尙ホ之ヲ出サウト言ハル、ハ、或ハ世上流布サレテ居リマスル現内閣ノ二大方針デアアル、成立ノ根本トモ謂フベキ即チ普通選舉ヲ能ク通サンガ爲ニ、貴族院ノ改革ヲ完全ニ遂行セシガ爲ニ、其障礙ヲ突破スル一ノ手段トシテ、或筋ヨリ交換的ニ何カ條件ヲ附ケマシテ、已ムナク斯ウ云フ案ヲ出シタノデアアルマイカ、ソレナラバ多少私共モ同情スル點ガアルノデアリマス、然ラバ修正ノ如キハ、思切ッテ修正シテ宜イ、斯ウ云フ御意見デアアルカドウカ、此點ハ可ナリ世間ニ傳ハツテ居リマスルカラ、明ニシテ欲シイト思フノデアリマス、第四番目ニハ——未ダ澤山ノ質疑者ガアリマスカラ、私ハ小サイ事ハ問ヒマセヌガ、本法案ノ根本トモナツテ居リマスル三ツノ字句ニ對シマシテ、御尋シタイト思フノデアリマス、第一ハ第一條ニアリマス所ノ「國體」ト云フ文字、日本ノ國民ニ國體ノ變革、斯ウ云フコトヲ望ム者ハ一人モアルトハ信ジナイ、併シ假ニアルトシマスレバ、ソレハ今日ノ刑法デハ取締ラレザルヤ、又「國體」ト云フ文字ガ所謂法文ニ現レントスルノハ、是ガ初メテダガ「國體」ト云フ文字ニ付テハ、今日大學ノ教授ニスラ色々ノ議論ガアルガ、政府ハ一體之ヲドウ云フ風ニ解釋サレルノカ、具體的ナ説明ヲシテ欲シイ、現ニ彼ノ美濃部、上杉兩博士ノ憲法論争ニ、國體ト政府トハ區別ナシト言ッテハナイカ、今日尙ホ疑義アル文字ヲ使フノハ、如何デアアル第二ハ「政體」ト云フ文字デアリマス、政體ノ變革ハ狭ク解釋シマスレバ、是ハ立憲政體、所謂民選制度ニ依ル所ノ今日ノ議會制度ノ變革ト云フコトニナルノデアリマセウ、ケレドモ之ヲ廣義ニ解釋シマスレバ、樞密院ガ法制局ノヤウニヤカマシイ、アンナモノハ、廢シテシマヘト云フコトハ、是ハ即チ政體ノ變革デアアル、貴族院ヲ廢スベシト云フ若シ



此運動ヲセンガ爲ニ結社ヲ造ル、言論ヲスル、是即チ政體ノ變革デアアル、是ガ政體ノ變革デナイト云フコトハ、ドシナニ説明シマシテモ、此二字ダケヲ以テハ到底ソレハ説明ヲシ切レナイ、若シ斯ウ云フ法案ガ通過シマシテ、是ガ司法當局ノ手ニ移タル場合ニ於キマシテ、廣イ意味ニ解釋サレ、若シ貴族院ノ改革運動、或ハ樞密院ヲ廢止スベシト云フヤウナコトガ此法案ニ觸レマシテ、十年モヤラレト云フコトハ、是ハ實ニ由々シキ日本ノ立憲政治ヲ毒スルモノデアッテ、御互ガ未ダ立憲政治ヲ布キマシテ漸ク三十有餘年、日本ノ國體モ變ラナイ、日本ノ國體ヲ基礎トシテ、モット、ヨリ良キ政體ヲ造リタイト云フコトハ、是ハ人間ガ進化スル、社會ガ進化スル原則デナケレバナラヌ、ソレヲモ止メテシマフト云フコトハ、是ハ所謂非常ナ非立憲ナル文字デアッテ、此點ニ關スル明カナル御説明ヲ願ヒタイト思フデアリマス、成程普通選舉ヲ斷行シ、貴族院改革ヲヤラントスルヤウナ内閣ガアル場合、此立法ノ趣旨ガ十分徹底シタル場合ニ於テハ、マサカ斯ウ云フ法案ガ通過シマシテモ、如何ニ淺薄漢ノ裁判官デモ、貴族院ノ廢止、樞密院廢止論ヲ以テ、十年ニ罰スルヤウナ者ハ無イカモ知レナイガ、併シ此内閣ガ込ッテ、反動内閣ガ天下ヲ取リマシテ、此條文ヲ楯ニ取ッテ若シ言論ヲ壓迫シ、結社ヲ壓迫スルナラバ——私ガ假ニ當局者トナッテヤルナラバ、此法案ノ一條デ以テ、日本ノ大部分ノ結社ヲ踏潰スコトガ出來ル、若シ普通選舉ガ布カレタ後ニ於キマシテ、無產政黨ガ出來ルナラバ、之ヲ解散シ之ヲ縛ルコトモ出來ルノデアリマス、ダカラ斯ウ云フ茫漠タル文字ヲ書カレト云フコトハ、最モ遺憾デアリマス、内務大臣ハ之ニ對シテ如何ナル考ヲ持ッテ居ラレルカ、第三ニハ所謂「私有財産ノ制度」ト云フ文字デアリマス、是モ先程來既ニ度々論議サレマシテ、有志ノ會見ニ於キマシテ大臣モ御説明デアリマシタガ、鐵道國有ヲ斷行シタ日本ノ政治、土地國有論ノヤカマシイ今日、電力國有ノヤカマシイ今日、此國有ト云フモノガ此私有財産制度ニ反シタル制デアリ、共產ト云フ言葉ニハ當ラナイケレドモ、其思想ノ根本ニ於テハ、ソレト同ジ所ノ意味デアルト云フコトハ、是ハ學說上否マレナイト思フノデアリマス、私ハ寧ロ日本ノ將來ハ土地國有、或ハ面白イカモ知レナイ、船舶ノ國有、是モ面白イ、電力ノ國有、是モ面白イ、コゴ宜イ宜イト計算シタ所ガ何ガ後ニ殘ルカ、若シ學者ガ所

謂經濟上生産ニ屬スルモノハソレハ宜イ、消費ニ關スルモノハイケナイ、斯ウ云フ風ニ別ケテ見マシレバ、家庭ノ基礎タル家屋ノ如キハ、是レ最モ大ナル消費財産デアリマスケレドモ、日本ノ將來ノ社會ヲ本當ニ考ヘテ見マシレバ、或ハ家屋ノ如キハ、市營、國營ガ宜イカモ知レヌ、斯ウ云フ議論ヲ以テ御互ガ或ハ團體ヲ作ッテ其思想ヲ宣傳スル場合ニ、眞ニ社會ヲ思ヒ、日本ノ將來ヲ思フテヤル事ガ却テ禍ヲシテ、十年ニ間ハレト云フ結果ニ相成ラヌカ、若シ司法當局ガ——裁判官ガ狹ク廣ク此文字ヲ自由自在ニ使ハレタ際ニ於テハ、御互ハ非常ナ脅威ヲ感ゼザルヲ得ナイノデアリマス、殊ニ此「私有財産」ト云フ文字ニ付テハ、私有財産制ノ根本ニ付テ考ヘルニ、日本ハ他ノ國ヨリモ或意味ニ於キマシテ家族本位ノ國柄デアアル、此家族本位、家族本位ノ此思想ヲ日本ノ社會ニ合致セシメ、日本ノ政治ヲ能ク運用スルコトニ依リマシテ、日本ノ國體ハ發揮出來ルト思フノデアリマス、諸君、家庭ノ本位、家族主義ノ根源ハ何デアルカ、ソレハ言葉ハマヅイケレドモ、一種ノ共產デアアル、家庭ガ平和デアレバアルダケ家庭ハ專制デナイ、ソコニ日本ノ思想ガアル、私ハ斯ウ云フ意味ニ於テ、茲ニ日本ノ將來ノ思想ニ於キマシテ、ドウシテモ斯ノ如キ文字ヲ採ルト云フコトハ、非常ナ間違デアルト思フデアリマス、第四番目ニ私ハ本案ノ第一條ハ、學問ノ研究ヲ非常ニ障害スルコトニハナラナイカ、凡ソ大學ノ教授ハ、學問ノ研究ヲスルノガ國家ニ命ゼラレタル所ノ使命デアリマス、國家ニ關スル學問ヲスル爲ニ極端ニ自由ヲ許サナケレバナラヌ、其爲ニハ進ンデ新シイ社會組織ヲ研究シナケレバナラヌ、其組織ヲ研究シマスルコトハ、若シ本法ニ觸レルヤウナ心配ハ無キヤ、先般我が全國高等學校ノ最モ純真ナル青年達ガ社會學研究會ヲ開キマシテ、中ニハ一二少シ脱線シタノガアツタカモ知レマセヌケレドモ、眞ニ今日ノ社會現象ヲ見テモ純真ナル青年ガ研究シタイト云フノハ、是ハ慶ブベキ事デアリマス、然ルニ文部大臣ハ其當局ヲ通ジマシテ之ヲ解散セシメ、福岡ノ高等學校デハ、二名以上ノ學生ガ一緒ニナッテ社會學ヲ研究シタラ、嚴罰ニ處スル、放校ニ處スルト云フ、佐賀ノ高等學校デハ書物ヲ燒イテシマハシタ、鹿兒島ノ高等學校デハ或ル生徒ヲ放校ニシタ、熱心ニ純真ナ心ヲ持チマシテ研究セントスル是等ガ、若シ之ヲ壓迫シマスレバ、却テ秘密ノ結社ヲ作り、サウシテ純真ニ研究スル



者ハ之ニ觸レル心配ハ無イカ、是ニ於テ日本ノ大學ノ教授ハ、新聞紙上其他ニテ相當犠牲ヲ拂ッテ居ル、私ハ第二條ハ殊ニサウ云フ所謂學問ノ自由、研究ノ自由ヲ阻碍スル虞ハナキヤ、而シテ第三條ニ「煽動」ト云フ文字ガアル爲ニ、言論機關、殊ニ新聞紙ノ非常ナ脅威ナラザルヤ、私ハ以上ノ四項ニ涉リマシテ、本案提出ノ根本ノ政府ノ思想思索、而シテソレニ起ル所ノ字句ノ一二ニ付キマシテ、明快ナ説明ヲ聽キタイト思フノデアリマス

若槻内務大臣ノ應答

星島君ノ御質問ノ第一點デアリマス所ノ人類ノ向上ヲ圖ルニ付テハ、思索ノ自由ヲ許シテ置カヌケレバナラヌト云フ御議論ニ對シテハ、私モ全然同感デアリマス、而シテ現内閣ハ思想ノ研究ニ付テ、壓迫的方針ヲ採ッテ居ルヤ否ヤト云フ御問ニ對シテハ、決シテ左様ナ者ハアリマセヌ、言論文章ノ自由ハ何所マデモ害セナイヤウニセヌケレバナラヌト云フノハ、現内閣ノ心掛ケテ居ル所デアリマス、唯併シ是ニハ一定ノ制限ガアリマス、國體ヲ破壞シテモ、經濟組織ノ根本ヲ破壊シテモ、言論文章ハ自由デアルト云フコトデハ國家ノ治安ヲ保ツコトハ出來マセヌ、ソレデアリマス故ニ言論文章ノ自由ハ何所マデモ尊重致シマスケレドモ、其害毒最モ甚シキモノハ取締ッテ置カナケレバナラヌト云フノガ、今日此治安維持法ヲ提出シタ所以デアリマス、後ニ御質問ニナッテ居ル事項ニ御答申上ゲルト、自然ニ判リマス、此度ノ法律ガ抽象的ノ文字ヲ使ハズシテ、國體ヲ變革スルトカ、政體ヲ變革スルトカ、私有財産制度ヲ否認スルトカ云フ具體ノ文字ヲ用キテ、決シテ曖昧ナ解釋ヲ許サヌト云フコトニ致シマシタコトハ、即チ言論文章ノ自由ヲ尊重スル事デアッテ、若シ餘リニ概括的、餘リニ抽象的ノ文字ヲ用キテ居ルト、議論ヲスル人、文章ヲ書ク人ガ非常ナ不安ヲ感ズルノデアリマスカラ、具體的ノ文字ヲ使ッテ、斯ノ如キ人ノ言論文章ノ自由ヲ害セヌヤウニ努メタノガ、本法案ノ非常ニ意ヲ用キテアル所デアリマス、第二段ノ御質問ノ普通選舉ヲ實行シ、貴族院ノ改善ヲ圖ルト云フ位ナ、此内閣ガ斯様ナ法律ヲ出スト云フコトハ何等カ矛盾ガアルヤウニ御考ニナッテ、何等カ他ノ勢力——威力ヲ受ケテ其擁スル所トナッテ、斯様

ナ法律案ヲ提出シタノデハナイカト云フ御疑念ガアルヤウデアリマス、治安維持法ヲ制定シナケレバナラヌトシタノハ、現内閣ガ成立シタ初カラ決心シテ居ッタコトデアリマス、昨年十二月ノ二十二三日デアッタ存ジマスガ、豫算ノ内示會ヲ開イテ各派ノ諸君ヲ招待シタコトガアルノデアリマス、其席上松田源治君カラ、治安維持法ノヤウナ法律案ヲ提出スルヤ否ヤト云フ御質問ノアツタ時ニ、私ハ現内閣ハ其法律案ヲ提出スル考デアリマスト云フコトヲ答ヘテ居ルノデアリマス、普通選舉ノ法案ヲ方々デ審査セラレタノハ其以後ノ事デアリマス、其以前ニ於テ、既ニ政府ノ決心ヲ語ッテ居ルノデアリマスカラ、此法案ガ決シテ他ノ勢力ノ壓迫ヲ受ケテ立案セラレタモノデナイト云フ事柄ハ、此事實ニ依テ明瞭デアラウト存ジマス、第三ノ御質問ノ國體ト云フ事ノ意味ガ明瞭デナイト云フ仰セデアリマス、國體ト云フノハ前ニ申シタ通り、帝國ノ國體ハ萬世一系ノ天皇ヲ奉戴シタル帝國ト云フ、是ガ日本帝國ノ國體デアリマス、此金甌無缺ノ國體ヲ變革セント企ツル者ガアルナラバ、此法律ニ依テ取締ヲシナケレバナラヌ、斯ウ云フノデアリマス、政體トデアリマス、立憲政體デアルトカ、獨裁政治デアルトカ云フヤウニチャント決ツタ意味ガアルノ依テ世間ノ受取テ居ル意味ノ政體ト云フ意味デアリマス、即チ我が日本ニ於テ今日日本ノ政體ガ如何ナルモノデアアルカト申セバ、即チ立憲政體デアリマス代議政體デアリマス、之ヲ破壞セントスル者ガアルナラバ、此法律ニ依テ取締ルト云フノデアリマス、日本ニ於テ今日ハ二院制度デアリマス、私ハ此二院制度ヲ何所マデモ守ッテ行カナケレバナラヌト思ウテ居ルノデアリマス、貴族院ヲ廢止スルナドト云フ考ハ私ハ全然無イノミナラズ、左様ナ考ヲ懷クコトニ向ッテ全ク反對スル者デアリマス、併ナガラ貴族院ヲ廢止スルト云フ議論ハ、決シテ政體ヲ變革スルト云フコトニハ相成ラヌノデアリマス、世界ニハ同ジ立憲政治ノ國ト雖モ一院制度ノ國モアリマス、二院制度ノ國モアリマス、一院制度デアアルカト云ウテ、其國ガ立憲政體タルコトハ、チットモ妨グハ致サヌノデアリマス、ソレデアリマスカラ、私ハ貴族院ノ廢止ニハ全然反對スル者デアリマステレドモ、貴族院ヲ廢止スルト云フ議論ヲ唱ヘタカラト云ウテ、決シテソレガ政體ノ變革ヲ唱



ヘタモノデアルト云フコトハ言ヘナイデアリマス、殊ニ樞密院ヲ廢メヤウト云フコトニモ私ハ反對デアリマス、樞密院ハ依然トシテ存シテ置ク方ガ宜イト思ヒマス、併ナガラ世間デ樞密院ヲ廢止シヤウト云フ議論ヲ唱ヘタカラト云ウテ、ソレハ決シテ政體ノ變革ヲ唱ヘタモノデナイコトハ殊ニ明瞭デアリマス、ソレカラ私有財産制度ノ否認ト申上ゲルノハ、是ハ詰リ財産制度ノ根本組織ヲ破壞シヤウト、斯ウ云フコトデアリマス、即チ共產主義ヲ行フコトデアリマス、鐵道ヲ國有ニシヤウ、鑛山ヲ國有ニシヤウ、水力電氣ヲ國有ニシヤウ、農耕地ヲ國有ニシヤウ、是ハ私ハ決シテ私有財産制度ヲ否認スルモノデナイト思ヒマス、此法律案ニ於テハ、決シテ左様ナル事ガ籠ッテ居ナイデアリマス、私有財産制度ノ根本ヲ破壞シテ、共產主義ヲ行ハント云フ者ガ、即チ私有財産制度ノ否認ト云フコトニ相成ルデアリマス、本法案ノ第二條ハ、學者ガ研究ノ自由ヲ持ツコトガ出來ヌコトニナリハセヌカト云フ御疑念デアリマス、本法案ハ只今申上ゲル俗ノ言葉デ申上ゲレバ此法律ハ無政府主義、共產主義ヲ取締ル法律デアルト言ッテモ宜イデアリマス、唯無政府主義ト申シマシテハ共和政治ヲ主張シテモ矢張政府ガアル譯デアッテ、ソレデハイケマセヌカラ、國體ノ變革ト云フ言葉ガ使ッテアリマスケレドモ、大體ノ見方ハ無政府主義、共產主義ヲ取締ルト云フ精神カラ出デテ居ルデアリマスガ、其事ヲ目的トシテ是ガ實行ヲ協議シタ者ガ、本法案ノ第二條ニ依テ制裁ヲ受ケルデアリマス、學者ガ研究ヲシタ所ガ、其事ノ實行ヲ目的トシテ世ノ中ニサウ云フ事ヲ實現セシメントシテ相談スルデアナイ限リハ、決シテ本法案ニ依テ妨ゲラレルモノデナイデアリマスカラ、此點モ明瞭ニ申上ゲテ置キマス、尙ホ星島君ノ質問ノ事項ニハアリマセヌケレドモ、星島君ノ持ッテ居ラル、疑念ニ關聯シテ、私ハ茲ニ終リニ一言ヲ加ヘテ置クコトガ必要デアルト存ジマス、世間ニハ此法律案ガ労働運動ヲ禁止スルガ爲ニ出來テ居ルヤウニ誤解シテ居ル者ガアルヤウデアリマス、此法律ガ制定サレマス、労働者ガ労働運動ヲスルニ付テ、何等カ拘束ヲ受ケルト云フヤウニ信ジテ居ル者ガアルヤウデアリマス、斯ノ如キハ甚シキ誤解デアリマス、労働者ガ自己ノ地位ヲ向上セシメルガ爲ニ労働運動ヲスルコトハ何等差支ナイノミナラズ、私共今日局ニ當ッテ殊ニ内務省ハ其所管ノ省デアリマスガ、左様ナ

事ニ向テハ何等拘束ヲ加ヘルト云フ考ヲ持タヌデアリマス、唯此問題ハ前ニ申上ゲル如ク無政府主義、共產主義ヲ實行セントシテハイケヌト云フ取締法デアリマス、労働者ニシテ無政府主義ヲ唱フルニ非ズ、共產主義ヲ唱フルニ非ザレバ、彼等ガ労働運動ヲスル上ニ於テ、此法律案ニ何ノ拘束モ與ヘルモノデナイデアリマス、此事ハ世ノ中ニ誤解ガアルヤウデアリマスカラ、星島君ノ御質問中ニハアリマセヌケレドモ、此際之ヲ述ベテ本案ノ趣旨ヲ明瞭ニ致シテ置キタイト思ヒマス

安藤正純君ノ質疑

私ガ此法案ニ付キマシテ質問ヲ致シタイト思ヒマス、其一斑ハ、星島君ノ質問ニ依リマシテ、内務大臣ノ御答ニ依テ、解スルコトヲ得マシタカラ、其點ハ略シマシテ、尙ホ私ノ不明ニ思フ點ヲ簡單ニ御尋ヲ致シタイト思フデアリマス、治安維持法ヲ提出セラレタト云フコトハ、共產主義、並ニ無政府主義ヲ防遏スルト云フ其精神カラ出タト云フ今ノ内務大臣ノ御答辯デアリマス、此國家ノ爲ニ害毒ヲ流ス所ノ此兩主義ヲ防遏スルガ爲ニ、國家ノ前途ヲ思フ其精神ニ至ッテハ勿論私モ同感デアリマス、併ナガラ之ヲ防遏スルト云フコトニ對シマシテ、斯ノ如キ法律ヲ嚴行スルト云フコトガ果シテ有利デアルカ有利デアナイカト云フコトハ、大ニ攻究スベキ問題デハナイカト思フデアリマス、先年過激運動取締法案ガ議會ニ提出セラレマシタ時ニ、是ハ時代錯誤ノ法律案トシテ非常ニ不評判デアッタ、遂ニ會期ガ參リマシテ、審議未了ニ終リマシタガ、此治安維持法モ思想ノ系統カラ言ヒマス、矢張此思想ノ系統ヲ辿ルモノデアラウト思フ、尤モ前ノ法案ヨリハ餘程緩和セラレテ居リマスルガ、思想ノ系統ハ同ジデアルト思フデアリマス、殊ニ此議會ニ於キマシテ豫算總會ニ於テ、新聞紙法ノ問題ヲ私ガ御尋致シマシタ時ニ、若槻内務大臣ハ新聞紙法モ今日ノ如キデハ自由ヲ束縛シ過ギテ居ルカラ、此點ニ向ッテ改正スルノ意ガアル、内務省モ目下之ヲ調ベテ居ル、但シ此議會ニ提出スルコトガ間ニ合ウカドウカト云フコトハ問題デアルガ、政府モ改正ニハ意ガアルト云フコトヲ言明セラレテ居リマス、サウシテ



見レバ一方ニ新聞紙法ノ如キモ、モット自由ニシヤウト云フ意思ガアルニ拘ラズ、一面ニ此治安維持法ノ如キヲ急イデ御制定ニナルト云フ、其思想ノ系統ガ私ニハ分ラナイノデアリマス、要スルニ思想ノ上ニ矛盾ガアリハシナイカト云フ點ニ付テ、今一度御尋ヲ致シタイノデアリマス、第二ニ我國ノ歴史ニ徴シマスルト、我國位昔カラ多クノ思想ヲ融和シ來ッタ國ハアリマセヌ、多クノ外來思想ガ皆我國ノ中ニ這入りマシテ、同化セラレテ居ルノデアリマス、只今星島君モ言ハレテ居リマシタガ、儒教ガ輸入シ來ッタ時モ、佛敎ガ這入ッテ參リマシタ時モ、將タ近ク基督敎ガ這入ッテ參リマシタ時モ、ソレハ色々ノ問題ガ起ッタノデノアル、併ナガラ皆是ガ渾然融和サレテ、我國國民思想ノ涵養助長トナッテ居リマス、元來思想ト云フモノニ境ハ無イノデアリマサルカラ、唯之ヲ喰止メヤウトスルノハ是ハ無理デアアル、私ハ唯此外來思想トカ危險思想トカ云フモノハ、無理ニ止メヤウト思ッテモ止マルモノデハナイノデアリマスカラ、ソレヨリハ幾ラサウ云フ思想ガ這入ッテ參リマシテモ、所謂此萬世一系ノ國體觀念ヲ明徴スル所ノ思想ヲ、國民ノ間ニ強ク涵養スルト云フコトガ一番デアラウト思フ、其國體觀念ヲ確立スルト云フコトニハ、ドウシタラ宜イカト云フト、ソコガ政府ト聊カ所見ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、政府ハ其國體觀念ヲ崩スカラスウ云フ法律ヲ拵ヘテ嚴罰ニ處スルト云フノデアリマスガ、私ハ寧ロサウ云フコトヲスルヨリハ、思想ヲ大膽ニ解放シテ、而シテ腹ノ底カラ自由研究ヲサセテ、其結果我が國民ヲシテ國體ヲ自覺セシムルト云フ、斯ウナッテ來タ時ニ本當ニ此義勇奉公ノ精神ト云フモノガ腹ノ中カラ流露トシテ湧出デルノデハナカラウカト思フノデアリマス、デアリマスカラ却テ斯ウ云フ法律ヲ拵ヘテ置クコトハ、事ニ依ルト寧ロ亂暴ナ危險思想ヲ懷イテ居ル者ヲ助長スルヤウナ結果ヲ來ス憂ハナイカト云フコトヲ深ク憂フルノデアアル、併シサウ云フ者モアルカモ知レナイケレドモ、大抵ノ者ハ嚴罰ニ處セラレルカラ止メテシマダラウト斯ウ云フデアアルケレドモ、其止メルト云フノハ罪ガ怖イ、七年ニナッタリ、十年ノ懲役ニナッタリシテハ堪ラナイカラ、一時止メルト云フノデ腹ノ底カラソレハ止メテ居ルノデハナイノデアリマスカラ、サウ云フ遣方デハ本當ノ國體觀念ノ確立ハ出來ナイ、寧ロ此國體觀念ヲ確立セシムル爲ニハ腹ノ底カラソ

ナ無政府主義ヤ共產主義ヲ止メサセナクテハイケナイ、止メサセルヤウニ導クト云フコトガ必要デアラウト思フノデアリマス、ソレハ其爲ニハ、斯ウ云フ法律ハ唯目先ダケヲ一寸止メルト云フダケデ、本當ノ腹ノ中ハ却テソレガ反感ヲ助長スルヤウナ結果ニナリハスマイカ、斯ウ云フコトヲ憂ヘルノデアリマシテ、要スルニ私ハ國家ヲ憂ヘル、其精神ハ——而シテ共產主義、無政府主義ト云フモノヲ止メタイト云フ其精神ハ政府ト少シモ違ハナイ、唯ソレヲヤルノニ斯ウ云フ法律ヲ茲ニ作ル方宜イカ、作ラナイ方宜イカ、斯ウ云フコトガ見ル所ノ岐レル所デアリマス、私ハ餘リニ目ノ先ヲ抑壓スル、斯ウ云フ法律ヲ作ルト云フコトハ、寧ロ事ニ依ルト反感ヲ助長シ、斯ノ如キ惡運動ヲ助長スル結果ニナリハシナイカト云フコトヲ憂ヘルノデアリマスカラ、此點ヲ一應御尋致シタイノデアリマス、最後ニモウ一ツ御尋シテ置キタイ事ハ、政體ノ變革ト云フコトデル、ドウシテモ此法律ヲ作ラナケレバナラヌト、斯ウ云フコトニ政府ガ御認ニナッタ時ニハ、政體ノ變革ト云フコトニハ非常ナ疑義ガアリマス、隨分廣ク解釋ガ出來ル、而シテ言論ニ從事シテ居リマスル——單リ勞動運動者バカリデハアリマセヌ、多クノ言論ニ從事シテ居ル者、新聞ニ從事シテ居ル者ノ如キハ、是ガ爲ニ却ッテ累ヲ及ボス者ガ多ク起ッテ來ハシナイカト云フコトモ考ヘテ置カナケレバナラナイ、ソコデドウシテモ此法律ヲ制定シナケレバナラヌトスレバ、此政體ノ變革トカ、或ハ私有財産ノ否定ヲスルトカ云フコトヲ、モット明確ニ一々具體的ニ——一ツ何、一ツ何ト列舉主義ニ、一々具體的ニ列舉スルト云フ御考ハアリマセヌカ、如何デアリマスカ、此三點ニ付テ御尋ヲ致シテ置キタイト思フノデゴザイマス

若槻内務大臣ノ應答

過日安藤君ガ豫算總會ニ於テ新聞紙法改正ノ意思アルヤ否ヤト云フコトヲ御尋ニナリマシタ、其時ニ私ハ新聞紙法ニ付テハ若干改正ヲ要スル所ガアラウト思ヒマスケレドモ、マダ調査ガ出來テ居リマセヌカラ、此議會ニ提出出來ルヤ否ヤハ斷言ガ出來マセヌト申上ゲマシタ、私ノ申上ゲタ趣旨ハ其意味デアリマシタガ、只今此處デ御述ニナッタ所ニハ稍敷衍シテアリマシタノデ、



ソレ故ニ繰返シテ、私ハ豫算總會ニ於テ御答ヲ申上ゲタ意味ヲ此處デ申上ゲルノデアリマスガ、右ノ如キ答辯ヲ致シテ居ルノデアリマス、其答辯ヲ致シテ居リマス事ト、此治安維持法案ノ如キ法案ヲ提出スル事トハ、考ノ上ニ於テ大ナル矛盾ガアルヤウニ思フガ、如何デアアルカト云フコトデアリマシタガ、先程モ大體ノ説明ヲ申上ゲルトキニ申上ゲテ置キ、並ニ星島君ニ御答スル時ニモ申上ゲテ置キマシタ通り、此法案ハ最モ極端ナル者ヲ取締ラウト云フノデアリマス、最モ國家社會ニ害毒ノアル者ヲ取締ラウト云フノデアリマス、其事柄ト新聞紙法ノ若干改正ヲ行フコトハ、思想ノ上ニ於テ何等抵觸スルコトノ無イ事柄ト私ハ信ジテ居リマス、又同ジ御考ノヤウデアリマスガ、日本ハ外來ノ思想ヲ咀嚼シテ之ヲ融合同化スル歴史ヲ持ッテ居ル、ソレデアアルカラ如何ナル考ガ外國カラ來テモ抛ッテ置イタナラバ、自然ニ善イ所ニ是ガ同化セラレテ行クノデアアル、而モ餘リソレヲ抑ヘントスレバ却ッテ反撥シテ效果ガ少イ、自然ニ委セテ置イタラバ各人ガ心ノ中カラ覺ッテ來ルカラ、ソレガ宜シカラウト云フ御意見ノヤウデアッテ、第二段ノ御質問ガ出タヤウデアリマス、併シ事柄ニ依ルノデアリマス、無政府主義、共產主義ト云フヤウナモノヲ融合同化シヤウト言ウタ所ガ、私ハ到底是ハ日本ノ社會ノ根本ノ組織ニ於テ、融合ノ出來ル事デナイト信ズルノデアリマス、斯ノ如ク極端ナル者ハ矢張之ヲ防グノガ相當デアルト思フ、又大體ニ於テハ餘リ壓迫シテ思想ヲ抑ヘ付ケヤウトスルノハ宜クナイト云フ御論ハ、私モ同感デアリマス、成ベク思想ニ向ッテハ寛容ナ態度ヲ執ル方ガ宜シイ、是ハ御同感デアリマス、併シ無政府主義、共產主義ニ對シテ寛大ナル態度ヲ執ルト云フコトニシテ、其害毒ヲ國內ニ流サシムルト云フコトハ、私ハ是ハ宜シクナイト斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、第三ノ御質問ハ洵ニ申譯アリマセヌガ、モウ一遍御繰返シヲ願ヒマス、ドウ云フ事デアリマシタカ

安藤正純君ノ再質疑

第三ノ質問ハ此法律ガ無クトモ斯ノ如キ罪ハ刑法ナリ、或ハ治安警察法ナリデ罰スレバ宜イト思フノデアアル、若シ治安警察法ナドハ輕イトスレバ、之ヲ重ク改正スレバソレデ用ハ足りハシナ

若槻内務大臣ノ再應答

イカト思フノデアアルガ、併ナガラ讓ッテドウシテモ共產主義ヤ無政府主義防遏ノ爲ニ此法律制定ノ必要アリトスレバ、此政體ノ變革ト云フ所、或ハ私有財産ノ變革デアリマスガ、此點ヲモット具體的ニ一々條項ヲ舉ゲテ列舉ナサル御考ハアリマセヌカト云フコトヲ御尋シタノデアリマス

私ハ此法案ニ起草シテアリマスヤウナ政體ト云フ文字ハ洵ニ明瞭デアアルト思ヒマス、日本帝國ニ於ケル現在ノ政體ト云フナラバ立憲君主政體デアリマス、ソレ故ニ立憲政體ヲ變革スル者ノミガ之ニ適用セラレテ、其以外ノ者ハソレハ關係ナイノデアリマスカラ、是ヨリ明瞭ナル文字ハ無イト思フノデアリマス、又私有財産制度ノ否認、私有財産制度ヲ根本カラ破壊スルト云フナラバ、私有財産制度ノ否認ト云フ文言程明瞭ナル文言ハ無イト私ハ思ウテ居リマス、併シ若シ安藤君ニシテ、モット私ノ申上ゲルヨリ意味ガ明瞭ニ現ハレルヤウナ文字ヲ御提供下スツタナラバ、ソレハ考慮致シテ見マスガ、私ハ此原案ニ在リマス政體ノ變革、私有財産制度ノ否認ト云フ言葉ガ一番明瞭デアッテ、是ヨリ明瞭ナル文字ハ只今ノ所デハ考ヘ及バナイノデアリマス

清瀬一郎君ノ質疑

只今種々ナル點ニ付テ、既ニ質問ヲ盡サレテ居リマス、又詳細ナル點ハ委員會ニ於テ伺フ機會モアラウト思ヒマス、ソレデ簡單ニ私ノ疑トスル大キナ問題ヲ四點バカリ條項ヲ舉ゲテ御尋ヲ致シマス、第一ハ此提案ヲ爲サル動機タル事實デアリマス、大正十一年三月ニ彼ノ過激法ガ葬ラレマシテカラ既ニ二年、此間ノ日本ノ思想運動、社會運動、労働運動、總テ私共ノ見解デハ段々溫和ニナッテ居ルト見テ居ル、内務大臣ハ無政府主義、共產主義ノ言葉ヲ容易ク御用キニナッテ世間ヲ威嚇セラル、ケレドモ、内務大臣ノ恐レラル、ヤウナ團體ガ、現在スルカドウカ、先般同僚山崎達之輔君カラシテ、刑ノ執行ノ期日ニ付テモ酌量ノ必要ガアルガ、今現ニ此法ヲ以テ處斷サル、ヤウナ結社ガ有ルノデアアルカ、無イノデアアルカヲ御尋ニナツタサウデアリマス、ソレニ對シテ山



岡刑事局長ハ、秘密結社ハ現ニ治安警察法デ處罰シテ居ル、公然ノ結社デ本法ニ觸レルヤウナモノハ無イト御答辯ニナッタト云フコトデアリマス、改メテ内務大臣ニ御伺致スガ、此法律ヲ作ッテモ之ヲ適用スルヤウナ結社ナドガ、今現在ニ有ルノデアルカ、無イノデアルカ、若モ御發表ニ差支ラル、ナラバ、秘密會ヲ以テ御聞キ致シテモ宜シイ、吾々國政ニ參加スル者ト致シテハ洵ニ心配ニ堪ヘナイ、私ハ無イト思ッテ居ルガ、内務大臣ハ如何ニモ有リサウナコトヲ言ッテ此法案ヲ御提出ニナリマス、世ノ中ヲ嚇スモノデアルト私ハ見テ居ル、本當ニ無ケレバ私共モ諸君ト共ニ國家ノ爲ニ祝福スルガ、若シアツタ場合ニ如何ニスルカ、ソレ故ニ此點ニ對シテ明ナル御答辯ヲ本議場ニ於テ御願致シマス、ソレカラ第二ニ此提案ノ徑路デアリマス、本來總理大臣モ内務大臣モ、先年ノ過激法ニ付テハ御反對ノヤウニ拜承致シテ居ル、然ルニ茲ニ突如トシテ本案ノ提出ヲ見タノデアアル、之ニ就テ世ノ中ノ人ガ色ミナ推察スルト云フコトハ、是レ無理カラヌコトデアル、星島君ノ御質問ニ對シ、内務大臣ハ他ノ勢力ニ強要セラレタリト云フコトハ無イト仰シヤッタ、サモアルベキコトデアアル、苟モ國家ヲ預ッテ居ル内閣ニシテ、他カラ強要サル、ト云フコトハ無イトハ思ヒマスルガ、他ノ方面カラ聞キマスルト、彼ノ樞密院ニ於テハ、治安維持法案ハ提出スルノカドウカ、何時提出スルノカ、其内容ハドウデアアルカト云フコトヲ度々質問シタト、斯ウ云フコトデアリマス、本來樞密院ハ施政ニ關與シナイト云フ立前デアアル、名ヲ普通選舉ノ法案ニ藉リテ治安維持法案ヲ出スノカ、出サヌノカ、普通選舉ノ討論ニ於テソレヲ質問スルト云フコトハ、即チ施政ノ關與デアアルマイカト私ハ之ヲ心配スル、ソレ故ニ樞密院ニ於テ斯ノ如キ質問應答ナカリシヤ否ヤ、殊ニ普通選舉審議ノ場合ニ此質問ガ出ナカッタカドウカ、此事ニ付テ明ナル御答辯ヲ願ヒタイ、獨リ私ノ蒙ヲ啓クノミナラズ、天下ノ疑ヲ解ク爲ニ必要デアリマス、第三ニ政府ハ政體ト云フハ民選ノ議員ノアルコトガ政體ダ、是ガ立憲政體デアルト、斯様ニ説明ニナッテ居ル、私共ノ信念デハ民選議員ガアルダケデハ眞ノ立憲政體デハナクシテ、此議院ノ立法政策ニ依レバ如何ナル事デモ之ヲ議シ得ルト云フノガ立憲政體デアアル、我國ノ事デアリマスルカラ國體ノコトハ姑ク論ジマセヌ、事政體ニ關スルコトデモ、私有財産ニ關スルコトデモ、議會ヲ是

認シテ、立法政策ニ依テ之ヲ行フ以上ハ、之ヲ寛容スルト云フコトガ立憲政體デハナイカ、私ハ無論共產主義者デモナケレバ、無政府主義者デモナイ、唯併ナガラ議會ノ立法ニ依テ所有權ニ關スル制度ヲ作ルト云フコトナラバ、之ヲ許スト云フコトニ我國ノ政體ガアル、是ガ出來ナイト云フコトハ、即チ却テ政體ノ變更デアアル、若シ政體ノ變更ヲ文字通り議スベクンバ、本案ノ如クニ財産權、所有權ノ事マデモ議會ノ立法デ以テ之ヲ議スルコトガ出來ナイヤウニスルト云フ此法案コン、我國ノ政體ヲ變更スルモノデアナイカ、大正十二年ノ三月ニ英吉利ノ議會ニ於テハ、労働黨ハ今日ノ資本主義制度ハ、天然資源ヲ十分ニ利用スルコトニ失敗ラシテ居リ、殊ニ多數國民ハ必需品ヲ得テ居ラヌ、此失敗ノ原因ニ鑑ミテ、私有制度、生産分配ノ管理ハ、漸次此議會ニ於テハ、民主的管理ヲ基礎トセル生産的社會組織ニ向ッテ努力センコトヲ決議スト云フ決議案ヲ提案シテ居ル、是ハ内務大臣ノ言ハレル土地ノ國有ダケデモナシ、鑛山ノ國有ダケデモナイ、船舶動産ノ國有ダケデモナイ、總テノ經濟組織ヲ民主的管理ノ下ニ置クト云フコトヲ、漸次ヤラウデハナイカト云フ決議案、賛否如何ニ拘ラズ、斯ノ如キ決議案モ認容セラル、ト云フ所ニ立憲政體ノ價值ガアル議會ニ於テ之ヲ爲シ得ルト云フ以上ハ、政黨ノ政綱政策トシテモ之ヲ許サナケレバナラヌ、政黨ハ結社デアアル、今將來無產政黨ガ出來テ、斯ノ如キ政綱政策ヲ以テ日本ノ議會ニ臨ミ、之ヲ議場ニ提出シヤウト云フコトヲ申スナラバ、是ヲモ寛容スルト云フ所ニ 明治大帝ノ下サレタ憲法ノ精神ガ在ルノデアナイカ、ソレガ我國ノ憲法ノ精神デアアル以上ハ、其精神ヲ打壞ス所ノ此治安維持法コン、我國ノ政體ノ破壞ヲ企テルモノデアナイカト私ハ考ヘルノデアリマス、此點ニ關シテ條理井然タル御答辯ヲ求メマス、第四ニ本法施行ノ影響デアリマス、若シモ第一ノ問ニ對シ本法ガ實行サル、ト云ウテモ、只今之ヲ適用スベキ事案ガ無イト云フコトナラバサモアルベシ、將來モ是ガ無ケレバ益仕合セデアアル、所ガ本法ノ如キモノガ制定サレテ、苟且ノ結社モ十年ノ刑ニ處セラレ、苟且ノ文章モ亦煽動ヲ以テ論議セラレ、本案第六條ハ自首ヲシタ者ハ之ヲ無罪ニスルト云フコトニ相成ッテ居ル、是ハ何カト申スト、彼ノ間諜——「スパイ」政略ヲ使ッテモ宜イト云フコトニナル、「スパイ」政略ノ結果ハドウデアッタカ、警察、國家、附キ物デアアル、星島



君モ論ジ及バレタガ、露西亞ノ國ノ崩壞、獨逸帝國ノ倒壞、其本ヲ質スト云フト自首シタ「スパイ」ヲ無罪ニシテ、憂國ノ士ヲ牢獄ニ投ジ、積リ積ル怨ガ重テ遂ニ國家ノ組織ヲ破壞スルコトニナツタ、此十年ノ刑ヲ以テ之ニ臨ミ「スパイ」ヲ自由自在ニ願使シテ、ソレデ我國ノ將來ハ如何ニナルト思召スカ、私共ハ我が國體ノ變更ニハ、無論異存ガアルケレドモ、安藤君モ言ハレタ通りニ、之ヲ防グニハ法律ヲ以テスベキモノデハナイ、法律ハ固ヨリ萬能デハナイ、況ヤ思想取締ニ對シテハ法律ハサマデ効力ノ無イモノデアル、法律ヤ國家ノ權力ヲ以テ國體ヲ維持シヤウ、我國ノ政體ヲ維持シヤウト云フコトハ洵ニ淺幕ナ企デアツテ、今マデノ多クノ政治家ハ悉ク之ニ失敗ヲ致シテ居ル、一々此處ニ例證ヲ取ルニハ及バヌ、今現在ニ治警察法デ處分シテ、ソレデ吾々ハ斯ノ如ク安全デアアル、明日カラ此法規ヲ作ッテ尙ホ安全ニナルノカ、尙ホ危險ニナルカ、此法律施行ノ結果ニ付テ内務大臣ハ如何ニ思召スカ、私ハ法案ノ文字ニ付テハ種々疑義ヲ持ッテ居リマス、併ナガラ提案者ノ說明ハ法律ヲ執行スル者ノ參考ニハナラナイト云フ信念ヲ持ッテ居ル、立法者ノ意思ハ法律ノ意思ニアラズ、況ヤ今日代議政體ニ於テ、提案者ノ說明ト贊成者ノ贊成スル意思トハ合致シナイ場合ガアルノデアアルカラシテ、内務大臣ノ提案理由ト議員ノ贊成理由トニハ、齟齬ノアルコトガアリ得ルノデアリマスガ故ニ、格言ニモアル通りニ法律ハソレ自身ヲ以テ解釋スベシ、此法律ガソレ自身ヲ以テ解釋セラレ、總テノ國體ニ關スル問題、政體ニ關スル問題、國際聯盟ハ我國ノ天皇ノ大權ヲ制限スルノ、「レフエレンダム」ハ代議政體ヲ破壞スルナドト申サレテ、日本ノ國ヲ落シ穴ダラケノ國ニ爲サル、ト云フコトハ、眞ニ國家ヲ愛セラル、政治家トシテハ如何デアラウカ、私ハ衷情ヲ披瀝シタル御答辯ヲ求メル次第デアリマス

若槻内務大臣ノ應答

法案ガ成立致シマス、直ニ此法律ニ依テ制裁ヲ加ヘル者ガアルカト否カト云フコトデアリマスナラバ、只今左様ナ見込ヲ立テ、居ル者ハアリタセヌ、併シ目下無政府主義、共產主義ト云フ思想ニ依テ、危險ナル考デ行動シテ居ル者ハ澤山アリマス、之ニ付テハ委員會ニ於テ御要求アリマ

スレバ、十分ニ事實ヲ説明スル積リデアリマス、提案ニ至リマス間ノ徑路ニ付テ御尋デアリマス、今ノ總理大臣並ニ若槻ハ、貴族院議員トシテ此前ノ過激社會運動取締法案ニ反對デアッタヤウデアルガ、今日提出スルト云フコトハ、如何ニ辯解シテモ何處カラカノ勢力ノ強要ヲ受ケテ居ルニ相違ナイト云フヤウナ御質問ノヤウデアリマシタ、過激社會運動取締法案中ニハ、朝憲紊亂ノ事項トカ、社會ノ根本組織ト云フヤウナ文字ガアリマシテ、餘リ具體的デナカッタ、具體的デアリマセヌト、言論文章ハ大ニ其自由ヲ害セラル、ノデアリマスカラ、私共ハ之ニ贊成スルコトヲ躊躇シタノデアリマス、此度ハ左様ナ概括的ノ文字ハ一ツモ使ッテナイ、總テ具體ニシテアルテ置キタイノデアリマス、而シテ樞密院ニ於テ此法案ノ内容ヲ問ハレタカ、何時提出スルカト云フヤウナ問答ガアッタカ否カト云フコトヲ此處デ明言セヨト云フコトデアリマシタガ、樞密院ノ會議ハ總テ秘密デアリマスル故ニ、私ハ此處デ説明ヲ致スコトガ出来ヌノデアリマス、政體ノ變革ト云フコトガ、私有財産制度ノ否認ヲ議會ガ議スルコトガ出来ナケレバ、政體ノ變革ニナルト云フ御論デアリマスガ、私ハ何處カラサウ云フ結論ガ生ジテ來ルカ理解スルコトガ出来マセヌ、政體ノ變革ト云フノハ立憲政體ヲ變革スルト云フコトデアリマス、ソレカラ此法律ヲ施行シタナラバ、其影響ガ如何ニナルカ——此法律ヲ施行シタトキニ其影響ハ如何ニナルカト云フコトデアリマシタガ、前ニ申上ゲマシタ通り、是ハ全般ニ於ケル取締ヲスルノデアツテ、只今此處デドノ問題ヲ制裁ヲ加ヘルト云フ考デ制定セントスルノデアリマセヌ、唯清瀨君ノ申サレマシタ所ノ、法律ハ法律自體デ解釋スベシ、立法者ノ意見ハ法律ノ意見ニ非ズト仰セニナル點ニ付テハ、一言ヲ申上ゲテ置カナケレバナラヌ、此法案ノ如キ洵ニ文句ガ明瞭ニシテ、一點ノ疑ナイト思フモノヲ、裁判官ガ特ニ之ヲ曲ゲテ、清瀨君ノ御心配ニナルヤウナ所カラ之ヲ持ッテ行クト云フコトハ、私ハ全然ナイコト、思ヒマス、併ナガラ裁判官ガ若シ此明瞭ナル法文ニ付テデモ、尙且ツ疑ヒヲ挾ムナラバ、其時ハ帝國議會ニ於テ之ガ論セラレ、然ル後結局決定セラレタトキノ意思ガ如何デアタツト云フコトガ最モ大ナル力ヲ持ツモノデアリマス、ソレヲ無視シテ裁判官ガ裁



判スルナドト云フコトガアリマスレバ、ソレハ裁判官ハ適當ナル法律ノ解釋ヲ爲サルモノデアルト申サナケレバナラヌト思フデアリマス

鳩山一郎君ノ質疑

私モ本法ニ付テ三ツノ疑問ヲ持ッテ居リマス、第一ト第二トノ疑問ハ普通選舉法トノ關係ニ於テ、抱イテ居ルノデアアル、第三トノ疑問ハ曾テ提出セラレマシタ所ノ過激社會運動取締法、此關係ニ付テ持ッテ居ルノデアリマス、第一ノ疑問ハ曾テ大正八年、普通選舉法ノ議論ガ議會ニ現ハレマシタトキニ、憲政會ノ諸君ガ二團ノ納稅資格ヲ以テ適當ナリトシテ、普通選舉法案ニ反對セラレタコトガアル、其反對ノ理由ハ、今ヤ人心動搖ノトキ、普通選舉法ヲ實施スルト云フコトハ極メテ危険デアアル、此人心動搖ノ治マル所ヲ見テ、然ル後ニ普通選舉法ヲ實施スルモ遅クハナイデハナイカ、私ノ丁度前面ニ坐ッテ居ラル、所ノ齋藤隆夫君ノ口調ヲ以テ之ヲ言ヒマスレバ、風ノ吹キ模様ヲ見、治マル所ヲ見テ然ル後ニ普通選舉法ヲ實施スベシト云フ御議論デアッタト記憶致シテ居ルノデアリマス、即チ普通選舉法ト云フモノハ人心動搖セザルト云フニ提出スベシト云フ御議論デアッタ、本日普通選舉法ノ提出セラレ、即時斷行ヲ御議論セラル、ナラバ、其前提トシテ人心動搖セザルト云フ事實ガ、確定セラレテ居ルモノト考ヘテ居ルノデアリマスガ、若シ果シテ然ラバ、何ヲ苦ンデ治安維持法ヲ御出シナルノカ、其理由ヲ最初ニ御尋ヲ致シマス、第二ノ理由ハ若槻内務大臣ハ、選舉權附與ノ理由ハ政治能力ノ有無ニ依テ決スベシト云ハレタ、之ニ對シテ義務教育機關ノ延長ヲ此理由ニ依テ主張セラレタコトモアリマス、義務教育ヲ延長セズシテ既ニ政治能力アリトシテ、而モ此普通選舉ト云フモノハ全ク無制限デアッタ、二十五歳以上ノ青年男子總テ政治能力アリトシテ普通選舉ヲ實施セラレントスルノデアリマスガ、甲ト乙ト御互ニ議論ヲ聞イテ其是非ヲ判斷スル能力アル者ガ、之ガ多數デアルトシテ普通選舉法ヲ實施シテモ宜イト云フ御議論ヲ立テラレタノデアアル、斯様ニ普通選舉法ガ無制限ニ實施スベシト云フ時代ニ於キマシテハ、思想ヲ自由ニ委スト言ッテモ、決シテ國家ニ不利益ヲ來スコトガナイデアラウト

云フ結論ニ到達セザルヲ得ナイノデアリマス、此點ニ付キマシテモ若槻内務大臣ノ明快ナル御答辯ヲ煩シタイノデアリマス、第三ニ過激社會運動取締法案、之ニ付キマシテモ先刻來若槻内務大臣ハ、以前ノ法案ハ茫漠トシテ居ッタ、今回ハ國體政體ノ變革、私有財產制度ノ否認ト云フヤウナ具體的ノ事實ヲ列記シテ居ルカラシテ、今回ノ法案ハ洵ニ字義明瞭デアルト申サレタノデアリマス、以前ノ提案ニ就テ見レバ、朝憲紊亂トカ、社會ノ根本組織ノ破壞トカ云ヘバ、是等ノ文字ダケヲ切離シマシテ議論ヲ致シマシタナラバ、或ハ疑ヲ挾ムカモ知レナイノデアアル、併ナガラ朝憲ヲ紊亂スル、社會ノ根本組織ヲ破壞スルト云フノニハ、制限ガ附イテ居タノデアアル、即チ外國人ト通謀ラシテ朝憲ヲ紊亂スル、外國人ト通謀シテ社會ノ根本組織ヲ破壞スルト云フ文字アリマシタナラバ、丁度今日此立法ノ主旨説明ニ依リマシテ、若槻内務大臣ガ茲ニ御述べニナッタ議論ノ全部ト云フモノハ丁度外國人ト通謀シテ朝憲ヲ紊亂スル、外國人ト通謀シテ社會ノ根本組織ヲ破壞スルト云フコトニ結局ナルノデアアル、即チ若槻内務大臣ノ説明ノ全體、説明ノ精神ヲ酌ンデ取リマシタナラバ、此治安維持法ト、前回提出セラレマシタ過激社會運動取締法案トハ、全ク同一ナモノデアルト言ッテ差支ナイノデアアル、其過激社會運動取締法案ガ出タトキニ、憲政會ノ諸君ハ之ニ反對ヲセラレタノデアアル、今日掌ヲ翻スガ如ク、其說ヲ變セラレタノハ理由何處ニ存スルヤト云フコトニ疑ヲ懷クノデアリマス、其變説ノ理由ヲモ伺ヒタイノデアリマス

若槻内務大臣ノ應答

鳩山君ノ御質問ニ御答ヘ申上ゲマス、普通選舉ヲ行フヤウニナッタ今日デアレバ、思想ハ健全ニナッテ居ルデアラウカラ、本案ハ必要ナイノデハナイカト云フノガ第一問デアアルヤウデアリマス、普通選舉ヲ實行シテ宜イ時期ニ今日ハナッテ居ルト思ヒマス、是ハ教育ガ普及シテ居ル、國民ノ智能ガ開發セラレテ居ル、文化ガ進ンデ居ルト云フ點カラ見テ、其時代ハ來ッテ居ルト思ヒマス、併ナガラ其間ニ洵ニ困ッタコトニハ、意思ノ薄弱ナル者ニシテ不健全ナル思想ヲ持ッテ居ル者ガアルノデアリマスカラ、ソレデ此法律案ノ必要ガアルノデアリマス、又第二點ハ普通選舉ヲ實行



スルヤウニナツタナラバ思想ハ自由ニシテ置イテ宜カリサウナモノデアアル、斯様ナ取締ノ案ハ要  
ラナイノデアラウト云フ御質問ノヤウデアリマス、是ハ第一ニ御答ヲ致シマシタト同様デアリ  
マシテ、普通選舉ヲ行ヒマスル時代ニ於テモ、洵ニ遺憾ナルコトデアリマスガ、茲ニ一部ニ危険  
ナル思想ヲ懷イテ居ル者ガアリマス以上ハ、本法案ノ必要ガアルノデアリマス、第三ノ御尋ノ過  
激社會運動取締法案ト本法案トハ同様デアルト云フ御見解、是ハ大變ニ違ッテ居リマス、其違ッテ  
居リマスコトハ、先程比較シテ申上ゲタノデ明瞭デアルト存ジマスルガ、尙ホ委員會ニ於テ詳シ  
ク其差異ヲ申上ゲテ兩案ノ違ッテ居ル所ヲ明カニ致シマス

田崎信藏君ノ質疑

私ノ御尋セントスルコトハ、既ニ二三ノ方ニ依テ盡サレテ居ッタノデアリマス、併ナガラ私ハ一  
二ツレニ付テ補足シテ御尋シタイノデアリマス、若槻内務大臣ハ大正十一年ノ過激思想社會運  
動ノ取締法律案ニハ、具體的ナル文字ガナカッタ故ニ、今回ノ治安維持法案ハ具體的ニ之ヲ示サ  
レテ居ルノデアアル、斯様デアリマス、是レ私ガ立憲政治家トシテ斯様ナル言辭ハ私ハ詭言ナリト  
斷ズル者デアリマス、何故カト申シマスレバ、其當時ノ憲政會諸君並ニ革新俱樂部ノ諸君ガ、此  
壇上ニ於テ論セラレタ速記録ヲ御覽ニナレバ、今日ノ日本ニ於テ政治家タル正確ナル良心ノ所  
有者トシテハ、斷ジテ許サヌノデアリマス、幾ラ口先バカリ國體ノ至善主義ヲ唱ヘラレマシテ  
モ、事實ニ於テ國民ノ不平ヲ誘發スル如キコトガアッタナラバ、何等ノ效果ガナイノデアリマス、  
私ノ尋ネントスルコトハ、即チ我國ハ法治國トシテ法律ノ制定ハ敢テ歐米ノ先進國ニ劣ラヌノ  
デアリマス、サリナガラ最初ノ出發ハ是レ歐米ノ模倣デアアルノデアリマス、斷ジテ創作的法律ハ  
獨立シテ無カッタノデアアル、外國ノ模倣ノミデアッタト私ハ斷言シテ憚ラヌ者デアリマス、若シ  
ルナラバ示シテ御覽ナサイ、此治安維持法案ガ制定サレテ、必ズ内務大臣ノ言ハレタ共產主義、  
無政府主義ガ取締リ得ルト信ジテ出サレタノデアリマセウケレドモ、私ハ今申ス如クソレハ反  
對ナル結果ヲ見ルト云フコトヲ私ハ惜ム者デアリマス、何ガ故デアアルカト申シマスレバ、十一年

ノ過激思想社會運動スラ——貴族院ニ於テ三年ノ刑罰デアッタノデアリマス、然ルニ今日ハ其刑  
罰ハ十年ニナツタノデアリマス、罪ノ罰ガ殖エル程、反對ニ犯罪者ガ殖エルト云フコトハ過去ノ  
我國ノ事實ニ徴シテ明カデアアルコトハ、内務當局ガ御調べニナレバ明カニナルト思ヒマス、其證  
據ハ私ガ申スマデモナク、我が内務省ガ危険ナル思想トシテ調べテ居ル其事實ハ幾ラホドアル  
カ、内務省ノ調査ト陸軍省ノ調査トヲ比較シタナラバ、何レガ大デアアルカ、小デアアルカ、恐ラク内  
務當局ノ思想ニ對シテノ調査ハ、現在我國ニ於テ第二流第三流ニ私ハ低下シテ居ルモノト信ジ  
テ居ルノデアリマス、此意味ニ於テ私ハ、内務當局ニ御尋スルノデアアル、先程ヨリ政體ノ變革ハ、  
明治先帝陛下ノ吾々帝國臣民ニ與ヘ給ウタ所ノ權利デアアル、吾々常ニ此立憲政體ニ謳歌シテ感  
激シテ居ルノデアリマス、併ナガラ内務大臣ノ言葉ヲ以テスルナラバ、明治先帝ノ御思召ニ背  
クモノハ即チ此治安維持法案デアルト云フコトヲ斷ジテ申ス者デアリマス、明治先帝陛下ノ  
御製ニ何ト宣ハセ給ウタカ「淺クトモセケバ溢ル、谷川ノ流レヤ民ノ心ナルラン」ト云フ御製ガ  
アル、此御製ノ御思召ハ那邊ニ在ル、今申上ゲマス如ク如何ニ其罪ヲ罰シマシテモ、思想ハ決シテ  
善導出來ルモノデハナイノデアアル、如何ニ内務大臣、司法大臣ガ才偉イ方デアリマシテモ、諸君  
ガ施政上思想ノ善導ニ付テ如何ナル力ヲ以テシテモ、恰モ空氣ヲ斧ニテ打ツガ如キ結果ヲ見ル  
ノデアアル、之ヲ以テ私ハ内務大臣ニ質問スルノデアアル、治安維持法ノ結果ニ付テ、今御尋シタ事  
ハ御考慮ニナツテ居ルノカドウカ、私ハ唯諸君ノ冷靜ナル御考慮ヲ乞フ者デアリマス、昨是今非  
ハ現代ノ政治家ノ常ニ執ル方法カハ知レマセヌ、併ナガラ危険思想取締法案ニ於テ罪ガ輕カッタ  
モノガ、治安維持法ニ依ッテ其罪ガ十年ニナツタ理由、之ヲ内務大臣ニ問フノデアリマス

若槻内務大臣ノ應答

過激社會運動取締法ト、今日問題ニナツテ居リマス所ノ治安維持法トノ違ヒマスコトハ、先程申  
上ゲテ置イタ通りデアリマス、又其違ッテ居ルコトハ此處デ何回繰返シマシテモ用ノ無イ事ト存  
ジマスカラ、是ハ委員會デ十分申上ゲマス、其他ハ田崎君ノ御意見デアリマシテ、私答辯スルコ



トヲ要セヌト思ヒマス

有馬頼寧君ノ質疑

私ハ只今提案サレマシタ治安維持法ニ付キマシテ、細カイ事ハ委員會デ質問スル機會ガアラウト存ジマスカラ、唯一點御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス、治安維持法ノ中ニハ「國體」ト「政體」及「私有財産制度」ト云フモノガ同ジ條文ノ中ニ入ッテ居ルノデアリマスガ、是ハ決シテ其輕重ニ於テ同ジモノデアアルト云フ考ノ下ニサレタモノデハナイト信ズルモノデアリマス、國體ハ司法大臣ノ御話ニモアリマシタヤウニ絶對ノモノデアアル、併ナガラ政體トカ或ハ私有財産制度トカ云フモノハ、是ハ絶對ノモノデハナイト云フ御話ガアツタノデアリマス、其絶對ノモノデアアル所ノ國體ト、絶對デナイ所ノ政體及私有財産制度ト云フモノヲ、同一ニ取扱ハレル理由ハ無イト私ハ信ズルノデアリマス、私ガ御尋致シタイノハ國體ニ關スル問題デアリマスガ、國體ノ變革國體ノ維持ト云フコトハ、言換ヘテ見レバ皇室ノ擁護ト云フコトデアルト思ヒマス、然ルニ此治安維持法ヲ制定スルコトニ依テ、吾ガ日本ノ皇室ヲ擁護シヤウトスルコトニ、何等カノ支障ヲ來ス虞ガナイモノデアアラウカト云フコトヲ私ハ憂フル者デアリマス、勞働階級ノ青年ノ人々ノ曰ク、吾ガ日夜殆ンド身體ヲ粉ニシテ働イテ見テモ生活ノ安定ヲ得ルコトガ出來ナイノニ、一方ニハ何等勞働モスルコトナクシテ、安逸ナル所ノ生活ヲ送ルコトノ出來ル階級ガ澤山アル代ノ政治ニ於テ大ナル缺陷ガアルカラデアルト云フコトヲ言ッテ居ルノデアリマス、此治安維持法ガ果シテ無産階級ヲ壓迫スルモノデアアルカドウカト云フコトハ、ソレヲ私ハサウデアルト斷定スルノデアアリマセヌケレドモ、現在ノ無産階級ノ青年ノ人々ハ、確ニ此治安維持法ナルモノガ無産階級ニ對スル壓迫デアルト感ジテ居ルノデアリマス、若シ此法律案ガ無産階級ニ對スル所ノ壓迫デハ無クテ、ソレデ誤解デアルト云フナラバ、尙更私ハ之ヲ遺憾トスルノデアリマス、無産階級ノ人々ガ之ヲ所謂無産階級ニ對スル壓迫ナリト感ジサウ誤解シタ場合ニ、所謂其反撥ト

シテ行ク所ノモノハ何デアアルカ、何處ニ其反動ガ行クモノデアアルカト云フコトヲ私達ハ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、虎ノ門事件ニ付キマシテ、豫算ノ分科會ニ於キマシテ、私ハ内務大臣ニ皇室ノ警護ニ付テ御尋ヲシタコトガアリマス、虎ノ門事件以來皇室ノ行幸啓ノ場合ニ於テハ、其取締警護ニ付テ、何等カ考慮サレル所ハナイカト云フコトヲ御尋シタ時ニ、別ニ考慮ハシテ居ナイト云フヤウナ御答辯ガアツタノデアリマス、唯ソレハ嚴重ニサレル、勿論嚴重ニサレルコトハ必要デアリマセウケレドモ、之ヲ擁護シ、之ヲ警護スルト云フコトハ、唯徒ニ巡查ノ數ヲ増シ、憲兵ノ數ヲ増シテ、之ヲ警護スルト云フコトガ、警護ノ本旨デハナイト私ハ思フノデアリマス、隨テ日本ノ政治ト云フモノハ唯濫ニ斯ノ如キ取締ノ法律ヲ拵ヘテ、濫ニ取締ノミヲ嚴重ニスルト云フコトガ政治ノ妙諦デハナイト思フノデアリマス、勿論無産階級ニ對スル所ノ壓迫ヲ目的トスル法律デハナイノデアリマセウケレドモ、斯ノ如ク感ジ、斯ノ如ク誤解スルト云フコトノ結果ガ、果シテ如何ナル結果ヲ持來スカト云フコトヲ考ヘテ見ルトキ、治安維持法制定ノ目的ト却テ反對スル所ノ結果ヲ生ジハシナイカト云フコトヲ、私ハ憂フル者デアリマス、其點ニ付キマシテ内務大臣ノ御所見ヲ承リタイト思ヒマス

若槻内務大臣ノ應答

有馬君ハ無産階級ノ人達ガ本法案ノ規定ヲ誤解シテ居ルコトニ付テ、御心配ニナツタヤウデアリマス、私モ亦無産階級ノ人達ガ本法案ヲ誤解シテ居ルコトヲ深く憂ヘテ居ル者デアリマス、此法律案ハ初ニ申上ゲマシタ通り、國體ノ變革、政體ノ變革——少シ俗語デ申上ゲテ精密ナコトデアリマセヌケレドモ、無政府主義ニ當ルヤウナ事ト、私有財産制度ノ否認即チ共產主義、此二ツノモノヲ取締ルト云フダケデ出テ居ルノデアリマス、ソレヲ無産階級ノ人ガ、何か自分等ガ主張スルコトヲ此法律デ妨ゲラレハセヌカト云フ誤解ヲシテ居ラル、ノデアリマス、ソレハ大ナル誤解デアアル、若シ彼等ガ無政府主義、共產主義ヲ主張スル者デアラバ、ソレハ取締ラル、ノデアリマス、苟モ國體ヲ變革シ、政體ヲ變革スルト云フコトナシニ、私有財産制度ヲ根本カラ破壊



スルト云フ考ガナケラネバ、決シテ無産階級ノ人ノ運動ヲ拘束スルモノデハナイノデアリマス、此所ハ洵ニ明瞭ナ點デアアル、若シ誤解ヲシテ居ル者ガアルナラバ、此議場ノ應答ニ依テ、ドウゾ誤解ヲ解イテ貰ヒタイト思ウテ居ルノデアリマス、私モ有馬君ト同様ニ誤解ノアルコトハ洵ニ宜クナイト思ヒマス、ソレ故ニ努メテ誤解ヲ解クヤウニシテ居リマス、本法案ハ決シテ左様ナ事ニマデ及ブモノデハアリマセヌ、無産階級ノ人ガ適法ナル運動ヲスルコトニ向ッテ、決シテ拘束ヲ加ヘルモノデアリマセヌ、故ニ誤解ガ解ケサヘスレバ、彼等ハ悠然トシテチットモ心配セヌヤウニ相成ルコト、思フノデアリマス

原夫次郎君ノ質疑

諸君、私ハ只今議題トナッテ居ル法案其モノニ付テハ、全ク白紙ノ意見デアアルノデアリマス、先程來若槻内相ノ答フル所ヲ拜聴致シテ居タリマスルガ、此答辯ニ依リマシテ、又此法案自體ヲ見テ幾多ノ疑問ヲ生ジタノデアアル、ソコデ私ハ是マデ諸君ガ御質問ニナッタル以外ノ點ニ付テ茲ニ疑ヲ披瀝致シマシテ、政府當局ノ御答ヲ得タイノデアアル、而シテ私ノ問ハントスル所ノモノハ、多少科學的ニ、法律的ナル疑惑デアリマスカラ、能ク政府當局ニ於テ御留意ヲ願ッテ、若シ即時ニ是ガ答辯ガムヅカシイト云フコトデアアルナラバ、是ハ委員會ニ於テ御答ニナッテモ宜イノデアアル、私ガ質問セントスル所ハ何レモ本案ニ付テノ大體論デアアル、先ヅ第一ニ御伺シタイノハ、若槻内相ハ先程來本案ハ極メテ多大ノ注意ヲ拂ッテ、法文其モノニ具體的ナル文字ヲ使用シタノデアアル、隨テ若シ後日ニ於テ裁判官ガ之ニ疑ヲ懷キ、若クハ自分ノ言ウタコト以外ニ於テ裁判ヲ爲スナラバ、ソレハ裁判官ハ非常ナル曲解ヲ爲シ、誤ヲ爲スモノデアアルト云フ御答辯ガアッタノデアリマスガ、誠ニ驚入ッテ話デアアル、裁判官ハ政府提案者ノ提案ノ理由若クハ意見ニ拘束セラル、者デハナイ、從來ノ法律ニ於テモ澤山其例ハアル、結局斯ウ云フヤウナ法律ニ於キマシテハ、大審院ノ判事ガ結局最後ノ權ヲ握ルノデアアル、内務大臣ノ答辯其モノハ、實際問題ニ至レバ、毫末ノ價値ハ無イト云フ結果ニナルノデアアル、ソコデ先ヅ私ハ本案ニ付テ第一ニ、本法ノ第

一條デハ、國體若クハ政體ノ變革ト、私有財産制度ノ否認トニ依リテ結社ヲ爲シタル場合ニ於テ、犯罪ガ構成スル規定デアアル、所デ國家組織ノ大綱ヲ破壊セントスル所ノ、例ヘバ邦土ノ僭竊デアルトカ、或ハ天皇ノ大權ヲ制限セントスル所ノ行爲デアルトカ、或ハ立憲政體ノ要素タル帝國議會ノ權限ヲ變更セントスル所ノ事項デアルトカ、或ハ兵役ノ制度ヲ破壊セントスルヤウナ事デアルトカ云フヤウナ、國家ノ大綱ヲ破壊セントスル所ノ事項ヲ目的トシテ結社ヲ爲シタル場合ニ於テハ、何故ニ本法中ニ之ヲ加ヘザリシカト云フコトノ點ヲ御伺致スノデアリマス、此理由ト致シテハ、刑法デハ是等ノ事項ヲ掲ゲテ、而モ此目的ノ下ニ暴動ヲ起サナイト云フト暴動ヲ目的トセナイト云フト刑法ハ罰セナイノデアアル、又刑法デハ豫備若クハ是等ノ陰謀ヲ罰シテ居ルノデアリマスケレドモ、併ナガラ豫備陰謀ハ、何レモ暴動ト云フ其行爲ヲ目的トシテ居ル所ノ豫備陰謀デアッテ、本法ノ結社其モノニ付テハ、——刑法デハ之ヲ罰スル規定ガ無イ、然ルニ本法ニ於テ——第一條ニ於テ三箇ノ目的ヲ限定致シ、而シテ其中ニ是ダケノ大キナ事項ヲ掲ゲル、國家ノ大綱ヲ破壊セントスル事項ニ付テハ、何故ニ本法ニ之ヲ規定セザリシカト云フコトヲ第一ニ伺ッテ置ク、唯以上申述ベタヤウナ事柄ヲ今日罰シ得ルノハ、即チ治安警察法ノ第二十七條ニ依テ、秘密結社ヲ爲シタ場合ニ於テ、始メテ之ヲ罰シテ居ルノデアアル、サウスルト云フト、此治安警察法ノ秘密結社ノ罰則ナルモノハ、御承知ノ如ク僅ニ六箇月以上一年以下ノ輕禁錮デアアル、サウスルト云フト政府ハ本案ヲ提出シテ、十年以下ト云フ重刑ヲ規定シテ居ルニ拘ラス、治安警察法ニ於テ其秘密結社ノ規定ハ、六月箇以上一年以下ノ規定デアアルカラシテ、其間ニ非常ナル懸隔ヲ生ジテ居ル、然ルニ治安警察法ノ改正案ヲ即時ニ出サナイデ、唯本案ノ此法律ダケヲ出スト云フコトハ、現在ニ於テ刑ノ權衡ヲ得ナイコトノ甚シイモノガアルノデアアル、何故ニ斯ノ如キ矛盾若ハ不公平ナル法律ヲ制定セントスルモノデアアルカ、之ヲ先ヅ御伺致スノデアアル、第三點ニハ本法ノ第一條ニ規定シテ居ル所ノ結社其モノヲ、行爲トシテ處罰スル規定デアアルノデアリマスルガ、何故ニ此結社前ノ陰謀ヲ處罰スル所ノ規定ヲ置カナカッタノデアアルカ、若シ此陰謀ノ規定ヲ置カナイトスルナラバ、此法律ニ依テノ根本ノ趣意ヲ没却スルモノト謂ハナケレバナラヌノデアアル、



一體此場合ニ於テ内務大臣ニ御注意願ヒタイノハ、治安警察法ニ於テハ、秘密結社ヲ處罰スルガ爲ニ、斯ノ如キ比較的輕イ刑罰ヲ以テ臨ンデ居ルノハ、即チ此内務警察ノ方デ是ガ取締ヲ爲シ、成ベク斯ノ如キ犯罪ガ——大ソレタ犯罪ハ無イヤウニ之ヲ制御センガ爲ニ、警察デ努力ヲ盡シテ居ラネバナラヌ事柄デアアル、然ルニ拘ラズ本法ニ於テハ——此本法ノ趣意ハ、即チ此犯罪ヲ無カラシムルコトヲ政府當局ハ考ヘナケレバナラナイノニ拘ラズ、既ニ結社ヲ爲シタナラバ、ソレカラ先ノ實行力ニ至ツテハ、非常ナル猛烈ナル勢ヲ持ツ性質ノ犯罪デアアルカラデアリマスルガ故ニ、若シ眞ニ此法律ノ趣意ヲ徹底スルナラバ、其結社前ニ遡ッテ、是等ノ陰謀罪ヲ制御スルニ非ズンバ本法ノ本當ノ精神ヲ貫クコトハ出來ナイノデアアル、政府當局ハ果シテ此陰謀罪ト云フモノヲ本法ニ處罰規定ヲ設ケナイデ、唯結社ヲ爲シタト云フ場合ニ之ヲ處罰スルト云フナラバ、眞ニ之ヲ取締ル意味デアアルカ、實際ニ此結社ノ起ツタ場合ニ於テ、唯處罰スルト云フコトヲ能事ト爲スモノデアアルカト云フ間デアリマス、諸君、諸外國ノ例ヲ見テモ、例ヘバ佛蘭西ノ如キ、此犯罪ノ起ラナイ前ニ犯罪ヲ宜シキニ制御センガ爲ニハ、幾多ノ法律ヲ出シテ居ル、其法律ノ中デ、例ヘバ、バンド、アツソシアシオン、ドウ、マルフイトールト云フヤウナ法律、此法律ハ即チ本法ノ如キ目的ヲ定メズシテ、而シテ何等ノ事實若クハ目的ヲ問ハズ結社ヲ爲シタナラバ、秘密結社ヲ爲シテ惡事遂行ノ爲ニ働ク場合ニ於テハ、是非非常ナ、嚴罰ニ處スル規定ヲ設ケテ居ル、デアアルカラ其法律ノ中ニハ、社會主義者モ無政府主義者モ總テ取締ガ出來ルコトニナツテ居ル、然ルニモ拘ラズ本法ニ於テハ其根本ノ精神ガ間違ッテ居ル、既ニ結社サヘシタナラバソレガ犯罪行爲デアツテ、結社セントスル者ノ處罰規定ガナイノハ如何ナル理由デアアルカ、之ヲ御尋スルノデアアル、第四ニハ先程來若槻内相ハ、此第一條ノ政體ヲ變革スルト云フ事項ニ於テ、若シ貴族院廢止ノ如キ議論ガ出タナラバ、是ハ本法デハ處罰シナイノデアアル、併ナガラ反對ニ若シ今日以後ニ此直接ニ民選議員ガ餘リニ宜シキ行動ヲシナイトマア假定スル、世論ニ反スル、ソコデ一院制度ヲ採用シテ、寧ロ貴族院ト云フモノハ矢張今日デモ國民ノ代表デアアル、即チ六千萬國民ノ代表デアツテ、若槻内相ノ如キハ貴族院デハ、常ニ貴族院議員ハ吾々六千萬民衆

ノ代表デアアルト言ハレタ如ク、貴族院ノ各種ノ種類ノ人ガ各種ノ國民ヲ代表セラレテ居ル、其一院制度ヲ採用シテ、若シ衆議院ヲ廢止スルト云フヤウナ議論ヲ爲シタ場合ニ於テハ、矢張是ハ本法第一條ノ違反行爲ニナルカドウカ、之ヲ御尋致シタイノデアアル、第五點ハ若槻内相ハ此私有財産制度ノ否認ニ付テ、土地國有論ト云フモノハ是ハ私有財産制度ノ破壞デハナイ、否認デハナイ、是ハ土地私有制度ノ根本ヲ破壞スルモノデナイカラシテ、此法文ニハ當嵌ラナイト云フコトヲ言ハレテ居ッタノデアアル、何故此第一條ノ土地私有制度ノ根本ト云フ文字ヲ此所ヘ入レナイノデアリマスカ、唯私有財産制度ト云ヘバ吾々ノ所有權ノ基礎デアアル所ノ、國家ノ構成要素デアアル所ノ土地制度ノ此私有財産制度ヲ國有ニ移スト云フ、コトソレ自體ト云フモノハ、私有財産制度ノ否認ニ非ズシテ何デアアルカ、第六點ト致シテ——此法案ノ第一條ノ第一項ノ目的ヲ以テ、其目的タル事項ノ實行ヲ教唆シタル者ハ、假令本法ニ教唆罪ノ規定ガ無イト雖モ、是ハ刑法ノ規定ニ依テ當然ニ教唆罪デ處刑ヲ受ケルモノデアアル、然ルニ此教唆罪ノ成立ノ上ニ、尙ホ本法ニ於テ第三條並ニ第四條ニ於テモ煽動罪ト云フモノヲ認メテ居ル、此煽動ナルモノハ教唆ヨリカ、ヨリ以上ニ非常ナル此脅威ノ文字デアアラネバナラヌ、即チ教唆罪ハ刑法ニ規定シテアル所ノ如ク、先ヅ犯罪ヲ實行セントスル所ノ者ヲ目當ニシテ、其人ヲシテ犯罪ヲ實行セシムル所ノ意思ヲ注入スルコトデアアル、隨テ教唆罪ノ成立ニハ、教唆シタトハ云ヒナガラ、實際ニ犯罪者ガ犯罪ノ實行ヲ爲サナケレバ、教唆罪ハ無罪デアアル、教唆罪ハ成立致サナイノデアアル、然ルニ拘ラズ此本法ノ三條並ニ四條ニ於テハ、煽動ナル文字ヲ使ッテアリマスガ爲ニ、犯罪者ガ實際其犯罪ヲスルトシナイトニ拘ラズ、唯或種ノ行爲ヲ爲シ、煽動シタト云フコトニ依テ、直ニ處罰ヲ受ケルノデアアル、極メテ是ハ曖昧ナル文字デアツテ、非常ナル危險ナル文字デアアル、一面ニ於テ刑法ノ當然教唆罪ノ成立スルト同時ニ、更ニ又此煽動ト云フ隱レタル威力アル、非常ナル脅威ノ文字ヲ使ッテ、後日斯ノ如キ煽動ト云フ文字ガアルガ爲ニ、裁判官ガ例ヘバ新聞記事ニ——此目的ト云フモノハ即チ人ノ頭ノ中ニ隱レテ居ル問題デアアルガ故ニ、此目的ト云フコトノ認定セラレ、而シテ唯一片ノ新聞記事其モノデ以テ煽動デアアルトシテ、檢事ガ起訴ヲ爲シ、



裁判官ガ之ヲ罰シタル場合ニ於テハ、一體何トスルノデアラウカ、甚ダ危険千萬ナ法文デア  
 ガ一體何ノ爲ニ斯ノ如キ煽動ト云フ文字ヲ使用シタルデアアルカ、此點ヲ御伺ヒ致スノデア  
 第七ニハ本法ノ第四條ニハ、煽動セラルベキ犯罪ヲ列擧致シテ、騷擾ト暴行、其他生命身體又ハ  
 財產ニ害ヲ加フベキ犯罪トアツテ、此中ニ脅迫ト名譽ト云フコトヲ除外致シテアル理由如何、之  
 ガ第七デアリマス、第八點ト致シテハ、本法ニ於テ第一條第一項ノ目的ヲ以テ、其目的タル事項  
 ノ遂行ノ爲ニ、第四條ニ掲グル騷擾暴行、其他生命身體又ハ財產ニ害ヲ加フルガ如キコト以外ノ  
 手段ニ訴ヘテ、其遂行ヲ爲サシムルコトヲ目的トシテ、第五條ニ列擧スル利益供與又ハ其申込  
 若クハ約束ヲ爲シタル者、又ハ其情ヲ知リテ供與ヲ受ケ、又ハ其要求若クハ約束ヲ爲シタル者  
 ノ處罰規定ノ無イノハ、如何ナル理由デアアルカ、之ヲ御伺ヒシタイ、第九ト致シテハ本法ニ規定  
 シテアル所ノ刑罰ノ方面ヲ見ルト云フト、懲役刑ト禁錮刑ト併置致シテアルノデアアル、一體刑  
 法ニ於テモ、國事犯ノ如キ若クハ、大逆罪ノ如キ、内亂罪ノ如キ、是等ノ犯行ニ對シテハ總テ禁  
 錮刑ダケヲ規定致シテ居ルノデアアル、又諸君モ御存知ノ如ク彼ノ犯罪人引渡條約ナル條約ニ  
 於テモ、國事犯ニ付テハ引渡ヲ拒ムト云フ規定ガアル、然ルニ拘ラズ本法ノヤウナ此刑罰規定  
 ニ破廉恥罪ニ對スル刑罰ヲ以テ臨ム所ノ懲役刑ヲ併置致シタルハ、如何ナル理由デアアルカ、是ハ  
 刑法ノ刑罰法規ヲ案ルモノデハナイカト云フトコトノ質問デアアル、第十八ハ本法ニ於テハ何故ニ本  
 法ノ附則ニ於テ即時ニ施行スルト云フ附則ヲ設ケナカッタノデアアルカト云フ點デアリマス、政府  
 ハ此法案ヲ提出致シテ、此立法ヲ爲サント致シテ居ル精神デアリマスルナラバ、少シデモ早ク之  
 ヲ制定致サナケレバナラヌ、現ニ今日デモ吾々ノ手許ニ此法案ヲ受取ッタノハ今日デアアツテ、議院  
 法ニ依テ二日ノ案ヲ晒スコトスラモ避ケテ居ルノデアアル、然ルニ拘ラズ本法ノ附則ヲ見ルト云  
 フト、本法ハ公式令ニ依テ二十日ノ猶豫ヲ置イテモ差支ナイト云フ法律ノ立法デアアル、吾々ハ  
 其理由ヲ解スルニ苦ムノデアリマス、第十一ニハ本法附則ニ於テ、大正十二年勅令第四百三號ハ  
 之ヲ廢止スト云フ規定ニナツテ居ル、是ハ一體何タル事デアアルカ、此勅令ハ一昨年震災ノ場合ニ  
 於テ、緊急勅令ヲ以テ發布ニナツタル所ノ彼ノ流言蜚語ニ關スル法律デアリマス、本法ノ如キ國

家ノ重大ナル刑罰規定ヲ設ケタルモノトハ違フ、取締ノ一時ノ便宜的ノ法律デアアル、然ルニ拘  
 ラズ本法ヲ提出スル場合ニ於テ、斯ノ如キ法律ヲ附則ト爲シテ廢止案ヲ規定致シテ居ル、何故  
 ニ政府ハ堂々トシテ此一時的ノ四百三號ノ勅令ハ、法律ニ別ニ之ヲ廢止スルト云フコトヲ提案  
 致サナイノデアリマスカ、是ハ蓋シ本法ガ若シ議會ヲ通過セザル場合ニ於テハ、此四百三號ダ  
 ケノ廢止案ガ直ニ通過スルノデアアルカラ、ソコデ斯ウ云フ兩天秤ノ規定ヲ爲シテ、附則ト致シ  
 タモノデアアルト思ハレルノデアアルガ、一體如何ナル理由ニ基イテ斯ノ如キ事ヲ致シタルデア  
 ルカ、最後ニ一體本法ノ主管ハ、内務省デアアルカ、司法省デアアルカ、是ハ極メテ重大ナル刑罰規  
 則デアリマス、唯一時ノ取締規則デハナイ、國體ヲ變革シ、若クハ政府ヲ變革スル無政府主義  
 者ヲ取締ルト云フ重大ナル法律案デアアル、然ルニ此提案ノ理由ヲ見マスルト云フト、唯政府ハ  
 一時ノ帝國ノ治安ヲ案ル目的ヲ以テ、不穩ナル行動ニ出デントスル者ヲ取締リスル爲デアアルト  
 云フヤウナコトヲ申シテ居ルノデアリマスガ、本法ニ規定シテアル所ノ第一條ノ此事項ガ若  
 シ實際ニ發生シ、若クハ實際ニ本法規定ノ第二條、第三條ノ規定ガ假ニ——斯ノ如キ不祥事ハ無  
 イニ致シマシテモ、若シ起ツタト致シマシタナラバ、ソレコソ大變ナコトデアアル、其場合ニ於テ勝  
 テバ官軍敗レバ賊デ、假政府ガ出來ルト云フヤウナ重大ナコトニ——サウ云フコトハ斷ジテ  
 ナイノデアリマスケレドモ、法律ヲ審議スル場合ニ於テハ、ソコマデ注意ヲ拂ハナケレバナラ  
 ヌ、然ルニ斯ノ如キ法律ヲ内務省ガ提案ヲ致シ、實際ニ於テ斯ノ如キ事項ヲ取締リスルト云フ  
 ノハ、此事實ノ現レナイ前ニ於テ、斯ノ如キ思想ヲ取締リ、斯ノ如キ事實ノ起ラザランコト  
 ヲ制御スルト云フ眞ノ希望ガアルト云フコトデアリマスルナラバ、内務當局ノ御手許ヲ  
 拜見セザルヲ得ナイ、内務當局ノ御手許ハ如何デアアル、我が日本ノ警察ノ遣方ハ如何デア  
 カ、幾ラ無暗ニ理想的ノ法律バカリ雨ノ如ク降ラシテモ、之ヲ實際ニ行フ所ノ警察官宜シキ  
 ヲ得ナイ場合ニ於テハ、人權ハ蹂躪セラレ、國家ハ却テ其爲ニ亂レルノデアアル、現ニ股鑑遠カ  
 ラズ、一昨年ノ彼ノ大外レタ大逆事件ノ發生ヲ致シタルハ如何デアリマスカ、之ヲ取締ラザ  
 リシ所ノ此事實ヲ未然ニ防ガナカッタノハ、我警察ノ怠慢デハアリマセヌカ、幸ニモ彼ノ時ニ



攝政殿下ニ於カセラレマシテハ御無難デアッタノデアリマスルケレドモ、彼ノ爲ニ若モ一朝事有ル場合ニ於テハ我が警察ガ斯ノ如キ事ヲ爲シタト言ハレテモ仕方ガナイデハナイカ、之ヲ未然ニ防グコトガ出来ナカッタノデアアル、又昨年ノ十一月三日ノ出来事デアアル、監視廳ニ於テハ豫メ、攝政殿下ノ御出門前、僅ニ三分ヤ五分前ニ其事實ヲ知ッタト云フコトデアアル、ソコデ若槻内相ハ幸ニモ御警備中上ゲルコトノ任務ハ盡シ得タト云フコトデアアルケレドモ、斯ノ如キ事ハ何タルラズトシテ、辭表ヲ捧呈若クハ進退伺ヲ出サレタニ相違ナイト思フ、若槻内相ノ御手許ノ準備ハ、斯ノ如キ我國ノ警察状態デアアル、然ルニコンナ法律ダケヲ立派ニ作ッテ置イテ、之ヲ實際ニ行フ所ノ者ガ、斯ノ如キ若槻内相配下ノ警察官デアルトスルナラバ、吾々人民ハ之ニ對シテ危懼ノ念ヲ懷カズシテ何ト申シマセウカ、要スルニ以上ノ點ニ向ッテ十分ナル御答辯ヲ得タイノデアリマス

小川司法大臣ノ應答

原君ノ御質問ニ御答申シマス、第一條ニ於テ原君ノ御質問ハ、邦土ノ僭竊或ハ 天皇ノ大權ヲ制限スルトカ云フ種類ノ事柄ヲ何故處罰セヌカ、斯様ナ御趣意ト承知致シマシタガ、本法ハ國家ノ根本ヲ紊ル所ノ者ヲ罰スルト云フ考デアリマス、即チ國體ヲ變革シ若クハ立憲君主政體ヲ變革スルト云フ如キ、此根本ノ問題ニ對シテ特別ニ重キ刑罰ヲ設ケテ處分スルト云フ趣意デアリマス、其部分々々ノ事ニ付テハ、今日之ニ對シテ特別ニ重刑ヲ科スル必要ヲ認メテ居ラヌノデアリマス、第二ハ今日ノ治安警察法ノ罰ト、今回ノ治安維持法ノ刑罰トノ刑期ガ、甚シキ相違ガアッテ權衡ヲ失スルト云フ風ナ御趣意ト承リマシタ、今日ノ治安警察法ノ規定ニ依リマシテハ、先刻來内務大臣ヨリ續々述べマシタルガ如ク、此危險ナル行動ヲ防止スルコトガ出来ナイノデアリマス、故ニ治安警察法ノ輕キ處罰ノ規定アルニモ拘ラズ、殊更特別ニ法律ヲ設ケテ重キ刑罰ヲ科

シ、仍テ以テ此危險ナル行動ヲ防止シタイ、斯様ナ考デアリマスルカラ、此間ニ刑期ノ長短ニ甚シキ差異ノアルト云フコトガ、即チ本法ノ特色トスル所デアルト御承知ヲ願ヒマス、第三ハ本法ハ結社ヲ罰スルガ、結社ノ前ニ陰謀ヲシタ場合ヲ何故罰セヌカ、斯ウ云フ御趣意ノヤウニ承リマシタガ、是ハ第二條ヲ御覽ニナリマスルト、此國體政體ノ變革若クハ私有財産制度ノ否認ヲ目的トシテ、其實行ヲ協議シタル者ヲ罰スルトアリマス、苟モ實行ノ目的ヲ以テ實行ヲ協議ヲ致セバ罰スルノデアリマス、陰謀デアルト陽謀デアルト問フ所ニ非ズ、總テ謀議シタル者ヲ罰シテ居リマスカラ、此點ハ御安心ニナッテ宜カラウト思ヒマス、ソレカラ第四ノ政體ニ關係スルコトデアリマス、是ハ先刻來内務大臣ヨリ御答ヲ申シタ通り御質問ノ如キ事柄ハ無論本法ノ制裁ヲ受クルモノデハゴザイマセヌ、第五ハ此所有制度ノ一部分ノ變更ヲスルコト、即チ例ヘバ土地ヲ國有トスルト云フガ如キコトハ、本法ノ規定ニ係カルカドウデアアルカト云フ御尋ト承知致シマシタガ、是ハ財産制度ノ一部分ノ變更デアリマスルカラシテ、無論本法ノ制裁ヲ受クルモノデハナイノデアリマス、本法ハ即チ財産制度ヲ根本ヨリシテ否認スル、法文ニアリマス通り私有財産制度ヲ否認スル、所謂共產主義ヲ罰スルノデアリマシテ、其一部分々々ノ所有權ノ方法ヲ法律ヲ以テ變更スル如キコトハ、無論本法ニハ係ラナイノデアリマス、第六ハ煽動ヲ何故罰スルカ、教唆ノ程度マデ行カナイ者ヲ何故罰スルカ、斯ウ云フ御質問ト承知致シマシタガ、之ガ即チ本法ノ特色デアリマス、共產主義ヲ鼓吹シテ之ガ實行ヲ圖ルト云フガ如キ事柄ハ、或ハ人ヲ殺ストカ、叩クトカ云フ、犯罪ヲ教唆スル場合トハ違フノデアリマス、此主義ヲ實行スル目的ヲ以テ、其實行ヲ人ニ煽動スルト云フコトガ、即チ國家ニ非常ナル危害ヲ及ボスノデアリマス、之ヲ取締リマセヌケレバ、段ミト全國ニ互ッテ此共產主義ガ瀰漫シテ、十分ニ人心ヲ惡化シテシマッテカラ後ニ至ッテハ、如何トモ致方ガナイ、故ニ實行ヲスル考デ、其目的ヲ以テ其實行ヲ人ニ煽動スレバ、之ヲ罰スルト云フコトガ今日ノ時代ニ於テ最モ必要ヲ感ジテ居ル次第デアリマス、何レ秘密會ニ於テ段ミト御話ヲ申上ゲタイト考ヘテ居リマスルガ、今日澤山ナ文書ニ依テ、此犯罪ヲ犯シタ者ガ今日マデ澤山ニアル、即チ煽動ヲ致シタ者、目前我國ニ於テ最モ取締ノ必要ヲ感ズルノハ、即



チ此實行ノ目的ヲ以テ實行ノ煽動ヲシテ居ル者ガ一番酷イノデアリマスカラ、教唆罪ヲ罰スル  
 事柄トハ、全然本法ハ別段ノ趣意ヲ持テアルノデアリマス、ソレカラ第七ハ暴行、騷擾、其他生  
 命財産ニ對シテ、此共產主義等ヲ實行スル目的ヲ以テ、害ヲ加ヘルヤウナ煽動ヲシタ者ヲ罰スル  
 ト云フコトニ付テ、名譽ヲ毀損スルコトヲ煽動シタル場合ニ何故罰セヌカ、脅迫トカ、名譽毀損  
 トカ云フ事柄ハ、比較的間接デアッテ、今日ノ場合ハ直接ニ生命財産等ニ危害ヲ加フベク煽動ス  
 ル分ガ一番恐ルベキ状態デアリマスカラ、故ニ其點ヲ罰シテ、名譽若クハ脅迫ニマデ及バナカッ  
 タ次第デアリマス、成ベク是ハ狹クスル所ノ考ヲ以テ、斯様ニ甚シク恐ルベキ分ダケニ對シテ、  
 本法規定シタ次第デアリマス、第八ハ委員會デ申上ゲマス、第九ハ本法ニ禁錮ノ外懲役ノ刑ヲ  
 設ケタノハドウカト仰シヤル、是ハ本法ノ犯罪ノ中ニハ懲役ヲ以テ科スルノガ相當デアアル所ノ  
 犯罪ガ澤山アルノデアリマス、故ニ懲役ト云フ刑ヲ設ケタ、第十ハ即時ニ實行スルカドウカ、無  
 論法令ノ規定ニ依テ、公布ノ日ヨリ二十日經テハ法律ハ效力ヲ生ズルノデアリマス、第十一ハ震  
 災ノ場合ニ發布ニナリマシタ勅令第四百三號、之ヲ廢スルノニ附則トシテ廢シタノハ、甚ダ不都  
 合デアアルカノ如キ御口吻ニ伺ヒマシタガ、是ハ本案ヲ出シマスル以上ハ、彼ノ勅令ハ不必要ニナ  
 リマスカラ、附則トシテ之ヲ消滅セシムル譯デアリマス、又原君ハ萬一本法ガ成立致サナカッタ  
 場合ニハ、此勅令ヲ活カス考デアッタノデハナイカト云フ御話デアリマシタガ、別段左様ナ考ヲ  
 持ツタ譯デアリマセヌ、併ナガラ假ニ否決ニナリマスレバ、矢張勅令ハ活キテ存續スル結果ニ  
 ナルノデアリマス、當局者トシテハ別ニ左様ナ考ヲ持ツテヤッタ譯デハナイ、當リ前ノ法律ノ例文  
 トシテ今日新法ヲ出シタ場合ニ、舊法ノ效力ヲ失ハシメルト云フ場合ニハ、附則ヲ以テ之ヲ規定  
 スルコトガ最モ相當デアアルト考ヘテヤッタ次第デアリマス、第十二ハ所管ノ問題、是ハ内務省、司  
 法省、兩省ノ所管ニナッテ居ル次第デアリマス、其他警察官云々ノコトニ付テ御話デアリマシタ  
 ガ、是ハ御質問トハ認メマセヌカラ、答辯ハ申上ゲマセヌ

山口政二君ノ質疑

多數ノ質疑者モゴザイマシタカラ、重複ヲシナイ程度ニ於キマシテ、要領ダケヲ御質疑致シタイ

ト思ヒマス、第一ハ若槻内相ノ提案ノ御説明ニ依リマス、日露國交ガ恢復致シマシテ、彼我ノ  
 往來ガ盛ニナルカラ云々ト云フコトガゴザイマシタ、多分之ガ一ツノ動機ヲ爲シテ此法案ヲ提  
 案スルニ至ツタモノト考ヘマスガ、第一條ニ於キマシテ私有財産制度ノ否認ト云フコトハ、共產  
 主義ノ實行ダト斯ウ云フ風ニ御説明ニナッテ居リマス、シテ見ルト政府ハ我國ニ於キマシテ共產  
 主義ガ實行サレルモノデアルト信ジテ居ルヤウデアリマスガ、是ハ御承知ノ通り露西亞ニ於キ  
 マシテモ、新經濟政策ニ於テハ共產主義ヲ實行シテ居リマセヌ、故ニ私ハ若モ之ガ一ツノ提案ノ  
 理由デアアルナラバ、我國ニ於テハ共產主義ノ實行ヲセラレル虞ハ無イト信ズルガ故ニ、第一條ノ  
 私有財産制度ノ否認ト云フヤウナ言葉ハ、全ク無用ノ言葉デアルト信ズルノデアリマス、此點ニ  
 付キマシテ若槻内相ノ御所見ヲ更ニ御伺ヒ致シタイノデゴザイマス、第二ハ此法案ノ目的デア  
 リマスガ、是ハ秘密結社ノ取締及思想宣傳ノ取締ト解釋シテ宜イノデアリマセウカ、秘密結社ノ  
 事ニ付キマシテハ、他ノ議員諸君ヨリ既ニ御質問ガゴザイマシタガ、私ハ思想宣傳ノ取締ト解釋  
 シテ宜キヤヲ御尋致シマス、例ヘバ煽動ト云フ言葉ノ判例ニ依リマス、他人ノ感激ヲ利用シテ  
 主義ヲ宣傳スルモノデアルト云フコトニナッテ居リマス、然ルニ政府トシテハ此議場外ノ御説明  
 デハアリマスケレドモ、煽動ハ宣傳ニ非ズト言ッテ居ラレル、併シ煽動ハ矢張宣傳ナリト解釋サレ  
 ルノデアリマスガ、判例ニ依リマス、シテ見ルト此第三條ニ依テ言論機關其他社會運動家、  
 是等ノ多クノ者ガ此煽動ト云フ言葉ノ爲ニ、其取締ヲ受クルコトニナルノデアリマス、サウシマ  
 スト煽動トハ宣傳ニ非ズト言フ御説明デアリマスケレドモ、此點ニ付キマシテ茲ニ明確ナル御  
 答辯ヲ煩シタイノデゴザイマス、第三點ハ此法律ヲ提案スルニ至リマシタ必要デアリマスガ、  
 政府ハ之ヲ秘密會ニ於テ説明スル、若クハ委員會ニ於テ説明スルト云フ御答辯デアリマスガ、  
 此法案ノ提出ノ必要ハ何デアルカ、如何ナル程度ノモノデアアルカト云フコトハ、宜シク政府ヨリ  
 公明正大ニ御發表ニナルノガ却テ宜イト云フコトヲ信ズルノデアアルガ、此點ニ付キマシテ、政府  
 ノ御所見ヲ御伺ヒ致ス次第デアリマス、第四ハ此法案ノ影響デアアル、此點ニ付キマシテハ既ニ他  
 ノ諸君ヨリモ御尋ガアリマシタケレドモ、其一トシマシテ此法律施行ノ結果、政府ガ本當ニ取締



ラウト云フモノガ免レテ、真面目ナル社會運動ガ阻止セラレルヤウナコトニナリハシナイカ、其  
二ハ政體ノ變革ヲ禁止シテ居ルノハ、他ノ諸君ガ屢御尋シタヤウニ、之ガ爲ニ政治ノ進歩進運ヲ  
阻止スルノ結果トナリハシナイカ、其ニハ政府ハ此法案ノ第一條ヲ以テ、私有財産制度ト云フ言  
葉ヲ恰モ金科玉條、絶對ニ眞理ナルガ如ク裏書ヲサレテ居ルヤウニ見エルノデアリマスケレド  
モ、此點ニ付キマシテ果シテ政府ハ私有財産制度ヲ金科玉條ナリトシテ誤ラザル眞理デアルト  
云フ意思ヲ持ッテ居ルノデアリマスカドウカ、是ハ將來ニ於テ屢立法手段ヲ以テスル所ノ社會政  
策運動、是等ニ非常ナル關係ガアリマスガ故ニ、特ニ政府ノ御所見ヲ御伺シタイノデアリマス、  
最後ニ此法案ハ第一條ニ於キマシテ無條件ニ其運動ヲ取締ニナルノデアアルカ、他ノ諸君ノ御質  
疑ニモアリマシタ如ク、立法手段ヲ以テスル合法的ノ政體變革ヲモ取締ルノデアアルカ、例ヘバ政  
體ノ變革ト云フコトヲ立法手段ヲ以テスル場合、私有財産制度ニ付テ立法手段ヲ以テ一部ヲ否  
認スル、若クハ制限ヲスルト云フヤウナコトヲモ取締ルノデアアルカト云フコトヲ御尋致シタイ  
ノデアリマス、以上ヲ以テ私ノ此質疑ヲ打切りマス

若槻内務大臣ノ應答

御質問ノ第一點ハ、今日ノ露國政府ノ共產主義ト云ッテモ、新經濟政策ヲ執ッタ爲ニ若干ノ私有ヲ  
認メテ居ルノデアアルカラ、日露ガ往來ヲ頻繁ニシタ所ガ、政府ノ憂フルヤウナ共產主義ノ傳播ハ  
無イト思フガドウカト云フ御質問デアリマス、私有財産制度ノ否認ト云フノハ、大體ニ於テ私有  
財産制度ノ根本的破壊ト云フノデアリマス、ソレ故ニ私有財産制度ヲ認メナイト云フ中ニ、唯  
自ラ働イテ得タ果實ハ其者ノ所有デアアル、或ハ身邊身廻リノ衣類等ハ其者ノ所有デアルト云フ  
位ナコトガアリマシテモ、ソレハ私有財産ノ所有タルコトヲ妨ゲナイノデアリマス、即チ今日  
ノ露國ニ於テ行ハレテ居ル共產主義ハ、現行法ニ只今私有財産制度ノ否認トシテ取締ラント  
スル所ノモノニ正シク當ッテ居ルノデアリマス、第二ノ御質問ハ、煽動ト云フノハ宣傳ト同一デ  
ハナイカト云フ御質問デアリマス、煽動ト云フノハ其事ヲ爲ス者ガ其事ヲ意識シテ居ッテ、更ニ

其事ノ實現スルコトヲ期待シ希望シテ、他人ニ之ヲ勸メルト云フコトデアリマス、ソレデアリマ  
スカラ、唯事實ヲ流布シタトカ、唯事實ヲ宣傳シタト云フノハ、第三條ノ「煽動」ノ中ニハ入ラヌ  
ノデアリマス、第二ノ御質問ハ、此法律案ヲ提出スルニ付テハ、洵ニ危険ナル事柄ガ澤山アル、ソ  
レハ委員會等デ能ク説明ヲスルト言ッタガ、却テサウ云フ事ハ此公開ノ席上デ發表シタ方ガ宜ク  
ハナイカト云フ御質問デアリマス、併ナガラ事柄自體ノ性質ニ考ヘマスト、斯様ナ公開ノ席上デ  
一々申述ベルコトハ私ハ宜シクナイト思ッテ居リマス、説明ヲシナケレバナラヌナラバ、秘密會  
議ヲ御開キニ相成リタイシ、又委員會ニ於テ秘密會議ヲ御開キニナレバ、十分此事實ハ説明スル  
積リデアリマス、ソレカラ本案ガ若シ成立シタ場合ニ於ケル影響トシテ、眞面目ナル社會運動ヲ  
妨グルコトガアリハセヌカト仰セニナリマシタガ、前ニ申上ゲマシタ通りニ、本案ハ國體ヲ變革  
スル、政體ヲ變革スル、私有財産制度ヲ破壊スルト云フ事柄ヲ取締ルノデアリマシテ、眞面目ナ  
ル社會運動ニハ何等關係アリマセヌカラ、眞面目ナル社會運動ハ、決シテ之ガ爲ニ妨ゲラル、コ  
トハ無イノデアリマス、影響ノ第二點トシテ、政體ニ付テハ色々研究スルコトガ必要デアアルケレ  
ドモガ、サウ云フ事ヲ阻止スルヤウナコトガアリハセヌカト云フ、仰セデアリマシタ、政體ヲ破  
壞スル、變革スルト云フコトノ實行ニ付テ結社ヲスル、實行ノ相談ヲスル、ソレヲ煽動スル、ソレ  
ガ爲メニ生ズル重大ナル犯罪ヲ煽動スルト云フヤウナコトハ取締リマスケレドモ、政體中ノ一  
部ニ付テ、殊ニ私ハ此「政體」ト云フ言葉ニハ含マレテ居ナイト申上ゲル所ノ今日ノ憲法上ノ統  
治組織ノ一部等ニ付テ研究ヲ致シマスコトハ、決シテ此法律ガ制定セラレマシテモ關係ハ無イ  
ノデアリマス、ソレカラ最後ノ御尋ハ私有財産制度ノ否認ト云フコトニ大變重キヲ措イテ居ル  
ガ、一體今日ノ財産制度ト云フモノハ、是ガ一番良イノカ、或ハモット良イ制度ガアルカモ知レ  
ヌ、ソレヲ政府ハ之ヲ金科玉條ト見テ居ルカ、斯ウ云フヤウナ意味デアッタヤウニ思ヒマス、若シ  
私ガ只今申上ゲタノガ誤解デアレバ別問題デアリマスガ、若シ其意味デアリマスナラバ、今日ノ  
日本ノ社會組織ノ根本、經濟組織ノ根本ハ、私有財産制度ニ在リト見テ居ルノデアリマス、之ヲ否  
認スルト云フコトハ、是ハドウシテモ許スベカラザルコト、認メテ居ルノデアリマス



若槻内相ハ私ノ最後ノ御尋ニ對シテ御答ガゴザイマセヌデシタ、極メテ重要ナ點デゴザイマスカラ、御答ヲ願ヒタイノデアリマス、若シ御聽落シデアリマシタラ、モウ一遍繰返シマス、ソレハ第一條ニ於キマシテ、無條件ニ政體ノ變革及私有財産制度ノ否認ト云フコトヲ規定シテアリマスガ、之ヲ合法的ノ手段ヲ以テ政體ヲ變革スルコトハ何故ニ惡イノデアルカ、又合法的ノ手段ヲ以テ私有財産制度ノ制限若クハ一部否認ト云フヤウナコトハ、何故ニ惡イノデアルカト云フ點ヲ御尋シタノデアリマス

若槻内務大臣ノ應答

明治大帝陛下ノ大御心ニ依テ今日創定セラレテ居リマス所ノ我方立憲政體ナルモノヲ、如何ニシテ合法的ニ變革スルコトガ出來ルノデアリマスカ、私ハ左様ナルコトハ事實ニ於テ無イト思フノデアリマス、ソレカラ私有財産制度ノ根本ヲ破壊スルコトガ、即チ此法律案ニ依テ取締ラントスル所ノモノデアリマス、是ハ合法的ニ爲サルト云フコトヲ想像スルコトガ出來ヌノデアリマス、若、夫レ一部ノ私有財産制度否認ト云フ御言葉ガ、例ヘバ水力電氣ハ國有ニスルトカ、或ハ鐵道ハ國有ニスルトカ云フコトデアリマスカラ、ソレハ合法的ニソレヲ爲サルコトハ此法律案ニ依テハ、何等妨グルモノデハナイノデアリマス

青木精一君ノ質疑

諸君、段々同僚諸君ノ質問應答ヲ承ッテ居リマシテ、唯一點私ガ尙ホ諒解ニ苦ム點ガアリマスノデ、一點ダケ政府ニ向ッテ質問ヲ致シタイノデアリマス、本案ニ付キマシテハ、私ハ大體ニ於テ其必要ナルコトヲ痛切ニ感ジテ居ル一人デアリマス、ソレハ内務大臣ガ提案ノ説明ノ中ニモ言ハレタ通り、日露ノ交通ガ開始セラル、其一ノ事實ト、本案ノ取締ノ對照トナルベキモノハ、茲ニ

明知サレテ居ル通り無政府主義、共產主義ノ實行ニ對シテハアル、ナゼ私ハ本案ノ必要ヲ痛切ニ感ジテ居ルカト申シマスレバ、所謂日露通商ノ開始ヲ前ニ致シマシタ今日ニ於テ、露西亞ノ共產黨政府及第三共產「インターナショナル」ノ、平生カラノ極東ニ對スル所ノ宣傳準備、宣傳計畫、ソレ等ノ事ニ付テ頗ル憂ヘテ居ル者デアルカラデアリマス、共產黨第十二回大會ニ於キマシテハ、共產黨領袖デアアル所ノ「プロフェーリン」ハ斯ウ云フコトヲ申シテ居ル、「東京植民地コソ實ニ「プロレタリア」ノ偉大ナル常備軍ニシテ我が共產黨ハ須ク此常備軍ヲ世界革命ノ先頭ニ誘致セサルベカラズ」又「第三インターナショナル」ノ議長デアアル所ノ、例ノ「ジエノヴィエフ」、書簡事件ヲ起シタル所ノ「ジエノヴィエフ」、此領袖ハ斯ウ云フコトヲ演説シテ居ルノデアリマス、「東方トノ接近ヲ頻ニ力説シテ目下最モ重大ナル事實ハ東方問題ナリ、我國際政策ノ本義ハ——我がト云フノハ共產黨デアアル——「プロレタリア」革命ノ最初ノ勝利者タル「ソヴィエツト」共和國ヲ目覺メツアル、所ノ東方及我ニ依存シツ、アル半植民地的國民ノ間ニ行動ノ協調ヲ取ルコトデアアル」ト言ッテ居ル、是ハ即チ共產黨ガ支那、印度、朝鮮、日本、是等ノ東方諸國ニ對シテ、東洋ガ目下思想問題、社會問題ニ付テ目覺メツ、アル此間隙ニ乗ジテ、共產主義ヲ鼓吹シテ、サウシテ此東洋ノ天地ニ於テ共產主義ノ立脚地ヲ立テントスルノハ、是ハ共產黨ノ深イ所ノ豫定ノ行動デアツテ、東方ニ對スル所ノ宣傳ト云フコトハ、彼等ノ有力ナル「プログラム」トナッテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ「プログラム」ト云フモノハ、既ニ世界ノ前ニ展開サレテ、何人モ承知シテ居ル筈デアアル、我國ガ此時機ニ方ッテ——日露交渉ノ結果日露協約ノ成立ヲ見、日露通商ノ開始ヲ見ルト云フ時ニ方ッテハ、吾々ハ此共產黨ノ東方宣傳ト云フコトニ付テ、深ク思フ致サナケレバナラヌノデアアル、然ルニ本法ノ第三條ニ於キマシテハ、「其目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ」云ト云フコトガアリマスガ、宣傳ト云フコトニ對シテ制裁ノ規定ガ設ケテナイ、宣傳ト云フコトヲ除外シテアルノデアリマス、私ハ此點ニ付テ政府ノ的確ナル御説明ヲ伺ヒタイノデアアル、共產黨ノ仕事ノ最モ有力ナル過程ハ宣傳デアリマス、巧妙ナル所ノ方法ヲ以テ、微妙ナル所ノ働ヲ以テ宣傳ヲ爲スノデアリマス、此宣傳事業ト云フコトガ、共產黨ノ最モ重要視シテ居ル所ノ仕事デ



アル、其宣傳タルヤ或ハ秘密出版ヲ以テシ、或ハ言論機關ヲ買収シ、印刷職工ヲ買収シ、隱微ナル  
間ニ於テ、非常ニ人心ニ投ジ易イ所ノ文句文章ノ組立ヲ巧ニシテ、人心ニ喰込シテ行クノデアリ  
マス、此所謂煽動ト云フ部類ニ入ルコトヲ避ケテ、非常ナル微妙ナル反語ヲ用キテ宣傳ニ努メル  
ノガ、共產黨獨得ノ技能デアアル、然ルニ此法律ヲ見ルノニ宣傳ト云フコトヲ除外サレテ居ルハ私  
ハ此「宣傳」ト云フ文字ガ、内地ノ現狀ニ於テハ、新聞雜誌等ノ取締ノ上ニ「宣傳」ト云フ文字ガ往  
往ニシテ逆用セラレハセヌカト云フ憂慮ハ、私モ深く持ッテ居ルノデアアル、ケレドモ苟モ無政府主  
義共產主義ノ取締ヲセントスルナラバ、此「宣傳」ト云フ文字及其内容ヲ逸シタナラバ、取締ノ徹  
底ヲ缺クコトニナルノデアリマス、煽動ト云フ表ニ現ル、所ノ行為ノ外ニ、宣傳ノ力ニ依テ民衆  
ニ傳播サレル所ノ其感化力、其影響、其時ニ於テマダ宣傳ダカラ宜シイト言ッテ居ッタナラバ、ソ  
レヨリ培ハレテ來ル所ノ結果ト云フモノガ恐シキモノニナッテ來ルノデアアル、デアアルカラ政府ハ  
唯「煽動」ト云フ文字ヲ以テ宣傳マデモ取締ラレル考デアアルカ、或ハ「宣傳」ト云フ文字ヲ何等カ  
ノ理由ニ於テ茲ニ避ケラレタノデアアルカ、私ハ此法律ノ效果ヲ完ウスルガ爲ニハ、共產黨ノ最モ  
重シテ居ル所ノ此宣傳ニ對スル所ノ取締ト云フコトヲ逸シタナラバ、此法律ノ效力發揮ノ上ニ  
非常ナル所ノ支障ヲ來シハセヌカト思ヒマスカラ、政府ノ御答辯ヲ望ム次第デアリマス

若槻内務大臣ノ應答

只今青木君ガ露西亞ニ於テ行ハレテ居ル思想ノ傳來ニ對シテ、御憂慮ニナリマシタ點ニ付テハ、  
其精神ニ於テハ私全然御同感デアリマス、併ナガラ政府ガ此法案ニ於テ「宣傳」ト云フ文字ヲ用  
キズシテ「煽動」ト云フ文字ニ致シマシテ、其事柄ノ實行ヲ期待シ、希望シテ、他人ニ之ヲ勸メタ  
場合ニ限ッテ此重イ制裁ヲ加ヘルコトニシテ、唯宣傳シタリ流布シタダケノモノハ、或ハ之ヲ  
治安警察法ニ讓リ、或ハ之ヲ新聞紙法ニ讓リ、或ハ之ヲ結社ノ法規ニ讓ッテ置キマシタ所以ノモ  
ノハ、宣傳ト云フ所マデ參リマス、中ニハサウ阻止シナイデ宜イ所マデ此法律ノ力ヲ及ボシテ  
ソレガ爲ニ言論、文章ノ自由ヲ甚シク奪ハナケレバナラヌコトニナル、其虞ガ大ニアリマスガ故

ニ、精神ニ於テハ青木君ノ憂ヘラレル所ノモノハ政府モ亦憂ヘテ居ル所ノモノデアリマス、ケレ  
ドモ、法規ヲ設ケタル結果トシテ玉石俱ニ焚クト云フコトニ相成ッタノデハ、又其法規ノ弊ノ及  
ブ所ガ餘リニ甚シク相成ルト存ジマシタ爲ニ、ソコデ言論文章ノ自由ヲ尊重スルト共ニ、甚シキ  
弊害ヲ杜絶シヤウト云フ兩者ノ調和ヲ取ツタノガ、只今御質問ニナリマシタ「宣傳」ト云フ文字ヲ  
用キズシテ「煽動」ト云フ文字ヲ用キタ所以デアリマス、

前野芳造君ノ質疑

政府ガ此案ヲ提出サレマシタコトニ付テハ、其精神ニ於テ洵ニ贊意ヲ表スル者デアリマス、然ル  
ニ私共ノ憂ヘマスル所ハ、此法律ニ依テ取締ラントシマスル所ノモノハ、普通ノ犯罪ニ非ズシテ、  
元々思想ニ關シマスルモノデアリマスルガ故ニ、斯ノ如キ法律ヲ特ニ設ケテ豫メ之ヲ抑壓スル  
ト云フコトヨリハ、現在ノ法律ニ依テ之ヲ取締リ、若シ現行法ニ於テ不備ノ點ガアリマスルナラ  
バ之ヲ補フコトニ致シテ、特ニ斯様ナ法律ヲ設ケナイコトニ爲サツテハ如何デアラウカト考ヘル  
ノデアリマス、固ヨリ刑法其他ノ法律ガ直ニ本案ノ如キ働キヲ爲スト云フ譯ニハ參リマセヌコ  
トモアリマス、併ナガラ私共ノ考ヘマスル所ハ、斯様ナ法律ヲ設ケルコトガ、日露ノ國交ノ恢復  
或ハ若干近代ノ思想ノ變化ナドニ依テ、俄ニ急要ニナッタト云フコトガ、甚ダ可笑シク考ヘルノ  
デアリマス、只今モ内務大臣ガ財產ノ果實ト云フコトニ付テ御説明ガアッタヤウデゴザイマス、  
財產ノ果實ニ付テ其争ノ爲ニ私有財產制度ニ彼此レト致スヤウナコトガアリマスルコトハ、ナ  
イトハ言ヘマセヌケレドモ、恰モ吾々ガ屢體験致シマスル所ノ勞働者ト資本家ノ間ニ於テ、事業ノ  
利益ノ分配ヲ求メルコト、即チ「プロフヒットシエ」ナルコトガ直ニ資本主義ナルモノヲ破壊ス  
ルモノデナイト同ジコトデ、必ズシモ財產ニ依テ生ズル果實ノ如何ガ、直ニ共產主義トナリ或ハ  
私有財產制度ヲ破壊スルモノトハ信ジ得ナイノデアリマス、私共ハ御趣意ニ付テハ同感致ス者  
デアリマスルガ、斯様ナ法律ハ今直ニ行ハレナクとも、マダ今後、日露ノ國交、其他ノ實績ヲ御覽  
ニナツテカラ、何等カノ施設ヲ爲サルコトニシテモ、敢テ遅クハナカラウト考ヘルノデアリマス、



此點ニ付テ内務大臣ノ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス  
若槻内務大臣ノ應答

前野君ノ御質問ハ初メ御述ニナリマシタ所ト、後ニ御述ニナッタ所ト變テ居リマスノデ、ソレ故  
ニ御質問ノ要點ガ何處ニアリマスカガ、少シク明瞭デアリマセヌ、併シ兩方ニ對シテ御答申上  
テ置ケバ、何レカガ當ルノデアラウト思ヒマス、前野君ノ初メノ方ニ仰セニナッタ御質問ハ、刑  
法其他ノ法律ニ遺漏ガアツテ此法律ヲ作ルト云フナラバ、寧ロ斯ウ云フ法律ヲ作ラズシテ、其根  
本ノ刑法ナリ、治安警察法ナリニ改正ヲ加ヘタラ宜イデハナイカト云フ、御質問ノヤウデアリマ  
シタ、ソレハソレデモ宜シイノデアリマス、併シサウ云フ風ニ色々ナ法律ニ改正ヲ加ヘマスルヨ  
リモ、一番必要ナル所ヲ明瞭ニ此處ニ法律ニ現スノガ相當デアラウト思ウテ本案ヲ提出シタノ  
デアリマス、後ノ程ニ御問ヒニナル所ノモノハ、先ヅ露國ナド、交際ガ恢復セラレタナラバ、其  
結果ヲ見テカラ本案ノヤウナモノヲ出シタラ宜カラウ、其前ニハ斯様ナモノヲ出スニ及バヌデ  
ハナイカト云フヤウニ御仕舞デハ仰シヤタ、是ト前トハマルデ違ッテ居ルヤウデアリマスガ、二  
ツノ質問ナリトシテ私ハ之ニモ御答ヲ致シマス、日露ノ國交ガ恢復ヲ致シマスト云フト、兩國ノ人  
間ノ往來ガ頻繁ニナリマスカラ、危險ナル思想ニ觸レル機會ガ多クナリマス、ソレデアリマス  
カ、其事モ亦本案ヲ制定スル上ニハ、考慮ノ一ツニハナツテ居リマスケレドモ、ソレノミデ本案ヲ  
出スノデアリマセヌ、今日日本國民ノ一部ニ於テハ、洵ニ殘念デアリマスケレドモ、危險ナル思  
想ノ者ガアツテ、既ニ取締ラナケレバナラヌ必要ニ迫ッテ居リマス、故ニ日露國交ノ恢復シタ時ヲ  
待ツテ、其結果如何ヲ見ルト云フ譯ニハ參リマセヌ、ソレカラ御質問ニハアリマセナカッタケレド  
モ、先程私ノ答辯ノ中ニアッタ事柄ヲ誤解ナスツテ、此所デ御述ニナリマシタ、是ハ申上ゲテ置キマ  
セヌト云フト大ナル其處ニ世間ノ誤解ヲ惹起シマスカラ申上ゲテ置キマス、先程ノ御尋ニ露國  
ト雖モ今日ハ總テノ財產ガ皆政府國有デアル譯デハナイ、其中ノ或ハ自分デ耕作シテ得タモノ  
ハ其者ノ所有ニナルトカ、其者ノ著テ居ル著物ハ其者ノ所有ニナルトカ云フ風ニナツテ、近來ハ

露國ニ於テモ新經濟政策ヲ行ツテ、自己ノ働キデ得タ果實ハ矢張其者ノ所有ニスル、斯ウナツテ居  
ルカラ、ソレ故ニ政府デ言フガ如ク私有財產制度ノ全部ノ否認ト云フヤウナ事ハ、露國ニ於テス  
ラモナイ、ソレダカラ斯ウ云フ法律デハ何ニモ無イ事ヲ心配スルヤウナコトニナツテ居リハセヌカ  
ト云フ意味ノ御質問ニナル、ソレデ私ハ答ヘテ、私有財產制度ノ根本ヲ破壞スルト云フコトガ、  
モウ既ニ原則トシテ行ハレテ居ルナラバ、偶果實ダケハ私有權ヲ許スト云フダケノ除外ガアツテ  
モ、ソレハ矢張私有財產制度ノ否認デアルカラ、是ハ取締ラナケレバナラヌ、露國ノ現在ノ共產  
主義ノ如キモノハ、矢張日本ニ行ハレテハナラヌカラ、之ヲ取締ル考デアル、斯ウ申上ゲタノデ  
アリマス、ソレ故ニ小作人ト地主トガ、小作料ニ付テ争フナント云フコトハ、此方法ニ全ク關係  
ノ無イト云フ事柄ハ、之ヲ強ヒテ申上ゲル必要ハナイト思ヒマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(二十七名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十日委員會ヲ開キ委  
員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
(委員會報告書)

治安維持法案中左ノ通修正ス

第一條中「若ハ政體」ヲ削ル

三月七日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長前田米藏君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス  
私ハ只今日程ニ上リマシタル治安維持法案ノ委員會ニ於ケル經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマ  
ス、本案ハ諸君モ御承知ノ如クニ、政府ハ無政府主義、共產主義ヲ取締ランガ爲ニ、其危險防止ノ  
爲ニ今回立案提案セラレタ法案デアリマス、其條項ヨリ申シマスレバ、僅ニ七箇條ニ過ギナイノ  
デアリマス、ケレドモ、其内容ニ至リマシテハ頗ル重大ナル事項ヲ包含シテ居ルノデアリマス、



故ニ委員會ニ於キマシテハ、委員ノ諸君ハ熱心ニ、眞面目ニ、研究的ニ、質問應答ヲ盡サレタノデアリマス、其中ニ於キマシテ、或ハ高遠ノ理想郷ニ付テノ質問モアリ、又遠深ナル法律論ノ質問モアリマシタ、又色々ノ場合ヲ假定致シマシテ、而シテ其假定ニ基イテ本法トノ適用如何ト云フヤウナ質問モ色々アッタノデアリマス、斯様ナル點ニ於テ百般ノ場合ヲ豫想シテノ質問應答ニ對シマシテ、一々私ガ此處デ御報告ヲ申上ゲルト云フコトハ如何デアラウカト思ヒマス故ニ、私ハ大體ノ所ヲ御報告申上ゲマシテ、詳細ナル事ハ委員會ノ速記ニ依テ御覽ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、先ヅ本案ニ於キマシテ劈頭問題ニ相成リマスモノハ、即チ國體ノ變革、政體ノ變革、私有財産制度ノ否認ト云フコトハドウ云フコトデアアルカト云フコトニ相成ルノデアリマス、國體トハ何ゾヤト云フコトニ對シマシテ、政府ハ國體トハ萬世一系ノ天皇ガ統治ヲスルト云フ、此我國ノ國柄ヲ指シテ國體ト謂フト云フヤウナ御答辯デアリマシタ、ソレニ對シマシテハ、國體ト云フ字ハ克ク孝ニ、眞ニ森嚴ナル意味ノ言葉デアアルカラ、無味乾燥ナル法律語トシテ之ヲ使フノハドウデアラウカト云フヤウナ御意見モアリマシタ、又國體ト云フ事柄ハ萬世一系ノ天子ガ統治ヲスルト云フコト、其事ヲ言フノナラバ、左様ナ即チ變革ヲ企テルト云フガ如キコトハ有リ得ベカラザルコトデアアルガ故ニ、斯ウ云フ法律ヲ要セナイノデハナイカト云フ質問モアッタノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、吾々モ萬有ルベカラザルヲ信ズルノデアアルケレドモ、事頗ル重大デアアルガ故ニ、尙ホ一層規定ヲ要スルト云フノデアリマス、又既ニ刑法ニ於テ天皇竝ニ皇族ニ關スル所ノ規定ガアルノデアアルガ故ニ、其規定ニ依テ十分デハナイカト云フ質問モ出タノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、刑法ノ規定スル所ノモノハ即チ危害ヲ加ヘ、或ハ危害ヲ加ヘントシ、或ハ不敬罪ト云フヤウナ方面カラ規定セラレ、即チ直接ニ皇族ニ對スル危害ノ法律デアアル、今回ノ立案ハサウデナクシテ、天皇ガ即チ國ヲ統治スルト云フ、統治ノ聯絡ヲ遮斷スルガ如キコトガ即チ變革デアアルト云フ方面カラ論ジテ居ルノデアアルカラ、刑法トハ違フト云フコトヲ言ハレテ居ルノデアリマス、又斯ノ如キ法律ハ單行法トシテ出サヌデモ、刑法其他ノ法律ヲ改正シテ、其目的ヲ達スルノデハナイカト云フ質問モアッタノデアリマスガ、政府ハ成程新聞紙法、出版法、

或ハ治安警察法、其他刑法ヲ改正シテ此目的ヲ達スルコト必シモ不可能デハナイノデアリスケレドモ、今日マデノ十九世紀の觀念ヨリ成ツタ所ノ法律ヲ以テシテハ、今日ノ社會現象タル所ノ此無政府主義、共產主義ヲ取締ルニハ不十分デアアル、之ヲ取締ルニハ矢張新立法ヲ要スルト云ウヤウナ意味ノコトデアリマシタ、次デ主權者、日本帝國ノ主權者ハ何人デアアルカト云フ討論ガ本黨ノ中村君ヨリ出タノデアリマスガ、政府ハ我國ノ主權ノ所在ハ天皇デアアルト云フ風ニ答ヘラマシタ、次デ政體ノ變革トハ何ゾヤト云フコトニ相成リマシタ、政體ノ變革ト云フコトニ付キマシテハ、先月十九日本會議ノ時ニ於キマシテ、内務大臣ヨリ既ニ答ヘラレタ如クニ、政體ト云フ言葉ハ立憲政體ト云フ言葉デアアル、代議政體ト云フ言葉デアアル、其代議政體即チ民選議院ヲ中心トシテ政體ト云フ言葉ヲ使ツタノデアアルト云フ御答辯デアリマシタ、之ニ對シマシテ、然ラバ此立法部ト相對スル所ノ大權デアアルトカ、其他司法行政ニ關スル事柄ハ本法ニ入ルノデアアルカ、入ラナイノデアアルカト云フコトニ對シマシテ、政府ハ此問題ハ即チ議會否認ト云フ聲ガアルガ爲ニ、此危險ヲ防止スル爲ニ、主トシテ立法シタノデアアル、他ノ司法、行政、天皇ノ大權、固ヨリ容易ナラザル事デアリマスケレドモ、本法ノ目的ハ議會政治否認ヲ防止セントスルノガ主タル目的デアアルト云フ風ニ答ヘラレテ居ルノデアリマス、之ニ對シマシテ委員會ニ於テ多クノ委員諸君ヨリハ、政府立法ノ主旨ハ之ヲ諒トセラレタヤウデアリマスケレドモ、果シテ然ラバ政體ノ變革ト云フ文字ヲ以テシテハ、政府提案ノ主旨ト一致スルモノデナイ、文字ノ方ガ廣イ解釋ヲ持ツガ爲ニ、頗ル危險ナル法律デアアルト云フヤウニ論難の質問モ繰返サレタノデアリマス、次デ私有財産制度ノ否認、私有財産制度トハ何ゾヤト云フ議論ガ直グニ起ルノデアリマス、私有財産制度トハドウ云フ事柄ヲ謂フノデアアルカト云フコトニ付キマシテハ、定義的ニ簡單ナル言葉ヲ以テ言現ハサレテハ居ナイノデアリマス故ニ、多クノ質問應答ノ中ヨリ之ヲ綜合致シテ申シマスナラバ、我國ニ於キマシテ所有權ヲ中心トシテ多クノ財産關係ヲ規定セラレタ所ノ、百般ノ法令ニ依テ保護セラレル所ノ制度、此制度ノ綜合觀念ガ即チ一ノ財産制度デアアルト云フガ如クニ答辯セラレテ居ルノデアリマス、隨テ此私有財産制度ト云フコトハ、私有財産制度ノ根本ト云フコト



ニ相成ルト云フコトヲ答辯セラレテ居ルノデアリマス、私有財産制度ノ基礎ト云フモ宜イ、根本ト云フモ宜イト云フ風ニ言ハレテ居ルノデアリマス、而シテ此否認ト云フコトハドウ云フコトデアルカ、否認トハ即チ廢止若クハ破壞ヲ意味スルト云フヤウナ言葉デアリマシテ、私有財産制度ノ根本ヲ覆ヘスト云フコトニ政府ハ述ベラレテ居ルノデアリマス、是ニ於テ此法條ハ本法案ノ最モ大切ナル部分ニ屬スルノデアリマシテ、色々ノ質問ガ繰返サレタノデアリマス、然ラバ下ノ程度ニマデ否認シタナラバ制度ノ否認ニ相成ルノデアルカ、例ヘバ現今ノ露西亞ノ如ク、多クノ有力ナル財産ハ全部國有ニ相成ツテ、手廻リノ物、若クハ果實ノヤウナ物ガ、所謂私有所有權ノ目的トナルト云フヤウナ制度ハドウデアアルカト云フ問ニ對シマシテ、政府ハソレハ私有財産制度ノ否認デアアル、斯ウ云フ風ニ答辯セラレテ居ルノデアリマス、又然ラバ土地國有ハ如何デアアルカ、又鑛山ノ國有ハドウデアアルカ、或ハ水面ノ國有ハドウデアアルカト云フ色々ノ質問ニ對シマシテ、左様ナル箇々ノ場合ニ於テハ、ソレハ財産制度ノ否認ニハナラヌト答ヘラレテ居ルノデアリマス、之ニ對シマシテ星島委員ダト思ヒマシタガ、土地ノ全部、地下埋藏物ノ全部、或ハ汽船ノ全部、飛行機ノ全部、鑛山ノ全部ト云フヤウナ主ナルモノ五ツ位ノモノ、然ラバ之ヲ國有ニスルト云フコトデアアルナラバ、ソレハ否認ニ相成ルノデアアルカ、ナラヌノデアアルカト云フ問ニ對シテ、政府ハソレハ即チ沒收ヲシテシマツテ、何等ノ代價ヲ拂ハズニ之ヲ取上ゲルト云フヤウナコトハ、即チ所有權ノ觀念ヲ否認シテカヲ起ル現象デアアルガ故ニ、私有財産制度ノソレハ否認ニ相成ル、併ナガラ政府ハソレニ相當ノ賠償ヲ與ヘテヤルト云フコト、即チ或所有權ノ存在ヲ認メルト云フ前提ノ下ニ賠償スルノデアアルカラ宜シイ、論ガ此所ニ及ビマスルト云フト、量ノ問題ヨリハ質ノ問題デアアルカノ如クニ答ヘラレテ居ルノデアリマス、又生産財ヲ國有ニシテ、消費財ヲ民有ニスルト云フコトハ、此法律ニ當嵌ルカト云フヤウナ質問モアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、生産財ト云フモノハ即チ其殆ド財産ノ全部——有力ナル財産ノ全部ヲ指サウナ意味ニ於テ使ハレテ居ルナラバ、ソレヲ沒收スルト云フコト、ソレヲ國有ニスルト云フコトハ即チ私有財産制度ノ否認デアアルト云フ風ニ答ヘラレテ居ルノデアリマス、此問題ニ付キマシテハ、隨分極端カラ極

端マデ質問ガ繰返サレマシテ、非常ニ極端ナル場合ヲ豫想シテ行キマスレバ、政府ノ説明モ必シモ一目瞭然トハ參リ兼ネテ居リマス、即チ此所ヨリ右ハ有罪デアリ、此所ヨリ左ハ無罪デアルト云フコトニ致シマシテモ、右ト左ノ中間ニ這入ル所ハ紙一枚ヲ挾マヌノデアアル、此所マデ立至ツテ見ルト中ニ徹底的ニハ參ラヌノデアリマス、其所ニ至リマスレバ即チ政府モ、ソレハ其時ニ於ケル法律的常識ヲ以テ裁判官ノ認定ニ任スヨリ仕様がナイト云フ意味ヲ漏サレテ居ルノデアリマス、然ラバ労働黨ノ政綱ニ於テ——英吉利邊リノ労働黨ノ政綱、若クハ其決議ヲ示サレマシテ、清瀬委員ヨリ斯ノ如キ事柄ガ私有財産制度ノ否認ト云フコトニナツテ本法ニ引掛カルガ、ドウカト云フ質問ヲ爲サレマシタ、ソレハ其綱領、決議、學說ト云フヤウナモノデアツテ、頗ル大部ノモノデアリマスルガ故ニ、委員會ノ速記録ニ載セルコトニ致シテ居リマスカラ、サウ云フ詳細ノ事柄ニ付テハ、ドウカ委員會ノ速記録ヲ御覽ヲ願フコトニ致シマシテ、政府ハ斯ウ云フ風ニ答辯致シテ居ルノデアリマス、其現ハレタル簡單ナ文章ヲ以テシテハ、本法ニ引掛カルトハ思ハヌ、併ナガラ百般ノ事必シモ現ハレテ居ル文字ノミデハナイ、其文字ノ現ハル、ニ至ツタ理由、其他内容トナルベキ重要ナ部分ヲ拜見セネバ、此條文ガドウ解釋出來ルカト云フコトハ、必シモ今斷言スルコトハ出來ナイ、併シ表面ニ現ハレタル文字ヲ以テスルナラバ——ソレダケカラ言フナラバ本法ニ引掛ラヌモノデアアル、即チ所有權ノ民衆化デアルトカ、或ハ私有財産制度ノ漸次ノ變革デアルトカ云フヤウナ抽象的ノ言葉ヲ以テシタノミデハ、必シモ本法ノ適用ヲ受クルモノデハナイト云フ風ニ答辯セラレテ居ルノデアリマス、次デ起リマス問題ハ國體ノ變革、政體ノ變革、私有財産制度ノ否認ヲ爲スノ不法手段ヲ要スルカドウカ、合法的デモ尙ホ犯罪ニ相成ルカト云フ點ガ又頗ル重要ナル點デアリマス、此點ニ付キマシテハ政府ハ不法ヲ要セヌ、今回ノ條文ト云フモノハ他ノ法律ト其撰ヲ異ニシ、此法律ニ依テ保護スルト云フ所ノ利益、目的、即チ法益ノ範圍ハ頗ル狭イノデアアル、頗ル狭少デアアルガ故ニ、此法益ヲ害セントスル者即チ不法ナリト云フノデアリマス、即チ姑ク國體ハ讓リマシテ、私有財産制度ト云フモノハ今日吾々國民ガ秩序ヲ維持スル上ニ於テ、此社會組織ヲ完全ニ維持スル上ニ於テ必要缺クベカラザル制度デアアル、憲法モ



此意味ニ於テ出來ルノデアアル、然ルガ故ニ此私有財産制度ヲ根本ヨリ覆スト云フコトハ、即チ其事ガ不法ヲ爲スノデアアル、丁度人ヲ殺ス、刑法ニ於テ人ヲ殺シタ者ハ無期徒刑「不法ニ人ヲ殺シタル」ト云フ條文ハ無イノデアアル、人ヲ殺スト云フコトガ即チ不法デアアル、日本ノ今日ノ狀態ニ於テハ、即チ國體ヲ變革スルトカ、私有財産制度ヲ否認スルト云フコト即チ不法ト政府ハ思フノデアアル、之ヲ不法ノ手段云々ト云フコトハ意味ヲナサヌ言葉デアアルト云フ風ニ政府ハ答辯シテ居ルノデアアリマス、之ニ對シマシテハ、或ハ暴力ヲ以テスルノデナケレバ、或ハ不法ヲ是非加ヘナケレバナラヌト云フヤウナ、非常ナル論難的質問ガアッタノデアアリマスガ、政府ノ説明ハ此點ニ於テ始終一貫致シテ、即チ不法其モノ自體ガ不法デアアルト云フ風ニ答辯セラレテ居ルノデアアリマス、是ニ於テカ此合法性ト云フモノヲ認メヌト云フコトニ相成ルナラバ、此法律ハ矢張刑罰法律デアリマスルガ故ニ、刑法ノ適用ヲ受ケルノデアアル、刑法二十五條以下ニ依リマスレバ、正當ノ業務ニ在ル所ノ者ハ認メラレテ居ルノデアアル、業務行爲ハ即チ免責行爲ニ相成ッテ居ルノデアアリマス、是ニ於テカ議員ガ議會ヲ通ジテ爲ス所ノ事柄ハ、然ラバ合法行爲デアアルカドウカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ議會ノ職務デアアルナラバソレハ即チ合法行爲ト申サレルト云フ風ニ答辯シタノデアアル、即チ先ヅ私有財産制度否認ノ建議ハ如何カト言ヘバ、ソレハイカナイ、憲法ヲ變更シナケレバ私有財産制度ノ否認ハ出來ナイノデアアル、憲法變更ハ即チ勅令ニ依テノミ爲シ得ルノデアアル、故ニ議員ノ建議ト申セバ則チ政府ニ建議ヲスル事デアッテ、陛下ニ建議ヲスル意味デハナイガ故ニ、建議ハ出來ヌト斯ウ云フ風ニ答ヘラレタノデアアリマス、然ラバ法案ハ如何ト云フコトデアリマス、法律案ニ致シマシテモ矢張同様、憲法ヲ變更スルニ非ザレバ私有財産制度ノ否認ハ出來ナイノデアアルカラ、ソレハ議員ノ職務デアナイト答ヘラレテ居ルノデアアリマス、然ラバ議院ノ有スル最重要ナル所ノ上奏權ハドウデアアルカト云フ點ニ對シマシテハ、上奏ト云フ事ニ付テハ議論モアルケレドモ、政府ノ見ル所ニ依レバ、上奏權ハ議院ニ於テ重要ナル問題トシテ職務行爲デアアルト云フ風ニ答辯セラレタノデアアリマス、議院ハ憲法變更ノ上奏モ爲シ得ル、隨テ上奏權ヲ行フ範圍ニ於テノミ合法性ヲ持ツノデアアルト云フ、然ラバ次デ起ル疑問ハ、

院ノ内外ヲ通ジテ然ルカト云フ質問ガ起ッテ來ル、之ニ對シテ政府ハ議員ノ職務ハ院内ニ限ラレルノデアアル、院外ニ於テハ其職務ト認メラレナイ、職務行爲デアナイト言ハル、ノデアアリマス、併ナガラ色々質問應答ノ結果ハ、政府ニ於キマシテハ、此院内ニ於テ業務ヲ執行スル議員ガ、職責ヲ行フニ必然且ツ不分離ノ程度ニ於テノミ、院外ニ於テ認メザルヲ得ナイト云フコトニ相成ッテ來タノデアアリマス、此事ハ議員ノ權能ニ關スル最重要ナル事柄デアリマス故ニ、マア一度言返シマス、即チ院内ニ於テハ宜シイ、院外ニ於テハ職務行爲ニナラヌノデアアル、併ナガラ院内ハ職務ヲ行フニ即チ必然的デアアル、且ツ不分離ノ部分ニ限ッテハ免責行爲ト相成ル、云フ風ニ答辯セラレテ居ルノデアアリマス、先ヅ左様ナ風ニ此第一條ニ付テノ質問應答ガアッタノデアアリマス、要スルニ第一條ニ於ケル文字ガ頗ル抽象的ノ言葉デアリマシテ、一方ニ於テ彈力性ニ富ムト同時ニ、一方ニ於テハ廣汎ノ解釋ヲバサレル虞ノアルコトモ亦已ムヲ得ザルコト、思フノデアアリマス、次デ第二條ノ協議ト云フコトニ付テハ、協議ト云フコトハドウ云フコトヲ言フカ、常識的ニハ御互ノ協議ガ即チ協議デアリマスルガ、唯一點御留意ヲ願ヒタイ點ハ、政體ヲ變革シヤウト云フコトヲ實行スルコトヲ目的ト致シマシテ、甲ナル者ガ乙ニ對シテ實行ヲシヤウヂヤナイカト云フコトヲ協議ヲ申込ム、相手ガ之ニ應ズルト云フ場合ハ協議ニ疑ガナイノデアアル、相手ガ應ジナイ、甲ガ申込ミマシタガ、乙ガ應ジナイ時ハドウデアアルカト云ヘバ、政府ノ説明ニ依レバ應ゼザル乙ハ無論實行ノ意思モ何モ無イノデアアリマスカラ、即チ協議ハ成立タナイ、協議デアナイノデアアル、唯申込ム者ハドウデアアル、是ハ相手ノ同意不同意ニ拘ラズ、左様ナ事ノ申込ムスルコトソレガ協議デアアル、之ヲ取締ルト云フコトガ矢張本法ノ目的デアアルト説明セラレテ居ルノデアアリマス、之ニ就キマシテハ本黨側ノ諸君ヨリ、此字ヨリハ勸誘ト云フ字ガ宜イノデアナイカト云フ御質問モアリマシタ、次デ矢張問題ニ相成リマス所ノ第二條ノ煽動ト云フコトニ付テ、煽動トハ何ゾヤト云フコトハ皆様御承知ノ通りデアリマスガ、煽動ト云フ字ハ如何ニモ紛レ易イ字デアアルカラ、煽動ト云フ字デナク、何トカ明ナ方法ガナイカト云フヤウナ質問ニ對シテ、政府ハ煽動ト云フ字ハ明デアアル、治安警察法第十七條ヲ廢止スル、廢止セヌト云フ輿論ガヤカマシイケ



レドモ、治安警察法第十七條ノ煽動ト云フ言葉ハ、言葉自身ガ惡イノデハナクテ、「ストライキ」即チ同盟罷工ト關聯シテ法律問題ニ相成ッテ居ルノデアアル、煽動ト云フ字ハ其他治安警察法第九條ニモアレバ、新聞紙法ノ第二十一條ニモアレバ、今回ノ選舉法ニモ使ッテ居ル言葉デアアル、疑ノナイ言葉デアアルト云フ風ニ言ハレテ居ルノデアアル、然ラバ煽動ト宣傳トハドウ違フカト云フコトニ對シテ、宣傳ト申セバ或事ヲ流布スル、或事ヲ傳播スルト云フコトガ宣傳デアリマス、此流布宣傳以上ニ、或事ヲ斯ウ云フ事柄ガ宜イノデアアルカラ斯ウ云フコトヲ行フノガ宜イト云フ風ニ、多クノ人ミノ感情ヲ刺戟シテ、實行ノ力ヲ與ヘルヤウナ事ヲセシメルコト、ソレガ即チ煽動デアルト申サル、ノデアリマス、次デ此自白スルナラバ減刑免除ノ規定ガアル、是ハ「スパイ」ヲ獎勵スル規定デハナイカト云フ質問ニ對シテ、政府ハ此法律ハ危險防止ノ爲ノ取締法デアリマスルガ故ニ、一人ニテモ半人ニテモ少ク、未然ニ危險ヲ防グ意味ヨリ拵ヘタノデ「スパイ」ヲ眼中ニ置ク制度デナイト言フノデアアル、次デ此法律ノ附則ニ付キマシテ、此法律ガ出來タナラバ治安維持令ナラ震災後ニ出サレタ緊急勅令ガ廢止セラル、ガ、此緊急勅令ノ治安維持令トドウ云フ所ガ違フノデアアルカト云フ質問ガ起ッテ來マシタガ、之ニ就テ治安維持令ハ其目的トスル所ガ頗ル廣イノデアアル、又其犯罪ノ手段トスル所ハ流布宣傳ニモ及ビ、流言浮説ニモ及ンデ居リ、頗ル廣イノデアアル、懲役ハ同ジ十年以下デアリマスケレドモ、其目的、其手段ノ頗ル廣汎ナルモノデアルト説明セラレテ居ルノデアリマス、然ラバ過激思想取締法案トドウ云フ所ガ違ッテ居ルカト申シマスレバ、過激思想取締法ヨリハ餘程今回ノ方ガ狭クナッテ居ル、即チ朝憲案亂ト申スコトニ對シテ國憲——所謂國憲デアアリマセヌ、國體ノ變革、政體ノ變革ト云フコト、ハ違ッテ居ル、朝憲ノ紊亂ト云フノハ信教ノ自由ヲ害スル、蹂躪スルコトモ入ルケレドモ、今回ハサウ云フコトハ入レテ居ナイ、斯ウ云フノデアリマス、又其他ノ點ニ付キマシテモ違フト云フ點ガアリマシタガ、是亦同様速記録ヲ御覽ヲ願フコトニ致シマス、次デ刑罰ハ重過ギハセスカト云フコトニ對シテ、此刑罰ヲ以テ相當トスルト言ハレルノデアリマス、是ニ於テ起ル問題ハ、國體變革ト私有財産制度ノ否認ヲ、同ジ刑量ニ依テ規定セラレテ居ルノハ何故デアアルカト言ハレルノデアリマス、之ニ對シテ

政府ハ、成程國體ハ絶對的ノモノデアアル、政體及私有財産制度ノ否認ト云フコトハ相對的ノコトデアアル、其法益ノ價值固ヨリ同一ト論ズル譯デハナイ、併ナガラ此法案ノ目的トスル所ハ國體直接デナク、即チ國體ヲ害セントスル所ノ危險ヲ防グ、豫備ノ豫備ヲ罰スルト云フ所ノ規定デアッテ、此手段方法ノ程度ニ於テ同ジ事ト見ル、終局ノ法益ノ價值ハ違ッテ居ルケレドモ、此法益ヲ害セントスル所ノ其手段方法ガ豫備ノ豫備ヲ罰スル程度ノトキニハ、同ジ刑量ヲ以テ取締ルノガ至當デアルト云フ答辯デアリマシタ、次デ清瀨君ヨリ陪審法トノ關係ハドウデアアルカト云フ質問ニ對シマシテ、陪審法ノ法定陪審ニハ這入ラヌガ、任意陪審申立——請求陪審ニ這入ルト云フ答辯デアリマシタ、次デ此法律ガ出來タナラバ労働問題ハドウナルノデアアルカ、労働運動ハドウナルカ、労働者ノ運動ヲ壓迫スルコトニ相成ルノデハナイカト云フ質問ニ對シテ、政府ハ決シテサルコトナシ、労働運動ノ所謂労働者ノ地位ヲ向上シ、労働條件ノ改善ヲ圖ルト云フヤウナル純眞ナル労働運動ニ對シテ、固ヨリ取締ル意思ガ毫モ無イノデアアル、斯様ニ答ヘテ居ルノデアアル、併ナガラ更ニ論歩ハ進ミマシテ、此労働者終局ノ目的ハ、今日ノ私有財産制度ニ指ヲ染ムルト云フコトニ依テ、労働者ノ地位ハ改善セラル、ト見ナケレバナラヌ、然ラバ此普通選舉實施ノ後ニ於テ労働黨ガ起リ、新ニ労働黨ガ起ッテ新綱領トシテ私有財産制度ニ變更ヲ加ヘルト云フコトガアッタナラドウスルカ、ソレヲ防グト云フコトガ此法律ノ目的デアアル、カト云フ風ニ言ハレタノデアリマス、政府ハ普通選舉ノ實施ト同時ニ労働黨ハ起ルデアラウ、新政黨ノ樹立モ亦起ルデアラウ、併ナガラ此私有財産制度ノ變更ノ程度ハ、所有權ノ制限ノ程度デアラウナラバ、吾々ハ法律ニ關係ハ無イノデアアル、私有財産制度ノ否認、私有財産制度ノ根本的否認ト云フガ如キ事柄ガ問題トナルノデアアル、所有權ヲ制限スルトカ、或ル程度マデ私有財産制度ニ變更ヲ加ヘルト云フガ如キ事柄ハ、此法律ノ關スル所デ無イノデアアル、労働黨ノ新綱領、労働黨ノ發生ヲ妨害スル爲ニ決シテ法律ヲ出シタノデハナイト云フ風ニ答ラレテ居ルノデアリマス、又労働政府ノ宣傳禁止條約ニ付テノ質問モアリマシタ、又無政府主義、共產主義ト何故爲サナカッタカト云フ質問モアリマシタガ、是等ノ點モ同ジク速記録ニ讓リマス、又一般投票ハ此日本ノ立憲政治、議會政治トドンナ關



係ヲ持ツノデアアルカト云フ點ニ對シテハ、過日ノ本會議ニ於テ若槻內務大臣ヨリ答辯セラレタルト同ジヤウナ答辯デアリマシタ、故ニ是亦省キマス、次デ思想ハ思想ヲ以テ律スベキモノデアアツテ、法律ヲ以テ律スルコトハ宜クナイト云フ質問ニ對シマシテハ、政府ハ思想ハ決シテ罰スルノデハナイ、思想ハ全然自由デアアル、此思想ガ外形ニ現レテ結社ヲ作り、煽動トナリ、協議トナツテ始メテ之ヲ罰スルノデアアル、思想ハ自由デアアル、其思想ハ自由デアアルガ故ニ、學者ガ假ニ研究的ニ之ヲ研究スル、學生ガ之ヲ研究スル、研究ノ結果ヲ發表スルト云フコトハ自由デアアル、社會主義トハドウ云フモノデアアル、無政府主義トハドウ云フモノデアアル、或ハ共產主義トハドウ云フモノデアアツテ、私有財産制度ノ否認ハドウ云フモノデアアルト云フコトヲ研究セラル、ノハ宜シイ、研究ノ結果ヲ發表セラル、ノモ宜シイノデアアル、此法律ノ目的トスル所ハ、斯ノ如キ事柄ヲ實行スルト云フ意思ヲ以テ或ル行爲ヲ爲スト云フコトニ依テ犯罪ハ成立ツノデアアル、實行スル意思ナクシテ研究ヲシ、之ヲ發表スルト云フコトハ、決シテ法規ノ關セザル所デアアルト言ハレタノデアリマス、先ヅ大體斯様ナ事ニ相成ルノデアリマス、祕密會モ開キマシタ、祕密會ニ於テ今日其無政府主義、共產主義ガ果シテ何事ヲ爲シタカ、露西亞方面トノ關係如何ト云フヤウナ質問應答モアリマシタケレドモ、是ハ大體ニ於テ一言ニシテ之ヲ盡クセバ、政府ハ本案提出ノ爲ニサウ云フコトモアツタト云フコトヲ説明シタト御諒承下サツテ宜シイノデアリマス、次デ討論ニ移リマシテ、横山金太郎君外數名ヨリ修正案ガ出マシタ、修正案ハ治安維持法ノ第一條ニ在ル所ノ政體ノ變革ト云フコト、即チ「若ハ政體」ト云フ四字ヲ削ルト云フ案デアリマシタ、之ニ對シマシテハ、其説明ト致シマシテ、政體ト云フ言葉ハ疑義ノ生ズル言葉デアアルシ、政府ノ説明ヲ聽クナラバ、無政府主義、共產主義ヲ律スル爲ニハ國體ノ變革、私有財産制度ノ否認ト云フ言葉ヲ以テ大體盡クルノデアアル、假ニ多少ノ脱漏ガ其所ニ生ズルトシテモ、ソレハ決シテ無罪トナルノデナクテ、此法律ニ關係ハ無イト云フダケデアアツテ、或ハ朝憲ノ紊亂トカ安寧秩序ノ害トナル、此點ニ付テハ治安警察法、出版法、其他新聞紙法ニ關係ガアルノデアアル、自分トシテハ所謂政體ノ文字ヲ省クト云フ方ガ相當デアアルト云フ御趣意デアリマシタ、次デ本黨ノ中村啓次郎君外數名ヨリ修正案

ガ出サレマシタ、此修正案ニ依リマス、此「政體」ヲ削ルト云フコトハ同ジデアリマス、次デ異なる點ハ、非常ニ條文ニ於テ澤山變更ガアルヤウデアリマスガ、骨子ヲ爲スノハ刑罰ノ點デアリマス、國體ノ變革ガ十年デアアツテ、私有財産制度ノ變革十年モ是ハオカシイ、國體ハ十年其儘デ宜シイガ、私有財産制度ノ變革ハ之ヲ七年ニ改メルト云フコトデアリマシタ、其結果ト致シマシテ、其次ニアリマシタ二條、三條、四條ノ手段モ、一方ガ七年デアアルナラバ一方ハ五年ト云フ風ニ下ゲテ來タノデアリマス、又「協議」ト云フ字ハ先程申上ゲマシタ如クノ意味デアアツテ、之ヲ勸誘シ、又ハ之ニ應ジタ者ト書ク方ガ適切デアラウト云フ御意見デアリマシタ、次デアリマス、承リマスレバ此本會議ニ於テ本黨ノ諸君ヨリ修正案ノ御説明ガアルト云フコトデアリマスカラ、私ハ其點ハ省略シテ、其御趣意ノ在ル所ダケヲ此所デ御紹介申上ゲテ置キマス、次デアリマシテ、瀨一郎君ヨリ本案廢案ノ——本案ニ絕對反對ノ意見ガ出來マシタ、同氏多年御研究ニ相成ツタ所ノ蘊蓄ヲ傾倒セラレテ、非常ニ論セラレタノデアリマシタ、其要旨ハ本案ノ如キ事柄ガ、即チ私有財産制度ノ否認ト云フヤウナ事柄ガ、不法手段ト云フヤウナコトヲ入レズニ、合法的ニ斯ウ云フ事ヲヤツテモ尙ホ罰スルト云フガ如キコトハ、世界各國ト比シテ、我國ノ立法トシテ、實ニ慨歎ニ堪ヘヌト云フヤウナ論デアリマシテ、將來此無産階級、勞働者階級ノ進ムベキ途ハ私有財産制度ニ指ヲ染メルノデアアル、其指ヲ染メルト云フコトヲ今回禁止セラル、ニ至ツテハ、大ナル時代ヲ解セザル所ノ立法デアアルト云フ意味デアリマシタ、又此立法ノ技術ノ點ニ付テドウ云フ言葉ガイカヌ、ドウ云フ言葉ハ不穩當デアアルト云フコトニ對シマシテモ、詳細ナル御演説ガアタノデアリマス、ケレドモ、是亦清瀨君同志ノ諸君ヨリ何レ御演述ラセラレルトデアリマセウカラ、私ハ此程度ニ於テ此報告ハ止メマス、次デアリマシテ、採決ノ結果横山金太郎君ノ修正意見ハ小見、即チ三派ヨリ提案セラレタル修正意見ガ多數ヲ以テ成立致シマシタ、中村君ノ修正意見ハ少數否決、清瀨君ノ意見モ同ジク少數否決、次デアリマシテ、横山金太郎君ノ修正意見ガ成立致シマシタ故ニ、此修正致シマシタ部分ヲ除イテ本案全體ヲ議題ト致シマシタ所ガ、是亦多數ヲ以テ通過致シマシテ、委員會ニ於テハ此四字ヲ修正致シマシテ全部——本案全體ヲ是認スルト云フコトニ相



成ッ次第デアリマス、諸君ハ宜シク御審議ヲ進メラレンコトヲ希望致シマス  
右ニ關シ田淵豐吉君、清瀨一郎君、菊池謙二郎君、原惣兵衛君ハ政府ニ對シ質疑ヲ爲シ小川司法大臣、若槻內務大臣之ニ應答ス  
田淵豐吉君ノ質疑

諸君、私ハ此重大ナル法案ニ付キマシテ政府並ニ委員長ニ御尋致シタイノデアリマス、主トシテ政府ニ御尋致シタイノデアリマス、ドウカ暫ク御清聴ヲ願ヒタイノデアリマス、私ハ先ヅ政府ニ向ヒマシテ、政府ハ此法案ヲ出ス時ニ日本ノ政治、日本ノ立憲主義、諸般ノ事ヲ御考ニナツテ之ヲ御提出ニナツタカドウカト云フコトヲ豫メ御聴キ申シタイ、是ハ必シモ御答辯ヲ要シナイ、私ハ此法ハ或ハ國ガ始メテ成立ツトキニ、或ハ内亂ノ直前ニ於テ、革命ノ直後ニ於テ、非常ナ場合ニ於テ、法ニ章ヲ以テヤルト云フ所ノ舊式ナル方法ニ於テナレバ、必要ガアルカモ知ラヌト思フノデゴザイマス、併ナガラ現在ノ法治國ノ日本ニ於テ、憲法ガ儼然トシテアリ、諸法規ガ此ニアルノニ、何ガ故ニ斯ノ如キモノヲ出サレタト云フ所ノ此政治的ノ理想ニ於テ、主義ニ於テ私ハ解シナイ所ガ多イノデゴザイマス、以下私ハ六箇條ニ互ツテ先ヅ政府ニ私ノ疑問ヲ質シタイト思フノデゴザイマス、私ハ何故ニ政府ハ斯ノ如キ廣汎ナル意味ヲ有スル所ノ抽象的ノ文字ヲ以テ此國民ヲ取扱フカト云フ、其根柢ヲ聽キタイノデアリマス、第一私モ法學者デゴザイマセヌカラ、過チモ多クアルデアラウト思ヒマス、ケレドモ、私ハ私トシテ議員トシテ聽キタイノデアリマス、第一國體トハ何ゾヤ、是ハ實際上ノ問題カラ、或ハ政治學說ノ上カラ、或ハ政治哲學ノ上カラ色ノ論議ハゴザイマセウ、寡聞ナル私デゴザイマスケレドモ、私ハ之ヲ明瞭ニシテ置クト云フコトハ必要デアラウト思フノデゴザイマス、國體トハ何ヲ謂フカ、國體ト云フコト、政體ト云フコト、區別シテ居ル以上ハ、其間ニ截然タル所ノ區別ガアルカラ御出シニナツタノデアラウト思フノデゴザイマス、無ケレバ此字ヲ加ヘル必要ハナカラウト思フ、故ニ國體ト云フノハ私ノ解釋ニ

從ヒマスルト、統治權其他ノ重大ナル點ニ於テ外的關係ヲ持ッテ居ルモノヲ規定シ、内國的ニ於テハ其統治權ノ主體及客體ノ點ニ於テ論ジテ居ル所ノ點ハ政體ニナル、君主ハ是ハ國體ニナツテ居ルノデハナイカト云フコトヲ私ハ御伺ヒシタイノデアリマス、即チ單一的獨立國、其下ニ於ケル所ノ屬國、或ハ聯邦組織ト云フヤウナコトハ、是ハ國體ト言ウタ方ガ適當デハナカラウト思フノデゴザイマス、政府ノ之ニ對スル御所見ハ如何デアルカト云フコトヲ第一問トシテ聽キタイ、第二問ト致シマシテ、日本ハ今日ニ於キマシテハ立憲君主政體デアルト云フコトヲ世間ノ人が能ク言ッテ居ル、私ハサウデアラウト思フ、併ナガラ政府ノ見ラレテ居ルト私ガ信ジテ居ル所ノ國體ト云フモノヲ、政府ノ言フヤウニ取りマシテ、統治權ガ其國民ニ及ボス所ノ關係、及其機關ヲ論ジタモノト致シマシテ、政府ノ言フ通りニナツテ私ハ聽キタイコトガアル、ドウ云フ點デアルカト云フト、是ハ一ノ例ニ過ギマセヌケレドモ、例ハ政府ハ政體ヲ御説明ニナルトキニ、私ハ不在デゴザイマシタケレドモ、立法、司法、行政ノ三權ガ互ニ連絡ヲ持ッテ居ルト云フコトヲ十分ニ御承知ガナカッタカモ知レマセヌガ、貴族院ヲ廢止シテモ宜イ、衆議院ダケアレバ宜イト云フコトヲ申サレタト云フコトヲ友人カラ聞イタ、然ラバ其政體ノ中ニ於テモ主ナルモノト從ナルモノノガアルト云フコトハ明デアルノデハナイカ、然ラバ國體ノ上ニ於テモ主ナルモノ、從ナルモノノガアルノデハナイカ、私有財産制度ニ於テモ主ナルモノト從ナルモノノガアルノデハナイカ、若シ無イトスルナラバ思想ノ一貫ヲ缺イテ居ルト私ハ固ク信ズルノデゴザイマス、故ニ大變ナ是ハ森嚴ナ問題デゴザイマス、憲法上ノ大問題デゴザイマスケレドモ、統治權ヲ有シテ居ル所ノ天皇、之ヲ攝政スル所ノ攝政宮ニ於カレマシテハ、始メ他ノ統治權ノ全部ト云フモノヲ御持チニナツテ居ルノデゴザイマスケレドモ、憲法ヲ改正スルコトハ攝政宮ノオキデニナル間ハ出來ナイト云フコトニナツテ居ル、然ラバ攝政宮殿下ガ政治ヲ御總攬セラレテ居ル時ニ當ッテ、此憲法ト云フモノヲ改正出來ナイト云フコトガ此國體ノ主體デアルカ否カト云フコトニ付テ政府ノ御意見ヲ質シタイノデアリマス、萬世一系ノ天皇陛下ガ其男子ノ相繼者ニ向ッテ、連綿トシテ盡キナイト云フコトハ此主體デハナカラウト思フ、故ニ固ヨリ重大ナル問題デゴザイマスケレドモ、此攝政宮殿下ガオキデニ



ナル間ハ憲法改正ノ出來ナイト云フノガ其主タル眼目デアアルカ、否カト云フコトヲ聽キタイ、他ニ於テ果シテ主ナルモノト從ナルモノガアル、貴族院ハ要ラヌケレドモ衆議院ハ要ルト云フ、斯ウ云フヤウナ亂暴ナ事ヲ爲サル所ノ人ハ、之ニ就テ如何ナル御考ヲ持ツテ居ルノデアアルカ、否カト云フコトヲ私ハ聽キタイノデアリマス、故ニ斯ウ云フコトヲ論議スル者ハ如何ナル所ノ刑罰ニ遭フカト云フコトモ聽キタイノデアリマス、是ハ憲法ヲ紛淆セントスルモノデハナイカト思フ、是ハ重大ナル問題デアッテ、憲法上ノ大問題デアルト私ハ思フノデゴザイマス、其點ヲ政府ニ聽キタイ、第一ニ政府ノ稱スル所ノ政體トハ何デアアルカト云フ點デアアル、私ラシテ言ハシムレバ、的確デアルトハ申シマセヌケレドモ、峻烈ニ之ヲ考ヘマスレバ重大ナル所ノ或モノガ其處ニ潛ンデ居ルノデハナイカ、多分惡意デハナカラウケレドモ、思慮ガ足ラヌ爲ニ重大ナル事ガ起リハシナイカト思フノデゴザイマス、諸君、是ハ重大ナル問題デアアル、何デアアルカト云ヒマス日本ハ立憲君主政體デゴザイマス、此立憲君主政體ト云フモノハ何ヲ以テ規定シテ居ルカト云フト、天皇陛下ガ欽定憲法ニ依テ國民ニ與ヘラレタル所ノ御約束デハナカラウカト私ハ思フノデゴザイマス、御約束ノ條文ガ彼ノ憲法ニ於テ列記サレテ居ルノデゴザイマス、皇室典範モ附イテ居ルト云フヤウナ狀態デゴザイマス、斯ウ云フヤウナ重大ナル國家ノ大本ヲ成ス憲法ニ向ッテ、衆議院ハ要ルケレドモ貴族院ハ要ラヌ、政府ハドウデモ宜イ、司法權ハドウデモ宜イト云フヤウナコトヲ爲サルノハ、憲法ヲ紛淆スル所ノ思想ガ漲ッテ、サウ云フコトガ出來タノデアアルカドウカ、多分サウデハナカラウ、十分ニ事ガ分ラヌカラサウ云フコトガ出來タノデアラウト思フガ、是ハ重大ナル事デアアル、吾々ハ憲法擁護ノ爲ニ斯ノ如キ思想ニ對シテ起タナケレバナラヌ、諸君、此衆議院、貴族院ハ即チ今日ニ於テ大體國民ノ代表機關ト貴族ノ代表機關ト云フモノガアッテ立法機關ヲ成シテ居ル、立法機關ハ今日ノ政治的進歩ニ依テ政黨内閣ヲ作ツタノデゴザイマスカラ、加藤首相ハ之ヲ言フコトヲ恐レテ居リマスケレドモ、實體上デハサウデアルト私ハ思フ、故ニ立法ト云フモノト行政ト云フモノガ餘程混淆シテ居ルト云フコトハ、英國ノ例ヲ見テモ分ルデアラウト思フ、又此司法ト行フモノト行政ト云フモノハ、或

點カラ見レバ一種ノ「エキセキユーチー」デアッテ、執行機關ナリト云フヤウナ狀態デアアルノデアアル、故ニ行政ト司法ト關係ヲ持チ、立法ト行政ト或ル關係ヲ持ツノデゴザイマス、三權分立論ト云フモノハ、或人ガ考ヘテ居ルヤウニ分立シテ居ルノデハナイノデアアリマシテ、且ニ連絡ヲ取ツテ初メテ活動ヲ起シテ居ルノデアアル、其連絡ヲ規定シタノガ日本憲法デハナイカ、然ルニ何故ニ政府ハ衆議院ハ主デアッテ、貴族院ヤ行政政府、司法部ハ從デアルト云フヤウナコトヲ言ハレタサウデアアル、憲法ノ如何ナル條章ニ照シテ、如何ナル考ヲ以テ斯様ナコトヲ言ハレタノデアアルカ之ヲ伺ヒタイ、是レ政治學ヲ知ラヌ憲法ノ大ナル意味ヲ知ラヌ部分の觀念カラヤッタモノデアラウト思フ、私ハ甚ダ失禮デアアルケレドモサウ思ハザルヲ得ナイ狀態ガアル、第四ニ於キマシテ私有財産ノ問題デアリマス、諸君、憲法ニ於テハ所有權ハ侵サル、コトナシト云フコトヲ規定セラレテ居ル、但シ公益ト云フ但書ガアル、諸君、所有ノ觀念ト云フモノハ必シモ代價ト云フコトバカリデハナイ、所有ノ觀念ハ御存知ノ通り其處ニ人間ニ對スル一ツノ價值ガ存在シテ居ル、價值ニ二ツアル、主觀的價值ト客觀的價值、主觀的價值ノ狀態ガ遂ニ客觀化サレテ其處ニ價格ガ出來ルモノデアラウト思フ、世間的代價ガ其處ニ起ッテ來ルノデアラウト思フ、故ニ我物ヲ欲イト思ッテ居ルノヲ政府ガソレヲ取ルト云フコトハ、縱令代價ヲ與ヘテモ絶對的ニハ所有權ト云フモノハ侵害サレテ居ルノデゴザイマス、民法ノ所有權ノ觀念ハ使用、收益、處分ト云フコトニナッテ居ル、而シテ公益其他ノ場合ニ於テ此三者ガ十分ニ結合スルコトヲ得ズ完全圓滿ニ行ハレナイト云フコトハ如何ナル國家デモアルコトデアルト思フ、然ラバ政府ハ此所有權ト云フモノヲ何處マデ認メラレルカ、聞ク所ニ依レバ戰時中亞米利加ニ於テ所得稅約八割ヲ取ラレタト云フコトヲ聞イテ居ルノデゴザイマス、九割取ッテ一割拂フノガ賠償デアアルカ、十割取ッテ九割ヲ拂フノガ賠償デアアルカ、其界限點ハ何ニ依テ之ヲ決セントスルノデアアルカ、此法案ト云フモノハ何等的確ナル上ニ立ッテ居ナイ、例ヘバ資本課稅ノ問題ニ於テドウデアアル、相續稅ノ問題ニ於テドウデアアル、土地增價稅ニ於テドウデアアル、ソレデ直接稅ニ付テハ政府ハ衆議院ノ決議權ヲ以テ之ヲ取ルト云フコトハ憲法ガ認メテ居ルノデゴザイマスカラ、百分ノ一ダケ殘ツタカラト云フテ是ハ私有財産



制度トハ言ヘナイダラウト思フ、政府ハ其限界點ヲドウ考ヘテ居ルカ、曖昧模稜デアッテ、何等之  
 三對シテ規定スル所ハナイデアラウト私ハ固ク信ズル、又内國人ノ財産ト外國人ノ財産トアッテ、  
 此間ニ大ナル所ノ困難ガ起ルト云フコトモ豫想シ得ルヤウナ状態デゴザイマス、吾々ハ斯ノ如  
 キ「アンビギュアス」ナル曖昧ナルモノニ對シテ的確ナル判斷ヲ誰ガ與ヘルカ、警官ガ與ヘルカ、  
 時ノ政府ガ與ヘルカ、是レ最モ危ナイモノデ、吾々ノ權利ヲ放棄スルモノデアルト思フ、故ニ斯  
 ウ云フヤウナ危ナイコトハ最モ注意シナケレバナラヌト思フ、諸君、私ハ政府ノ所謂國體及ビ政  
 體ニ付テハ、憲法ノ條章ニ炳乎トシテ掲ゲテ居ル、併ナガラ第三ノ此私有財産ノ問題ニ付テハ主  
 トシテ法律ノ範圍内ニ屬スルヤウニ私ハ承ッテ居ル、主トシテ法律ノ範圍内ニ屬スルモノヲ罰シ  
 テ、第二ノ此政體ノ變更ヲ罰シナイト云フノハドウ云フ譯デアアルカ、是レ大ナル所ノ矛盾撞著デ  
 ハナカラウカト私ハ思フノデゴザイマス、聞ク所ニ依ルト政府ハ私ハ此法案ハ決シテ普通選舉  
 ガ樞密院デ審議サレテ居ル間ニ考ヘタモノデナイ、モット前ニ考ヘタト云ハレマスケレドモ、果  
 シテソレガ猜疑デアアルカモ知レマセヌケレドモ、普通選舉ガ出ルト云フノデ、或ル話ガアッテ先  
 廻リヲシテ、昨年ノ夏頃カラソレノ再ビ過激法案ノ燒直シヲ出サレタノデハナイカト思フ、他  
 ノ關係ニ於テ——故ニ其處ニ動カサレタノデハナイカト私ハ恐レルノデアリマス、サウ云フヤ  
 ウナ支離滅裂ナルモノヲ以テ、本法三章ヲ以テ、此整然タル憲法政治ヲ破壊セントスルト言ハレ  
 テモ仕方ガナイデハナカラウカト私ハ思フノデアリマス、第五ニ於キマシテ私ハ結社ノ自由ト  
 云フコトヲ言ヒタイ、諸君、結社ノ自由ト云フモノハ憲法ノ正條ニ掲ゲテアル、併ナガラ法律ノ  
 範圍内ト云フ但書ガアル、此結社ノ自由、集會ノ自由、言論ノ自由ハ世界ノ「デモクラシー」ノ精  
 神トシテ最モ必要ナル大條項デナケレバナラヌ、唯其上ニ法律ヲクツ附ケタノハ其時ノ事情ニ從  
 テ、幾分カ制限シヤウト云フ御趣意デアルト拜察スル、故ニ此結社ノ自由ハ成ルベク擴大シナケ  
 レバナラヌ、然ルニ政府ハ平時ニ於テ戒嚴令ヲ布クヤウナ此過激法ヲ以テ「ビスマルク」ガ何年  
 カ前ニ鐵血政策ヲ行ヒ、其當時ノ獨逸皇帝「カイザー」ガ「ビスマールク」ノ政策ヲ否定シタト云フ歴  
 史ガアル、ソレヲ無視シテ、何等效果ナクシテ却テ大害ヲ醸シタ歴史ヲ顧ミズシテ、社會黨鎮壓

令ヲ今日ニ於テ出スト云フ、其必要ヲ私ハ認メナイト信ズルノデゴザイマス、諸君モ御同感デア  
 ラウト思ヒマス、一體日本帝國臣民ヲ囚人ノ如ク取扱フト云フコトハ、立憲政治ノ許スベカラザ  
 ル所ノ法規デアアル、保守黨ノ政策デアルト私ハ斷言シテ憚ラヌノデアリマス、今肺病ニ罹ッテ熱ガ  
 出テ居ル、ソレニ對症藥トシテ熱冷シテ盛ツタ所ガ癒ルモノデハナイ、必ズ其病氣ガ内訌シテ秘  
 密結社トナッテ、大ニ茲ニ大ナル慘害ガ起ル、茲ニ陰謀ガ起リ、惡辣ナル手段ヲ以テ人ヲ毒殺シ、人  
 ノ殺害シ、國務大臣ヲ害シ、大ナル革命ノ導火線トナル、是ハ明ナル事實デハナカラウカト思フ  
 ノデアリマス、故ニ此結社ト云フモノハ成タケ自由ニシナケレバナラヌ、上奏權ヲ天皇陛下カ  
 ラ憲法ニ發議セラレタ時ニ議員諸君ハ政黨ヲ以テ立ッテ居ル、政黨ニハ金錢ヲ贈與シテ其政黨ヲ  
 援ケテ居ルト云フ連絡ガアルデハナイカ、主義主張ガナイ諸君ガ、津々浦々ニ廻ル時ニ何ヲ政綱  
 トシテ諸君ハ行カレルノデアアルカ、諸君ハ此議會ニ來タ時ハ議員デアッテ、外ニ出タナラバ議員デ  
 ナイト云フ官僚的、專制的思想ハ吾々ハ大ニ忌ム所デアリマス、是ニ於テ上奏權ガアリ、是ニ於  
 テ或ハ議會ノ決議權ガアル、人民ガ議會ニ請願權ヲ有シテ居ルナラバ、議會ノ内部ノ政黨ト外部  
 ノ政黨、或ハ其他ノ結社トノ連絡ヲ保タナケレバ日本帝國ヲドウシテ眞直ニ進メテ行クコトガ出  
 來マセウカ、若シソレガ出來ナケレバ一種ノ間隙ガ起ッテ陰謀トナッテ、大ナル動亂ヲ起シテ居ル  
 ト云フコトハ、世界各國ノ歴史ニ於テ昭々乎トシテ明デアアル、斯ノ如キ治安維持法ヲ布イテ、而シ  
 テ此伸ントスル所ノ「デモクラシー」ヲ抑ヘ、諸君ハ露國政府承認ニ反對シタノデゴザイマス、二  
 年前デシタカ、時ノ政友會ノ廣岡宇一郎君ガ起ッテ露國ヲ承認シテハイカヌ、國ガ亡ビルト云ヒ、  
 今日ハ諸君ガ數日前ニ滿場一致ヲ以テ決議案ヲ可決シタノハドウ云フコトデアアルカ、數年前ニ  
 ハ國ガ亡ビルカラ承認シテハイカヌト云フテ居ルデナイカ、又一二年前マデ普選ヲ布ケバ亡國  
 ニナルト叫ンダ政友會ハ、豹變シテ普選贊成ヲシテ居ル、此「デモクラシー」ノ「マーチ」ヲ諸君  
 ハ何ト見ルカ、此眞髓ヲ知ラズシテ、政治ノ理想ヲ知ラズシテ、而シテ斯ノ如キ過激法案ニ寢返  
 リヲ打ッテ、政府ニ盲從スルノ政策デナカラウカト私ハ堅ク信ジテ疑ハナイノデアリマス、故ニ  
 政府ハ大ニ結社ノ自由ヲ盛ニシテ、斯ノ如キ鎮壓法ヲ以テヤルト云フコトハ、平時中ニ戒嚴令ヲ



布クヤウナモノデ、國民ヲ仇敵スルモノデアツテ、國民ヲ仇敵トシテ戰フ政府ハ民ヲ度外視スル、之ヲ度外視スルコトハ穩當デナイ、非常ニ危イノデゴザイマス、諸君鑒ツテ思へ、此政體ヲ無視シ、立憲政治ノ根幹ヲ成ス所ノ政體ハ之ヲ度外シテ、私有財産制度、及國體ノ尊嚴ヲドウシテ保ツコトガ出來ルカ之ニ依テ始メテ兩者ノ聯絡ヲ有テ行クノデナカラウカ、私ハ政府ノ此見解ハ或意味ニ於テ正シイトモ云ヘル、政府ハ何故ニ政體ノミヲ點ノミヲ削リタルカ、而シテソレヲ他ノ法規ニ依テ罰セントスルカ、又委員長ニ御問シマス、此修正案ハ非常ニ間違テ居ルト私ハ思フ、サウ云フヤウナ意味ヲ以テ政府ガ國民ヲ鎮壓スルコトニナルト、大ナル所ノ暴動トナツタ時ニ諸公ハドウ云フヤウナ面目ヲ以テ國民ニ見ユルコトガ出來マセウカ、故ニ私ハ斯ウ云フヤウナ點カラ、或ハ治安警察法ノ問題ガアル、サウシテ國民ヲ既ニ壓迫シテ居ルカラ、國民ガ非常ニ怒ツテ非常ナル所ノ亂暴ヲ働クト云フコトガ歴史アル所ノ日本帝國ニ起ツタナラバ、是レ政府ノ大ナル責任デハナカラウカ、其責任ヲ自覺セズシテ、間違ツタ藥ヲ投藥シタコトニ依テ、サウシテ段トト過激思想ガ醸成シ、尙ホ其上ニモ肺病ヲ直サントシテ唯熱冷マシヲ與ヘテ、社會政策ヲ行ハズ、民ト共ニ政治ヲシナイ、官僚政治、保守黨政治ヲ以テ之ニ臨ンデ、熱ガ下ラヌカラト云フノデ鎮壓法ト云フ熱冷シヲ加ヘテ、之ヲ鎮壓スルナラバ、日本帝國國民ハ非常ニ無道ニ反抗ノ精神ヲ有ツテ居ルノデゴザイマス、之ヲ豫期シナケレバ政治ノ要道ハ立タヌ、柔順デアアルケレドモ同時ニ反抗ヲ以テシタト云フコトハ、過去ノ歴史ニ於テ日本帝國ノ國民ハ有ツテ居ル、是ガ爲ニ外國ニ對シテ強イノデアアル、故ニ吾ミハ軍備ヲ擴張シテ外國ニ對抗スルノモ宜シイケレドモ、今日ハ非常ナル所ノ「デモクラシー」ノ「マーチ」デアツテ、段々勞働黨ガ起ツテ來ル、或ハ社會黨ガ起ツテ來ルダラウ、之ヲ良イ方ニ導イテ、サウシテ吾ミハ其誤ツテ居ルコトヲ指摘シテ、始メテ、大義公道ノ上ニ日本帝國ノ國民的政治ヲヤラナケレバナラヌ、官僚政治ガ一時ノ投藥ヲ以テシテハ到底是ハ直ルモノデナイカラ、政府ハ茲ニ大ニ鑑ミテ速ニ此議案ヲ撤回サレンコトヲ願フノデアリマス、政府ノ之ニ對スル所ノ御處置ハドウデゴザイマスカ、聞ク所ニ依ルト委員會ニ於キマシテハ小川司法大臣ハ若シ三派ノ多數ヲ以テ此法案ノ修正案ガ通りマシタ時ニハ、政府ハ考慮スルト

言ハナイデ、政府ハ同意スルト云フコトヲ言ハレマシタ、何ガ故ニ御同意ナサルノデアアルカ政府ノ原案ガ惡カッタガ爲ニ御同意ナサルカ、多數デ仕樣ガナイカラ政府ヲ維持スルノニ困難デアル、此憲法ニ大ナル關係アル問題ヲ其多數ニ依テ唯單ニ少シモ疑ハナイデ委員會ノ修正ニ同意爲サルト云フノハ、如何ナル點デアアルカ、貴族院ノ反噬ヲ恐レタ爲デアアルカ、最初ノ原案ガ杜撰デアツタ爲デアアルカ、如何ナル爲デアアルカト云フコトヲ國民ノ前ニ明ニスルト云フコトハ、大ナル責任ガアルト私ハ感ズル、其他私ハ委員長ニ向ツテ何ガ此修正案ガ如何ナル理由ニ於テ可決サレタカト云フ所ノ詳シイ御説明ヲ願ヒタイ、其間ニ於テ色々ノ「デベート」ガアリ、サウシテ色々ノ問題ガアツタト思ヒマス、發言ガアツタト思ヒマス、然ラバ是ハ如何ナル徑路ヲ經テ此修正案ニ同意スルニ至ツタカト云フ所ノ徑路ヲ、先ニモ申述ベラレマシタケレドモ、今一應詳細ニ御説明アラシコトヲ私ハ願フノデアリマス、之ヲ要スルニ私ハ小サイ問題ヲ取出サナイデ、憲法ノ條章ヲ不法ノ行爲ニ依テ改正セントスル者、法律ヲ不法ノ行爲ニ依テ改正セントスル者、暴力ヲ以テ壓迫セントスル者ニハ此結社ノ自由ヲ——結社ヲ解散セシメル、或ハ刑罰ヲ或ル程度マデ科スルト云フ必要ハアルカモ知レマセヌ、私ハ此憲法ノ大ナル精神カラ言ツテ、此法三章ヲ以テ之ヲ擊破セントスルコトハ大ナル憲法ノ逆轉デハナカラウカト思ヒマシテ、政府ハ本案ヲ撤回スベシト論ズルノデアリマス、茲ニ一種ノ憲法擁護論ヲ致シマシテ、内閣諸公ノ大ナル反省ヲ促シ、其答辯ヲ聞イタ上デ、尙又質問致シタイト思フノデアリマス、

小川司法大臣ノ應答

田淵君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、國體ト云フ文字ノ意味ハ即チ憲法第一條ニアリマスル所ノ「大日本帝國ハ萬世一系ノ 天皇之ヲ統治ス」是ガ即チ日本ノ國體デアリマシテ、其國體ヲ憲法第一條ニ言現ハシタニ過ギナイノデアリマス、政治上ニ於テ日本帝國ノ國體ト申シマスレバ、極メテ明ナル事デアルト政府ハ考ヘテ居ルノデアリマス、而シテ此文字ノ事ニ付キマシテ田淵君ヨリモ只今御話ガゴザイマシタ、其他ニモ往々斯ノ如キ問ガ起ルノデアリマス、或ハ國體ト云ヒ或



ハ私有財産制度ノ否認ト云ヒ、文字ガ抽象的デ漠然トシテ居ルデハナイカト云フ御話デアリマス、私有財産制度ノ否認ト云フコトモ可ナリ私ハ明瞭デアルト思フ、世ノ中ノ事ハ毎日々々變化シ進歩シテ參ルノデアリマスカラ、初テ法律ヲ作りマスル時分ニ、其言葉ガ段々細カク研究ヲスルト中ニ是ハ限界ノムツカシイコトガアル、今日ノ刑法ニ於キマシテモ、或ハ朝憲ヲ紊亂シタト云フヤウナコトガアル、朝憲ヲ紊亂シタト云フ言葉モ段々研究シテ行キマシタナラバ、中ニ是ハムツカシイ言葉デアラウト思フ、或ハ安寧秩序ヲ紊亂シタ者——安寧ノ秩序ヲ紊亂ト云フコトハ先般ノ地震ノ際ニ發布シタ緊急勅令ニモアッタ、而シテ十年以下ノ懲役ニ之ヲ處スルト云フコトニナツテ居ル、安寧秩序ヲ害スル事項ヲ宣傳シタ者モ、流布シタ者モ罰スルト云フコトニナツテ居ルサウ云フ字ニ比レバ、此私有財産ノ制度ヲ否認スル、根本ヨリ之ヲ認メナイト云フ言葉ハ可ナリ明デアラウト思フ、況ヤ國體ト云フ文字ガ道徳上其他ノ點カラハ色々ノ事モアルカ知リマセヌガ、政治上ニ於テハ大日本帝國ノ國體ト申シマスレバ、則チ神武天皇以來ノ國體ヲ憲法第一條ニ言現ハシタ、大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス、是ヨリ私ハ明ナ事ハ無イト考ヘテ居ルノデアリマス、次ニ政體ノコトデアリマス、是ハ度々申シマスル通り、政體ノコトハ即チ日本ガ立憲君主政體デアアル、此政體ヲ變革スル者ハ宜シクナイ、斯ウ云フ趣意デアリマス、田淵君ノ御質問ノ中ニ貴族院ハ要ラナイ、衆議院ガアレバ宜シイト云フヤウナ意見ヲ政府ガ述ベタカノ如キ御言葉ガゴザイマシタガ、是ハ大變ナ違ヒデアリマス、政府ハ委員會ニ於キマシテモ、今日ノ我方憲法ニ規定シテアル所ノ二院制度、即チ貴族院、衆議院、此兩院ノ制度ト云フモノハ洵ニ結構ナ制度デアアル、二院制度ノ妙用ハ憲政有終ノ美ヲ濟スニ付テ洵ニ結構ナモノデアルト申シテ居ルノデアリマス、唯今日ノ事情ニ照シテ此立憲君主政體ヲ變革セントスル者ヲ罰スルト云フノハ、即チ議會否認ト云フコトガ今日始ツテ居ル、此政體ノ根本ハ何處マデモ此議會制度、即チ國民ノ代表ヲ政治ニ參與サセルト云フ所ノ、明治天皇ノ思召ニ依テ出來タ所ノ憲法ノ精神デアリマス、之ニ對シテ今日動モスレバ斯ノ如キ議論ガアリマスカラ、之ヲ罰スルト云フノデアアル、決シテ今日貴族院ガ必要デ無イナド、云フコトヲ申シタコトハ、無イノデアアル、最モ必要デアツテ

兩院ノ制度ト云フモノハ實ニ此憲政ノ妙デアリマス、此妙用ヲ發揮スルト云フコトハ、即チ憲政有終ノ美ヲ濟ス所以デアルト云フコトヲ度々明ニ申上ゲテアルノデアリマス、第三ノ私有財産制度ノ事ニ付テ色々例ヲ御舉ゲニナリマシタガ、是モ度々申上ゲマスル通り、私有財産制度、即チ人ノ所有權ト云フモノヲ認メテ、サウシテ或ハ其所有物ヲ甲ヨリ乙ニ移ストカ、或ハ國民ノ手ヨリシテ之ヲ國ニ移ストカ、公有ニスルトカト云フコトニナリマシテモ、所有權ヲ認メテ相當ノ賠償ヲスル、斯ウ云フコトデアリマスレバ、ソレハ即チ私有財産制度ヲ認メテ居ルノデアリマス、決シテ本法ニ觸レルモノデハナイ、私有財産制度ヲ否認シテ所有權ト云フモノハ認メナイ、總テノ財産ヲ取上ゲテシマツテ勞働者ノ共有ニスルトカ、或ハ公有ニスルト云フノガ惡イノデアアル、故ニ賠償ヲスルト云フコトハ所有權ヲ認メテ掛カルノデアルカラ、本法ニハ觸レナイ、斯ウ云フ次第デアリマス、第四ニ普通選舉、即チ衆議院議員選舉法改正案ト本法トノ關係ニ付テ述ベラレタノデアリマス、是モ度々御答申シタ通り、普通選舉ノ法案ニ本案ハ何等關係ハ無イノデアリマス、普通選舉ガ實施サレマセウト、サレナカラウト、今日ノ日本ノ狀態ニ顧ミテ無政府主義、共產主義ノ如キモノガ往々出テ參リマシタ、甚ダ遺憾ナ次第デアリマスケレドモ——之ヲ今日ニ於テ蔓延致サナイヤウニ防ギタイト云フノガ本法ノ目的デアリマス、普通選舉案ガ出マセウト出マスマイト、ソレニハ何等關係ハ無イノデアリマス、第五ハ結社ノ自由ヲ何故認メナイカ、結社ノ自由ト云フコトハ一應ハ皆認メテ居ルノデアリマス、併ナガラ結社ノ自由ハ法律規則ニ從ツテ安寧秩序ヲ紊亂サズ、而シテ政治上ナリ社會上ノ向上進歩ヲ圖ル爲ニハ結社ノ自由ヲ許ス、併ナガラ社會ノ組織ヲ破壞シ、國家ヲ根本カラ覆スト云フコトヲ目的トシテ之ヲ實行スル結社ヲ許スト云フ譯ニハ參リマセヌ、苟モ國家一日モ存在スル以上ハ、斯ノ如キ結社ニ向ツテハ嚴重ニ之ヲ差止メナケレバナラヌノデアリマス、即チ結社ノ目的如何ニ依ルノデアアル、社會ノ向上、人類ノ進歩ト云フモノヲ目的ニ致スカラシテ、結社ノ自由ヲ許スノデアアル、之ヲ破壞スルト云フモノデアリマスレバ、ドウシテ斯様ナ者ニ結社ノ自由ヲ與ヘルコトガ出來マセウ、是ハ絕對ニ禁壓シナケレバナラヌモノデアリマスカラ、即チ斯様ニ致シタノデアリマス、最後ニ修正案ニ付テ同意云々



御尋ガゴザイマシタ、是ハ政府ハ固ヨリ本案ヲ以テ適當ナリト信ジテ提出ヲ致シタノデアリマ  
ス、併ナガラ立法府ニ在ル所ノ、協贊ノ任ニ當ラレル所ノ諸君ノ大多數ガ之ヲ修正ヲスルガ宜シ  
イト云フコトニナリマスレバ、政府ハ是ハ考ヘナケレバナラス、立法府ニ於ケル多數ノ意思ヲ尊  
重スルト云フコトハ、政府トシテ當然デアルト考ヘマス、故ニ多數ノ諸君ガ若シ修正セラレト  
云フコトデアラナラバ、此多數ノ御決議ヲ尊重ヲ致シテ、其場合ニ至ッテハ同意スルデアラウト  
云フコトヲ申上ゲタノデアリマス

田淵豐吉君ノ再質疑

今ノハ拔ケテ居リマスカラ一寸御尋シタイ、言ウタ事デアリマスカラドウカ御許ヲ願ヒマス、今  
ノ主タルモノト從タルモノト云フコトヲ大分言ハレタヤウデスガ、其時ニ國體ニ關シテ其統治  
權ノ主體ト云フコトニ付テ、其點ニ付テ從タルモノガナイカト云フコトヲ御尋シタノデアリマ  
ス、ソレニ對シテ從ナルモノ主タルモノト分ケルカラ、國體ノ上ニ於テハ從タルモノハナイ、攝  
政殿下ノ御位ニ即カレテ居ル間ニ、憲法ノ改正ガ出來ルカ否ヤト云フヤウナ事ヲ論議シタ者ハ  
イカナインデアアルカト云フコトヲ御尋シタノデ、何等之ニ觸レナイト云フコトハ、國務大臣トシ  
テノ職務ノ重大ナルコトヲ自覺シナイ所以デナイカト思ヒマス、能ク分ッテ居ル等ト思ヒマス、  
第二ニ於テハ私有財産制度ヲ労働者ガ總テノ財産、即チ財産ノ百分ノ百ヲ取ッテモ總テノ財産カ、  
百分ノ八十ヲ取ッテラ總テノ財産力、總テノ物ヲ取ラナイデ、財産百萬圓ヲ持ッテ居ッテ、數年前  
露國デ金ヲ預ケヨト言ッタカラ之ヲ銀行ニ差出スト紙幣デ呉レル、紙幣ハ芝ノ葉ノ如キモノデ  
三文ノ値打モナイ、併シ一錢カ二錢ノ値打ガアルカ知レスガ——又所有權ト云フモノヲサウ  
云フ明確デナイ所ノ法律デ、非常ナル間違ヲ適用ノ上ニ起サバルカ、之ヲ聞イタ、總テトハ如何  
ル意味デアアルカ、九十「パーセント」ダケデソレデ宜イカト云フコトヲ國務大臣ニ聽キタイ、其他  
色々ノ點ニ於テ不滿ナ點ガアリマスガ、茲ニ論議ヲ省クコトニ致シマス

小川司法大臣ノ應答

國體ニハ主モ從モナイノデアリマス、國體ハ唯一ニシテ是ニ主從ノアルベキ道理ハナイ、又攝政  
殿下ノ御治政ニ於テハ憲法ヲ變更スルト云フコトハ出來ナイト云フコトハ、憲法ノ規定デアリ  
マス、憲法ヲ如何ニ改正スベキカト云フコトヲ定メラレタル條項デアリマス、國體其モノニハ何  
モ關係ハアリマセヌ

清瀨一郎君ノ質疑

前田委員長ノ寛大ナ處置ニ依リマシテ、多數ノ質問ヲ委員會ニ於テ私ニ御許シ下サッテ居リマス、  
唯一ツダケ未ダ質問ヲ了セナイ點ガアリマスガ故ニ、茲ニ之ヲ政府ニ質スノ機會ヲ得セシメラ  
レンコトヲ望ミマス、ソレハ本法第一條ハ國體ノ變革ヲ目的トスル結社ヲ處罰シテ居ル、國體  
トハ委員長報告ノ通り、天皇ノ統治權ノコトデアアル、天皇ガ我國ヲ統治在マスコトニ向ッテ變  
革ヲ加ヘルト云フコトハ、天皇自身ニ危害ヲ加ヘ奉ラントスルコト、相表裏致スノデアリマ  
ス、此事ハ既ニ委員會ニ於テ山根委員ヨリ御質問ニナリ、政府委員モ大體之ヲ承認サレテ、刑法  
七十三條ト治安維持法第一條ハ觀念ニ於テハ違フケレドモ、物ノ實體ニ於テハ殆ド合致スル場  
合アルコトヲ承認サレテ居リマス、ソコデ刑法第七十三條ノ犯罪ハ、内亂、又ハ内亂ノ陰謀罪ト  
共ニ大審院ノ特別管轄ニ屬シテ居ル、事重大ナリト見テ地方裁判所、控訴院ノ管轄ヲ廢排致シマ  
シテ、天皇ニ對シテ苟且ニモ危害ヲ加ヘ奉ラントスル豫備ノ又豫備ヲモ大審院ノ特別管轄ト  
致シテ居ル、本制ノ結社モ亦其罪質ニ於テ是ト相擇ブ所ガナイノデアリマス、内亂ノ陰謀罪マデ  
モ之ヲ大審院ノ特別管轄ニ致ス以上ハ、我國ノ統治權ニ向ッテ變革ヲ試ミニト欲スル所ノ結社ヲ  
組織スル者ノ犯罪ハ、矢張是ハ大審院ノ特別管轄ニスルニ非ズンバ、我國ノ法制ヲ貫カナイコト  
ト思ヒマス、然ルニ本法ダケヲ以テ終リマスト云フト、場合ニ依テハ區裁判所ノ管轄ニモ屬シ、  
豫審ヲ經タトキニ限り地方裁判所ノ管轄ニ屬スル、私有財産否認ノ場合ハサモアルベキ事デア



リマス、私有財産否認ノ犯罪ハソレ宜シイガ、假ニモ我國ノ皇室ノ大權ニ關スル犯罪ヲ區裁判所デ審理サル、ト云フコトハ、如何ナル事デアリマセウカ、吾ミ法律家ト致シテモ、國民ノ一人ト致シテモ、洵ニ諒解シ兼ヘル點デアリマス、此結果ヲ承認サレテ本案ヲ立案サレマシタカ、ソレトモ他ニ御解釋ノ餘地デモアルコトデアリマスカ、此點ニ關シテ國務大臣ヨリ御答辯ヲ一言御伺致シマス

小川司法大臣ノ應答

只今清瀨君ハ、國體ノ變革ハ洵ニ大事デアアル、上皇室ニ對シテ危害ヲ加ヘ奉ル事柄ト表裏スルコトニナル、斯様ニ御述べニナリマシタ、皇室ニ對シテ危害ヲ加ヘ奉ルト云フコトハ、洵ニ申スモ畏イ事デアリマス、是ハ刑法ニ規定ヲ致シテアル、國體ノ變革其モノハ或ハ場合ニ於テハ左様ナ場合モゴザイマセウケレドモ、必シモ皇室ノ御身上ニ對シテ危害ヲ加ヘルコトノ關係ガ無クシテ、國體ノ變革ハ企テラレルノデアリマス、是ハ此處ニ申スマデモナイ、單ニ國體ヲ變革シテ天皇ノ統治權ニ手ヲ觸レル、斯ウシタ場合ハ澤山ニ有リ得ルノデアリマス、必ズ皇室ニ危害ヲ加ヘルト云フコト、國體ノ變革トガ表裏ヲ爲スモノトハ考ヘマセヌ、而シテ何故ニ本案ノ國體變革ノ罪ヲ大審院ノ管轄ニセヌカ、皇室ノ事ニ付キマシテハ洵ニ畏多イ、實ニ重大極リナキ事件デアリマス、日本トシテハ此上ナキ大事件、是ハ大審院ノ管轄ニ歸セシムルコトガ當然デアルト信ジマス、今回ノ治安維持法ニ依テ罰セントスル罪ハ、國體ノ變革ヲ以テ目的トスル、サウシテ或ハ結社シ、或ハ文書、演說等ヲ以テ煽動ヲスル、此結社煽動ト云フ如キコトヲ罰スルノデアリマス、故ニ是ハ皇室ニ對シテ危害ヲ加ヘル罪トハ餘程輕重ノ別ガアルコト、考ヘマシテ、此程度デアリマスレバ通常ノ裁判所デ、通常ノ法律ニ從ッテ審理スルコトガ相當デアルト考ヘマシタ次第デアリマス

清瀨一郎君ノ再質疑

私ハ刑法第七十三條ノ罪ト、本法案第一條ノ罪トガ表裏一致スルト云フノデナイ、一致スル場合モアルト云フノデアアル、小川司法大臣又一致スル場合アルコトヲ認メラレテ居ル、必ズ表裏スルモノデハナイガ、表裏スル場合モアルト云フコトハ小川君ト雖モ否定ノ出來ナイ事デアアル、既ニ是ハ委員會ニ於テ承認サレタ事實ナノデアアル、今ソレヲ否定サレルコトハ私ハ信義ニ反スルト思フ、尤モ前ノ過チヲ改メラレルナラバ別デアリマスケレドモ、其儘ニシテ外ノ言葉ハ用キラレマイト思ヒマス、サウ致シマス、假ニ百中一ツデモ刑法第七十三條ト表裏スルヤウナル第一條ノ罪ガ起ツタ場合、是亦同ジク區裁判所デ審理サル、コトヲ承認サル、ノデアアラウカドウデアラウカ、是ハ我國ノ如キ萬世不易ノ國體デアアル、日本ダケノ事デハナイ、何處ノ國デモ國體ニ關スル問題ニ付テハ非常ニ心配ヲ致シマシテ、英吉利ハ之ヲ「ハイツリーズン」ト稱シ、此國體ニ關スル問題ヲ區裁判所デ審理スルナドト云フ法律ハ、世界廣シト雖モ未ダ曾テ無イノデアアル、時ノ古今ヲ問ハズ、皇室ニ對スル罪ヲ區裁判所デ裁判シタト云フ事件ハ私寡聞ニシテ未ダ聞キマセヌ、大戦争後ニ出マシタ所ノ獨逸ノ共和擁護法ト云フモノガアル、此共和擁護法ノ第四條ト云フモノガ丁度今度ノ第一條ト同一ノモノデアアル、獨逸國若クハ聯邦ノ憲法ニ依リ確保セラレタル共和政體ヲ破壊スルコトヲ以テ目的トスル秘密結社、若クハ反國家的結合ニ參加シ、又ハ其結合若クハ目的遂行ニ於テ、其會員ヲ言語若クハ行為、特ニ金ヲ以テ援助スル者ハ五年以下ノ禁錮ニ處スト云フノデアリマス、我國ノ治安維持法第一條ト同一ノモノデアアル、之ヲ獨逸ノ國デ如何ニ扱ツタカト申スノニ、彼ノ國デハ大審院内ニ共和擁護裁判所ヲ設置致シテ、大審院ノ判事三名ト全國民カラ選バレタ者六名ト、大審院内ニ特別裁判所ヲ作ッテ、斯ノ如キ秘密結社ヲ處罰スルコトニ致シテ居ル、共和國タル獨逸ニ於テ共和ヲ擁護スルト云フコトハ、君主國タル日本ニ於テ君主政體ヲ擁持スルト少シモ選バナイ、政府ハ之ニ心付イテ斯ノ如キ輕卒ナル案ヲ出サレタトスレバ、若シ又之ヲ知ラズシテ出サレタナラバ洵ニ輕卒千萬ナル案ト思フノデアリマス、... 言葉ハ執レニ致シマシテモ、此法案ガ此通りニ確定致シマスルト、我國ノ統治權ニ一指ヲ指ス所ノ犯罪ガ、區裁判所又ハ地方裁判所ニ管轄サル、ト云フ結果ヲ生ズル、政府ハ宜シク反省セラレテ、此



案ニ對シテ再思三考サレ、此案ヲ審議ノ上テノ議會ニ提出アラントヲ希望スルノデアリマス  
小川司法大臣ノ應答

更ニ御答ヲ申上ゲマス、只今再ビ御質問デゴザイマシタガ、國體ノ變革ヲ目的ト致シマシテ、是ガ豫備トシテ煽動若クハ結社ヲスルコトヲ罰スルノガ本案ノ目的デアリマス、是ガ實行セラレルト云フ場合ハ、無論内亂ニ依ルヨリ外ニハ出來ナカラウト思フ、内亂罪ハ御承知ノ通り大審院デ審理スルデアリマス、本法ニ規定スル所ノ事柄ハマダ其所マデ進マザル中ニ、事柄トシテハ結社、協議、若クハ文書ノ煽動ト云フコトデアリマスカラ洵ニ豫備ノ初歩デアリマスガ、之ヲ罰スルノデアアル、進ンデ行キマシタ場合ニ、皇室ニ對シテ云々ト云フヤウナ長多イ事ガ出テ參リマスレバ、無論ソレハ大審院ニ行クノデアアル、ソレヲ御混同ニナルカラシテ間違ガ生ズル、又清瀨君ハ區裁判區裁判ト云フ御質問ニナッタノデアアルガ、何所ニ區裁判所ニ行クト云フコトガアルカ、區裁判所ニハ參リマセヌ、重大ナ事件デアリマスカラ地方裁判所デ審理スル、又只今皇室云云ト仰セニナリマシタガ、私ハ餘リ濫ニ皇室ヲ引合ニ出シテ御論議ニナルコトハ忠誠デナイト思フ

菊池謙二郎君ノ質疑

私ハ此案ノ大體ニ付キマシテ政府ト委員長ニ御尋ラシタイノデアリマス、第一ニ國體ト云フコトニ付テ政府ニ御尋ラシタイノデアリマスガ、若槻内務大臣ハ我國ノ國體ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス、是ガ即チ我國ノ國體デアルト云フ御説明デアリマシタ、然ルニ是ハ勿論政治上ヨリシテ斯ノ如キ解釋ヲサレタコトト考ヘマスガ、吾々國民ガ國體ニ關スル觀念ト云フモノハ、憲法第一條ニ規定サレテ居ル事柄ト密接ノ關係ヲ有シ、且ツ廣イモノニ考ヘテ居ル、デ私ハ第一ニ今般政府委員ノ言フ所ニ依ルト、國體ト云フ文字ヲ始メテ法律ノ中ニ用ユルコトニナッタト云フコトデアアル、始メテ法律ニ國體ト云フ文字ヲ用ユル際ニハ、餘程慎重ナル注意ヲ要セネバナラヌト

思フノデアリマス、今回此法案ニ國體ト云フ文字ヲ憲法第一條ノ範圍内ニ止メテ、其意味ヲ以テ用ユルト云フコトニナルト、吾々ノ從來ノ國體觀念ト云フモノガ、自然ト狹クナルヤウニ取扱ハレルヤウニナリハシナイカト云フコトヲ、私ハ憂フルノデアリマス、是ガ第一ノ疑問デアアルガ、第二ニハ何故故ラニ國體ト云フ語ヲ用キナケレバナラヌカ、斯ノ如キ文字ヲ何故用キナケレバナラヌカト云フコトヲ質問スルノデアリマス、政府案ニハ「國體若ハ政體」トアル、一ツ並ベテアリマス、修正案ニハ「政體」ト云フモノヲ削ッテ國體ノミヲ存シテアル、之ニ就テ政體府ニ委員長ニ伺ヒタイ、我國ノ政體ハ申スマデモナク立憲君主政體デアアル、此立憲君主政體ハ何カラ出テ來テ居ルカ、謂フマデモナク憲法カラ出テ來テ居ル、其憲法カラ此政體ガ出テ來テ居ル、憲法ノ第一條ニ「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」即チ若槻内相ノ所謂國體デアアル、私ハ憲法ニ依テ立憲君主政體ト云フモノガ確立シテ居ル以上ハ、此憲法ノ中ニ政體、國體ト云フモノヲ區別スル必要ハ無イト思フノデアリマス、政體ノ中ノ所謂國體デアアル、所謂國體ト云フモノガ含マレテ居ル、國體ト政體ト云フモノト全然區別ハ何所デスル、區別スル必要ハ何所ニアル、之ヲ伺ヒタイ、ソレハ或ル博士ノ一家言トシテ、政治上ノ國體トシテハ憲法第一條ガソレデアアル、斯ウ云フ事ヲ十數年前ニ述ベテ居ル、其博士ノ一家言トシテ私ハ考ヘル、政體ト國體トノ區別ヲ憲法ニ依テ何故ニ區別スルカ、區別スルコトハ出來ナイ、憲法ニ於テハ、立憲君主政體ト云フ中ニ、即チ憲法第一條ノ意義ガ當然含マレテ居ル、萬世一系ノ君主デナケレバ、我國ヲ統治スルコトハ出來ナイ、ソレガ即チ立憲君主政體ノ眼目デアアル、此立憲君主政體ヲ外ニシテ憲法第一條ノ國體ト云フモノガ何所ニアル、是ガ第二ノ疑問デアアル、又假ニ若槻内相ノ言フ如ク國體トスル、吾々國民ノ感情トシマシテハ、憲法ニ既ニ皇室若クハ朝憲紊亂ニ對スル規定ガアル、吾々國民ノ感情ハ國體トカ皇室トカ云フモノヲ單獨ノ法律トシテ之ヲ規定シ、其中ニ皇室若クハ國體ヲ犯罪ノ對照若クハ目標トシテ記載サレルコトヲ好マヌノデアアル、斯ウ云フ點カラ言ヒマシテモ、特別ノ法律ニ國體ト云フ文字ヲ故ラニ使フコトハ餘程注意シナケレバナラヌト私ハ考ヘル、政體ト云フ文字ヲ使ッテ其中ニ天皇ノ統治權ト云フ事ガ明ニ含マレテ居ルノデアアルカラ、故ラニ國體



ト云フ文字ヲ用ユル必要ガ無イト思フ、殊ニ修正案ニ於テハ政體ト云フ文字ヲ削ッテ、國體ト云フ文字ダケヲ現ハシテ居ル、之ニ就テハ政府案ヨリモ尙ホ更ニ私ハ疑ヲ懷ク者デアリマス、論理ノ上カラ見テ、法律ノ條文トシテ憲法ヲ規定スル以上ハ、ドウシテモ此政體ト國體ト云フモノヲ區別スルコトガ出來ナイト思フ、吾々ノ國體ノ觀念ト云フモノハ、憲法第一條ガ基本デアルケレドモ、他ノ倫理的、情操的ノ觀念ガアル、第三ニ伺ヒタイノハ私有財産制度ト云フコトガアリマスガ、此中ニハ皇室ノ財産ハ含蓄サレテ居ルカ否カト云フコトヲ承リタイ、是ハ諸君モ御存知ノ通り、獨リ日本ノ皇室ノミナラズ、外國ノ皇室ノ財産ニ付テモ近來吾々ハ論議ヲ聞クノデアリマス、此論議ニ對シテ吾々ハ餘程注意ヲシナケレバナラヌト思フ、斯ウ云フ心配カラ私有財産ノ中ニドウモ私ハ含蓄サレテ居ラヌト思フノデアリマスガ、財産制度ノ根本ト云フ所カラ見テ、皇室ノ財産モ含蓄サレテ居リハシナイカト云フ疑ヲ持ッテ居ル、全然是ハ疑デアリマスガ、政府ハ如何ナル考ヲ之ニ對シテ御持チニナルノデアルカ、委員會ニ於テモ此疑問ハ曾テ出ナイヤウニ考ヘテ居ル、第四ニ政府ハ外來思想ノ爲ニ無政府主義者、或ハ共產主義者ガ段々出來テ來ル、殊ニ露國トノ實際ガ恢復シタ以上、兩國ノ國民ガ往來スレバ無政府主義者、共產主義者ガ益殖エテ來ルデアラウト云フヤウナ心配ヲ持ッテ居ラレル、或ハサウ云フ事ガナイトモ限ラヌノデアリマスケレドモ、私ハ外來思想、或ハ露國ノ過激思想、サウ云フモノガ健全ナル國民ノ腦裡ニハ容易ニ這入ルベキモノデナイト思フ、樹木ガ朽チテ然ル後ニ蟲之ニ生ズ、國民ニ不平ノ無イモノハ少イ、必ズ人々不平ガアル、サウシテ其不平タル原因ハ一デハナイケレドモ、大體生活上ヨリ來ル不平ト云フモノガ多カラウト思フ、國民ニ不平ヲ生ゼシメナイノハ即チ政治ニアル、政治ガ斯ノ如キ過激ナル思想ヲ豫防スル第一ノモノデアラナラヌ、殊ニ從來——今ノ内閣トハ言ハナイ、從來ノ政府ノ遣方ヲ見ルト、社會主義者、共產主義者ト云フヤウナ者ガ、若クハ其嫌疑者ガ一度「ブラックリスト」ノ中ニ這入ルト云フト、斯ノ如キ者ニ對シテ官憲ハ如何ナル處置ヲ執ッタカ、之ニ向ッテハ日々夜々壓迫ヲ加ヘテ居ルヤウナ形跡ガアツタ、一度「ブラックリスト」ニ這入ルモノハ眼ヲ仄テ袖ヲ引イテ國民モ之ヲ視ル、官憲ノ如キハ殊ニ其生活ヲ脅迫スルヤウナ壓迫ヲ加ヘ

テ居ル實例ガ澤山アルノデアアル、斯ノ如キコトヲ爲シテ彼等ヲ窮地ニ陥レシメテ、ドウシテ之ヲ善政ト云フコトガ出來ヤウカ、無政府主義者、共產主義者ヲ益多カラシメ、或ハ又彼等ノ徒ヲ激發セシムルノデアアル簡單ナ例ヲ以テ言フナラバ、中岡某ガ原總理大臣ヲ殺シタ、彼ノ考ハ誤ッテ居リマシタラウ、誤ッテ居リマシタラウガ、蓋シ國家ノ爲ニ殺スト云フ動機デアツタ、又甘粕某ガ大杉外二名ヲ殺シタ、是モ其考ハ誤ッテ居ッタデセウガ、國家ノ爲メト云フコトデアアル、動機ハ同ジデアアル、其是非ハ今姑ク論ズル要ハナイ、然ルニ其結果ハドウデアアル、中岡ハ無期徒刑、甘粕ハ懲役十年、斯ノ如キ差ノアルト云フコトハ、其間ニ種々ナ込入ッタ事情モアツタカモ知レヌケレドモ、非常ナ差ノアルト云フコトハ私ハ、決シテ是ハ公明正大ナル裁判ト云フコトハ出來ナイト思フ、是ハ彼等ノ社會主義者、若クハ無政府主義者ヲ非常ニ激發セシメタ一例デアアル、政治ト云フモノハ、最モ公明正大ニ行ハナケレバナラヌコトデアアル、是ハ眞ノ一例デアルケレドモ、其外隱レタル不公明ナ、不正大ナ政治ト云フモノガドレ位アルカモ分ラヌ、斯ノ如キコトヲ矯正シナイデ、單ニ露國トノ實際、或ハ外來思想ガ國民ノ思想ヲ惡化スルト云フコトハドウモ其的ヲ誤ッテ居ルヤウニ私ハ考ヘル、昔ノ言葉ニ四海困窮スレバ天祿永ク亡ント云フコトガアル、政府ノ御方ハ此事ニ對シテ、十分ニ將來公明正大ナル政治ヲ行フト云フ考ガアルノニハ相違ナイト思フノデアリマスケレドモ、徒ニ外來思想ノ輸入、或ハ露西亞トノ實際ニ社會主義者、共產主義者ヲ出スコトニ罪ヲ著セルト云フコトハ、私ノ大ニ取ラス所デアリマスガ、斯ウ云フコトニ付テノ御考ヲ承リタイ、隨テ政治ガ公明ニナレバ、斯ノ如キ法律ト云フモノハ必要ガ無イコト、私ハ考ヘル、要スルニ此聖世ニ於テ、大正ノ今日ニ於テ、昔ノ砂上偶語ノ有様ヲ呈スルヤウニナルト云フコトハ、私ノ甚ダ取ラナイ所デアリマス、斯ウ云フコトニ對シテモ政府當局者ノ十分ナル御答辯ヲ戴キタイノデアリマス、之ヲ以テ終リトシマス

小川司法大臣ノ應答

菊池君ニ御答ヲ致シマス、菊池君ハ國體ト政體ト同ジデアアルカノ如キ御意見ヲ述ベラレタヤウ



デアリマス、是ハ私ハ初メテ伺フ御意見デアリマス、國體ハ絶對ノモノデアリマス、憲法ガアツテ始メテ出來タモノデハナイ、即チ建國以來、我國ノ政治上カラ云フ所ノ國體ナルモノハ、萬世一系ノ天皇大日本帝國ヲ統治スルコト云フノガ國體デアリマス、是ハ絶對ノモノデアアル、政體ハ即チ、立憲君主政體モアリマセウ、又ハ君主專制ノ政體モゴザイマセウ、是ハ天皇ノ大權ノ働ク所ノ働キ方、即チ大權ノ行使ノ様式ガ違フ、大權其モノニ至ツテハ少シモ變ラナイデアリマス、國體ヲ變革スルト申シマスノハ、即チ此天皇ノ大權ニ觸レルカラ國體ヲ變革スルト云フ、政體ニ至ツテハ或ハ代議制度モ一ツノ政體デアリマセウ、或ハ君主專制ノ政體モ一ツノ政體デアリマセウ、大權其モノニハ何等ノ變更ハナイ、唯大權ノ働ク所、即チ行使ノ様式ガ違フデアリマス、之ヲ混同スルト云フコトハ、私ハ初メテ伺フ御意見ノ相違ニナリマス、スカラ申上ゲマセウ、ソレカラ其次ハ皇室ノ財産ニ付テハ此法律ニ這入ラヌカト云フ御問ノヤウニ伺ヒマシタガ、若シ誤解デアレバ又更ニ答辯ヲ致シマス、其通リノ御問デアレバ餘程不思議ナ御問デアルト思フ、一般國民ノ私有財産ヲ否認スルコトヲスラ罰スルデアリマス、皇室ノ御所有ノ財産ニ對シテ所有權ヲ認メナイト云フコトハ、例外ヲ置クト云フヤウナコトハ想像モ出來ヌ話、所有權ハ皇室デゴザイマセウトモ、國民デアリマセウトモ、所有權ト云フコトハ同ジコト、私有財産ノ制度ハ同ジコトデアリマス、皇室ノ御所有ト云フコトモ所有其モノニ至ツテハ少シモ變リハナイト考ヘテ居リマス、ソレカラ最後ニ今日斯ノ如キ法律ヲ設ケル必要ガ無イデハナイカ、日本ノ國民ハ健全デアアル、斯様ナコトヲ基礎トシテノ御質問ト承知致シマシタ、菊池君モ既ニ御承知ノ通り、甚ダ遺憾ナ事デゴザイマスルガ、我國ニ於テモ無政府主義者ガ段々ト出テ參ッタ、最モ怖ルベキ共產黨ナドト云フモノモ出テ參ッタ、而モ眞ニ吾々ノ戰慄スベキ大逆無道ノ事件難波大助、彼ハ共產黨ノ前衛トシテ急先鋒トシテ、共產主義ノ爲ニ之ヲ決行スルト言ウテ居ルデアリマセウカ、斯様ナ恐ルベキ事實ガ目前ニ到來致シマシテモ、尙且ツ我ガ國民ハ健全ナリト稱シテ、何等取締ノ必要ガ無イト言ハレルコトデアラナラバ、是ハ實ニ私ハ其樂觀ニ驚カザルヲ得ヌ、全然政府トシテハ不同意デアルト云フコトヲ申上ゲマス

原惣兵衛君ノ質疑

簡單ニ一二私ノドウシテモ御聽キ申シテ見タイト云フ點ヲ政府ニ御質問致シテ見タイト思フノデアリマス、此法律案ハ國民ノ思想ヲ取締ル法案デアリマス、思想ノ取締ト云フコトニ對シテ三ツノ方法ガアル、即チ外部ノ行動ニ現ハレテソレヲ取締ルノガ即チ此法案デアリマスルガ、ソレヨリモ前ニ内部的ニ思想ヲ受入レタトキニ之ヲ如何ニ善導シ、如何ニ之ヲ導クカト云フコトガ一ツノ方法デアルト私ハ思フデアリマス、ソコデ此外部ニ出マシタル私ハ法案其モノヲ基礎ニスルヨリモ、他ノ一ツノサウナ國民思想ヲ善導スルト云フ根本問題ニ對シテ、政府ノ御當局ハ如何ナル御施設ヲ致シテ居ラル、カト云フコトヲ承リタイデアリマス、サウシテ此頃殊ニ小川司法大臣ノ御言葉ヲ委員會デ承リマシタリシマスト、共產主義ヤ或ハ無政府主義ト云フモノガ出來ルガ故ニ、ト仰セラレマシタ、併ナガラソレハ外來ノ思潮デアツテ、外部的ニ受入レテ來タ問題デアリマスガ、ソレヨリモ根本ニ我ガ國內ノ國民ノ生活狀態ガ、現實ノ國民トシテノ生活ガ非常ニ困ツタ時ニ於テ、此外來ノ思想ト結合シテ、國民ノ思想ガ惡化スルト云フ一ツノ問題ヲ私等ハ考ヘナケレバナラヌト思フデアリマス、ソコデ此頃ノ財政ノ整理、行政整理ニ伴ヒマシテ、多クノ失業問題ガ起ツテ來タデアリマスガ、斯ウ云フヤウナ問題ハ頻々トシテ起リマシテ、殊ニ此帝都ニ於キマシテモ白晝強盜、有ユル犯罪ガ起ツテ居ルト云フ狀態デアリマス、隨テ内務大臣ニ於カレマシテハ、斯様ナル外來ノ思潮、有ユル思想ヲ受入レテ來ル所ノ國民自身ノ失業、其他ノ斯ウ云フ惡化シナイヤウナ施設ト云フコトガ、又此法案ヲ出ス所ノ前ニ來ルベキ根本問題デアルト私ハ思フデアリマス、斯ウ云フ施設ニ對シテ、若槻内務大臣ハ如何ナル御考ヲ持ツテ居ルノデアリマセウカト云フコトヲ御聽キ申シタイデアリマス、私等ハ此失業問題ト云フコトニ對シマシテ、最モ恐レルノハ筋肉労働者ノ有ユル思想ノ惡化ヲ恐レルヨリモ、精神労働者ノ此生活ニ困ツテ居ル者ガ、是ガ外部ヨリ來ル所ノ思想ヲ受入レテ來テ、最モ惡化スルト云フコトガ私等ハ恐ロシイデアリマス、隨テ斯ウ云フヤウナ失業問題ニ對シ、有ユル國民ノ思想ヲ善導スルト云フヤウナ御施設ヲ何等待タナイデ、單ニ其思想ガ外部ニ出タ人間ダケヲ之ヲ罰



シテ、而モ我が國內ノ總テノ思想ガ安定スルモノダト思ウタラ大キナ間違ヒダト私ハ思フノデアリマス、ソレデアリマスルカラ殊ニ加藤總理大臣ニ於カレテハ、國民ノ思想ト云フモノ、取締思想ノ善導ニ對シテハ何等總理大臣ノ施政ノ御方針中ニモ見受ケ得ナイノデアリマス、殊ニ總理大臣ハ護憲ニ派ト稱セラレタ當時ニ、清浦ガ宗教的ニ依テ思想ノ善導ヲスルト云フコトハ洵ニ無能デアアル、斯様ナ腐敗シタル宗教家ニ依テ現在ノ國民ヲ指導スルコトハ出來ナイト仰シヤリマシタガ、何等國民ノ思想ヲ善導スル所ノ施設方針ヲ立テナイヨリモ、清浦サンノ方ガ私ハ餘程偉イト思フノデアリマス、斯様ニ何等國民ノ思想問題ニ對シテ根本的ニ直スト云フコトヲ考ヘナイデ、單ニ此法案ヲ出シテ、而モ國民ヲ十分ニ此法律ノ國法ノ力ニ依テ之ヲ強壓シテ足レリト云フ御考ハ、根本的ニ私ハ其點ニ於テ足ラナイ點ヲ甚ダ憾ミトスル次第デアリマス、其次ニ小川司法大臣ニ御伺シタイ、先ヅ本案ノ適用ニ付テハアリマスルガ、屢共產主義ヤ無政府主義ヲ取締ル法案デアルト仰シヤリマシタガ、此條文ヲ見マシタナラバ、現下國家ヲ前提トスル社會制度ノ否認、即チ私有財産ノ否認ト云フコトガ法文ニ出テ居マスルガ、私有財産制度ノ否認ト云フコトハ、國家ヲ前提トスル社會主義者モ亦其結論ニ於テ私有財産制度ヲ否認スルト云フ結果ヲ惹起スノデアリマス、隨テ現在ノ有ユル日本ニ於ケル勞働組合、其他ノ勞働總同盟ト云フヤウナ社會主義ノ前提トシテ、國家ヲ前提トシテノ社會主義ノ此勞働者ノ組合ガ、若モ其社會主義ト云フ「ソシヤリズム」ノ學說ヲ基礎ニシテ有ユル申合セラシタナラバ、遂ニ此法案ニ引掛カルト云フコトニナルノデアリマス、隨テ國家社會主義ト云フモノ、此勞働組合ナドニ、若モ立法ノ精神ガ本當ニ大ナル點ニ於テ取締ラナケレバナラヌト云フ御考ガナクテ、若モ簡單ニ之ヲ取締レバ宜イト此法文カラ適用シタナラバ、日本ノ此勞働組合其他ニモ非常ニ引掛テ來ルト思フノデアリマスルガ、法ノ適用ノ範圍ニ於テ如何ナル理想ト如何ナル刑罰法規ノ目的ヲ御考ヘニナッテ、此法ヲ適用セントセラル、ノカ、是ガ所謂最モ危險ナル點デアルト私ハ思フノデアリマス、ドウゾ此二點ニ付テ明快ナル御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、特ニ若槻サンニ於カレマシテハ、此現在ノ失業者ニ對スル施設、並ニ國民思想ヲ如何ニ善導スルカト云フ、先ヅ根本ノ問題ニ付テ

ドウ云フ御考ガアルカ、是ハ到底加藤總理大臣ガ御答ニナルカガ無イト私ハ思ヒマス、ソレデアリマス、若槻內務大臣ニ御答辯ヲ求メマス

若槻內務大臣ノ應答

思想ノ善導ニ付テ御尋デアリマシタ、思想ノ善導ハ教育ノ力ニモ俟タナケレバナリマセヌ、宗教ノ力ニモ俟タナケレバナリマセヌ、同時ニ政治上ノ施設ニモ俟タナケレバナリマセヌ、總テ各方面ノ協力ニ依テ思想ノ善導ハ出來得ルコト、思ウテ居ルノデアリマス、而シテ政府ノ施設ハ何ト言ッテモ政治上ニ於テ、不正ナル政治ガ行ハレテ居リマスコトニ於テハ、思想ハ健全ニ至リマセヌ、故ニ現內閣ハ成立以來第一ニ綱紀ヲ肅正スルコトニ努メタノデアリマス、而シテソレノミナラズ財政ガ今日ノヤウナ不況ナ状態、又財政ガ行詰ツテ居ル状態ガ其儘永ク繼續シマスト云ト矢張各人ノ生活ニ影響ヲ及ボス、生活ニ影響ヲ及ボセバ決シテ思想ノ上ニモ良イ影響ガナイノデアリマスカラ、政府ハ財政行政ノ整理ニ努メテ左様ナ状態ノ改善ニ努メテ居ルノデアリマス、行政財政ノ整理ニ伴ッテ失業者ガ生ジタ、是ハ却テ思想ヲ險惡ニスル事デハナイカ、全般ノ財界ノ恢復ヲ圖ル爲ニ行政財政ノ整理ノ必要ガアリマス以上ハ、行政財政ノ整理ヲスルコトハ已ムヲ得マセヌ、而シテ是ガ爲ニ職ヲ失フ者ニ對シテハ、政府ハ相當ナル資金ノ給與ヲ致シテ、一時職ヲ得ルマデノ間ハ生活ニ困ラナイダケノ仕組ハ立テ、アルノデアリマス、其他現內閣ノ豫算ニ現ハレタ各種ノ施設ヲ御覽ニナレバ、大體現內閣ガ思想ノ善導ノ上ニ如何ナル事ヲ施設シテ居ルカト云フコトガ御分リニナラウト思ヒマス、帝都ノ真中ニ強盜ガ出タカラ非常ニ警察ノ取締ガ立タヌデ居ルト云フヤウナ仰セガアリマシタ、帝都ノ中ニ窃盜強盜ノアリマスコトハ洵ニ宜クナイコトデ、是ハ十分ナル取締ヲ立テナケレバナラズ、立テツ、アルノデアリマス、併シ如何ナル時代ニ於テモ刑事事ノ罪人ガ無イト云フ譯ニハ參リマセヌ、ソレ故ニ政府ハ十分是ガ取締ニ力ヲ入レテ、只今御心配ニナッタヤウナ事ノナイヤウニ努メル積リデアリマス

原惣兵衛君ノ再質疑



モウ一點若槻内相ハ失業者ニ對スル施設ノ根本ニ對シテ何モ御答辯ガアリマセヌガ、如何ナルモノデアルカ、ソレカラ小川司法大臣モ亦之ニ對シテ御答辯ヲ無論願ヒタイノデアリマス、ソレカラ今承リマス、綱紀肅正其他ト仰ッシヤリマシタガ、綱紀肅正ハ六月二十四日ノ官報デ加藤總理大臣ガ訓示ヲ發シテ居ラレマス、是ガ恐ラク國民思想ニ對スル一ツノ根本ノ規矩ダト思召シテ居ラレコト、思ヒマスガ、其綱紀肅正ト云フ其御訓示ヲ見マシタナラバ、六月二十四日ノ官報デアリマスカラ明デアリマスガ、其内容ハ根本ノ國民思想ノ流レニ對シテ如何ニ爲スカト云フ大ナル一ツノ抽象的理想ノ、確言のナ御言葉ガ何モ出テ居ナイデ、唯單ニ朝早く出テ來イトカ、或ハ親類デアルトカ、故舊ノ者ニ對シテ、依怙最厚ヲシテハイケナイト云フヤウナコトデ、マルキリ巡查ヲ集メテ署長ガ訓示ヲスル如キモノデアリマス、恐ラク歴代ノ總理大臣中綱紀肅正ノ訓示ナリト言ッテ、此位實ニ低級ナル御訓示ヲ私ハ見タコトハナイノデアリマス

若槻内務大臣ノ應答

原君ヨリ綱紀肅正ト失業ノコトニ對シ再質問ガアリマシタ、現内閣ハ人ヲ正サントスレバ先ヅ自ラ正サナケレバナラヌト云フコトヲ心懸ケテ居ルノデアリマス、現内閣成立以來ニ於テハ、閣員ヲ首メ、總テノ者ガ政務ノ上ニ於テハ、總テ公正公平ニ政治ヲスルコトニ努メテ居ルノデアリマス、若シ之ニ違フコトガアリマスナラバ、原君ハ茲ニ指摘シテ何デモ御指彈ナサツテモ宜イノデアアル、而シテ自ラ正シクスルコトニ心懸ケルト共ニ、部下ヲ戒飭シテ今日デハ何カ原君ノ御氣ニ入ラヌヤウナ、何等カノ不公平ナ事ガアルノデアリマスカ十分ニ綱紀ノ肅正ニハ努メテ居ルノデアリマス、失業者ニ對シマシテハ、是ハ御承知ノ通り失業者ハ季節ニ依テ生ズル失業者、又周期的ニ來ル所ノ失業者、是ハ經濟上ノ今日ノヤウナ大量生産ヲシテ居リマスル時ニハ、失業者ノ後ニ於テ經濟界ノ不況ノ場合ニ失業者ノ生ジマシタコトハ、洵ニ遺憾千萬デアリマスガ、同時ニ已ムヲ得ナイ事實デアリマス、之ヲ巨濟スルノハ財界ノ恢復ヲ速ナラシメテ、彼等ヲシテ職ヲ

得セシメル事ニ努メルノガ第一デアリマス、ソレガ現内閣成立以來財界ノ恢復ニ努メル爲ニ諸種ノ經濟政策ヲ行ツタ所以デアリマス、若夫レ一時季節ニ依テ生ジタル失業者ノ困ッテ居ル者ニ對シテハ、先回モ此席上ニ於テモ私申上ゲマシタガ、年末カラ年初ニ掛ケテノ市内ノ自由労働者ノ失業者ニ對シテ、成ベク之ニ職ヲ得セシメルガ爲ニ、市ニ於テ行フベキ事業ヲ促進シ、政府ニ於テ行フベキ仕事ヲ成ベクヤツテ、職ヲ得セシメルト云フコトニ努メタノデアリマス、而シテ尙ホ衣食ニ窮スル自由労働者ニ對シテハ一時若干ノ食市場、竝ニ宿泊場ノ便宜ヲ與ヘル方法ヲ講ジタノデアリマス、大體是ガ失業者ニ對スル是マデ努メテ來ッタ所デアアルノデアリマス

右終ルヤ井本常作君提出質疑終局ノ動議ニ對シ起立表決ノ結果起立者多數ニテ質疑ハ茲ニ終局スルニ決ス

次テ討論ニ入り湯淺凡平君、武藤山治君、坂東幸太郎君ハ反對、横山金太郎君、山崎達之輔君及板野友造君ハ賛成ノ演說ヲ爲ス

湯淺凡平君ノ反對演說

私ハ與黨ノ一人トシテ政府提出ノ本案ニ對シテ反對ノ意見ヲ述ブルノ已ムナキヲ甚ダ遺憾トスル者デアリマス、吾々ノ反對ノ意見ニ付キマシテ、昨日ノ本案ノ委員會ニ於キマシテ、同僚清瀨一郎君ヨリ或ハ之ヲ法律的ニ、或ハ之ヲ學術的ニ、極メテ詳細ニ論議ヲ致シ、其議論ノ大體ハ今朝ノ新聞紙ニ依テ傳ヘラレ、尙ホ其内容ハ委員會ノ速記録ニ掲載シテアル次第デアリマスルガ故ニ、私ハ茲ニ今日現ニ吾々ガ見ル所、若クハ近キ將來ニ於テ吾々ガ見ルコトヲ確實ニ豫想スベキ事實ノ上ニ立脚ヲ致シマシテ、大體ヨリ本案反對ノ意見ヲ述ベサセテ貫ヒタイ積リデアリマス、諸君、吾々ハ衆議院ノ面目ヲ保ツガ爲ニ此案ニ反對ヲ致サナケレバナリマセヌ、諸君ノ御承知ノ通り第四十五議會ニ於キマシテハ、過激社會運動取締法案ナル名ノ下ニ殆ド本案ト其趣旨



目的及思想ニ於テ全ク同一デアアル所ノ法案ガ提出致サレマシタ、而シテ此法案ノ提出サレルニ當ツテ、國論ハ囂々トシテ之ニ反對ヲ唱ヘ、其結果カ、アラヌカ、貴族院ニ於キマシテハ大斧鉞ヲ加ヘラレ、刑ノ適用ノ範圍ニ於キマシテモ著シク制限ヲ被リ、又刑期ノ上ニ於キマシテモ大ナル所ノ減縮ヲ行ハレタ、而シテ之ヲ我が衆議院ニ送付サレタ時ニ、我が衆議院ハ果シテ之ヲ如何ニ取扱ヒマシタカ、殆ド一顧ダモ與ヘズシテ之ヲ葬リ去ッタノデアアル、即チ此過激法案ナルモノハ、貴族院ニ於テ大修正ヲ加ヘラレタケレドモ、衆議院ニ於テ消滅ヲ致シタル所ノ案件デアリマス、衆議院ガ過激法案ヲ葬リ去リマシタル所ノ理由ハ、本案ニ於テ屢繰返サレルガ如キ本案ノ内容ニ關スル枝葉末節ノ議論デハナイノデアリマス、要スルニ我國ノ社會ノ現實ニ對シテ、斯ノ如キ法案ヲ制定スルノ必要ヲ認メズ、既ニ必要ヲ認メザル所ノ法案、此法案ガ公布サレタ曉ニ於キマシテハ、其結果ハ我國ノ言論ハ著シキ壓迫ヲ被リ、我國ノ無産階級ノ活動ハ殆ド根柢ヨリ阻止サル、ト云フコトヲ恐レテ、此法案ニハ反對ヲ致シタノデアアル、而モ此事實ヲ以テ當時ノ國論ハ國論ノ勝利ナリトシテ、一大痛快事ナリト喜ンダルコトハ、諸君ノ記憶ニ尙ホ新ナル所デアリマセウ、然ルニ此過激法案ト此法案トヲ對照致シマシテ、政府ノ説明スル所ヲ承リマスレバ、同ジモノデナイト云フ、成程用ヒラレテ居ル所ノ用語ハ異ツテ居ル、併ナガラ其目的トスル所、其趣旨トスル所、其思想、是等ノ點ニ至リマシテハ、全ク一貫シテ變ル所ハ無イノデアリマス、諸君、過激法案ニハ或ハ朝憲案亂ノ文字アリ、或ハ社會ノ根本組織云々ノ文字アリ、甚ダ明確ヲ缺ク所ノ文字アリト雖モ、而モ朝憲案亂ノ文字ノ如キハ久シク我國ノ法律上ノ用語トナリ、之ニ對シテハ大審院ノ判決例モアリマシタ、稍其字義ハ明確ニナツテ居ルノデアアル、然ルニ之ニ對シテ本案ニ謂フ所ノ國體、政體、或ハ私有財産制度ト云フガ如キモノハ、同ジク曖昧ニシテ全ク茫漠タル所ノ文字デアアルト云フコトハ、既ニ委員會ニ於キマシテ、又本會議ニ於キマシテ、質問應答ノ間ニ於テ吾々ハ窺フコトガ出來ルノデアアル、既ニ此文字ノ字義ニ關シテ政府ノ答辯スル所、動モスレバ或ハ矛盾シ、或ハ撞著ヲシ、其結果訂正ヲ爲シ、取消ヲ爲サレタル所ノ例ハ、一二ニシテ足ラヌノデアリマス、殊ニ此本案ガ最後ニ至ツテ非常ニ大ナル修正ヲ蒙ツテ居ル、本案ハ申スマデモナク三

ツノ要點ヨリ成立ツテ居ル、即チ國體、政體、私有財産ノ制度デアアル、此三ツノモノヲ併セテ取締ルニ非ザレバ——若シ取締ノ必要アリトスルナラバ、此三者ヲ併セテ共ニ取締ルニ非ザレバ、完全ナモノハナラナイノデアアル、然ルニ其中ノ極メテ重要ナル一點ガ骨格的ノ修正ヲ加ヘラレ、之ニ對シテ政府ハ唯々諾々トシテ屈從シナケレバ、ナラヌト云フガ如キ破目ニ陥リマシタルコトハ、即チ其事自體ガ如何ニ本案ノ文字ガ不明瞭デアアルカト云フコトヲ物語ツテ居ルモノデアリマス、又若シ違ツタ所ガアル——何所ニ違タ所ガアルカト云フコトヲ強テ釋ネテ見タナラバ、即チ本案ハ其惡法タル所ノ性質及色彩ニ於テハ、曾テ吾々ガ葬リ去ッタ所ノ過激社會運動取締法案ヨリモ、更ニ一層濃厚ナルモノデアアルト云フコトヨリ外、違ツテ居ル所ハナイノデアリマス、諸君、過激法案ハ諸君御承知デモアリマセウ、貴族院ニ於テ修正サレ衆議院ニ回付サレタル所ノ此過激法案ハ、刑ノ適用ノ範圍ハ極メテ限局サレテ居ル、即チ外國ハト連絡ヲスルカ、若クハ外國ニ在ル者ト連絡シタル所ノ犯罪ノミヲ取締ルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、而シテ刑期ニ於キマシテモ、最長二年トナツテ居ルノデアアル、然ルニ本案ハ此適用ノ範圍ハ全ク無制限デアリ、且ツ刑期ニ於テハ是ガ十年トナツテ居ルノデス、ソレバカリデナイ、過激法案ハ所謂暴行、脅迫、若クハ不法ノ手段ニ依ル所ノ行爲ヲ罰シテ居ルガ、本案ハソレ等ノ制限ナク、總テノ行爲ガ罰セラル、ト云フコトニナツテ居ル、内容ヲ比較シテ見マスレバ、若シ違フト云フナラバ、過激法案ヨリハ本案ノ方ガ遙ニ苛酷デアアル、辛辣デアアルト云フコトハ言ハル、ノデアアル、斯ノ如クヨク緩和シタル所ノ過激法案スラモ、衆議院ガ既ニ葬リ去ツテ居ル以上ハ、議院ノ體面、議院ノ權威ノ上カラ申シマシテモ、今更本案ヲ通過セシムルト云フコトハ、斷ジテ出來ナイコト、私ハ確信ヲ致シマス、殊ニ又此過激法案ノ制定セラレタル所ノ時代ハ如何、當時歐洲戰爭ノ直後、世界ノ人類ノ人心思想ハ餘程混亂ヲ致シマシタ、即チ無産階級ノ自覺擡頭ニ依テ種々ナル新シキ運動ガ起リ、新シキ思想ガ宣傳サレマシタル其餘波ヲ受ケテ、我國國民ノ思想、殊ニ無産階級ノ思想ノ上ニハ餘程大ナル刺戟ヲ與ヘタノデアリマス、中ニハ或ハ動モスレバ急激ニ失スル所ノ思想ヲ宣傳致シ、或ハ不穩當ナル所ノ行動ヲ企テルニ非ズヤト憂ヘザルヲ得ナイヤウナ事實モアッタノデアリマス、



此時三際シテ時ノ當局者ハ果シテ如何ナル人デアアル、吾々ヨリハ思想ニ於テ其根本ヲ異ニシテ居ル所ノ其人ガ局ニ當ツテ居ラレ、此當局者ガ其時代ニ於テ過激法案ヲ提出スルト云フコトハ、吾々カラ以テ見マスレバ、聊カ水禽ノ羽音ニ狼狽シタル嫌アリト雖モ、其當時ノ事情、其當局者ノ所謂心理状態カラ考ヘテ見マスレバ、多少之ヲ諒トスルノ餘地ハアルノデアアル、然ルニ今日ハ如何、國民ノ政治的能力ノ發達ヲ認メ、普通選舉ノ斷行ヲ敢テスル其護憲内閣デアリナガラ、却テ三年ノ後ノ今日、而モ時代ハ如何デアアルカト云ヘバ、赤化ノ本家本元デアアル所ノ露國ノ事情モ餘程變化シテ參リマシタ、而シテ内ニ於テハ之ニ從ツテ我國ノ勞働階級、若クハ無産階級ノ思想モ大ニ緩和致シテ居ルノデアアル、何レモ右傾的方向ニ向ッテ進ミツ、アル、此際ニ此内閣ガ過激法案ヨリモヨリ深刻ナル所ノ、ヨリ廣汎ナル所ノ、ヨリ時代後レノ此法案ヲ提案スルト云フコトハ、何ト致シテモ吾々ノ解スルニ苦ム所デアリマス、全體本案ノ目的ハ私ノ見ル所ヲ以テスレバ、悉クハ是レ現狀維持ヲ目的ト致シテ居ル、現狀ヲ維持スルコトハ或ル一派ノ保守的思想カ、然ラザレバ官僚或ハ資本家ハ之ヲ歡迎スルノデアリマセウ、併ナガラ我國ノ如キ物質的ニ於キマシテモ、精神的ニ於キマシテモ、先進國ニ對シテ遜色アル所ノ此我國ノ現狀ハ、果シテ之ヲ維持シナケレバナラヌモノデアリマセウカ否カ、吾々ハ此行詰ツタ所ノ現狀ハ政治社會ト云ハズ、經濟社會ト云ハズ、思想ノ上ト云ハズ、文化ノ上ト云ハズ、一日モ速ニ打破致シテ、新シキ局面ニ向ッテ展開シナケレバナラヌト云フコトハ、言フマデモナイノデアリマス、然ルニ唯徒ニ現狀ヲ維持スルコトニ汲々ト致シマシテ、國民ノ思想國民ノ活動ノ上ニ向ッテ現狀ヲ強ントスルガ如キハ、其結果ハ私ハ恐ル、或ハ遂ニ亡國ノ端ヲ誘發スルモノデハナイカト云フコトヲ、衷心ヨリ恐レル者デアリマス、諸君、本案ハ普通選舉ノ目的ヲ達成スル上ニ於テ甚シク矛盾ガアルト私ハ思フノデアアル、普通選舉ノ目的及其效用ハ、吾々ガ申マデモナク有ユル階級ヲ開放致シテ、其自由ヲ確保スルニ在ルノデアアル、然ルニ一方ニ於テ此自由ヲ認メナガラ、他方ニ於テ此自由ヲ制限スルコトニ相成ルノミナラズ、現ニ吾々ハ普通選舉ノ行ハレタル後ノ事實ニ想到致シマスレバ、必然的ニ吾々ガ豫期シナケレバナラヌ所ノモノハ無産階級ノ擡頭デアアル、此無産

階級即チ此無産政黨ノ起ルト云フコトハ必然ノ勢デアッテ、止メント欲シテ止メルコトガ出來ナイノミナラズ、吾々ハ寧ロ是等ノ國民ノ多數ヲ占ムル所ノ階級ノ政黨ヲ組織スルト云フコトハ、歡迎ヲ爲サネバナラヌコト、思フノデアリマス、而シテ事實ノ上カラ申シマスレバ、是等ノ政黨ハ果シテ其政綱トシテ何モノヲ標榜スルデアリマセウカ、必ズヤ彼等ハ多年ノ間虐ゲラレタ所ノ資本主義ニ向ッテ、彼等ノ生活ノ改善ヲ圖ルコトニ向ッテ進ムコトハ火ヲ賭ルヨリモ明デアリマス、即チ是等ノ大目的ヲ達スルガ爲ニ、今日最モ世間ニ認メラレテ居ル所ノ私有財産制度ヲ否認スルト云フコトハ、彼等ノ唯一ノ「モットー」トシテ掲ゲラレルモノニ相違ナイノデアリマス、私ハ必シモ現狀ニ於テ我國ノ私有財産ヲ根柢ヨリ否認スルコトハ是認致ス者デハアリマセウ、併ナガラ之ヲ理想カラ考ヘテ見マスルト、之ヲ今日ノ趨勢カラ考ヘテ見マスルナラバ、或人ノ言葉ノ如ク、今日ノ人類ノ生活ハ個人生活ヨリ團體生活ニマデ進ミツ、アルト云フ傾向ガアル、此傾向ガ進ンデ參リマスレバ、結局ハ私ハ此私有財産ト云フガ如キ制度ハ、此場合ニ於テハ存在ヲ失フモノデハナカラウカト思フ、又天下ハ所謂天下ノ天下ナリ、理想カラ申セバ此世ノ中ノ總テノ富、總テノ財産ト云フモノハ必シモ個人ノ所有デナケラネバナラヌ、私有財産制度デナケラネバナラナイト云フコトハ申サレナイ、若モ國民ノ知識、國民ノ道徳、國民ノ體力、是ガ均一ニナルト云フ程度マデ文化ガ發達致シマシタル時ニ於テハ、私有財産制度ノ如キモノハ、固ヨリ認ムベキモノデハナイト私ハ確信致シテ居ルノデアリマス、是ガ即チ人類ノ進歩デアリ、是ガ即チ社會ノ向上デアアル、然ラバ此理想ニ向ッテハ吾々ハ今日只今之ヲ實現スルコトヲ希ハズトモ、理想ニ向ッテハ吾々ハ一歩々々其歩ヲ進メテ行カナケレバナラナイ、此重大ナル所ノ政綱ヲ掲ゲタル政黨ガ、果シテドウナルデアリマセウ、恐ラクハ此法案實施ノ爲メ非常ナル所ノ壓迫ヲ受ケ、非常ナル所ノ危險ニ遭遇致サナケレバナラヌ、併ナガラ是ハ私ノ杞憂デアルト言フ人ガアルカモ知レヌ、政府ノ説明スル所ニ依リマシテモ、サウ云フ點ニ於テ決シテ取締ヲ爲スノデハナイ、併ナガラ政府デ左様ニ言明ヲサレマシテモ、内務大臣ヤ司法大臣ガ如何ニ辯明ヲ致サレマシテモ、實際問題トシテ之ヲ考ヘテ見マスレバ、果シテ今日ノ警察官、今日ノ裁判官ガ、果シテ政府ノ理想



トシテ居ラレル通りニ、此法律ノ運用ヲ爲スデアラウカ否カト云フコトニ付テハ、甚ダ吾々ハ疑  
 ヲ懷カザルヲ得ナイノデアリマス、本案デハナイ、本案ノ外ニ極メテ明瞭ナル所ノ法文ヲ有シテ  
 居ル所ノ法律ガアリマス、而モ其明瞭ナル法律ノ適用デモ、實際今日如何ニ行ハレテ居リマス  
 カ、吾々ハ昨日マデハ普通選舉ノ問題ニ對シテハ非常ナル運動ヲ致シタ、此普通選舉ノ問題ハ考  
 ヘテ見マスルト一部分ハ吾々ヲ取締ル、即チ此普通選舉ノ問題ニ付テ運動ヲ爲ス者ヲ取締ル所  
 ノ警察官彼等自身ノ爲ニモ、吾々ハ運動シテ居ルノデアアル、然ルニ拘ラズ此多數ノ警察官、殊ニ  
 輦轂ノ下ニ於ケル所ノ警察官ガ、吾々ノ運動ヲ取締ル上ニ於テ、如何ニ只今ノ治安警察法ノ濫用  
 ヲ致シテ居ルカト云フ事實ヲ諸君ハ御閑却ハ爲サレナイデアリマセウ、殆ド人類トシテノ取扱  
 ハ致シテ居ラス、極端ナル言葉ヲ以テ申シマスレバ、恰モ餓タル獅子ガ群羊ヲ驅ルガ如ク實ニ、非  
 人道極マル所ノ待遇ヲ吾々ノ同胞、吾々ノ同志ニ向ッテ加ヘテ居ル、吾々ハ此事實ヲ只今想ヒ浮  
 ベテモ、實ニ悲憤ノ涙ニ咽バザルヲ得ナイノデアリマス、又是ヨリモ更ニ甚シキハ彼ノ勞働運  
 動、無産階級ノ運動ニ對スル所ノ今日ノ取締ノ實際ハ如何デアリマス、實ニ恐ルベキ暴狀ヲ呈シ  
 テ居ルデアリマセヌカ、併ナガラ是ハ決シテ政府ノ趣旨デハナイ、政府ノ趣旨ニ非ズトモ、實  
 際今日局ニ當ッテ國民ト接觸シテ、總テノ法律ノ適用ヲ爲シ、取締ヲ爲ス所ノ官吏ハ斯ノ如  
 キ者デアアル、或ハ説ヲ爲ス者アリ、左様ニ官憲ノ信用ヲ疑フナラバ、總テノ立法ハ悉ク之ヲ躊  
 躇セネバナラヌト言フ人ガアル、私ハ是モ一ツノ眞理アル言葉ト思ヒマスガ、併ナガラ一面カ  
 ラ見マスレバ官吏ヲ總テ信用シ、官吏ノ爲スコトヲ悉ク信任ヲ致シマス上ニ於テ、吾々ハ殆ド  
 官憲萬能ノ渦中ニ投セラレテ、官憲ノ自由ニ蹂躪ヲサレルト云フヤウナ弊害ニ陥ル、是ガ即チ官  
 憲萬能ノ專制ノ思想デアリマス、官僚思想、專制政治ノ思想ガ、由來國民不平ノ種トナッテ、遂ニ  
 革命ノ端緒トナッタト云フコトハ歴史ノ上ニ明デアリマス、私ハ今日ノ官吏ガソレ程ニ横暴デア  
 リ、ソレ程ニ非常識デアルトハ考ヘマセヌケレドモ、現ニ今日ニ於テ吾々ガ實際目撃スル所、又  
 吾々ノ體驗スル所ニ依リマシテ、今日ノ官吏ニ向ッテ、ソレ程全幅ノ信用ヲ拂フコトガ出來ナイ  
 ノデアアルノミナラズ、本案ノ如キ明確ナラザル、即チ政府委員ノ間ニ於テモ意見ガ區々デアルト

云フガ如キ法律ガ實施サレマシタ、其結果ハ如何デアアルカ、恐クハ必然的ニ起ル所ノ無産政黨ノ  
 如キモノハ羽翼成ラザルニ當ッテ彼等ハ悉ク鎮壓サレナケレバナラヌト云フヤウナ悲ムベキ運  
 命ニ陥ルデアリマセウ、若シ又此法案ガソレヲ豫期シテ、サウ云フ運動ヲ防遏スルト云フコトデ  
 アルナラバ即チ止ム、苟モ普通選舉ヲ實行致シテ、國民ニ成タケ意思ノ自由ヲ伸張セシメヤウト  
 云フ政府ノ趣意デアアルナラバ、此法案ノ如キモノハ全ク其趣意ヲ滅却シタル所ノモノデアアル、此  
 點カラ考ヘマスレバ、政府ハ折角多年ノ懸案タル所ノ普通選舉ノ問題ヲ解決致シテ居ルト言ヒ  
 ナガラ、一面ニ於テハ其效果ヲ滅却シ、其目的ヲ阻止スル所ノ法案ヲ提出シタリト云フ譏ヲ免レ  
 ルコトハ出來ナイト思フデアリマス、諸君、吾々ハ此重大ナル時ニ當リマシテ、更ニ又本案ニ  
 付テ考ヘナケレバナラヌコトハ、此法案ガ其第一條ニ於テ既ニ私共ハ非常ナ不滿ヲ懷イテ居ル  
 者デアアル、即チ國體ノ變革、是ハ絶對ノモノデアリマス、國體ハ絶對ノモノデアアルガ、私有財産  
 制度ハ必シモ絶對ノモノデハナイノデアリマス、既ニ絶對ノモノト絶對ニアラザルモノトガ  
 茲ニ竝ベテアルノデアアル、而モ其取扱ヲ混同シ、其刑期ニ至ルマデ全ク之ヲ同一ニシテ居ルト  
 云フコトハ、吾々ガ國民的の信念ト致シテ居ル所ノ國體ノ觀念ヲ無視スルノ甚シキモノデアアル  
 ト思フノデアリマス、此點ニ對シテハ政友本黨ノ諸君ヨリ相當ナル所ノ修正ノ意見ヲ提出サレ  
 タルコトハ、吾々ハ敬意ヲ以テ之ヲ迎ヘナケレバナリマセヌ、更ニ又私ハ此第六條ニ於テモ同様  
 ノ不滿ヲ免ル、コトハ出來マセヌ、即チ此第六條ニ於キマシテ「前五條ノ罪ヲ犯シタル者自首シ  
 タルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除ス」トアル、私有財産ヤ或ハ政體ニ付テ罪ヲ犯ス場合ニ於キマ  
 シテハ、其間ニハ或ハ多少ノ情狀ヲ酌量スル餘地ガアリマセウ、併ナガラ絶對無限ノ國體ヲ否認  
 スル所ノ犯罪ニ對シテ、自首シタル者ハ之ヲ輕減シ或ハ免除スルト云フコトハ、私ハ甚ダ我が國  
 民ノ信念、國民ノ觀念ノ上ニ大ナル缺陷ノアルモノト、之ヲ不滿ニ思ハザルヲ得ナイノデアリマ  
 ス、諸君、吾々ハ大體斯ノ如キ理由ニ依リマシテ本案ニ反對ヲ致ス、併ナガラ今日ノ形勢ヲ以テ  
 之ヲ見マスレバ、或ハ吾々ノ反對ハ本院ニ於テ少數ヲ以テ否決サレルカモ知レナイ、ケレドモ私  
 ハ此壇上ヲ通ジテ茲ニ申シテ置キタイ、假令院內ニ於テ今日此案ガ破レマシテモ、普通選舉ノ愈



斷行サレタ曉ニ於テハ、諸君ガ自ラ進ンデ此法案ノ廢止ヲ提案ナサラナケレバナラヌ所ノ時機ノ來ルコトハ、左程遠クナイト云フコトヲ私ハ斷言致シマス、以上ノ理由ニ依テ私ハ本案ニ反對ノ意ヲ表スルモノデアリマス

横山金太郎君ノ贊成演説

私ノ論ノ歸結ハ委員長ノ報告ニ贊成ヲシ、二讀會ニ此案ヲ移スベカラズト云フ論ニ反對ヲ致スノデアリマス、併セテ政友本黨ヨリ後ニ御説明ニナルベキ修正案ニ反對ヲスルノ意味ヲモ加ヘルノデアリマス、然ラバ此處デ釋明致シテ置キマスガ、ソレハ湯淺君ガ當議場ニ於テ論ヲ御進メニナツタ内ニ含ンデ居リマスカラ、自然及ブカモ知レナイト云フ意味デアリマス、凡ソ此複雑瑣ナル世ニ處スルニ當リマシテ、誤解ト云フモノ程恐ロシイモノハナイト私ハ思フノデアリマス、事ノ實相ヲ審カニセザルガ爲ニ非常ナル過ヲ來タスト云フコトハ、世間往々見ル所デアリマス、今現ニ本案ニ付キマシテモ世間ノ人々ハ口ヲ開ケバ、動モスレバ本案ヲ目シテ惡法ナリト罵ラレルノデアリマス、殊ニ今日ノ如キ此芝公園ニ於テ本法成立ニ對スル反對ノ民衆大會ガ開カレテ居リマシテ、其ビラヲ讀ンデ見マスルト、眞ニ治安ヲ紊シ、社會ノ不安ヲ醸スハ支配階級ノ專制政治ニアラズヤト云フガ如キ意味ヲ表明セラレテ居ルノデアリマス、是ハデス、今日此議場ニ於テ湯淺君ガ先刻例ニ引カレマシタ、即チ論ノ冒頭ニ例ニ引カレマシタ過激思想取締法案ト云フモノト本案トガ、其内容實質ニ於テ同一ナリト誤解ヲセラレテ居ル結果デアルト私ハ信ズルノデアリマス、湯淺君ハ先程此壇上ニ於テ其過激思想取締法案ト本案トハ形ノ上ニ於テハ異ツテ居ル、又用語ノ上ニ於テハ同ジクナイケレドモ、其思想ト趣旨トニ於テ同ジデアルト、斯ウ申サレマシタガ、ソレガ即チ吾々ト湯淺君トガ見ル所ヲ異ニ致スノデアリマシテ、現ニ過激思想取締法案ハ一度貴族院ニ上程ヲセラレテ世ノ中ニ公ニナツタモノデアリマスカラ、私一々茲ニ之ヲ朗讀スルノ煩ハ省キマスガ、本案ト比較ヲ致シテ彼ノ過激思想取締法案ガ、實質ノ上ニ於テ如何ニ優劣ガアルカト申シマスレバ、私ノ見ル所ヲ以テ致シマスルト、アノ法案ハ確ニ此用語ノ

上ニ於テ本案ヨリモ極メテ明晰ヲ缺イテ居ッタノデアリマス、殊ニ又其他多クノ條文ニ於テ本案ヨリモ範圍ガ廣ク取締ルベク規定セラレテ居ッタト云フコトハ、疑ナイノデアリマス、若シアノ法案ニシテ通過ヲ致シマスレバ、世ノ所謂玉石共ニ焚カレナケレバナラヌ危險ガゴザイマシタ、故ニ之ヲ惡法ト致シテ阻止サル、コトニナツタノデアリマス、本法案ニ付テ論ヲ爲ス人ガアッテ申シマスニハ、其過激思想取締法案ニ反對ヲシテ置キナガラ、今日本案ニ贊成ヲスルト云フコトハ抑矛盾デハナイカ、撞著デハナイカト申サレマスルケレドモ、是ハ只今申上ゲマシタ如ク、内容實質ガ異ツテ居ルノデゴザイマスルカラ、彼ヲ排シテ此ニ贊成ヲスルト云フ事柄ハ、何等其間ニ支吾牴觸ハ無イノデアリマス、殊ニ御留意ガ願ヒタイノハ、若シ本案ニシテ成立致スコトニナリマスレバ、吾々カラ見マスルト本案ヨリモ其目的ノ範圍カラ申シマシテモ、手段ノ點カラ申シマシテモ、將タ刑罰ノ點カラ申シマシテモ、極メテ酷烈ニ失スルモノデアルト思ハレル所ノ震災直後ニ發セラレタ彼ノ治安維持令ナルモノガ、自ラ撤廢ヲセラレルト云フコトデアリマス、若シ湯淺君ノ期待セラレルガ如ク本案ヲ此議場ニ於テ否決ヲ致スト云フコトニテリマスレバ、依然トシテ彼ノ治安維持令ナルモノハ、其生命威力ヲ保ツテ居ルノデアリマス、是ガ爲ニ國民ノ被リマスル所ノ脅威ト不便不利トハ、甚大ノモノデアッテ、本案ト比較ニナツタナラバ、多クノ辯ヲ用ヒズシテ思ヒ半バニ過グルモノガアルノデアリマス、治安維持令ハ極メテ簡單デゴザイマスルカラ、私ハ此議場ヲ通ジテ國民諸君ニ懇ヘルノ意味ニ於テ、茲ニ全文ヲ朗讀致シテ置キマス「治安維持令ノ爲ニスル罰則ニ關スル件、出版通信其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス暴行騷擾其他生命身體若ハ財産ニ危害ヲ及スヘキ犯罪ヲ煽動シ」——是ハ本案ノ第四條ニ當ルヤウデアリマス「治安維持秩序ヲ紊亂スル所ノ目的ヲ以テ治安ヲ害スル事項ヲ流布シ、又ハ人心ヲ惑亂スルノ目的ヲ以テ流言浮説ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス」トアリマシテ、此「治安維持令」一條ノ國體、私有財産制度ト云フコトヲ掲ゲテ、其目的ヲ表示セラレタト云フ是ニ於テカ本案ノ一條ノ國體、私有財産制度ト云フコトヲ掲ゲテ、其目的ヲ表示セラレタト云フコトハ、此治安維持令ニ比較致シマシテ、犯罪ノ範圍ガ極メテ狹メラレタト云フコトヲ注意シナ



ケレバナラヌノデアリマス、同時ニ此十年以下ノ懲役ト云フト雖モ、本案ノ第一條ニハ、十年以下ノ懲役ガゴザイマスルガ、二條三條ニ至リマスト自ラ其刑ガ低下サレテ、七年以下ト云フコトニ相成ツテ居ル點ニ於テ、治安維持令ヲシテ生命ヲ保タシメルヨリモ、之ニ代ルニ本案ヲ以テスルト云フコトガ、層一層國民ノ幸福ノ爲ニ、數多國民ノ便利且ツ進歩デアルト、私ハ考ヘルノデアリマス、本案ノ期待致シマスル所ノ目標ハ何デアルカト申シマスナラバ「國體ヲ變革シ」トゴザイマスル點ガ國憲ヲ否定シ、法律ノ支配カラ解放セラレント致シマスル無政府主義者ヲ取締ル意味デアリマス、私有財産制度ノ否認ト云フ點ガ、現在ノ此經濟關係ヲ凌駕シテ、總テノ人ノ所有權ヲ奪ツテ、各人ヲ經濟的ニ平等化セントスル所ノ共產主義ヲ取締ラントスルニ外ナラヌノデアリマス、斯ノ如キ主張ガ實行セラレルト云フコトヲ認容スルコトニナリマシタナラバ、果シテ我國ノ安寧秩序ハ之ヲ維持スルコトガ出來ルデゴザイマセウカ、私ハ斷ジテ出來ナイト思フノデアリマス、若シ此意味ヲ世ニ所謂惡法ナリトシテ本案ヲ排撃セラレル人々ガ耳ニシ、且ツ理解セラレマシタナラバ、恐クハ成程ト首肯セラレル所ノモノガアルト私ハ信ズルノデアリマス、私ハ茲ニ斷言ラスルノデアリマス、所謂無政府主義者ト共產主義者ノ唱フル所ヲ、我國ニ實行シナケレバナラヌト唱ヘテ、本案ノ成立ニ反對スル人ガアッタナレバ、其人ハ恐クハ之ニ反對センガ爲ニ反對スル人カ、然ラザレバ無政府主義者若クハ共產主義者デハナイカト云フコトヲ實ニ戰慄恐怖ノ念ニ堪ヘナイノデアリマス、勿論本案ニ付キマシテハ此用語ニ洗練ヲ缺キマシテ、依然トシテ空漠性ヲ有シテ居ルモノガナイトハ申サレヌノデアリマスガ、併ナガラ其中ノ國體ト云フ文字ニ付キマシテハ、今日マデ委員會ニ於テモ、本會議ニ於テモ、何等之ニ向ツテ疑義ヲ挾ム人ハナカッタノデアリマス、即チ政府ノ說明ニ依リマス、國體ト云フ文字ハ、萬世一系ノ皇室ヲ奉戴致シテ居ル帝國ノ此國體デアアル、斯ウ申サレテ居リマシテ、一點ノ疑惑ヲ挾ム點ガ無イノデアリマス、又私有財産制度ト云フモノニ付キマシテノ說明ニ依リマスルト云フト、斯様ニ申サレテ居ルノデアリマス、私有財産制度ヲ根本カラ否認シテ共產主義ヲ行ハントスル、國家組織ノ大綱ヲ破壞セントスルガ如キ、結社云々ト說明サレテ居リマス、是ハ一條ノ說明デアリ

マス、仍テ考ヘマスルノニ此私有財産制度ト云フモノニ付キマシテモ、私有財産制度ト云フ其物柄ニ付テハ何等意義ノ不明瞭ナル點ハ無イト思フノデアリマス、即チ政府ノ說明スル所ヲ綜合考覈致シマスルト、現行ノ多クノ法令ニ依テ吾人ノ社會的生活ノ安定ヲ保障スベク作ラレタル所ノ規則ヲ指スノデアアル、苟モ日本ノ法制ハ、個人ノ身體生命ト財產、殊ニ權利ノ主體トナルベキ人ヲ保護スルト云フ意味ニ於テ出來テ居ル、此制度ハ舉ゲテ私有財産制度ニ外ナラヌノデアアル、斯様ニ說明セラレテ居リマシテ、其點ニ付テ何人モ否ヤヲ唱フル聲ハナカッタノデアリマス、サスレバ今日問題トナリマスノハ此私有財産制度其物ヲ否認スルト云フ「否認」ト云フ言葉ニ付テノ意義ガ不明瞭デアルト云フコトニ歸著ヲ致スノデアリマス、或ル人ハ此事實上私有財産制ニハ少シノ疑問ヲモ持ツコトガ出來ヌコトニナツテハイケナイデハナイカ、講究ヲスルコトヲモ批評ヲスルコトモ許サヌト云フ事柄ハ、ソレハ餘リ極端デアルト云フガ如キ論ヲ唱フル人ガアリマスケレドモ、併シ此思想ノ自由、研究ノ自由ト云フモノハ、尊重ヲ致シテ居ルノデアリマス、何等其自由ヲ認メナイデハナイ獨リ認メナイデハナイノミナラズ、其制度ヲ適當ノ狀態ニ於テ改廢ヲスル、變更ヲスルト云フコトモ是ハ許スノデアアル、唯法案ノ禁ゼント欲スル所ハ、其私有財産制度ノ根本ヲ否認致シテ、之ヲ破壞シテ共產主義ヲ行ハントスル者ヲ取締ルノニ外ナラヌノデアリマス、又實際ニ於テ之ヲ取締ラズ放置致シマシタナラバドウナルカ、即チ共產主義ヲ行ハント致シマスレバ、必然的ニ此憲法ト云フモノ、規定ニ反スルノデアリマス、憲法ノ二十七條ニハ所有權不可侵ノ規定ガアリ、僅ニ例外ト致シテ公益上必要已ムヲ得ザル場合ニ於テノミ、此所有權ヲ制限スルコトガ許サレテアルニ過ギヌノデアリマス、此點ニ付キマシテハ先刻前田委員長ヨリ委員會ニ於ケル委員ノ質問ニ對シテノ政府ノ答辯ヲ列舉セラレテ居リマス、或ハ土地ヲ國有ニスルトカ、森林ヲ公營ニスルトカ云フ例ヲ引キ來ツテ、簡明ニ說明ヲセラレテ居リマスカラ、私ハ再ビ言葉ヲ之ニ及ボシマセウケレドモ、要スルニ私有財産制度否認ト云フノハ、其土地ナラ土地ヲ國有トスルコトニ付テ、若シ前提ト致シテ賠償ヲ爲スト云フガ如キ觀念ガ伴ツテ居レバ、ソレデ宜シイノデアアル、又今日土地ヲ國有ニシ、明日山林ヲ公營ニスルト云フガ如キ



コトガ段々ニ出テ參ッタ際ニ、其今日、明日、明後日ト云フ此提議ガ彼此脈絡貫通致シテ居ッテ、其根柢ニ私有財産制ヲ否定スルト云フ觀念ガ伴ウタ時ハ、是ハ悉ク否認ヲスルモノト見ルノデアアル、若シソレ都市計畫ナドノ場合ニ於テ公益ノ爲ニ僅カ一少部分ノ土地ヲ沒收スルトカ、或ハ風俗壞亂ノ圖畫ヲ沒收スルトカ、若クハ火災ノ際ニ於テ一二軒ノ家ヲ火口ヲ切ルベク崩壊ヲスルト云フガ如キコトハ、縱シ代價ヲ拂ハズトモ、蓋シ公益上已ムヲ得ナイノデアアルカラ、是ハ私有財産制度否認ト見ナイノデアアルト釋明ガセラレテアリマシテ、要スルニ否認ト云フ點ニ付キマシテモ前田委員長報告ノ如ク、之ヲ各場合々々ニ實現セル事象ニ就テ、法律の常識判斷ニ訴ヘルコトニシテ、何等其適用ヲ誤ルノ虞ハナイト見テ、吾々ハ此私有財産制度否認ト云フコトハ、先ヅ肯定ヲ致シテ妨ゲナイモノト思フノデアリマス、ソレカラ凡ソ此公益上ノ見解ト云フモノニハ自ラ變化ガ生ジテ來ルモノデアアル、思想ト云フモノハ進歩スルモノデアアルカラ、將來社會ノ事情ガ變遷ヲ致シテ、國民全體ノ考ガ違ッテ來、或ハ此私有財産制度ノ否定ヲ認メナケレバナラヌト云フガ如キ場合ガ出來ルカモ知レヌガ、サウ云フ場合ニハドウデアアルカト云フヤウナ議論ヲ唱ヘタ人モアルノデアリマス、併シ是ハ其時ニ至ッテ國民ノ思想感情ガ爛熟ヲシテ、自ラ輿論トナッテ、サウシテ輿論ノ力ニ依テ私有財産ノ否定ヲ成就シナケレバナラヌト云フ場合ハ、是ハ已ムヲ得ヌノデアリマス、其時ニハ宜シク本案ノ加キ法律ヲ輿論ノ力ニ依テ廢止シテ、ソコデ自分ノ主張ト自分ノ思想ヲ實現スレバソレデ宜イト思フノデアリマス、凡ソ一國ノ法制ト云フモノハ其國ノ文藝ト同ジヤウニ、其國家社會ノ反射鏡ト云フテモ宜イノデアリマス、現在ノ程度ニ於キマシテ現ニ先年過激思想取締法案ガ出マシテ、以來ノ思想界ノ傾向ハ、諸君ドウデアリマス、所謂社會運動ト云フモノガ自然ニ烈強ニナッテ參リマシテ、歐洲大戰以來ノ狀態ハ私ガ改メテ申上ゲル迄モアリマセヌ、殊ニ今回日露ノ國交ガ恢復ヲ致シマシテ、露國ノ人若クハ其露國ノ思想ニ感染ヲ致シタ人ガ、我國ニ出入往來スルコトガ頻繁ニナリ、其條約ノ表ニ依リマスレバ露國ト露國ノ國家ノ恩惠ニ浴シテ居ル或團體ト、我が帝國トノ間ニハ條約ガ締結ヲサレマシテ、赤化ノ宣傳ハ自ラ禁止セラレテ居リマセヌケレドモ、露國民ニ對シテハ何等條約ノ效果ヲ及ボスコトハ出

來ナイノデアリマス、即チ自ラ此國內法ニ依テ之ヲ取締ルノ必要ガアル、是ハ恐ラクハ滿場ノ諸君ト雖モ御否定ニナルマイト思フ、即チ現在ヲ規スル意味ニ於テ遠キ將來ハ別ト致シテ、現在及近キ將來ヲ律スル意味ニ於テ、無政府主義並ニ共產主義ヲ取締ルト云フ必要ハ切實デアルト言ハナケレバナラヌ、或人ハ刑法ニハ現ニ此規定ガナク致シテ、本法ノ創成ヲ見ルニ至ッタノデアアルガ、之ヲ刑法ニ規定シテハドウカト云フ質問ヲセラレタ位デアリマスガ、此點ヲ深く注意ヲ要スルノデアリマス、現ニ刑法ニハ政府ノ轉覆トカ、其他朝憲紊亂ト云フヤウナ事ニ付テ可ナリ周密ナル注意ヲ致シ、緻密ナル規定ガ出來テ居リマスルニ拘ラズ、本法ニ於キマシテ禁止センコトヲ期待致シマスル事項ニ付テハ何等ノ規定ガナイノデアリマス、是ハ何ガ爲デアアルカト云フト、即チ其當時ニ於テハ其法律ノ出來マシタ當時ニ於テハ、今日禁壓セント欲スルガ如キ社會現象ト云フモノガ存在シナカッタカラデアリマス、之ニ依テ御考ニナリマシテモ凡ソ一國ノ法制ト云フモノハ遠キ將來ハ別トシテ、其現在並ニ近キ將來ニ律スベク之ヲ取締ル爲メニ成立實現スルモノデアリマス、此意味ニ於キマシテ私ハ本法業ノ成立ハ必要デアルト思フノデアリマス、殊ニ此法案ガ出來マシテモ刑法ノ總則ノ適用ヲ受ケマスル結果ト致シテ、合法的ニ、或種ノ論議ヲ進メマスルコトダケハ出來ルノデアリマス、此點ニ付テハ前田委員長ヨリ事詳細ニ御報告ニナッテ居リマスルカラ、繰返シマセヌケレドモ、要スルニ吾々議員ハ憲法ノ條章ニ基イテ上奏ヲ爲スノ權能ガアルノデアリマスガ、若シ眞ニ此社會ガ進歩致シ、諸君ノ中デ提唱セラル、ガ如キ思想ヲ日本ノ政治ノ上ニ實現シナケレバナラヌト云フ場合ニハ、多數ヲ以テ上奏ヲスレバ宜シイデハゴザイマセヌカ、其事自體ヲ上奏スルコトガ出來ルノミナラズ、其前ニ當ッテ若シ本案ノ期待致シマスル此刑罰ト云フモノガアルコトガ不便デゴザイマスナラバ、前途ニ當ッテ横ハル所ノ荆棘ヲ艾除スルト云フ意味ニ於テ、本案ノ撤廢ヲ企ルコトハ、恰モ掌ヲ指スガ如ク易々タルモノデアルト考ヘルノデアリマス、ソレカラ本案ノ私有財産制度ノ否認ト云フ文字、煽動ト云フ文字ニ付テ之ヲ濫用ヲセラル、虞ガアル、惡用ヲセラル、虞ガアル、言葉ヲ切ニシテ申シマスレバ、若シ此條文ヲ拉シテ行政干涉、若クハ司法干涉ヲセラル、ノ虞ガアルト主張セラル、人ガアル、是ハ御尤



モノ主張デアリマスルケレドモ、併シ此憂慮スベキ事柄ト云フモノハ獨リ本案ノミデハナイ、是マデ  
 ノ法制ノ上ニ幾ラモ紛ラハシイ所ノ用語ハアルノデアリマス、先刻湯淺君ノ御引用ニナリマシ  
 タ、朝憲紊亂デアルトカ、邦土ノ僭竊ナド、云フガ如キ文字モ、文字自體用語自體ニ於テ何ト致  
 シテモ空漠性ヲ有ッテ居ルコトハ疑ハアリマセヌ、併シ執法官ハ、實際ニ於テ之ヲナダラカニ運  
 用致シテ誤ッテ居ラヌデアリマセヌカ、吾々ハ進歩致シタル賢明ナル所ノ我が司法官ノ働キト  
 云フモノヲ認メルノデアリマス、必シモ諸君ノ今日御憂慮ナサル所ノ、所謂憂慮ハ、臆テ杞憂ニ終  
 リハシナイカト云フコトヲ信ズルノデアリマス、併ナガラ用語ノ不明ト云フコト、曖昧ト云フコ  
 トニ付テハ、無制限ニ之ヲ認ムル譯ニハ、參リマセヌ、ソコデ吾々ハ此用語ノ中デ極メテ曖昧デア  
 テ適用上危険ナモノト云フモノニ付テハ、之ニ向ッテ斧鉞ヲ加フルコトニ、斷ジテ吝ナラヌモノデ  
 アリマス、即チ此點モ委員長ヨリ御報告ニナリマシタ如ク、第一條ノ政體ト云フ文字ニ依テ其意味  
 ヲ表ハサントセラル、所ノモノハ、立憲政體ト云フコトデアリマスケレドモ、立憲政體ト云フ文  
 字ハ必シモ政體ト云フ言葉ハ直ニ立憲政體ト云フコトノミデハナイ、其他ニ行政司法ノ關係モ併セ  
 ス、即チ政體ト云フ言葉ハ直ニ立憲政體ト云フコトノミデハナイ、其他ニ行政司法ノ關係モ併セ  
 テ見ナケレバナラヌト云フコトハ、國法學ノ一頁ヲ研究シタ者ノ夙ニ是ハ承知シテ居ル所デア  
 リマス、ノミナラズ此點ニ付テノ政府ノ説明ト云フモノガ、實ハ一定ヲ致シテ居ラヌ、湯淺君ガ先  
 刻政府ガ此本案ニ對スル用語ニ付テ、説明ガ極メテ曖昧模稜デアッテ、一定シテ居ラヌト云フコ  
 トヲ言ハレマシタノハ、蓋シ國體ト云フコト、私有財産制度ト云フ點ヲ除キタル、政體ノ意味デ  
 アッタラウト私ハ思フノデアリマス、何トナレバ其他ノ部分ニ付キマシテハ、事明晰ニ答辯ガセ  
 ラレテ、其答辯ハ一定シテ居リマス、又吾々ハ即チ其政府ノ説明ヲ道理アルモノト致シテ肯定シ  
 テ居ルノデアリマス、此政體ト云フ點ニ付テ政府ノ説明ニ關シ唯一言申上ケテ置キマスルガ、政  
 府ノ説明ニ依リマスルト云フト、政體ト云フコトニ付テハ憲法ノ形式カラ申スナラバ、憲法ニ書  
 キ現シテアル各條項中、之ニ關係致スモノヲ言フノデアアル、獨リ代議士ヲ基礎トシタル立法府ト  
 云フ意味デハナイノデアリマス、唯是ハ變革ト云フコトニ結付ケテ御考慮ヲ願ヒタイ云々ト説明

セラレテ居リマス、是ハ即チ山岡政府委員ノ御答ニナッタ言葉デアリマスルガ、反面ニ於テ司法  
 大臣ト内務大臣ノ御答ニ依リマスルト、政體ト云フコトハ立憲政體ノコトデアアル、是ハ一般  
 念ニ於テ、立憲政體ト云フコトニ理解スルコトガ出來ルト答ヘラレテ居ルノデアリマス、右様  
 矛盾ヲ致シテ居リマス、實際ニ於テ此法律ガ成立チマシタ曉ニ、執法官ガ適用シマス場合ニハ、  
 恐クハ山岡政府委員ノ説明ノ如ク、裁判官ハ法律の基調ニ重キヲ置イテ取扱フニ非ズヤト云フ  
 コトヲ虞ル、ノデアリマス、要スルニ斯ノ如キ不明ナル用語ノ下ニ吾々忠良ナル國民ガ支配セ  
 ラル、ト云フコトハ、不安デアアルト云フ意味ニ於テ之ヲ削除スルニ至ッタノデアリマス、即チ吾  
 吾トテモ最モ用語ノ不明ナルモノニ付テハ、必シモ無秩序、無節制ニ之ヲ容ル、モノデナイト云  
 フコトヲ御承知ガ願ヒタイノデアリマス、而モ政府ノ此修正ガ可決スルコトアルニ於テハト云  
 フ假定ノ見地ニ立チマシテ、答ヘラル、所ニ依リマスレバ、勿論本案ノ期待スル所ノ目的、即チ  
 無政府主義、共產主義ヲ取締ルニ方ッテハ國體ノ變革ヲ禁ジ、私有財産制度ノ否認ヲ禁ズルト云  
 フコトニナレバ、稍目的ハ達セラル、ノデアリマス、或ハ恐ル多少政府ト云フ文字ヲ除カレタル  
 ガ爲ニ、逸スベキ或ル種ノモノガアラハシナイカト思ハレマスケレドモ、併シ是トテモ全然無罪  
 ノ人トシテハ扱フノデアリナイ、現在ニ行ハレテ居ル所ノ新聞紙法デアルトカ、出版法デアルトカ、  
 若クハ治安警察法ノ如キ法規ニ依テ之ヲ取締リ得ルトノコトデアリマス、此言明ヲ得マシテ、  
 吾々ニハ一層此政體ト云フ文字ヲ削ルト云フコトノ決心ヲ強ク致シタノデアリマス、今一ツハ此  
 手段ヲ不法ト云フコトニ制限シテ——私有財産制度ノ上ニ被ラスノ不法手段ヲ以テシタラ、  
 ドウデアアルカト云フ主張モアリマシタガ、此點ニ付キマシテハ前田委員長モ御報告ニナリマシタ  
 如ク、其不法手段ニ依ル場合ニ付テハ既ニ罰スベキ規定ハアルノデアアル、殊ニ國體ノ變革ナドニ  
 付テハ、罰スベキ規定ハアルノデアアル、即チ刑法ノ内亂罪ノ點カラシテ見ルコトガ出來ルケレド  
 モ、之ハ暴力ト云フ手段ニ制限ガアルノト國體其モノヲ直接ニ破壊セントスルノデアアル、併ナガ  
 ラ其暴力手段ヲ用キルト云フ前ニ當ッテ、其道程ニ當ッテ、之ヲ取締ラナケレバ自然ニ刑法規定ノ  
 其重キ罪ヲ犯スベク近接スルノ恐ガアル、ソコデ所謂嫩葉ニシテ茹ラザレバ斧ヲ入レルニ至ルト



云フ見解ニ出發シテ、其怖ルベキ傾向ガ現在ニ於テ生ジテ參ッテ居ルカラ、之ヲ取締ルト云フノデアリマス、是ハ吾々モ尤モデアルト思フテ手段ノ制限ニハ贊成シナイノデアリマス、最後ニ私ハ湯淺君ノ御論旨ノ中ニゴザイマシタ此國體ト云フコトハ絕對ノモノデアッテ、サウシテ私有財産制度否定ト云フコトハ絕對ノモノデアリマス、之ヲ二者共ニ同一條文ノ下ニ同一ノ待遇ヲスルト云フコトハ極メテ不權衡デハナイカト云フ論ガアリマシタケレドモ、私ハ前田委員長ヨリ一言加ヘラレタ下思ヒマスガ、國體其物ヲ直接ニ破壊スル場合ハ、自ラ規定ガアルノデアアル、國體ヲ直接ニ破壊スルマデノ間ニ紆餘曲折シタル所ノ、其道行キニ於テ結社ヲ爲シ、協議ヲ爲シ、煽動ヲ爲スト云フ者ヲ罰スルノデアッテ、此行爲ガ國家ノ法益ヲ阻害スルト云フ點ニ於テハ、私有財産制度ノ否認モ、國體ヲ變革スルト云フコトモ、結社ヲ爲シ加入スル其モノニ付テハ、何等ノ軒輕スル所ハナイノデアリマス、故ニ私ハ之ヲ同一ノ條文ノ下ニ置クト云フコトハ敢テ不適當デナイト思フノデアリマス、是ニ於テカカ私ハ論ヲ結ビマスル前ニ當ッテ、湯淺君ノ本案ヲ二讀會ニ移スベカラズト云フ論ニ付テ、最後ニ極ク斷片的ニ二御答致シテ置キマス、用語ガ不明デアルト云フコトデアリマシタガ、是ハ先刻私ガ申上ゲマシタ中ニ申シマスル如ク、用語ノ不明ハ政體ト云フニ文字ニアルノミデアリマシテ之ヲ削リマシタ、以上ハ湯淺君ノ御懸念ナルガ如キ虞ハ斷ジテナイノデアリマス、其次ニ本案ヲ警察官ナドニ於テ濫用セラレル虞レガアルト云フコトデアリマスケレドモ、是亦若シ濫用スル虞ガアルト云フコトニナリマスレバ、湯淺君ノ御論ノ中ニゴザイマシタ通り、治安維持法云々ト云フコトモゴザイマシタ如ク、既往現在ノ法制ニ於テモ矢張濫用セラレル虞ガアルノデアリマシテ、此濫用スルトカ、シナイトカ云フコトハ法制ノ罪ニアラズシテ法制ヲ運用スル人ノ罪デアルト言ハナケレバナラヌノデアリマス、ソレカラ現狀ヲ維持スルト云フコトハ日本ノ國家社會ノ進歩ヲ阻止スル所以デアルト云フコトデアリマシタガ、是ハ治安ヲ破壊シテマデモ、現狀ヲ打開シテ、進歩ヲ圖ラナケレバナラヌト云フ、此思想ニハ私ハ其鳴ヲスルコトハ出來タノデアリマス、ソレカラ本法ヲ惡法ナリト云フコトニ於テ、前ノ過激思想取締法案ト本法案トヲ比較セラレマシテ、惡法ト云フ色彩ハ本法ニ於テ層一層濃厚ニナッテ參ッタト申サ

レマシタガ、是ハ私先刻説明致シマシタ如ク、本法ト過激思想取締法案ト、何レガ優レリヤト云フコトニ付テハ、再ビ言葉ヲ加フルノ必要ハアリマセヌ、只ダ私ハ本法ガ大ニ優レリト云フ考ヲ持ッテ居ルト云フコトヲ明言スルニ止メテ置キマス、要ハ是ハ御論ノ相違ト致シテ特ニ駁撃ヲ加フルノ要ハナイト思ヒマス、ソレカラモウ一ツ自首致シタ時ニ其刑ヲ減免スルト云フコトガ、極メテ不適當デアルト申サレマシタケレドモ、此法制ハ此案ノ自首規定ノ如キハ、是ハ新シキ規定デハナイ、是マデ刑法ナドニモ幾ラモ此規定ガアリマシテ、殊ニ偽證罪ナドノ場合ニ於キマシテハ裁判ノ公正ラ期スル意味ニ於テ其裁判ヲ爲サヌ前ニ自首致シマシタラバ、本法規定ノ如キ刑ノ減免ヲ受ケル規定ガアッテ、是ハ寧ロ善良ナル性質ヲ有スル者ト致シテ實際家ノ歡迎ヘラレテ居ルノデアリマス、殊ニ本法ハ刑罰法デハゴザイマスルケレドモ、刑ヲ科スルト云フ事ガ唯一ノ目的ニ非ズシテ、成ベク此禍ヲ未然ニ防グト云フ思想ヲモ含メテ取締法トシテ出テ居ル法案ノ性質カラ、斯ノ如キ規定ハ特ニ必要切實ナモノデアルト思フノデアリマス、以上ヲ以テ私ハ委員長ノ報告ニ贊成ヲシ、二讀會ニ移スベカラズトノ議ニ反對致スモノデアリマス

武藤山治君ノ反對演説

諸君私ハ政府ガ本案ヲ御提出ニナリマシタ御意思及本案ノ目的トスル所ニハ全然贊成スル者デアリマス、然ルニ私ガ本法案ガ法律トナルコトニ反對スル理由ハ我國ノ治安ヲ維持スル方法ニ付テ、其緩急ノ上ニ政府ト所見ヲ異ニスルガ爲メデアリマス、近年我國ノ思想ノ動搖ノ甚ダシキ事實ニ付テハ、私ハ之ヲ認ムル者デアリマス、併ナガラ其思想ノ動搖ヲ來シタル原因ハ、過去幾十年間ニ互ル我ガ政治ガ國民經濟ヲ誤ッテ爲メデアルト思フノデアリマス、故ニ今日ノ思想ノ動搖ヲ防ガントセバ、吾々ハ先ヅ其根本ニ遡ッテ我ガ國ノ不經濟ナル政治ノ上ニ一大革新ヲ加ヘネバナラヌト思フノデアリマス、諸君私ハ去ル二日ノ本會議場ニ於ケル普通選舉法案ノ討議ノ際、憲政會ヲ代表セラレテ我ガ憲法史上ニ長ク印スル所ノ齋藤隆夫君ノ一大演説ヲ拜聽致シタノデアリマス、而シテ其齋藤君ノ御演説中危險思想ニ對スル齋藤君ノ御自信、其御意見ニ付テ



眞ニ私ハ傾聽シタノデアリマス、諸君齋藤君ハ斯ノ如ク述ベラレタノデアリマス「近來動モスレバ危険思想ヲロシシ、或ハ國民思想ノ惡化ナドト云フコトヲ唱ヘル者ガアル、是等ハ極メテ少數デアアル國家ノ大局ヨリ見マシタナラバ少シモ恐ル、ノ値打ハナイ、苟モ今日ノ時代ニ當リマシテ國家社會ノ上ニ何等ノ根柢ヲ有セザル思想ト云フモノハ健全ニ發達スル譯ハナイ、幼稚ナル所ノ思想、淺薄ナル所ノ思想乃至有害ナル所ノ思想ハ、一度思想界ノ戰場ニ暴サレタナラバ、立所ニ消滅シテシマフノデアアル諸君此御自信ニ對シテハ私共ハ眞ニ敬服シタノデアリマス、若シ齋藤君ノ此御意見ガ憲政會ヲ代表シタモノデアリマスナラバ、只今横山君ガ此處デ御述ニナッタ如ク反對セムガ爲ノ反對デアアルカ、若クハ共產主義者カ無政府主義者デアアルカナドト云フヤウナコトヲ述ベテ贊成セラレルコトヲ、憲政會ノ諸君ハ此壇上ニ於テ諸君ヲ代表スル所ノ代表者ニ依テ演說ヲサセテ、之ヲ御承認ナサルカ否ヤト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、諸君凡ソ一國ニ於ケル政治ハ、其國ニ於ケル國民ノ思想ニ大ナル影響ノアルモノデアリマシテ、一國ノ盛衰興亡ハ其國ノ政治ノ良否ニ依ルコトハ、古今ノ歴史ノ證明スル所デアリマス、今日我國ノ政治ハ命令法規ガ徒ニ煩雜デアリマシテ、行政上ノ手續ハ窮屈デ、面倒デ、一般國民ハ深ク之ニ惱ジテ居ルノデアリマス、我國民ハ政治ヲ簡易ニシテ、公ノ秩序ヲ害シナイ限リハ、日常ノ行ヒニ於テ今少シ自由ト愉快ヲ與ヘラレムコトヲ望ンデ居リマス、又我國民ハ我政治ノ徒ニ制度形式ノ末ニ傾イテ、國民生活ノ要點ニ少シモ觸レナイコトヲ嘆息シテ居リマス、全國ノ農民ハ農村振興ノ聲ヲ百度聽カサレルヨリモ、米ヲ賣ッテ買フ所ノ味噌ト醬油ト一錢デモ安イコトヲ望ンデ居ルノデアリマス、又都市ニ於ケル労働者ハ將來ニ於ケル種々ノ労働法規ヲ制定スル約束ヲ承ルヨリモ、現在其身邊ヲ襲ヒ來ル所ノ失業ノ苦シミト餓渴ヨリ免レンコトヲ禱ッテ居ルノデアリマス、然ルニ我國ノ政治ハ年々無數ノ法規命令ヲ濫發シテ、國民ノ自由ヲ奪ヒ、殊ニ之ヲ經濟上ヨリ見マストキハ、近年著シク失政ヲ重ネテ、國民全體ニ我國ノ政治ナルモノハ、一部少數ノ利己ヲ事トスル人ミノ爲ニ依テ動かサレテ居ルノデアアッテ、國民大多數ノ利益幸福ヲ顧ミナイモノデアリナイカト云フヤウナ疑惑ヲ起サレテ居ルノデアリマス、而シテ其結果國民ニ反感ノ念ヲ醸成セシメテ、

思想ノ動搖ガ甚クナッタノデアリマス、諸君徳川時代ニ於キマシテハ、盲人ノ貸金ヲ若シ倒シタ者ガアルトキハ、嚴刑ニ處セラレ、盲人ノ貸金ハ徳川時代ニ於テハ深ク保護サレテ居ッタノデアリマス、然ルニ今日立憲政治ノ時代ニ於キマシテ、中産以下ノ人々ノ汗水垂シテ儲ケタ中ノ其ノ剩餘ヲ預ケタ郵便貯金ヲ、安イ利息デ政府ハ之ヲ預ッテ、サウシテ低利資金ナド、稱シテ、種種ノ一部ノ人々ニ不確實ナル方面ニ迄貸出スト云フヤウナ今日ノ惡イ政治ハ、私ハ正ニ、今日ノ思想ノ動搖ヲ起シタ所ノ根本原因デアアルト私ハ思フノデアリマス、殊ニ極メテ卑近ナ話デアリマスケレドモ、皮膚病ノ専門ノ醫者ハ皮膚ニ對シテ藥ヲ塗ルト云フコトニ付テ、深甚ノ注意ヲ拂フノデアリマス、此皮膚ニ塗ル所ノ塗藥ヲ一度誤ッタナラバ、英語デ申シテ之ヲ「イルリテ」ト「スル」ヲ恐レルノデアリマス、即チ皮膚ガ怒ッテサウシテ皮膚ガ非常ニ之ニ反撥スルト云フコトヲ恐レテ、皮膚病ニ藥ヲ塗ルト云フコトニ付テハ非常ニ注意ヲスルノデアリマス、殊ニ其皮膚病ハ外面ニ於ケル一ツノ病氣ニ止マラズシテ、體內ノ病毒ヨリ發生シテ居ルトキニ於テ、皮膚病ニ對スル塗藥ハ最モ深キ注意ヲ拂ハナケレバナラヌノデアリマス、今政府ハ此體內ノ病毒ヨリ發シテ居ル皮膚病ヲ癒サンガ爲ニ、茲ニ治安維持法ヲ提出セラレタノデアリマスケレドモ、私ハ此點ニ付テ諸君ガ十分御考慮ヲナサルベキ問題デアリナイカト思フノデアリマス、私ハ過日總理大臣ニ質問ヲ申上ゲテ、加藤首相ノ御考慮ヲ願ッタノハ實ニ此點デアリマス、其節申述ベマシタ通り、我國ニハ憲法ノ本旨ニ反シ、議會ノ知ラナイ所ノ人ヲ、一年以下ノ禁錮ニ處スル明治二十三年發布サレタ法律八十四號ガアッテ、行政官ノ發スル命令ノ中ニハ、自由ニ之ガ加エラル、ノデアリマス、即チ政府ノ制定スル命令中種々ノ體刑ヲ加ヘルコトガ出來ルノハ實ニ此法律ニ依ルモノデアアッテ、吾々ガ議會ニ於テ議決シナイ、法律ニ依テ之ガ行ハレテ居ルノデアリナイノデアリマス、又世界文明國中、我國ノ如ク廣大ナル土地山林ヲ持ッテ居リ、又特殊銀行ナド、稱シテ非常ニ大ナル金融ノ力ヲ政府ガ持ッたり、自ら鐵道ヲ營ミ、其他種々ノ官營事業ヲ營ムト云フヤウナ政府ハ、文明國ノ政府ニ於テハ一ツモナイノデアリマス、又政府ハ多クノ認可權ヲ持ッテ居ル、殊ニ此利權ニ對スル認可權ヲ有シテ居ルノハ、日本政府ニ限ッテ居ッテ、世界文明國ノ政府デ利權ノ認可



可權ヲ行政官ガ勝手氣儘ニ取扱フト云フ國ハ何處ニモナイノデアリマス、諸君英國デハ大臣ガ停車場ヘ往復セラレル場合ニ於キマシテ、一人モ送迎者ガナイノデアリマス、首相「ボールドウキーン」ガ倫敦ノ停車場ヘ参リマシテモ、一人モ送迎者モナイシ、迎ヘル者モナイノデアリマス、然ルニ今日我國ニ於テ大臣ノ送迎ノ甚シキコトハ、全ク政府ノ持ッテ居ル所ノ廣大ナル權力、豐富ナル財力ノ前ニ送迎者ガ頭ヲ下ゲルノデアリマス、若シ今日大藏大臣ヲ訪問スル人々ノ名前ヲ公表サレタナラバ多クノ人々中ニハ私ハ濱口藏相ヲ憐マス人々ガ少クナイト信ズルモノデアリマス、是レ即チ今日我國ノ政治ナルモノガ極メテ廣大ナル權力ト、種々ノ財産ヲ持チ金融ノ權ヲ持ッテ居ルガ爲ニ、我國ノ政治ガ稍モスレバ腐敗ニ陥ルト云フ根本原因デアルト思フノデアリマス、米國ノ如キハ、彼ノ有名ナル「ルーズヴェルト」大統領ニ依テ、米國ノ政界ガ廓清サレタノデアリマス、英國ニ於キマシテモ百數十年前政治ノ上ニ大革命ガ施サレタノデアリマス、今日我國ニ於テ最モ急要ナルハ、治安維持法ノ制定デナクシテ、我ガ國民思想ヲ動搖セシムルニ至ッタ我國政治ノ此不公平、不眞面目、不經濟ナ病源ニ向ッテ斧ヲ揮フコトデアルト思ヒマス、然ルニ今日マデ我ガ政治家中、此根本ニ向ッテ大改革ヲ加ヘントシタ人ハ一人モ無イノデアリマス、諸君、官僚政治家ノ不可ナル所ハ、國民ノ利益幸福ヲ犠牲ニシテモ自己ノ權力ヲ擴大セントスル點ニ在ルノデアリマス、立憲政治家ノ本領ハ、成ルベク自己ノ權力ヲ狭メ、國民ニ自治ノ精神ヲ與ヘ、國民ヲシテ國家公共ニ對スル義務ノ觀念ヲ抱カシムルニ在ルノデアリマス、然ルニ近時政黨内閣ノ世トナリ、立憲政治家ガ政治ヲ行フ時トナリマシテモ、其施ス所ノ政治ハ單ニ制度形式ノ上ノ變化ニ止マリマシテ、其實質ハ毫モ官僚政治家ト異ナル所ガナイノデアリマス、勿論其點ニ付テハ單ニ政治家ノミヲ責ムベキデハナイノデアリマス、國民モ亦重大ナ責任ガアルト思フノデアリマス、併ナガラ私ハ我ガ思想ノ動搖ヲ防ガントセバ宜シク今日ノ如キ煩瑣ナ政治ヲ今少シク簡易ニシ、今日ノヤウナ不經濟ナ政治ヲ今少シク經濟的ニ改メテ、サウシテ此國民ノ思想ノ動搖ヲ防グ外ハナイト信ジマス、之ヲ爲サズシテ斯ノ如キ法律ヲ制定スルトキハ、當ニ其目的ト背馳スル結果ヲ生ズルト云フコトヲ憂フルノデアリマス、諸君、私ハ本法案ガ實行サレテ、我ガ

國家ノ爲ニ最モ不利ヲ齎ラス點ヲ一言申上ゲテ此論ヲ結ビタイト思ヒマス、諸君、此治安維持法ノ最モ不可ナル點ハ、善人ヲ不安ニ置クコトデアリマス、即チ此法律ガ制定サレタトキニハ、善人ハ極メテ不安ノ地位ニ置カル、ノデアリマス、試ミニ第五條ニ斯ウ云フ事ガアリマス、「第一條第一項及前三條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其他ノ財産上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」ト云フコトガアリマス諸君、成程此法律カラ見マシタナラバ、明ニ罪ヲ犯スヲ目的トスル場合ニ限ッテ居リマス、併ナガラ實際上ニ於テ此法律ヲ運用スル場合ニ於テハ、人ニ金品ヲ今日供與シテ、明日其人ガ共產主義者ニ思想ヲ變ヘタ場合ノ其間ノ取扱ガ、諸君如何ニ之ヲ明カニスルコトガ出來ルノデアリマスカ、結局裁判デ無罪ニナツテモ一時疑惑ヲ受ケルコトハ………縦シ此事ガ法律上明カデアリマシテモ、人ノ心ノ脅威ヲ感ズル點ガ、法律ニ明カデアアルカラト云フテ人ハ安心スルモノデハナイノデアリマス、今日諸君、世ノ中ニ於ケル多クノ人々ハ、慈善ノ目的ヲ以テ多クノ人々ニ金錢ヲ供與シマス、此法律ガ通過スルトキハ、世ノ中ノ善人ニ脅威ヲ與ヘ、總テ人々ハ危險ヲ感ジ、金錢上ノ慈善行爲ニマデ大影響ヲ及ボスト思フノデアリマス、次ニ本法案ノ不可ナル點ハ、知識階級ニ對シテ不安ヲ與ヘルコトデアリマス、如何ナル國ニ於テモ知識階級ニ不安ヲ與ヘル法律ヲ制定シテ其國ガ亡ビナイモノハ歴史上一ツモアリマセヌ、斯ノ如ク思想ノ動搖スル根本ニ向ッテ斧ヲ揮ハズシテ、唯枝葉末節タル思想ニ對スル此維持法案ヲ制定シ、徒ニ善人ヤ知識階級ニ向ッテ不安ヲ與フルガ如キハ、一國ノ政治ニ於テ是レ以上不可ナルモノハナイト考ヘマス

山崎達之輔君ノ贊成演説

私ハ只今議題トナツテ居リマスル治安維持法案ハ第二讀會ニ移スベシトスル意見ヲ持ッテ居ル者デアリマス、此案ニ對シマシテハ世上随分ヤカマシイ議論モアリマシテ、先刻委員長ヨリ御報告モアリマシタ通りニ、特別委員會ハ數日ニ互ッテ非常ニ面倒ナル質問應答ヲ重ネラレタノデアリマス、併ナガラ既ニ特別委員會並ニ當議場ノ御議論ニ依リマシテ、大體此法案ニ對スル議論ノ要







云フモノハ、私ハ消滅スルデアラウト思ヒマス、今日政治ヲ論ゼラル、方、法律ヲ論ゼラル、方  
 ハ、固ヨリ思想運動ニ從事セラレル人モ、又社會改善ニ力ヲ盡サレル人モ、先ヅ以テ我が憲法  
 ノ大精神ヲ篤ト御諒解ニナルコトガ必要デアリマス、枝葉末節ノ——上訴權ガドウデアアル、議會  
 ノ審議權ガドウデアアルト云フガ如キハ、憲法ノ大精神ヲ忘レタル枝葉末節ノ議論ト私ハ思フノデ  
 アリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ、私ハ本案ニ賛成ヲ表スル者デアリマス、併ナガラ私共ハ政治  
 ノ進歩、文明ノ向上ヲ希望シ、又社會組織ノ改善、産業制度ノ刷新ニ對シマシテハ、其緊切ナルコト  
 ヲ痛感スル者デアリマシテ、今後社會政策ノ實行ト云フコトガ恐ラク政府ノ中心問題デアラウ  
 ト云フコトヲ信ズル者デアリマス、即チ飽迄思想、言論ノ自由ヲ尊重シ、又社會改善ノ發達ヲ熱  
 望致シマスル上ニ於テハ、敢テ人後ニ落チザル積リデアリマス、併ナガラ此建國ノ大本、歴史ノ  
 精華ニ基ク崇高森嚴ナル我が國體ト、立國ノ基礎、國民ノ信念ニ基ク社會組織ノ根本制度ニ對シ  
 マシテハ、斷乎トシテ之ヲ確守シ、擁護シナケレバナラヌト思フノデアリマス、即チ進ムベキハ  
 進ミ、守ルベキハ守ルト云フコトハ、之ガ實ニ政治ノ要道デアルト私ハ信ズルノデアリマス、簡  
 單ナガラ私ノ賛成ノ理由ヲ申シマス

坂東幸太郎君ノ反對演說

私ハ遺憾ナガラ此原案竝ニ委員長ノ報告ニ對シテハ反對スル者デアリマス、先ヅ第一私ガ考ヘ  
 テ見タイコトハ、斯ノ如キ特別ナル法規、而モ其内容ガ非常ニ重ク刑罰ヲ課スル所ノ法規ヲ作ル  
 場合ニ當リマシテハ、其必要ナル所以ヲ十分ニ社會ニ公開スル必要ガアラウト信ジテ居ルノデ  
 アリマス、其理由ハ過日政府ハ屢本會議或ハ委員會ニ於テ、共產黨事件ニ類スルヤウナコトノ御  
 發表ガアリマシタ、秘密會ヲ以テ——併ナガラ私ノ考ヘマス所デハ、是等ノ理由ハ尙ホ斯ノ如キ  
 重大ナル法案ヲ作ル所ノ理由トシテハ、非常ニ薄弱ナヤウニ考ヘルノデアアル、先ヅ其一例トシテ  
 申シマスルガ、政府ガ金科玉條トシテ居ル事件ノ其一ツ、ソレハ丁度私ノ選舉區デ起ツタ所ノ事  
 件デアアル、ソレハ、鎖斷社ト稱スルモノデアリマスガ、政府當局ノ説明ニ依リマスルト、此鎖ヲ斷

ツ社ト云フモノヲ殆ド共產主義或ハ無政府主義ノ結社ノ如ク言ハレタノデアリマス、然ルニ何  
 ゴ圖ラン、ソレハ娼妓ノ自由廢業、娼妓ノ鎖ヲ斷ツト云フ意味ノ結社デアッタノデアリマス、サウ  
 シテ其事件ハ實ニ中央ノ警保局デハ重大ニ扱ッテ居リマスケレドモ、私ハ直グ近所ノ人間デアアル、  
 旭川デハ何等問題ニシナイ所ノ事件デアアル、サウシテ過日ソレ等ノ人ハ六箇月許リノ禁錮ニ處セ  
 ラレマシタガ、而モ之ヲ控訴シテ居リマシテ、一般ノ旭川ノ市民ハ是ハ當然無罪ニナルベキ性質ノ  
 モノデアアルト斯ウ云フコトヲ唱ヘテ居ル、此所ニ書面モアリマスガ——斯ノ如ク此問題ニ關聯  
 致シマシテ、第七師團ノ小泉少將暗殺未遂事件ト云フモノガ、是ハ全然事實無根デアリマシテ、  
 不起訴ニナツタ、斯ノ如ク其他ニモ澤山政府當局ハ擧ゲテ居リマスルガ、ソレハ殆ド全部新聞紙  
 上ニ出タ事件デ、重イ者デモ一年カ、ソコヲ刑罰ニ過ギナイノデアアル、斯クノ如キ微細ナルモ  
 ノヲ恰モ大ナル事件ノアルガ如ク秘密會ニ處シテ、サウシテ國民ノ公正ナル輿論ヲ聽カヌト云  
 フコトハ、實ニ政府ノ意思ガ奈邊ニアルカ、之ヲ私ハ疑フノデアリマス、ソレハ若槻内相ノ御説  
 明ノ中ニモ、無政府主義、共產主義ガ非常ニ跋扈シテ居ルカノ如ク唱ヘテ居リマシテ、而モ其内  
 容ニ至リマシテハ以上ノ如ク極メテ微細ナルモノデアリマスルガ故ニ、而モ直ニ十箇年ノ禁錮  
 ニ處スルガ如キ、サウ云フ重イ刑罰法規ヲ作ルト云フコトハ、却テ國民ノ思想ニ於テ大ニ吾々ハ  
 考ヘテ見ナケレバナラヌ點ト思フノデアリマス、又屢本會議若クハ委員會ニ於テモ質疑應答ガ  
 アリマシタ如ク、此法規ハ如何ニ辯ジマシテモ、其法文ハ明確デハナイト云フコトハ、是ハ一點疑  
 ノナイコトデアアル、勿論國體ノ變革ト云フコトニ付キマシテ、若モ日本ノ國ヲ君主國カラ共和國  
 ニスル、斯ウ云フコトガアルニ付キマシテハ、誰一人トシテ全然サウ云フ説ヲ否認シナイ者ハア  
 リマセヌ、併ナガラ實際ニ當リマシテハ憲法ノ中ノ條文或ハ軍隊ノ統帥權ニ關シ、若クハ宣戰、講  
 和、其他天皇ノ大權事項ニ關シ、憲法ノ改正論ヲ主張シタ場合ニ於テ、是ハ見様ニ依テハ矢張  
 國體ノ變革トシテ手加減サレル憂ガアルト云フコトハ、今カラ考ヘテ居ラナケレバナラヌノデ  
 アル、斯ウ申シマスルト、ソレヲ適用スル所ノ役人ノ罪デアアル、斯ウ申シマセウガ、諸君モ吾々モ  
 其役人ガ法律ヲ濫用シタガ爲ニ、非常ナル苦ミヲ受ケタコトガ度ニアリマス、私ハ大正四年以來



普選論ヲ唱ヘテ居リマスガ、而モ一時ハ過激論者トシテ「ブラック、リスト」ニ載ッタ、大正十四年ニ東京ニ參リマシタガ刑事事カ踵イテ居ッタ、而モ私ハ内地ニ於テハ右傾派ノ人間トシテ、自ラ國家主義ヲ宣傳シテ居ル所ノ者デアアル、而モ時ノ政府ノ怒ニ觸ル、ヤ左傾派トシテ「ブラックリスト」ニ載セラレタ例ガアル、此例カラ考ヘマシテモ司法官竝ニ警察官ガ、若槻内相ノ如キ立派ナル人格者ナラバ決シテ間違ヒハナイケレドモ、サウ云フ譯ニハ往カス、故ニ此法律ガ濫用セラル、虞ガアルト云フコトハ、是ハ一見自明ノ理デアアルト考ヘルノデアリマス、又議會ノ否認論ヲ取締ルト云フ御説ガアッタサウデアアル、私ハ之ニ付テ一言申シテ見タイ、議會否認論ハ震災前迄ハ相當ニ勢力ガアッタノデアリマス、私ハ國家主義者ノ見地カラ致シマシテ、自分ノ友人ニモ議會否認論者モアリマシタ、併ナガラ如何ナル機會ニ於テモ、議會否認論ニハ眞向ニ反對シテ來タ人間デアアル、所ガ彼ノ震災前カラ見レバ、議會否認論ハ非常ニ下火ニ成ッテ、今ヤ國家主義ガ非常ニ盛ニナッテ來タノデアアル、彼ノ大正十一年過激思想取締法案ノトキニ比較致シマシタナラバ、此過激ナル思想ト云フモノハ餘程弱クナッテ居ルト云フコトヲ、私ハ堅ク信ジテ疑ハナイ、議會否認論ノ如キハ一種ノ政治思想ノ問題デアルト考ヘル、政治思想ノ問題ハ宜シク思想ヲ以テ對抗スベキデアアル、私ハ思想ヲ以テ之ニ對抗シ、今ヤ自分ノ主張ガ勝ッテ居ルト信ジテ居ル、横山君モ言ハレマシタガ、如何ニ辯ヲ弄シマシテモ、二三年前ヨリハ今日ノ方ガ確ニ思想ハ穩健ニナッテ居ルノデアアル、尠クトモ議會否認論ト云フモノハ、今ヤ下火ニナッテ居ルト云フコトハ私ハ斷言シテ憚ラヌノデアアル、併ナガラ此議會ノ否認論ト云フコトニ付テモ尠クトモ三個ノ觀察ガアルノデアアル、ソレハ下カラ所謂人民側カラ過激的ニ議會ヲ否認スルト云フノモ是モ一ツデアアルケレドモ、政治家ガ或一ツノ政治ノ理想ニ基イテ其説ヲ唱フルノモ一ツデアアル、又一ツハ議會ガ或ハ遠キ將來ニ於テ如何ナル形勢ニナルカモ知レヌ、其時ニハ斯カル議會ヲ置クヨリハ、寧ロ所謂君主獨裁政治ト云フヤウナ一ツノ意味デ、上カラ議會ヲ否認スルヤウナ意味ノ説ガ起ルカモ知レヌ、尠クモ三個ノ場合ヲ私ハ想像スルノデアリマス、然ルニ之ヲ一括シテ議會否認論ナルガ故ニ、是ハ國體ヲ變革スルトカ、若クハ政體ヲ變革スルモノデアルト斷ジテ、之ヲ國賊扱ニスルト云フコト

トハ、少シク早計デアアルマイカト考ヘル、殊ニ又今後我國ノ重大問題トナルベキハ、朝鮮、臺灣ノ問題デアラウト思ヒマス、此朝鮮、臺灣ノ問題ニ付キマシテモ、或ハ非常ニ廣キ範圍ノ意味ノ自治權ヲ主張シタ場合ニ、是モ若シ此法規ヲ濫用スルナラバ、矢張國體ノ變革、政體ノ變革問題トシテ之ヲ取締ルト云フコトニナル、然ラバ朝鮮臺灣ト云フ所ノ日本ニ於テハ實ニ大ナル問題デアアル、之ニ向ッテ益油ヲ注グト云フ結果ヲ生ズルノデアリマス、此點ハ實ニ吾々ハ重大ナル關係ヲ持ッテ居ルト思フノデアアル、次ニ私有財産ノ否認デアリマスガ、先程山崎君モ言ハレマシタガ、併ナガラソレハ少シ徹底シナイ點ガアル、私有財産ノ否認ト申シマシテモ、合法的アリ不法アリ、或ハ任意的ニ否認スルト云フ説モアル、合法的ノ否認ト云フコトハ確カ政府モ答辯ノ中ニ在ッタヤウニ考ヘル、政黨ガ院外ニ於テ合法的ノ手段ニ依テ、或意味ノ財産否認ヲスル、是ハ有り得ベキコトデアルト云フコトヲ政府委員モ言ハレタノデアアル、然ルニ山崎君ハ、ソレハ有り得ベカラザルコトニ申シマシタガ、私ハ山崎君トハ全ク意見ヲ異ニスル、是等ノコトハ是ハ合法的デアル場合ニハ、即チ政黨ガ其政綱トシテ、或ハ其他ノ手段ニ依テ、之ヲ主張スル場合ニハ、其幾部分ハ政府ガ認メテ居ルト云フニ拘ラズ、之ヲ議院ノ中ニ於テ合法的ノ私有財産ノ否認ハ有り得ベカラザルト云フコトハ、是ハ一大矛盾デアルト言ハナケレバナラヌ、私ハ必シモ輿論ニ追隨スル者デアアリマセヌガ、代議政體ハ申スマデモナク輿論政治デアアル、故ニ追隨ハ致シマセヌケレドモ、輿論ノ趨向ハ須ク冷靜ニ之ヲ見ル必要ガアラウト考ヘル、然ルニ本問題ニ對スル輿論ノ趨勢ヲ見マシテ、少クトモ中央ノ新聞ノ殆ド全部ハ反對ノ意思ヲ表明シテ居リマス、又學者モ過半數ハ之ニ反對シテ居ルノデアアル、サウシテ勞働者モ——地方ハ知リマセヌガ、先ヅ東京邊リデハ是モ少クトモ過半ハ反對ノ意思ヲ表明シテ居ルノデアリマス、重ネテ申シマス、私ハ決シテ輿論ニ追隨スル者デアアリマセヌ、併ナガラ今日此輿論ノ趨勢ハ斯ノ如キモノデアルト云フコトヲ私ハ斷言シテ憚ラヌノデアアル、次ニ此法律ハ極メテ誤解シ易イ所ノ法律デアアル、斯ウ申シマスレバソレハ誤解ヲスル方ガ惡イト屹度申スノデアリマセウ、併ナガラ諸君、此誤解ヲ解イテ輿論ヲ徵シテ適當ナル時機ニ於テ誤解ナシニ作ッテモ遅クハ



ナイデヤアリマセヌカ、作ラネバナラヌ所ノ此事件、ソレヲ天下ニ公表シテ、サウシテ國論ノ歸スル所ヲ見テ、ソレカラ作ッテモ少シモ遅クハナイト私ハ信ジテ居ルノデアアル、諸君誤解ハ實ニ恐ルベキモノデアアル、故ニ其誤解シタ者ガ惡イトハ申シナガラ、其誤解ガ國民ヲ擧ッテ或ハ數十萬數百萬ノ者ガ誤解ヲシタナラバ、或場合ニハ社會動亂ノ原因トモナリ、又實ニ此社會ニ非常ナル禍ヲ醸スト云フコトハ、是ハ私ガ論ズルマデモナイコトデアアル、先程申シマシタ如クニ、司法官ヤ警察官ガ現在ノ政府當局ノ如クニ、殊ニ内務大臣ノ如クニ、誠ニ立派ナ人格ノ所有者デアラナラバ、私ハ必シモ反對ハシナイ、ケレドモ數十萬ノ司法官、數十萬ノ警察官ハ、必シモ全部サウトハ申サレヌ、ソコガ即チ實際問題トシテ非常ニ危険ガ存在シテ居ル所デアラウト考ヘル、況ヤ今日ノ如キ立憲内閣ナラバ宜シイガ、或ル場合ニハ此反動的ノ官僚内閣ノ出現モ考ヘテ見ナケレバナラヌ、若シ不幸ニシテ將來日本ニ反動的ノ内閣ガ起ッタ場合ニ於キマシテハ、此法律ハ濫用セラレルト云フコトハ、殆ド火ヲ賭ルヨリモ明カデアアルト私ハ思フ、斯ノ如キ此法律ハ、其無政府主義、共產主義ヲ取締ルト云フコトニ付キマシテハ、其主意ニ於テハ決シテ反對デハナイガ併ナガラ國民ノ十分ノ諒解ガ得テ居ラナイ、又一面ニハ確ニ濫用セラレル危険ガ存在シテ居ル、ソレハ條文ガ不明確ノ故デアアル、故ニ十分ニ國論ヲ徵シテ、サウシテ内容ヲ公開シテ國論ノ趨ク所ニ依テ、ドウシテモ斯カル法律ヲ作ラナケレバナラヌトシタナラバ、明確ナル法律ヲ作ル方ガ宜シイト考ヘル、先程横山君ハ此法律ニ反對スル者ハ、ソレハ反對センガ爲メノ反對カ、或ハ無政府主義者カ、共產主義者デアアルト申サレマシタガ、私ハ横山君ノ大膽ニ向ッテ或ル意味ノ敬意ヲ表シマス、併ナガラ横山君ノ人格ノ爲ニ、ソレヲ非常ニ惜ム、私ハ右傾派ノ一人デアアルコトヲ斷言シテ憚ラヌ、右傾派ノ一人デアアリマスガ、決シテ無政府主義、共產主義デアアリマセヌ、斯ノ如キ法律ヲ作ルト云フコトハ、實際ニ於テ五百萬ノ労働者ヲシテ誤解セシメル、誤解セシメタル結果ハ思想ヲ惡化サス所ノ傾ガアル、斯ウ云フ考ヲ持ッテ居ルノデアアル、徒ニ反對センガ爲メノ反對ナリト貶シ、或ハ無政府主義者、共產主義者ナリト云フコトハ、餘リニ大膽過ギルト私ハ考ヘルノデアアリマス、先程申シマシタ如クニ、今日ノ政治思想界ノ現状ハ、確ニ震盪以

前ヨリハ穩和トナッテ居リ、又議會否認論モ以前ヨリハズット下火ニナッテ居ル、故ニ今俄ニ斯カル不明確ナル法律ヲ設ケ、サウシテ労働者ノ思想或ハ考ヲ誤ラシメルヨリハ寧ロ國論ノ歸スル所ヲ知リ内容ヲ明確ニ發表シテ、サウシテ靜ニ完璧ナル所ノ法律ヲ作ル方ガ、實際思想善導ノ意味ニ適フト思フノデアアリマス、私ハ斯カル意味カラ致シマシテ、此法律案並ニ委員長ノ報告ニ反對シ、適當ナル時機ニ於テ立派ナル完全無缺ナル法律ヲ作ル方ガ宜シイト云フ意見ヲ持ッテ居ルノデアアリマス、之ヲ以テ私ノ意見ト致シマス

板野友造君ノ賛成演説

無政府主義ハ姑ク措キマシテ、共產主義、此共產主義ハ學問上ノ研究問題トシテハ、十分ノ價値ガアリマセウ、之ヲ社會學ノ上ヨリ見、之ヲ經濟學ノ上ヨリ見テ、種々ノ方面カラ研究スベキ問題デアアルコトハ、私共深ク之ヲ認ムル、認ムルガ現在ニ於テ——現在ノ日本ニ於テ、然ラズ世ニ所謂共產主義ナルモノハ之ヲ認メラレルカ、理論ハ別デアアル、實際ニ於テ日本ノ國家、日本ノ社會ニ於テ、共產主義ト云フモノハ如何デアアルカト斯ウ申シマスレバ、是ハ言フマデモアリマセヌ、之ヲ容ル、ノ餘地ハナイ、斷ジテ之ハ叩付ケネバナラヌ、是ハ殆ド議論ハナイダラウト思フ、ソレカラ無政府主義ニ至リマシテハ、是ハ勿論何等此處デ彼此レ申ス必要ハナイ、本件ハ世ニ所謂無政府主義世ニ所謂共產主義ヲ取締ル爲ニ發案シタモノデアアルト云フコトハ、政府モ聲明スル所デアアル、唯無政府主義ト云フ文字ヲ避ケ、共產主義ト云フ文字ヲ避ケタ所以ノモノハ、無政府主義或ハ共產主義ト云フコトハ、社會上ニハ自ラ定マレル意義ハアルケレドモ、未ダ法律語トスルマデニハ之ガ熱シテ居ナイ、ソレデアアルカラ最モ儼正ヲ尙フ法律上ノ言葉トシテハ避ケナケレバイケヌカラ、無政府主義ニ代ユルニ國體ノ變革、政體ノ變革、此二ツノ文字ヲ以テスル、共產主義ニ代ユルニ私有財産制度ノ破壊、此文字ヲ以テシタト云フコトハ、今日マデニ於テ洵ニ明カニナッテ居ルノデアアル、本案ハ一口ニ言ヘバ、世ノ中ニ所謂無政府主義或ハ共產主義、其目的ヲ以テ結社ヲヤル、其取締デアアルコトハ、何モ議論ハアリマセヌ、而シテ今日ニ於テ、熟シ我ガ日本ノ國家



ニ於テ、我が社會ニ於テ、此無政府主義、共產主義ハ斷ジテ容スベカラザルモノデアアル、斷ジテ是ハ排斥シナケレバナラヌモノデアアル、是ハ殆ド私辯明ノ必要ハナイト思フ、然ラバ問題ハ今日ノ社會ニ、今日ノ此現狀ニ於テ此立法ガ必要デアアルカドウカ、此一點デアリマス、必要ナシト云フノデアアルナラバ、國家社會ノ爲ニ洵ニ慶賀ノ至リニ堪ヘナイ、此點ハ私諸君ト共ニ靜ニ攻究ヲシ且ツ決定ヲ致シタイ、不幸ニシテ無政府主義、不幸ニシテ共產主義、之ヲ宣傳シ若クハ之ニ依テ結社ヲスル者ガアリ、之ヲ取締ルノ必要ガアルト云フナラバ、之ニ適應スルノ法律ハ已ムヲ得マセヌ、私共ハ今日マデ實際ニ於テ無政府主義者ノアルコトモ知ツテ居リマス、共產主義者ノ有ルコトモ知ツテ居ル、且ツ之ニ依テ不幸ニモ日本ニ於テ其結社ノ實現シタコトモ亦之ヲ知ツテ居ル、而シテ政府モ亦此事ヲ議會ニ報告シ材料ヲ提供致シテ居ルノデアアル、然ラバ理窟ハ別デアリ、必要デアアルナラバ之ニ對應スルダケノ立法ヲスルト云フコトハ、洵ニ已ムヲ得ザル次第デアアル、理論トシテ學問ノ研究トシテ、或ハ共產主義ヲ彼此スル是ハ別個ノ問題デアリマス、ソレカラ武藤君ナドノ仰シタル、ナゼ斯様ナ怖ルベキ世態ヲ呈シタルカ、此原因ハ爲政者ニ在ルナド、ソレハ別個ノ問題デアアル、誰カノ責任デアアル、加何ナル原因デモ宜シイ、原因ハ問ハヌ、今日不幸ニシテ此法律ヲ必要トスルニ至ッタノデアリマスカラ、吾々ハ遺憾ナガラ此立法ヲ贊成スル者デアリマス

右終ルヤ院議井本常作君提出討論終局ノ動議ヲ採用シ討論ハ茲ニ終局ス

次テ第二讀會開會ノ可否ニ付テハ湯淺凡平君外二十六名ヨリ記名投票ノ要求アリシニ依リ記名投票ニ依リ表決ノ結果十八ニ對スル二百四十六ノ多數ヲ以テ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開ク

中村啓次郎君外三名ハ本案ニ對シ修正案ヲ提出シ之カ趣旨辯明ヲ爲ス

(中村啓次郎君外三名提出修正案)

治安維持法案中左ノ通修正ス

第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

私有財産制度ヲ根本ヨリ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條第一項第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二條 前條第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ勸誘ヲ爲シ又ハ之ニ應シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前條第二項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ勸誘ヲ爲シ又ハ之ニ應シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

第一條第二項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

第一條第二項ノ目的ヲ以テ騷擾、暴行其ノ他生命、身體又ハ財産ニ害ヲ加フヘキ犯罪ヲ煽動シ



タル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五條中「第一條第一項」ノ下ニ「第二項」ヲ加フ

中村啓次郎君ノ修正案趣旨辯明

私共ヨリ提案致シタル修正案ニ付キマシテハ、其修正ノ主ナル事項ニ付キマシテ、大要ヲ茲ニ説明ヲ致シタト思フノデアリマス、暫クノ間御清聴ヲ願ヒマス、過日來委員會ニ於ケル政府當局ノ我が政體ニ關スル意義ノ答辯ハ、甚ダ吾々ノ不満足ト致シタ所デアリマス、即チ我が政體ハ申スマデモナク憲法上ノ統治組織ハ立法、司法、行政ノ此三權ガ分立致シテ居ルノデアリマス、然ルニ政府當局ノ説明スル所ニ依リマスルト云フト、我が政體ノ根幹ハ、民選代議制度デアッテ、憲法上ノ天皇ノ大權モ、司法制度モ共ニ其從屬デアルカノ如ク言ヒ爲サレテ居ルノデアリマス、假令司法制度ヲ全廢致ス場合ガアツテモ、假令憲法上ノ天皇ノ大權ノ大部分ニ對シテ制限ヲ加ヘル者ガアツテモ、是ハ本法ニ謂フ所ノ、政體ノ變革ト云フコトニ當ラナイノデアルト云フガ如キ説明ヲサレテ居ルノデアリマス、單ニ委員會ニ於テ斯ノ如キ我が政體ノ上ニ紛更ヲ試ムルヤウナ言葉ヲ承ツタバカリデナク、當議場ニ於キマシテモ本法案ガ提出セラレタル當時ニ若槻内務大臣ノ御演說中ニモ亦私共ノ遺憾ニ感ジタ點ガアルノデアリマス、ソレハ若槻内務大臣ハ本案提出ノ當時ニ於キマシテ「我が立憲政體ヲ變革シテ、議會否認ヲ爲スト云フヤウナコトヲセントスルヤウナ事柄」ト申サレ、又星島二郎君ノ質問ニ對シテ答ヘタル所ニ依リマスルモ、速記録ニ依レバ「斯様ニ申サレテ居ルノデアリマス」「我が日本ニ於テ今日日本ノ政體ガ如何ナルモノデアアルカト申セバ、即チ立憲政體デアリマス、代議政體デアアルノデアリマス、之ヲ破壞セントスル者ガアルナラバ、此法律ニ依テ取締ルト云フノデアリマス」「斯様ニ申サレテ居ルノデアリマス、併ナガラ我國ノ政體ハ決シテ單純ナル立憲政體デモナケレバ、單純ナル代議政體デモナイノデアリマス、我が憲法ハ天皇ノ統治權運用ノ方面、即チ統治組織ノ方面ヨリ見マシテモ、常

ニ天皇ノ統治權ノ活用ノ致シテ居ルコトハ明カデアリマス、立法權ニ於キマシテモ、御互ガ此處デ協賛致シマス、其協賛致シタルモノニ對スル裁可權ハ、天皇陛下ガ之ヲ有スルノデアリマス、又議會ニ對シテ解散權ヲ御持ニナツテアラセラレルノデアリマス、司法、行政何レニ致シマシテモ、委任シ放シニ致シマシテ、天皇ガ何等之ヲ總攬セラレナイト云フヤウナコトハナイノデアリマス、萬世一系ノ、我が統治ノ大權ハ、天皇ニ於テ常ニ總攬シ給フコトガ我が政體デアアルノデアリマス、萬世一系ノ、天皇ノ統治權ノ所在ハ國體デアルト云フ解釋ハ是ハ當ツテ居リマス、萬世一系ノ天皇ノ統治權ノ所在ガ國體デアルト同時ニ、萬世一系ノ、天皇ノ統治權ヲ行用致シマスル其行用ヲ、此憲法ノ條章ニ依テ運行スルト云フコトガ我が政體デアアルノデアリマス、即チ天皇ヲ離レテ我が國體ナク、天皇ヲ離レテ我が政體ハ無イノデアアル、此故ニ我が政體ハ君主立憲政體ト申スカ、又ハ立憲君主政體ト申サナケレバ相成ラナイノデアアル、立憲政治ト申シマスレバ、此立憲政體ノ中ニハ代議政體ガ包含サレマスケレドモ、單ニ立憲政體ト申シタケレバ、君主立憲政治ハ包含サレナイ、即チ立憲政體ト申シタケレバ、君主ハ之ニ包含サレナイノデアリマス、今ヤ國民ニ對シテ國體政體ヲ尊重シ、忠君愛國ノ精神ヲ旺盛ニスベク萬ガ一ニモ我が帝國ニ於テ絶エテ無クシテ、而シテ稀ニ有ルヤウナ事件ノ發生致シタ場合ニ、之ヲ取締ラウト云フ此案ノ説明ニ當ツテ、當局大臣タル者此「君主」ノ二字ヲ申スコトヲ忘レタルガ如キハ、千秋ノ恨事ト私ハ思フノデアリマス、「君主」ノ二字ハ我が國民ノ造次ニモ顛沛ニモ寤寐ニモ忘ル、ヤウナコトアルベキ事柄デハナイノデアアル、一般國民ニシテ尙且ツ然リ、況ヤ、天皇ヲ輔弼スル國務大臣ニ於テヤデアリマス、私共ガ此「政體」ノ二字ヲ此案カラ削除スル第一ノ理由ハ、即チ如何ニモ此數日來政府當局ガ我が政體ヲ説明スルニ當ツテ、其政體ノ意義ガ偶以テ我が立憲君主國ノ此政體ノ本義ヲ紛更スル嫌アルコトヲ認メマシタガ故ニ、此「政體」ノ二字ヲ削除セント致シタ、是ガ即チ其第一ノ理由デアリマス、「政體」ノ二字ヲ削除致シマスル第二ノ理由ハ、先程來委員長、或ハ横山君ニ依テ説明サレタルガ如ク、政府當局ガ此法律ニ依テ取締ラント欲スル所ノモノハ、大體ニ於テ無政府主義又ハ共產主義者ヲ取締ラウトスルノデアルト云フコトデアアル、ソレナレバ無

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案 八百八十五



政府主義者ト云フモノハ統治權力ノ否定ヲ主張スル者デアアル、我が國體ハ統治權力ノ所在デア  
 ル、其統治權力ノ所在ニ對シテ變革ヲ試ムルニ非ザレバ、無政府主義者ハ其主義ヲ斷行スルコト  
 ハ出來ナイノデアアル、故ニ既ニ國體ニ關スル規定ヲ存シタル以上ハ、此無政府主義者ヲ取締ルノ  
 ニハ必シモ難イ事デアナイト考ヘラレタノデアアル、此點ハ私共ハ與黨諸君ノ此「政體」ノ二字ヲ  
 除カウトスル方ト其所見ヲ同ジウスルデアリマス、ソレカラ第二國體ニ關スル規定ト、私有  
 財產制度ニ關スル規定ヲ別項ト致シマシテ、且ツ之ガ刑罰ニ等差ヲ付ケマシタル點ハ、私共修正  
 ノ第二點デアリマス、此點ニ付キマシテモ簡單ニ其理由ヲ説明シタイ、我が國體ハ只今モ申シ  
 マスルヤウニ又皆サンモ御了承ニ相成ッテ居ル通り萬世一系ノ天皇ノ統治權ノ所在デアリマシ  
 テ絕對尊嚴ヲ維持シナケレバナラヌモノデアリマス、絕對不可侵デアリマス、如何ナル方法ヲ以  
 テシテモ一指モ染メルコトノ出來ナイ所ノモノデアリマス、之ト想ヲ異ニ致シマシテ、私有財產  
 制度ハ時代ノ推移ニ依リマシテハ、合法的手段ヲ以テマシテ變更シ得ベキ時ナキヲ期シ難イノ  
 デアリマス、斯ル性質ノ上ニ大ナル懸隔ノアリマスルモノヲ、玉石同架シテ同項ニ之ヲ規定スル  
 ト立フガ如キハ、我が國民精神ノ上ニ於キマシテモ、決シテ適當ナル立法ノ方法デアナイト思量致  
 シマシテ、是ハ別項ニ規定致スコトニ致シタノデアリマス、國體ニ關スル犯罪ト、私有財產制度  
 ニ對スル犯罪ニ對シマシテ、刑罰ニ等差ヲ設ケマシテ、前者ハ十年以下トシ、後者ハ原案ヨリ三  
 年ヲ輕減致シマシテ七年以下ト致シマシタルコトハ、我國ニ於キマシテ只今モ申シマスル通り、  
 國體ニ反抗ヲ試ムルト云フガ如キ大逆無道ニ對シテハ、天人共ニ憤ル所ノモノデアリマシテ、假  
 令其行爲ガ豫備デアラウガ、豫備ノ豫備デアラウガ、端緒デアラウガ之ニ對シテ刑罰ヲ加ヘント  
 スルハ、我が國民感情ノ一致スル所デアルト考ヘルノデアリマス、私有財產制度ニ對スル犯罪ト  
 其刑罰ヲ同一ニスルト云フガ如キコトハ、決シテ公平ナル刑罰規定ニ非ズト認メマシタガ故ニ、  
 此刑罰ノ上ニ等差ヲ設ケタノデアリマス、第三ハ「私有財產制度ヲ根本ヨリ否認スル」ト修正致  
 シマシタル點デアリマス「根本ヨリ」ノ四字ヲ加ヘタノデアリマス、私有財產制度ノ一部ノ否認  
 ハ、本法ノ間フ所デアナイト云フコトハ政府當局ノ屢説明サレタル點デアリマス、私有財產制度ヲ

根本ヨリ破壞スルニ非ザル程度ノ勞動運動ノ如キハ、毫モ本法刑罰ヲ被ムル所ノモノデアナイト  
 云フ以上ハ、此點ヲ常識的ニ明ニスル爲ニ「根本ヨリ」ナル通俗的の文字ヲ添加シテ立法スルト云  
 フコトハ、適當デアアルマイカト考ヘタノデアリマス、此立法ノ趣旨ヲ明ニシマスル爲ニ、政府  
 當局ノ委員會ニ於ケル説明ノ要點ヲ紹介致シテ置クコトガ必要デアラウト思フノデアリマス、  
 極メテ簡單ニ申上ゲマスカラ其積リテ御聽取ヲ願ヒマス、山根委員長及星島委員ノ質問ニ對ス  
 ル政府當局ノ答辯ノ一齣デアリマスルガ「此法律ノ保有スル所ハ所有權ノ基礎私有財產制度ノ  
 根本ヲ否認スルダケデアツテ、其他ノ憲法上ノ財產關係ニ關スルモノハ、本法ニ關係ガナイノデア  
 リマシテ其範圍内ニ於テ、所有權使用收益ノ關係等ニ付テ、色々ト經濟學社會學ノ原則カラシテ  
 改革ヲ企テタリ、綱領ヲ掲ゲタリスル者ハ認メラレルノデアリマス、唯根柢ヲ否認スルモノダケ  
 ハ政黨トシテ認メラレナイト斯ウ云フコトヲ申上ゲタノデアリマス」ト申サレテ居ルノデアリ  
 マス、ソレカラ清瀨君ノ質問ニ對スル答辯ノ一齣ニ斯様ナコトヲ申サレテ居ルノデアリマス、  
 「我國ニ於キマシテ漸次私有財產制度ト云フモノヲ改定シテ行カナケレバナラヌ、斯ウ云フコト  
 ヲ言ウタカラト云ウテ直ニ本法ニ抵觸スルモノトハ考ヘナイノデアリマス、本法ハ今日直接ニ  
 私有財產ト云フモノハイカヌ、是ハ根柢カラ破壞シナケレバナラヌ、斯ノ如ク急激ニ直接ニ論ズ  
 ルコトヲ以テ不都合ナリト考ヘル次第デアリマス」斯様ニ申サレテ居リマスルガ故ニ、此言葉ヲ採リマ  
 シテ通俗的ニ常識的ニ本法ノ上ニ立法ノ方法ヲ民衆化シマシテ、特ニ此四字ヲ加ヘタ次第デア  
 リマス、此點ヲ御諒承願ヒマス、ソレカラ第四ハ第二條ノ「協議」ノ二字ヲ「勸誘」ト修正致シマシ  
 タル點デアリマス「協議」ノ文字ハ先程委員長カラモ詳シク御説明下サレマシタヤウニ、何カ一  
 ツヤラウヂヤナイカ、斯ウ云フヤウニ相談ヲスル、向フノ方ハ私ハヤリマセヌト云フコトデア  
 ナラバ、相談ガ兩方ナガラ成立シナイモノデアアルヤウニ考ヘマスルニ拘ラズ、即チ其事ノ協議ガ  
 成立タナイデモ、協議ヲ申出タ者ハ罰セラレルコトヲ規定シテ居ルト云フコトヲ當局ハ申ス  
 デアリマス、ソレナラバ協議ト云フコトデナシニモウ少シ強ク積極的ニ追被セテ、一ツ突込



勸誘スル、勸メタル誘フト云フヤウナ程度ニ文字ヲ變ヘタ方ガ、一方勸誘者ヲ罰スル、而シテ其勸誘ニ應ズル者ガアッタ場合ニ其者ヲ罰スルト云フコトガ、如何ニモ明確デアラウト思マヒシテ「協議」ノ一字ヲ「勸誘」ノ二字ニ變ヘタ次第デアリマス、以上ハ修正意見ノ大要デアリマスガ、終リニ臨ミマシテ一言試ミタイコトハ、今ヤ現内閣ノ威信ハ全ク地ニ墜チテ行ハレナイデ、輦轂ノ下毎日強盜、放火、殺人、斯ノ如キ事件ガ日々數件ニ上ツテ居ルノデアリマス、或ハ暴力團ノ政敵ヲ威壓スル者アリ、斯ノ如キ不祥事ノ頻發スルコトハ我國未曾有ノ現象デアアルノデアリマス、而シテ我國ニ是等ノ者ヲ制裁スル所ノ刑罰法規ハ無イカト云ヘバ、刑罰法規ハ現存致シテ居ル、刑罰法規ガ儼在致シテ居ッテ、而シテ斯ノ如キ事件ガ頻發シテ居ルノデアアル、今ヤ嚴重ナル刑罰法案ヲ出シテ、而シテ治安ヲ維持シヤウト云フ場合ニ當ッテ嚴罰法規ガ存在シテ居ッテモ尙且ツ斯ノ如キ或ハ強盜、或ハ放火、或ハ殺人、斯ノ如キ事ガ輦轂ノ下銀座ノ真中ニ於テ行ハレテ居ルト云フヤウナ、斯ノ如ク綱紀ガ廢頽シ政府ノ威信ガ地ニ墮チテ居ル、此政府ガ此法律案ヲ提出スルト云フコトハ僭越至極ト思フノデアアル、併ナガラ其提出スル者ハ如何ナル者デアリマシテモ、苟モ此法律案ガ此議會ニ繫屬致シマスル以上ハ、吾々ハ之ニ對シテ其職責ヲ行ハナケレバナラナイノデアアル、是ガ即チ本修正案ヲ提出シタル所以デアリマス、何卒御協賛アラントラ望ミマス

右ニ對シ廣瀨德藏君ハ反對、土屋興君ハ贊成ノ演説ヲ爲ス

廣瀨德藏君ノ反對演説  
私ハ委員長ノ修正案ニ贊成ヲ致シ、政友本黨提出ノ修正案ニ反對ヲ致ス者デアリマス、論議既ニ殆下盡キテ居ルト存ジマスノデ、極メテ簡單ニ所信ヲ述ベタイト存ジマス、原案ノ中デ「政體」ノ文字ヲ取去ラレタ後ニ於キマシテハ、議論ノ範圍ガ極メテ狭クナツテ居ルノデアリマス、國體ト私有財産、私ハ委員會ニ於テ國體ヲ變更スルコトニ關シテ、上奏ガ出來ルカ出來ヌカト云フヤウナ議論ノアッタコトヲ深ク悲ム者デアアル、國體ノコトハ吾々臣民トシテハ議論ナドラスル餘地ノ

アルモノデハナイ、左様ナ事ヲ考フベキモノデナイノデアアル、左様ナ事ヲ考ヘナケレバナラヌ時ハ即チ革命ノ時デアアル、吾々ハ左様ナ事ヲ夢想ダモスルコトヲ好マナイシ、又シテナラヌト存ズルノデアアル、故ニ「國體」ナル文字ガ善イトカ惡イトカ云フヤウナコトヲ、今更茲ニ意見ヲ述ブル必要ハ斷ジテ無イ、殘ル所ハ唯私有財産ノ點デアリマス、私此委員長ノ報告ノ修正案ニ對シテ、世上尙ホ兎角ノ論ガアリ又此院内ニ於テモ少數ノ方々ハ反對ヲナサレル、此反對ニハ誤解ノ點ガアルノデハナイカ、其下ニ横ッテ居ル所ノ思想ノ根據ニ於テ、誤テ居ルモノガアルノデハナイカト思フノデアリマス、委員會ニ於ケル質問應答ヲ聽キマシテモ、共產主義ハ善イトマデ言ハレナイガ、ソレニ近キ例ナドヲ出シテ屢質問ヲサレタ、今日ノ席ニ於テハ湯淺君ヨリ到頭露骨ナル御話ヲ承ツタ、社會組織ノ歸結ハ共產主義デアアル、終リニハサウナルノデアアルト云フヤウナ御言葉ヲモ聽イタノデアアル、私共ハ是非ハ非常ニ見解ヲ異ニスル、此壇上ニ於テ世ノ中ガドウ云フ風ニナルト云フヤウナコトヲ、今議論スル必要ヲ認メナイノデアリマスガ、少クトモ吾々トハ見解ヲ異ニシテ居ル、又此種ノ人、此種ノ考ヲ持タレル世上ノ人ハ、露西亞ノ「レニン」ノ仕事ヲ以テ成功ナリト誤信ヲシテ居ラレル人デアアル、所ガ今ノ歐米ノ識者學者ト云ハレル人ノ間ニ於テ、之ニ謳歌スル人ハ極メテ少イ大抵ハ失敗ナリト斷言ヲシテ居ル、名前ヲ忘レマシタガ、例ヘバ佛蘭西ノ權威アル學者「ジヨルジ、ヴァロア」ノ如キハ、新經濟論ト云ヒマス、カ「エコノミー、ヌーベル」ナルモノニ於テ酷ク之ヲ扱下シテ居ル、斯様ニ彼ハ斷言シテ居ル、「露西亞ノ改革ナルモノハ有産階級ノ社會ヲ變ジテ無産階級トシタノデハナイ、ソレナラ宜イガ、サウデナクシテ、相當ニ存在シテ居ッタモノヲ亡國ノ民タラシメタノデアアル」ト彼ハ論斷致シテ居ル、成程考ヘテ見マスト云フト、「レニン」ノ揚言シテ居リマシタ所ノ農工生産ノ増加デアアル、或ハ交通機關ノ速進デアアル、或ハ勞働階級ノ改善デアアルト云フヤウナ事柄ハ、少シモ成功ヲ見ナイノデアアル、而シテ益人ハ生活ノ不便ニ困惑スル形勢デアアルカラ、之ヲ失敗ト云フノハ當然デアラウト考ヘル、私洵ニ皮肉ナノハ、我國ノ新知識ダト云ハレル人ガ贊成ヲスル時分ニハ、本家本元ノ歐米デハ是ガ古クナツテ居ッテ、アベコベノ説ガ立テラレテ居ルト云フコトデアアル、是ニ於テ我國ノ新知識モ餘リ當



テニナラナイト云フコトヲ感ズル者デアル、私ハ斯ウ云フ見地ニ立ッテ居リマスガ、併ナガラ社  
 會ノ有様少クトモ産業組織ガ今ノ儘デ宜イトハ言ハナイ、議員諸君ガ屢例ニ出シテ居ラル、社  
 會ノ改良デアリマス、社會政策、社會改良主義、現在ノ秩序ヲ破壊セズシテ、徐々ニ改良ヲシテ行  
 ク政策ニハ私共賛成デアアルガ、今ノ労働者ノ地位ハ固ヨリ憐ムベキデアアル、今ノ資本家ノ立場ハ  
 餘リニ宜キニ過ギル、斯ウ云フコトハドウシテモイケナイ、故ニ私共ハ社會政策ノ見地ニ立ッテ徐  
 ニ之ヲ改善シテ行キタイト存ズルデアリマスガ、儲テ此社會改良ナルモノハ少シモ此法案ニ  
 觸レナイノデアアル、觸レズシテ實行シ得ルデアリマスカラ、何モヤカマシク言フ必要ハナイ、  
 一部少数ナル煽動者或ハ一知半解ノ輩ハ、極端ナルコトヲ主張致シマセウガ、我國ノ多數ノ労働  
 者ハ生活ヲ良クスルコトヲ以テ満足スル者ナリ假ニ是ダケデ満足シナイトシテモ、歐米ニ行ハ  
 レル利益分配制度デアアル、或ハ資本家、社會労働者ノ代議體ニ依ル所ノ産業ノ經營デアルトカ、  
 或ハ生活賃金ヲ均一ニスルト云フヤウナコトヲ徐ニ行フナラバ、ソレデ満足スル者デアッテ、ソ  
 レ以上破壊ノ事ヲ好ンデ居ル者ハ無イノデアアル、ソレデ私ハ此法案ガ労働者ニ不便デアリ、勞  
 働者ニ向ッテ取締ルモノデアアルカノ如キ考ヲ持ツコトハ、是ハ誤レル第二デアルト考ヘマス、私  
 惟ヒマスルノニ、労働者ヲ以テ此法律ト對象トスルコトハ、労働者ヲ侮辱スルモノデアアル、我國  
 ノ労働者ハサウ云フ極端ナ考ヲ持ッテ居ル者デハ斷ジテアリマセヌ、極メテ少数ナル煽動者、若  
 クハ一知半解ノ輩デアアルコトヲ私ハ斷言スル、ソレハ労働者デハナイ、斯様ニ考ヘ來リマスト此  
 案ハ洵ニ妥當デアアル、少クトモ「政體」ト云フ字ヲ削ッタ後ニ於ケル本案ハ妥當デアアル、且ツ必要  
 ナモノデアアルト云フコトヲ深く信ズル者デアリマス、而シテ此原案ノ用意周到ナル、刑法ノ一部  
 トセズシテ、單行法ト爲シテ、即チ時局ニ對スル對症療法トシテ、單行法トシテ出サレタモノデ  
 アリマスカラ、必要去レバ之ヲ廢スベキモノデアアル、而シテ吾々ハ之ヲ廢止スルノ時機ノ速カナ  
 ランコトヲ希望シテ已マザル者デアリマス、然ラバ政友本黨諸君ノ御提出ニナッタ案如何、私ハ  
 是ハ政友本黨ノ諸君ニ此壇上ヨリ御交渉申上ゲタイ、大分久シク一ハ青票ヲ持チ、一ハ白票ヲ持ッ  
 テ此壇上ニ上ッタデアリマスガ、先刻始メテ同ジク白票ヲ持ッテ此處ニ上ッタ、而シテ骨子タル所

ノ「政體」ヲ取ルト云フコトニ付テハ一致シテ居ル、唯、外ニ少許リ所見ノ違フ所ガアルガ、是ハ  
 所見ガ違フト云ッテモ、サウ酷イ所デハナイノデアリマスカラ、私ガ是カラ述ベル所ニ依テ願ク  
 ハ御譲リヲ願ヒタイト考ヘル、本黨案ノ第一ハ國體ト私有財産制度ト同列ニ置クコトガイケ  
 ナイト言ハレル、是ハ誠ニ一見尤ナヤウニ見ユル、併ナガラ是ハ國體ト私有財産トガ同ジ程値打  
 ガアル、同ジ程尊イノデアアルト言フ譯デナク、此案ハ國體ニ對シテ惡イ考ヲ持ツ者モ、私有財産  
 ニ對シテ破壊ノ考ヲ持ツ者モ、取締ル必要ニ於テハ殆ド同ジデアアルト云フダケノコトデアリマ  
 スカラ、取締ル方面カラ云ヘバ、之ヲ同列ニ置イテモ一向差支ナイ、宮中ノ席次ノヤウナモノデ  
 ナイ、サウ前後ヲ争フ必要ハナイ、法文ノ排列ハ必要ニ應ジテヤルベキモノデアリマスカラ、私ハ  
 三派ノ案デ一向差支ガナイ、ソレカラ今一ツ私有財産制度ノ否認ハ御同感デアアルガ、ドウモ分リ  
 惡イカラ「根本ヨリ」ト云フ字ヲ入レルト仰シヤル、是モ法文ノ註釋トシテハ惡クナイノデアリ  
 マスガ、私有財産ヲドウト云フノデアリ、私有財産制度其物ヲ否定スル者ガイケナイト云フ、制  
 度ト云フノハ、一ツ纏ッタ思想デ「ワンホール」デアアル、故ニ之ヲ否認スルト云フ者ハ即チ全體ヲ  
 否認スル、根本ヲ否認スル者デアアルト云フコトハ、自ラ明瞭デアリマスガ故ニ、是ハ茲ニ註釋  
 ヲ加フルノ要ヲ認メナイト思ヒマス、其次ハ刑期ノ點デアリマスガ、是ハ昔ハ刑期ハ場合ニ依  
 依テ區別シテヤッタノデアリマス、近來ノ立法例ハ成ベク範圍ヲ廣クシテ、各般ノ事情ニ適應セ  
 シムベク、裁判官ノ自由裁量ニ委ネテ置クノガ近來ノ趨勢デアアルト思フノデアリマス、自由ニ其  
 裁量ハ爲シ得ルト存ジマスカラ、此點ニ付テモ吾々ノ案ト餘リ違ハナイ、故ニ私ハ願クバ御讓歩  
 ヲ願ヒマシテ、後程再ビ同ジ案ヲ持ッテ上ルコトガ出來ルヤウニ切ニ希望スル譯デアリマス、私ハ  
 簡單デアリマスガ、之ヲ以テ其理由ト致シマス

土屋興君ノ賛成演説

私ハ中村啓次郎君其他ニ依テ提起セラレツ、アル修正案ニ對シテ、賛成ノ意ヲ表セントスル者  
 デアリマス、而シテ私ガ修正案ニ對シテ賛成ノ理由ヲ申述ブルニ當リマシテ、先ヅ大體ニ於テ何



故ニ維持法ニ吾々ガ贊意ヲ表スルカト云フノ理由ヲ申述ベタイト思フノデアリマス、極メテ本案ハ重大ナル法案デアリマスルカラ、何卒御倦怠ノ折柄デアリマスルケレドモ、暫ク時間ヲ御割愛下サランコトヲ切ニ御願致スノデアリマス、諸君、政友會内閣ノ末期ニ於テ過激社會運動取締法案ヲ提出セラレ、又震災直後ニ於テ治安維持令ノ發布ヲ見タル因縁經過ヲ考ヘマスルト云フト、本案ノ如キ性質ヲ有スル特別法ノ近ク我國ニ制定セラルベキ機運ノ存シタト云フコトハ、之ヲ推スルニ難クハナカッタノデアリマス、殊ニ近年ノ我國ノ世相ハ、此本案ノ如キ特別法制定ノ要アルヲ思ハシムルモノガアッタノデアリマス、御承知ノ如ク、大戦後ノ社會改造ノ思想ヨリ來レル世界的思想ノ動搖ハ、可ナリニ激甚ナルモノガアッタノデアリマスルガ、歐米各國トモ能ク之ヲ消化シテ、今ヤ漸ク安定ノ期ニ入ッタノデアリマス、併ナガラ我國ニ於テハ是等思想上ノ動搖ハ表面安定セルガ如クニ見ユルノデアリマスガ、實ハ然ラズシテ、益深ク内訌シツ、アルノ虞ガアルノデアリマス、加之近時ノ我が社會現象ハ危險思想ヲ誘致スル事ノミデアルト思ハル、ノデアリマス、特ニ私ノ憂ヘテ居リマスルコトハ、勞働階級又ハ無産階級ノ人々ノ神經ヲ尖ラシムルコトガ極メテ多イノデアリマス、私ハ今試ニ政府當局竝ニ與黨ノ方々ニ御參考ノ爲ニ、彼等ガ如何ナル考ヲ持ツテ、如何ナル事ヲ申シテ居ルカト云フコトヲ三四御紹介ヲ申シテ見タイト思フノデアリマス、彼等ハ三派ヨリ成ル護憲ノ政治ハ、空理、空論ノ政治デアアル、社會ニアルニ急デアツテ、國民ノ實生活ニ觸ル、所ガ毫末モナイ政治デアアルト申シテ居ルノデアリマス、無條件ノ普選、貴族院改革、洵ニ景氣ノ好イコトデアアル、併ナガラ是ガ國民ノ「パン」ノ問題ト何ノ關係ヲ有スルカト云フコトヲ言ツテ居ルノデアリマス、又國民ノ「パン」ノ問題ト直接ノ交渉ヲ有スル所ノ勞働立法ヤ、勞働保險ニ對シテハ、政府ハ在野黨時代ノ口約ヲ無視シテ、恬トシテ之ヲ顧ミナイノデアアルト云フコトヲ非常ニ遺憾ニ思ツテ居ルノデアリマス、昔ハ強キヲ挫キ弱キヲ助ケルヲ以テ武士道ノ精華ト致シテ居ッタノデアリマス、然ルニ今ハ然ラズ、特ニ我が護憲内閣ハ、強キ者ニハ益弱ク、弱キ者ニハ益強イト云フコトヲ言ツテ居ルノデアアル、而シテ議會ノ多數ハ正義正論ノ多數デナク、暴力ノ多數デアアル、多數政治ハ結局暴力政治デアアルト云フコトヲ言ツテ居ルノデア

アリマス、市井ニ於ケル所ノ勞働者ノ犯罪ニ對シテハ之ヲ重クシ、議會ニ於ケル傷害事件ノ加害者ハ多數黨所屬ノ者ナルガ故ニ不問ニ付サレ、議長ハ君子人ト言ハレテ居ルト云フコトヲ居ルノデアアル、是ガ近頃ノ我國ノ赤裸々ナル状態デアアル、遺憾ナガラ私モ彼等ガ申シテ居ル是等ノコトヲ肯定セザルヲ得ナイト云フコトヲ洵ニ遺憾トスル者デアリマス、甚ダ卑近ナル例ヲ申上ケルヤウデアリマスルガ、徳川ノ末期ニ社會ト政治ノ墮落ヲ諷シテ、石ガ流レテ木ノ葉ガ沈ムト云フ俗諺ガ盛ニ唄ハレタコトガアルノデアリマス、近頃ノ我國ハ其石ガ流レテ木ノ葉ガ沈ムノ状態デアリマス、當然ノ事ガ當然ニ參ラナイ、正義ガ正義トシテ通ラナイ、正論ガ正論トシテ通ラナイ、是ニ於テカ不平、不満ヲ生ジ、下層社會ハ人ヲ怨ミ、世ヲ憤ツテ、知ラズ識ラズ左傾スルコトニ相成ルノデアリマス、是ハ爲政者タルモノ、最モ注意スベキ事デアルト私ハ思フノデアリマス、サウシテ他方日露國交ノ回復ハ、彼我ノ交通ヲ自由ナラシメ、來往頻繁ヲ致スノ結果、彼ノ恐ルベキ第三「インスターナシヨナル」ノ活躍ヲ思ハシムルモノガアルノデアリマス、勿論露國現時ノ共產主義ハ、先年ノ所謂「ネップ」以來、即チ新經濟策樹立以來、「マルクス」「クロボトキン」等ノ思想ヨリ遙ニ軟化致シタトハ申シナガラ、依然社會ノ脅威タルヲ失ハナイノデアリマス、而モ此時ニ當ツテ無條件普選ノ實施ハ、主義者ヲシテ益跋扈、跳梁セシムルト同時ニ、議會ヲ利用セシムルノ危險ガアルノデアリマス、之ヲ思ヒ彼ヲ想フ時ニ、私ハ治安維持法ヲ國家國民ノ爲ニ絶對ニ否決シ去ルト云フノ勇氣ヲ持タナイノデアリマス、勿論思想ハ思想ヲ以テ對スベシト云フコトハ千古ヲ通ジテノ金言デアリマス、併ナガラ、我が國民ハ遺憾ナガラマダ英國ノ國民タルガ如クナリ得ナイ、自由討究ノ下ニ思想ヲ消化シテ過ナカラシムルト云フノニハ、尙ホ相當ノ期間ト訓練トヲ要スルノデアリマス、故ニ私ハ暫ク忍ンデ高遠ナル所ノ理想ヲ捨テ、實際政治家タルノ立場ニ立ツテ、事實上思想取締法タル本案ニ對シテ、敢テ總括的ノ贊意ヲ表セントスルノデアリマス、諸君、既ニ思想ヲ法律ヲ以テ取締ルコトノ如何ニ愚デアアルカト云フコトハ、彼ノ「ビスマルク」ノ社會主義鎮壓法ガ明ニ之ヲ語ツテ居ルノデアリマス、五十年後ノ今日ニ於テ「ビスマルク」ノ愚ヲ再ビ茲ニ演ズルト云フコトハ、如何ニモ馬鹿ラシイコトデアアリマスケレドモ、「ビスマルク」ノ



社會主義鎮壓法ハ如何ニモ不成功デアッタトハ申シマスケレドモ、アノ法律ニ依テ獨逸ノ社會民主黨ガ兇暴ノ手段ヲ慎ムコトニナッタト云フコトハ明ナル事實デアアル、私ガ此法律ニ向ッテ期待スル點モ、亦彼ノ憎ムベキ無責任ナル煽動家ヲ戒ムルダケノ效果ガアレバ、十分デアアルと思ッテ居ルノデアリマス、ソレト同時ニ私ハ何レニシテモ、治安維持法ノ如キ法律ヲ必要トスル社會ハ、誠ニ厭フベキ、煩ハシキ社會デアアルト云フコトヲ痛感スルノデアリマス、吾々ハ更ニヨリ良キ社會ヲ作ラナケレバナラナイ、更ニヨリ愉快ナル所ノ家庭ヲ作ラナケレバナラナイ、是ハ吾々ノ義務デアリ又政府ノ責務デアリマス、殊ニ本法ヲ施行スル以上ニ於テハ、此點ニ對スル政府ノ責任ハ極メテ重且大ナルモノガアルノデアリマス、若シ政府ガ一片ノ法令デ、危險思想ガ取締リ得ラレルト思ッテ居ルナラバ、是ハ大變ナル誤デアリマス、政府ハ宜シク進ンデ社會政策の施設ヲ御實施ニナツテ、下層社會ノ不平不滿ヲ解イテ、危險思想ニ感染スベキ所ノ者ヲ根本カラ芟除スルト云フ御考ヲ持テ戴キタイト思フノデアリマス、彼ノ時代遅レノ「ビスマルクス」モ、社會主義鎮壓法ヲ實施スルト同時ニ、大ニ社會政策ヲ行ツタノデアリマス、由來我國ノ下層社會ニハ、鬱勃タル不平不滿トガアルノデアアル、其根本原因ハ無產階級ノ生活ヲ合理的ニ向上セシメントスル思想ノ討究ヤ、之ニ關聯スル運動ニ對シテハ、從來殆ド盲目的ニ之ヲ抑壓シテ居ツタノデアリマス、而モ此種ノ思想ヤ運動ニ最モ密接ナル關係ニ在ル所ノ、當ノ無產階級ノ實生活ヲ向上セシムルコトニ付テハ、當局ニ於テ何等見ルベキ施設ガナイノデアリマス、是ガ當然ノ歸結トシテ我國ノ無產階級ニハ思想的ニモ、生活的ニモ、鬱勃タル不平不滿トガ存スルノデアリマス、此不平不滿トガ除去セラレルナラバ、治安維持法ナドノ必要ハ更ニナイノデアリマス、而シテ社會ハ今日ヨリヨリ良キ愉快ナル社會トナルト云フコトハ確ナル事實デアリマス、今ヤ維持法ハ茲ニ呱呱ノ聲ヲ擧ゲンテ居ルノデアアルガ、當局ハ此法律ヲシテ事實無用ノ空文タラシムルコトニ御努力ヲ願ヒタイノデアリマス、此法律ガ空文タル時ニ於テ國民ノ眞ノ幸福ハ存スルノデアアルト云フコトヲ、私ハ痛切ニ感ズルモノデアリマス、以上ハ私ガ大體ニ於テ本案ニ贊意ヲ表スル所以デアアルノデアリマスルガ、本案ハ政府ノ原案ニ於テハ幾多ノ不備ノ點ガ存スルノデアリ

マス、是レ吾々ガ修正案ヲ茲ニ提起シタル所以ナノデアリマス、第一、萬世一系ノ天皇ガ統治スル此國體ハ、永世不變、絶對無限ノモノデアアル、之ヲ變革セントスルノ罪ト、時ノ事情、社會ノ進歩ニ依テ如何様ニモ變化シ、伸縮スベキ他ノ政體、私有財産制度等ニ對スル罪ト同列ニ併記シタト云フコトハ、國體ヲ輕カラシムルノ虞ガアルノデアリマスカラ、吾々ノ修正案ニ於テハ之ヲ他ノ規定ト分離獨立セシメ、且ツ刑ノ量定ヲ、何レモ原案ヨリ輕カラシメタルニ拘ラス、獨リ國體ニ關スルモノヲ原案ノ如ク十年ノ儘ニ存置シテ、儼然タル威容ヲ保タシメタル所以デアリマス、而シテ政體ニ關スル規定ヲ削除シマシタノハ、大體三派ノ意見ト同様デ、之ヲ削除スルモ本法制定ノ主眼タル無政府主義、共產主義ノ取締ニハ、格別差支ガナイガ爲デアリマス、所謂「政體」ヲ削除致シマスルトキハ、議會否認ヲ爲ス者ヲ取締リ得ザルノ遺憾ハアリマスケレドモ、委員會ニ於ケル質問應答ノ經過ヲ見マスト云フト、政體ノ變革ト云フコトニ對スル當局ノ解釋ハ、頗ル多岐多端ニ互ツテ居リマシテ、疑問トスベキ節ガ非常ニ多イノデアアル、斯ル解釋ニ疑義ヲ生ズル規定ヲ存置スル時ハ、是ガ眞面目ナル學者、研究者、批評家、新聞記者等ガ思ハナイ飛沫ヲ蒙ッテ、拉致セラレルノ虞ガアルト云フコトモ考慮ヲ致シタルガ爲デアリマス、又第二條ニ於テ「協議」ト云フ文字ヲ「勸誘」ヲ爲シ又ハ之ニ應シタル者」ト改メタト云フコトモ、解釋ノ疑義ヲ生ゼザラシメントスルノ用意ニ出デタルニ外ナラナイノデアリマス、次ニ私有財産制度ノ「否認」トアルヲ「根本ヨリ否認」ト改メマシタノハ、出來得ルダケ之ヲ狹義ニ解釋セシメヤウト致シタ爲ニ外ナラナイノデアリマス、此點ニ對シテ廣瀨君カラ只今色々御意見ガアリマシタガ、申ス迄モナク此私有財産制度ハ完全ナル制度デハナイ、頗ル缺陷ノ多イ制度デアリマス、唯之ニ代ルベキヨリ善キ制度ガ遽ニ見出サレナイカラ、之ヲ存置シテ居ルト云フ迄デアアルト私ハ思フノデアアル、今日ノ貧富ノ懸隔モ、社會ノ犯罪モ、悉ク此制度ニ基イテ居ルト申シテモ過言デハナイノデアアル、隨テ社會ノ進歩ニ伴レテ當然改善サレ、改革サルベキ制度デアアルト思フノデアリマス、故ニ之ヲ否認スルヲ罪トスルノ規定ヲ設クルト云フコトハ、出來得ベクンバ是非避ケタイノデアリマス、併シ之ヲ此法律カラシテ除去ルト云フコトデハ、肝腎ノ本法制定ノ目的ヲ逸スルノ虞ガアルノデ



アリマス、事實ヲ申セバ私有財産制度ニ對スル規定ヲ削除シテモ、尙ホ且ツ無政府主義、共產主義ニ對スル取締ノ遺漏ナキヲ期シ得ラレマスルナラバ、是非之ヲ削除シタイト云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、併シ今日ハ事情ガ之ヲ許サナイ、私有財産制度否認ニ對スル同僚清瀨君ノ委員會ニ於ケル熱心ナル態度豐富ナル學殖、共ニ私共ノ尊敬ヲスル所デアリマス、出來得ベクンバ私モ清瀨君ニ贊成ヲ致シタイト思フ、併シ國家ノ情勢、時ノ事情等ヲ考慮致シマスルト云フト、姑ク理想ヲ後ニシテ、現實ノ必要ニ就クノ外ハナイノデアリマス、是ハ現實ヲ主トスル吾々ノ立場トシテハ、蓋シ已ムヲ得ナイコトデアラウト思フノデアリマス、唯斯ル規定ヲ廢止シ得ル時ノ到來ヲ國家國民ノ爲ニ切ニ希望スルノ外ハナイノデアリマス、右様ナ次第デアリマスカラ此規定ハ出來得ルダケ狹義ニ解釋シタイト考ヘマシテ、「根本ヨリ」ト云フ四字ヲ挿入致シマシタ次第デ、廣瀨君ノ只今ノ御提議ニハ私共應ジ兼ネルノデアリマス、願クバ何卒三派ノ方ヨリ吾々ノ方ニ向ッテ贊意ヲ表シテ戴キタイト思フノデアリマス、併ナガラ私ハ私有財産制度ノ否認ト云フコトニ對シテ「根本ヨリ」ノ四字ヲ挿入致シマシテモ、私有財産制度ノ否認ニ對スル規定ニ付テハ思ハナイ累ヲ被ル者ガ出來ヤシナイカト云フコトヲ衷心憂ヘテ居ル者デアリマス、特ニ私ノ懸念ニ堪ヘナイノハ、本法ノ労働團體ニ及ボス影響デアリマス、過日本案ヲ上程セラレルニ方リマシテ、若槻内相ハ維持法ノ労働者ヲ威嚇スルモノデナイト云フコトヲ繰返シ繰返シ御述ベニナッタノデアリマス、而シテ只今廣瀨代議士モ亦此點ヲ御述ベニナッタノデアリマス、併ナガラ私ハ如何ニ考ヘテモ内相ノ言ヲ信ズルコトハ出來ナイ、ソレト同時ニ廣瀨君ノ御議論ニモ贊成スルコトハ出來ナイノデアリマス、如何トナラバ本法ヲ直接執行スル所ノ人ガ、内相ノ如キ立派ナ人デアラナラバ、何等ハ懸念ヲ要サナイノデアリマスケレドモ、事實此法律ヲ執行スル所ノ人ハ、多ク労働運動等ニ理解ヲ有サナイ所ノ低級ナル司法警察官デアアルノデアリマス、他方ニ於テ我國ノ労働團體及労働運動ハ、法律上ニ確認セラレテ居ラナイト云フ事實ヲ考慮致サナケレバナラナイノデアリマス、此點ヲ考慮致シマスルト云フト、此法律ハ折角發達ノ緒ニ就イタ所ノ我國ノ労働團體ヲ壓迫シ、労働運動ヲ彈壓スル所ノ虞ガアルト云フコトヲ想ハナケレバナラナイノデアリ

マス、此法律ハ確ニ労働者ヲ脅威スルモノデアルト云フコトヲ想ハナケレバナラナイ、斯ウ考ヘテ見マスト云フト、之ニ對スル所ノ方策ト云フモノヲ茲ニ求メナケレバナラナイト思フノデアリマス、私ハ茲ニ世界ノ労働團體ニ付テ見マシテモ、私有財産制度ノ否認ヲ目的トシナイモノハ殆ド無イト云フコトヲ考ヘテ見マスルト云フト、必ズ此法律ハ執行者ノ手加減ノ如何ニ依テハ労働團體ヲ彈壓シ、労働運動ヲ撲滅スルト云フヤウナ意外ナ結果ヲ招キハシナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマス、此點ハ極メテ重大ナル點デアリマスカラ、私ハ詳シク此點ニ付テ御話ヲ申上ゲテ見タイト思フノデアリマス、今試ニ世界ノ労働團體ニ付テ見マスルモ、私有財産制度ノ否認ヲ目的トシナイモノハ殆ド無イトデアアル、唯僅ニ集團契約、即チ「コレクチーヴ、バードゲニング」ヲ目的トスル所ノ舊労働組合主義「オールドトレード、ユニオンズ」ガ僅ニ私有財産制度ノ否認ヲ目的ト致シテ居ラナイノミデアリマス、他ノ新労働組合主義デモ、佛蘭西ノ「シンジカリズム」デモ、米國ノ産業統一主義デモ、英國ノ産業「シンジカリズム」デモ、皆悉ク私有財産制度ノ否認ト云フコトヲ目的トシテ居ルノデアリマス、而シテ過日委員會ニ於テ、小川法相ハ私有財産制度ヲ否認スルモ、ソレガ根本的ニ且ツ總括的ニ行ハレナイ限り犯罪ヲ構成シナイ、又總括的ニ行ハル、モ、ソレガ議會ヲ通ジテ立法ノ手段ニ依リ、且ツ代償ガ支拂ハレルナラバ、本法ニハ觸レナイト云フコトヲ言ハレタノデアリマス、此釋明ダケハ漠然トシテ曖昧極マルモノデアリマスガ、假ニ此釋明ヲ完全ノモノトシテ、世界ノ労働團體ヲ見マスルト云フト、此法律ガ世界各國ニ假ニ效果ヲ及ボシ得ルモノト假定致シマスルト、世界ノ労働團體ノ殆ド全部ハ此法律ニ抵觸スルト云フコトニナルノデアリマス、願ミテ我國ノ労働團體ハ大體米國ノ産業統一主義ニ則ツテ居ルモノデアアル、即チ此亞米利加ノ産業統一主義ハ、佛蘭西ノ「シンジカリズム」ガ米國ニ入ッテ、米國化シタモノデアッテ、是ハ極メテ危険ナル所ノ主義ヲ持ッテ居ルモノデアアルノデアリマス、此點ニ付キマシテ詳シク申上ゲタイトモ思ヒマスルケレドモ、此點モ私ハ省略ヲ致シマシテ、簡單ニ申上ゲマスルガ、此産業統一主義ハ極メテ危険ナル主義デアッタノデアリマス、我國ノ労働團體ハ大體之ニ則ッテ組織セラレタモノデアアルノデアリマスルガ、此我國ノ労働團體ガ年月



ヲ經ルニ從ヒマシテ、漸ク近頃ニ於テハ、日本化シテ參リマシテ、而シテ此統一主義ノ最モ危險ナル所ノモノヲ、段々除去ルコトガ出來テ、サウシテ近頃ニ於テハ集團契約ト社會政策的立法トニ依テ、勞働階級ノ利益ヲ増進セントスルヤウナ方面ニ向ツテ參リマシテ、是ハ勞働階級ノ利益ノ上カラ見マシテモ、國家ノ利益ノ上カラ見マシテモ、洵ニ喜ブベキ傾向デアッタノデアリマスル、併ナガラ此只今ノ勞働團體モ、斯ノ如ク溫和ニナッタ所ノ勞働團體ト云フモノモ、此法律ノ適用ノ如何ニ依テハ、又團體トシテ存立シ得ナイト云フヤウナ危險モ此所ニ存スルノデアリマス、諸君、而シテ他面ニ於キマシテハ無條件普選ノ實施セラレマシタ結果ハ、一度我國ノ勞働團體カラ驅逐セラレタ所ノ危險主義者ガ、勞働者ノ多數ノ投票ト云フモノヲ利用シテ、議會ヲ通ジテ其目的ヲ達セントシテ、再ビ勞働團體ニ接近ヲシテ來ルト云フ危險ガアルノデアリマス、斯ウ云フコトヲ思ヒマスルト云フト、此法律ガ實施セラレ、而シテ無條件普選ガ行ハレルト云フコトニナリマスルト云フト、折角溫和ナル傾向ヲ持ツテ來タ所ノ我國ノ勞働團體、勞働運動ト云フモノガ、再ビ危險ナ傾向ヲ呈シテ來ルト云フ恐れガアルノデアリマス、之ヲ匡救スルノ途ハドウシタナラバ宜イノデアルカト申シマスルト、一日モ早く勞働立法ヲ制定シテ、勞働組合ノ法定資格ト云フモノヲ確認スルノ必要ガアルノデアリマス、諸君、勞働組合法ヲ制定ヲ致シマシテ、而シテ勞働運動ノ合法ニ行ヒ得ルノ範圍ト、違法タルノ境界トヲ明ニシテ、之ヲ善導シテ參ルト云フヤウナ方法ヲ執ツテ參リマシタナラバ、假ニ此維持法ガ制定セラレマシテ、其結果ヲ被ツテ、我國ノ勞働運動ヤ、或ハ勞働團體ト云フモノガ危險ヲ被ルト云フヤウナコトガアリマシテモ、ソレニ依テ我國ノ勞働團體ハ匡救ヲセラレルノ途ガ立ツノデアリマス、吾々ハ夙ニ此點ニ著眼ヲ致シマシテ、本期議會ノ始メニ於テ既ニ維持法ガ提案セラル、ト云フコトヲ察知致シテ居リマシタカラ、我黨ノ松田、吉植兩代議士カラ、機會ノアル毎ニ政府ニ向ツテ勞働立法ノ制定ヲ督促シツ、アッタノデアリマス、政府モ我黨ノ督促ニ應ジテ、今ヤ勞働立法ノ制定ニ著手ヲ致シタト思ハレル節モアルノデアリマスカラ、吾々ハ本案ニ於ケル私有財産制度否認ニ對スル修正ハ、此程度ニ止メテ置イタ次第デアリマス、諸君、一體勞働立法ニ付テハ吾々ニ催促セラル、マデモ

ナク、憲政會、革新俱樂部ノ諸君ハ國民ニ向ツテ言責ガアルモノデアアル、吾々ハ四十五議會以來勞働組合ノ公認ヲ絶叫スル所ノ兩派ノ代表演說ヲ、能ク此議會ニ於テ聽カサレタモノデアアルノデアリマス、今兩派ヲ主トスル所ノ内閣ガ組織セラレテ、其爲サントシテ成ラザルナキノ秋ニ當ツテ、組合法、爭議法、其他ノ勞働立法ヲ提携シナイト云フコトハドウ云フ理由デアリマスカ、政府モ亦此點ニ付テハ極メテ怠慢デアアルノデアアル、抑我黨ニ依テ督促セラルベキ筋合ノモノデアナイノデアリマス、大體ニ言ハバ普選ヨリ先ニ勞働立法ヲ制定スベキモノデアアルガ、ソレヲ衆愚ノ人氣ヲ博サントシテ普選ヲ先ニ爲シタト云フコトハ前後矛盾デアアル、私共ハ私有財産制度ニ對スル所ノ規定ト云フモノハ、只今モ申上ゲマシタ通り、成ベク之ヲ狹義ニ致シマセヌト、政府ハ勞働者ヲ脅威スルモノデアナイト申シマシテモ、事實ハ脅威スルノ虞ガアルカラシテ、此點ニ付キマシテ「根本ヨリ」ト云フ四字ヲ特ニ挿入致シタノデアリマス、諸君モ此點ヲ諒トシテ戴キタイト思フノデアリマス、而シテ私ハ最後ニ一言申上ゲテ置キタイノデアリマス、此維持法ハ先刻申シマシタ、政友會内閣ノ末期ニ於ケル所ノ過激社會運動取締法案ノ燒直シデアルト云フコトハ、爭ハレナイ所ノ事實デアリマス、當局ハ事實燒直シテ居ル所ノモノヲ、何所マデモ燒直シデナイト之ヲ強辯サレテ、サウシテ白シク御提案ニ相成ルト云フコトハ、是ハ國民道德ノ上カラ申シテモ、又此法律ヲ通過セシムル上カラ申シテモ、寔ニ面白クナイ事デアアルト思フノデアリマス、私ハ考ヘマスノニ、事實上燒直シデアアルナラバ燒直シデアルト云フコトヲ赤裸々ニ御話ニナツテ、サウシテ而モ此現内閣成立以來カラト云フモノハ、變説改論ト云フコトハ、進歩デアアルト申シテ居ルノデアリマスカラ、進歩デアアルナラバ何モ少シモ躊躇スルコトハナイノデアリマスカラ、明ニ其事ヲ御話ニナツタラ大變宜カラウト思フノデアリマス、而シテ過激法案ノ當時ニ於テハ野黨トシテノ反動的感情カラ、國家國民ノ利害ト云フモノヲ度外視シテ反對ヲシタケレドモ、倍テ今日責任ノ地位ニ立ツテ見ルト、ドウシテモ國家國民ノ爲ニ必要デアルト云フコトヲ痛感シテ、此法律ヲ出シタノデアアルト云フコトヲ言ハレタ方ガ宜シイノデアアル、而シテ私ハ最後ニ一言申シタイノハ、諸君、議會政治ノ頽廢ヲ致シタト云フコトヲ言ハレテ居ル、此時ニ、朝ニ在ル



ト、野ニ在ルトラ問ハズ、國家國民ノ利害ヲ中心トシテ冷靜ナル判斷ノ下ニ、正ヲ履ンデ惑ハズト云フ正々堂々タル所ノ態度ヲ執ツテ本案ニ贊意ヲ表スル所ノ政黨ハ、政友本黨アルノミデアルト云フコトヲ御注意願ヒタイノデアアル、而シテ又國家國民ハ宜シク此點ニ對シテハ十分ナル注意ヲ拂フベキモノデアアルト思フノデアリマス、私ハ以上申述ベタ所ノ理由ニ依リマシテ、中村君其他ノ修正案ヲ支持スル者デアリマス、何卒諸君ノ冷靜ナル御考ヲ持タレテ、吾々ノ修正案ニ御贊成ヲ願ヒタイノデアリマス

院議作間耕逸君提出討論終局ノ動議ヲ採用シ討論ハ茲ニ終局ス

次テ議長ハ採決ニ付左ノ如ク院議ニ諮フ

中村啓次郎君外三名提出ノ修正案中、第一條ノ政體ヲ削ル點ハ委員長報告ト同一デアリマスガ、法文ノ組立方及刑期ノ點ニ於テ相違シテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ別個ノモノト認メマシテ、隨テ委員長報告ト修正案トハ共通ノ點ハ無イコトナリマス、左様御諒承願ヒタイノデアリマス、採決ノ順序ヲ一言致シマス、先ヅ中村啓次郎君外三名提出ノ修正案ヲ採決シ、次ニ、委員長報告ニ係ル修正ノ箇所ヲ採決シ、最後ニ委員長報告ニ係ル修正ヲ除キタル他ノ原案ニ付テ採決ヲ致シマス

中村君提出修正案ニ付起立表決ノ結果起立者少數ニテ否決スルニ決シ次テ委員會報告ニ係ル修正ノ箇所ニ付起立表決ノ結果起立者多數ニテ委員會報告ノ通修正議決ヲ爲ス

院議異議ナク第三讀會ヲ開クニ決シ引續キ第三讀會ヲ開キ第二讀會報告ノ通修正議決ヲ爲シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月十九日可決奏上シ四月二十二日法律第四十六號ヲ以テ公布セラル

二五 衆議院議員選舉法改正法律案

衆議院議員選舉法

第一章 選舉ニ關スル區域

第一條 衆議院議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

地方長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ投票區ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二項ノ規定ニ依リ設クル投票區ノ投票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三條 開票區ハ郡市ノ區域ニ依ル

地方長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ郡市ノ區域ヲ分チテ數開票區ヲ設クルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ開票區ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二項ノ規定ニ依リ設クル開票區ノ開票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ



以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條 行政區畫ノ變更ニ因リ選舉區ニ異動ヲ生スルモ現任議員ハ其ノ職ヲ失フコトナシ

第二章 選舉權及被選舉權

第五條 帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者ハ選舉權ヲ有ス

帝國臣民タル男子ニシテ年齡三十年以上ノ者ハ被選舉權ヲ有ス

第六條 左ニ掲クル者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

- 一 禁治產者及準禁治產者
- 二 破產者ニシテ復權ヲ得サル者
- 三 貧困ノ爲公私ノ救恤ヲ受クル者
- 四 一定ノ住居ヲ有セサル者
- 五 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 六 刑法第二編第一章、第二章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

七 六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑

ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第七條 華族ノ戶主ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者(未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク)及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒(勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク)及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

第八條 選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

第九條 在職ノ宮内官、判事、朝鮮總督府判事、臺灣總督府法院判官、關東廳法院判官、南洋廳判事、檢事、朝鮮總督府檢事、臺灣總督府法院檢察官、關東廳法院檢察官、南洋廳檢事、陸軍法務官、海軍法務官、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計檢查官、收稅官吏及警察官吏ハ被選舉權ヲ有セス

第十條 官吏及待遇官吏ハ左ニ掲クル者ヲ除クノ外在職中議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

- 一 國務大臣
- 二 內閣書記官長
- 三 法制局長官



四 各省政務次官

五 各省參與官

六 内閣總理大臣秘書官

第七 各省秘書官

第十一條 北海道會議員及府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三章 選舉人名簿

第十二條 町村長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ其ノ日迄引續キ六月以上其ノ町村内ニ住居ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ選舉人名簿二本ヲ調製シ十月十五日迄ニ之ヲ郡長ニ送付スヘシ 郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ調査シ其ノ修正スヘキモノハ修正ヲ加ヘ一本ハ十月三十一日迄ニ之ヲ町村長ニ返付スヘシ

市長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ其ノ日迄引續キ六月以上其ノ市内ニ住居ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ十月三十一日迄ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ 第一項又ハ前項ノ住居ニ關スル要件ヲ具備セサル選舉人ハ選舉人名簿ニ登録セラルルコトヲ得ス

選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名、住居及生年月日等ヲ記載スヘシ

第一項又ハ第三項ノ住居ニ關スル期間ハ行政區畫變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第十三條 郡長及市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間郡市役所、町村役場又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ縦覽ニ供スヘシ

郡長及市町村長ハ縦覽開始ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ縦覽ノ場所ヲ告示スヘシ

第十四條 選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アリト認ムルトキハ選舉人ハ理由書及證據ヲ具ヘ其ノ修正ヲ郡市長ニ申立ツルコトヲ得

縦覽期限ヲ經過シタルトキハ前項ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 郡市長ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉人名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セテ之ヲ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ其ノ旨ヲ申立人ニ通知スヘシ

前項ノ規定ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ郡長ハ直ニ其ノ旨ヲ關係町村長ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ町村長ハ直ニ名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第十六條 前條郡市長ノ決定ニ不服アル申立人又ハ關係人ハ郡市長ヲ被告トシ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方裁判所ニ出訴スルコトヲ得



前項裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴スルコトヲ得ス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第十七條 選舉人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定ス

選舉人名簿ハ次年ノ十二月十九日迄之ヲ据置クヘシ但シ確定判決ニ依リ修正スヘキモノハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ旨ヲ告示スヘシ

前項ノ規定ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ郡長ハ直ニ其ノ旨ヲ關係町村長ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ町村長ハ直ニ名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ告示スヘシ

天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ更ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

前項選舉人名簿ノ調製及其ノ期日、縦覽確定ニ關スル期日、期間等ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四章 選舉、投票及投票所

第十八條 總選舉ハ議員ノ任期終リタル日ノ翌日之ヲ行フヲ例トス但シ特別ノ事情アル場合ニ

於テハ議員ノ任期終リタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ行フコトヲ妨ケス

議會開會中又ハ議會閉會ノ日ヨリ二十五日以内ニ議員ノ任期終ル場合ニ於テハ總選舉ハ議會

閉會ノ日ヨリ二十日以後三十日以内ニ之ヲ行フ

衆議院解散ヲ命セラレタル場合ニ於テハ總選舉ハ解散ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ行フ

總選舉ノ期日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ二十五日前ニ之ヲ公布ス

第十九條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第二十條 市町村長ハ投票管理者ト爲リ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第二十一條 投票所ハ市役所、町村役場又ハ投票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第二十二條 投票管理者ハ選舉ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ投票所ヲ告示スヘシ

第二十三條 投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ

第二十四條 議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承

諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ選舉ノ期日ノ前日迄ニ投票管理者ニ届出ツルコトヲ得但シ議

員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出テタル投票立會人ハ其ノ

職ヲ失フ

前項ノ規定ニ依ル投票立會人三人ニ達セサルトキ若ハ三人ニ達セサルニ至リタルトキ又ハ投

票立會人ニシテ參會スル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルトキ若ハ其ノ後三人

ニ達セサルニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ記載セラレタル

者ノ中ヨリ三人ニ達スル迄ノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票ニ立會ハシムヘ



投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十五條 選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票管理者ハ投票ヲ爲サムトスル選舉人ノ本人ナリヤ否ヤヲ確認スルコト能ハサルトキハ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシムヘシ其ノ宣言ヲ爲ササル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付スヘシ

第二十七條 選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ議員候補者一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第二十八條 投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス

第二十九條 選舉人名簿ニ登録セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登録セラルルヘキ確定判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲシテ投票ヲ爲サシムヘシ

第三十條 選舉人名簿ニ登録セラレタル者選舉人名簿ニ登録セラルルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選舉ノ當日選舉權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

自ラ議員候補者ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ投票立會人ニ於テ異議アル選舉人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第三十二條 投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ旨ヲ告ケテ投票所ノ入口ヲ鎖シ投票所ニ在ル選舉人ノ投票終了スルヲ待チテ投票函ヲ閉鎖スヘシ

投票函閉鎖後ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條 勅令ヲ以テ指定スル業務ニ従事スル選舉人ニシテ勅令ノ定ムル業務上ノ事由ニ因リ選舉ノ當日其ノ投票区内ニ在ラサル爲自ラ投票所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハサルヘキコトヲ證スル者ノ投票ニ關シテハ第二十五條、第二十六條、第二十七條第一項、第二十九條但書及第三十一條ノ規定ニ拘ラス勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十四條 投票管理者ハ投票録ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第三十五條 投票管理者ハ一人又ハ數人ノ投票立會人ト共ニ町村ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日迄ニ市ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票函、投票録及選舉人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

第三十六條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ前條ノ期日ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況



アリト認ムルトキハ地方長官ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ開票ノ期日迄ニ其ノ投票函、投票録及選舉人名簿ヲ送致セシムルコトヲ得

第三十七條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ選舉長ヲ經テ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ地方長官ハ更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ但シ其ノ期日ハ少クトモ五日前ニ之ヲ告示セシムヘシ

第三十八條 第七十五條又ハ第七十九條ノ選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第三十九條 何人ト雖選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ陳述スルノ義務ナシ

第四十條 投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第四十一條 選舉人、投票所ノ事務ニ從事スル者、投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者及警察官吏ニ非サレハ投票所ニ入ルコトヲ得ス

第四十二條 投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騒ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ投票所

外ニ退出セシムヘシ

第四十三條 前條ノ規定ニ依リ投票所外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルコトヲ妨ケス

第五章 開票及開票所

第四十四條 郡市長ハ開票管理者ト爲リ開票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第四十五條 開票所ハ郡市役所又ハ開票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第四十六條 開票管理者ハ豫メ開票ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第四十七條 第二十四條ノ規定ハ開票立會人ニ之ヲ準用ス

第四十八條 開票管理者ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日ノ翌日開票所ニ於テ開票立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

第四十九條 前條ノ計算終リタルトキハ開票管理者ハ先ツ第三十一條第二項及第四項ノ投票ヲ調査シ開票立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ

開票管理者ハ各投票所ノ投票ヲ混同シ開票立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ  
投票ノ點檢終リタルトキハ開票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ選舉長ニ報告スヘシ



第五十條 選舉人ハ其ノ開票所ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ開票管理者之ヲ決定スヘシ

第五十二條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
- 二 議員候補者ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 三 一投票中二人以上ノ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 四 被選舉權ナキ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 六 議員候補者ノ氏名ヲ自書セサルモノ
- 七 議員候補者ノ何人ヲ記載シタルカヲ確認シ難キモノ
- 八 衆議院議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第八號ノ規定ハ第七十五條又ハ第七十九條ノ規定ニ依ル選舉ノ場合ニ限り之ヲ適用ス

第五十三條 投票ハ有效無効ヲ區別シ議員ノ任期間開票管理者ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第五十四條 開票管理者ハ開票録ヲ作り開票ニ關スル顛末ヲ記載シ開票立會人ト共ニ署名シ投

票録ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第五十五條 選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行ヒタル場合ノ開票ニ於テハ其ノ投票ノ效力ヲ決定スヘシ

第五十六條 第三十七條ノ規定ハ但書ヲ除キ開票ニ之ヲ準用ス

第五十七條 開票所ノ取締ニ付テハ第四十條乃至第四十二條ノ規定ヲ準用ス

第六章 選舉會

第五十八條 地方長官ハ各選舉區内ニ於ケル郡市長ノ中ニ就キ選舉長ヲ定ムヘシ但シ一縣一選舉區タル場合ニ於テハ其ノ地方長官ヲ、一市一選舉區タル場合ニ於テハ其ノ市長ヲ選舉長トス

選舉長ハ選舉會ニ關スル事務ヲ擔任ス

第五十九條 選舉會ハ選舉長ノ屬スル縣廳若ハ郡市役所又ハ選舉長ノ指定シタル場所ニ之ヲ開ク

第六十條 選舉長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第六十一條 第二十四條ノ規定ハ選舉立會人ニ之ヲ準用ス

第六十二條 選舉長ハ總テノ開票管理者ヨリ第四十九條第三項ノ報告ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日選舉會ヲ開キ選舉立會人立會ノ上其ノ報告ヲ調査スヘシ



選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於テ第四十九條第三項ノ報告ヲ受ケタルト  
キハ選舉長ハ前項ノ例ニ依リ選舉會ヲ開キ他ノ部分ノ報告ト共ニ更ニ之ヲ調査スヘシ其ノ  
第六十三條 選舉人ハ其ノ選舉會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第六十四條 選舉長ハ選舉錄ヲ作り選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ選舉立會人ト共ニ署名シ第四  
十九條第三項ノ報告ニ關スル書類ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第六十五條 第三十七條ノ規定ハ但書ヲ除キ選舉會ニ之ヲ準用ス

第六十六條 選舉會場ノ取締ニ付テハ第四十條乃至第四十二條ノ規定ヲ準用ス

第七章 議員候補者及當選人

第六十七條 議員候補者タラムトスル者ハ選舉ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル日ヨリ選舉ノ期  
日前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

選舉人名簿ニ記載セラレタル者他人ヲ議員候補者ト爲サムトスルトキハ前項ノ期間内ニ其ノ  
推薦ノ届出ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ期間内ニ届出アリタル議員候補者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ超ユル場合ニ於テ  
其ノ期間ヲ經過シタル後議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前二項  
ノ例ニ依リ選舉ノ期日ノ前日迄議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ爲スコトヲ得

議員候補者ハ選舉長ニ届出ヲ爲スニ非サレハ議員候補者タルコトヲ辭スルコトヲ得ス  
前四項ノ届出アリタルトキ又ハ議員候補者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ選舉長ハ直ニ  
其ノ旨ヲ告示スヘシ

第六十八條 議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ爲サムトスル者ハ議員候補者一人ニ付二千圓又  
ハ之ニ相當スル額面ノ國債證書ヲ供託スルコトヲ要ス

議員候補者ノ得票數其ノ選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ十  
分ノ一ニ達セサルトキハ前項ノ供託物ハ政府ニ歸屬ス

議員候補者選舉ノ期日前十日以内ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前項ノ規定ヲ準用  
ス但シ被選舉權ヲ有セサルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ此ノ限ニ在ラ  
ス

第六十九條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選舉區内ノ議員ノ定數ヲ  
以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢モ亦同シキトキハ選舉會ニ  
於テ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第八十一條又ハ第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定



メ得ル場合ニ於テハ選舉會ヲ開キ之ヲ定ムヘシ  
當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ第七十條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ  
ハ直ニ選舉會ヲ開キ第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定  
ムヘシ

當選人第八十四條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果又ハ第三百二十六條ノ規定ニ依リ當選無効ト爲リタ  
ルトキハ選舉會ヲ開キ其ノ第七十四條ノ規定ニ依ル當選承諾届出期限前ナル場合ニ於テハ前  
項ノ例ニ依リ其ノ届出期限經過後ナル場合ニ於テハ第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニ  
シテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

前三項ノ場合ニ於テ第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者選舉ノ期日後ニ於テ被  
選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選人ト定ムルコトヲ得ス

第七十條 當選人選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第七十一條 第六十七條第一項乃至第三項ノ規定ニ依ル届出アリタル議員候補者其ノ選舉ニ於  
ケル議員ノ定數ヲ超エサルトキハ其ノ選舉區ニ於テハ投票ヲ行ハス

前項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フコトヲ要セサルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ投票管理者ニ通知  
シ併セテ之ヲ告示シ且地方長官ニ報告スヘシ

投票管理者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ選舉長ハ選舉ノ期日ヨリ五日以内ニ選舉會ヲ開キ議員候補者ヲ以テ當  
選人ト定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ議員候補者ノ被選舉權ノ有無ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定ス  
ヘシ

第七十二條 當選人定リタルトキハ選舉長ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選人ノ氏  
名ヲ告示シ且當選人ノ氏名、得票數及其ノ選舉ニ於ケル有効投票ノ總數其ノ他選舉ノ顛末ヲ  
地方長官ニ報告スヘシ

當選人ナキトキ又ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ  
旨ヲ告示シ且之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第七十三條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選舉長ニ届出ツ  
ヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ス

選舉長第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ  
第七十四條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲ササルトキ



ハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第七十五條 左ニ掲クル事由ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ルトキヲ除クノ外地方長官ハ選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ十四日前ニ之ヲ告示シ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ同一人ニ關シ左ニ掲クル其ノ他ノ事由ニ依リ又ハ第七十九條第六項ノ規定ニ依リ選舉ノ期日ヲ告示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 當選人ナキトキ又ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ
  - 二 當選人當選ヲ辭シタルトキ又ハ死亡者ナルトキ
  - 三 當選人第七十條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ
  - 四 第八十一條又ハ第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果當選人ナキニ至リ又ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキ
  - 五 當選人第八十四條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果當選無効ト爲リタルトキ
  - 六 當選人第三百三十六條ノ規定ニ依リ當選無効ト爲リタルトキ
- 第九章ノ規定ニ依ル訴訟ノ出訴期間ハ前項ノ規定ニ依ル選舉ヲ行フコトヲ得ス其ノ出訴アリタル場合ニ於テ訴訟繫屬中亦同シ
- 第一項ノ選舉ノ期日ハ第九章ノ規定ニ依ル訴訟ノ出訴期間滿了ノ日、其ノ出訴アリタル場合

ニ於テハ地方長官第八十六條第一項ノ規定ニ依リ訴訟繫屬セサルニ至リタル旨ノ大審院長ノ通知ヲ受ケタル日又ハ第四百十三條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第一項各號ノ一ニ該當スル事由議員ノ任期ノ終ル前六月以内ニ生シタルトキハ第一項ノ選舉ハ之ヲ行ハス

第七十六條 當選人當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ直ニ當選證書ヲ付與シ其ノ氏名ヲ告示シ且之ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第七十七條 第九章ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果選舉若ハ當選無効ト爲リタルトキ又ハ當選人第三百三十六條ノ規定ニ依リ當選無効ト爲リタルトキハ地方長官ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第八章 議員ノ任期及補闕

第七十八條 議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ期日ヨリ之ヲ起算ス但シ議會開會中ニ任期終ルモ閉會ニ至ル迄在任ス

第七十九條 議員ニ闕員ヲ生スルモ其ノ闕員ノ數同一選舉區ニ於テ二人ニ達スル迄ハ補闕選舉ハ之ヲ行ハス

議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ内務大臣ハ議院法第八十四條ノ規定ニ依ル衆議院議長ノ通牒ヲ



受ケタル日ヨリ五日以内ニ地方長官ニ對シ其ノ旨ヲ通知スヘシ  
 地方長官ハ前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ闕員ト爲リタル議員カ第七十四條ノ  
 規定ニ依ル當選承諾届出ノ期限前ニ於テ闕員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第六十九條第一項  
 但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ於テ闕員ト爲リタ  
 ル者ナル場合ニ於テ第六十九條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選人ト爲ラサ  
 リシ者アルトキハ直ニ議員闕員ト爲リタル旨ヲ選舉長ニ通知スヘシ  
 選舉長ハ前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ第六十九條第四項乃至第六項  
 ノ規定ヲ準用シ當選人ヲ定ムヘシ  
 地方長官ハ第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ第三項ノ規定ノ適用アルトキ及同  
 一人ニ關シ第七十五條ノ規定ニ依リ選舉ノ期日ヲ告示シタルトキヲ除クノ外其ノ闕員ノ數同  
 一選舉區ニ於テ二人ニ達スルヲ待チ最後ニ第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日  
 以内ニ補闕選舉ヲ行ハシムヘシ  
 補闕選舉ノ期日ハ地方長官少クトモ十四日前ニ之ヲ告示スヘシ  
 第七十五條第二項乃至第四項ノ規定ハ補闕選舉ニ之ヲ準用ス  
 第八十條 補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第九章 訴訟

第八十一條 選舉ノ效力ニ關シ異議アル選舉人又ハ議員候補者ハ選舉長ヲ被告トシ選舉ノ日ヨ  
 リ三十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得  
 第八十二條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ及ホスノ虞アル場合ニ  
 限り裁判所ハ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ノ無効ヲ判決スヘシ  
 第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ニ於テモ其ノ選舉前項ノ場合ニ該當スルトキハ裁判所ハ其ノ全  
 部又ハ一部ノ無効ヲ判決スヘシ  
 第八十三條 當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシ第七十二條  
 第一項及第二項ノ告示ノ日ヨリ三十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得但シ第六十九條第一  
 項但書ニ定メタル得票ニ達シタリトノ理由、第六十九條第六項若ハ第七十條ノ規定ニ該當セ  
 ストノ理由又ハ第七十一條第五項ノ決定違法ナリトノ理由ニ因リ出訴スル場合ニ於テハ選舉  
 長ヲ被告トスヘシ  
 前項ノ規定ニ依ル訴訟ノ裁判確定前當選人死亡シタルトキハ檢事ヲ被告トス  
 第八十四條 第一百條ノ規定ニ依リ當選ヲ無効ナリト認ムル選舉人又ハ議員候補者ハ當選人ヲ  
 被告トシ第七十二條第一項ノ告示ノ日ヨリ三十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得



第八十五條 裁判所ハ本章ノ規定ニ依ル訴訟ヲ裁判スルニ當リ檢事ヲシテ口頭辯論ニ立會ハシムヘシ

第八十六條 本章ノ規定ニ依ル訴訟ノ提起アリタルトキハ大審院長ハ其ノ旨ヲ内務大臣及關係地方長官ニ通知スヘシ訴訟ノ繫屬セサルニ至リタルトキ亦同シ

本章ノ規定ニ依ル訴訟ニ付判決アリタルトキハ大審院長ハ其ノ判決書ノ謄本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ帝國議會開會中ナルトキハ併セテ之ヲ衆議院議長ニ送付スヘシ

第八十七條 本章ノ規定ニ依ル訴訟ヲ提起セムトスル者ハ保證金トシテ三百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ國債證書ヲ供託スルコトヲ要ス

原告敗訴ノ場合ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充當シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴ス

第十章 選舉運動

第八十八條 議員候補者ハ選舉事務長一人ヲ選任スヘシ但シ議員候補者自ラ選舉事務長ト爲リ又ハ推薦届出者(推薦届出者數人アルトキハ其ノ代表者)議員候補者ノ承諾ヲ得テ選舉事務長ヲ選任シ若ハ自ラ選舉事務長ト爲ルコトヲ妨ケス

議員候補者ノ承諾ヲ得シテ其ノ推薦ノ届出ヲ爲シタル者ハ前項但書ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

セス

議員候補者ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選舉事務長ヲ解任スルコトヲ得選舉事務長ヲ選任シタル推薦届出者ニ於テ議員候補者ノ承諾ヲ得タルトキ亦同シ

選舉事務長ハ文書ヲ以テ議員候補者及選任者ニ通知スルコトニ依リ辭任スルコトヲ得選舉事務長ノ選任者(自ラ選舉事務長ト爲リタル者ヲ含ム以下之ニ同シ)ハ直ニ其ノ旨ヲ選舉區内警察官署ノ一ニ届出ツヘシ

區内警察官署ニ異動アリタルトキハ前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者直ニ其ノ届出ヲ爲シタル警察官署ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第九十五條ノ規定ニ依リ選舉事務長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ハ前項ノ例ニ依リ届出ツヘシ其ノ之ヲ罷メタルトキ亦同シ

第八十九條 選舉事務長ニ非サレハ選舉事務所ヲ設置シ又ハ選舉委員若ハ選舉事務員ヲ選任スルコトヲ得ス

選舉事務長ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選舉委員又ハ選舉事務員ヲ解任スルコトヲ得選舉委員又ハ選舉事務員ハ文書ヲ以テ選舉事務長ニ通知スルコトニ依リ辭任スルコトヲ得

選舉事務長選舉事務所ヲ設置シ又ハ選舉委員若ハ選舉事務員ヲ選任シタルトキハ直ニ其ノ旨



ラ前條第五項ノ届出アリタル警察官署ニ届出ツヘシ選舉事務所又ハ選舉委員若ハ選舉事務員ニ異動アリタルトキ亦同シ

第九十條 選舉事務所ハ議員候補者一人ニ付七箇所ヲ超ユルコトヲ得ス

選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行フ場合又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ選舉事務所ハ前項ニ掲クル數ヲ超エサル範圍内ニ於テ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ノ定メタル數ヲ超ユルコトヲ得ス

地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)前項ノ規定ニ依リ選舉事務所ノ數ヲ定メタル場合ニ於テハ選舉ノ期日ノ告示アリタル後直ニ之ヲ告示スヘシ

第九十一條 選舉事務所ハ選舉ノ當日ニ限り投票所ヲ設ケタル場所ノ入口ヨリ三町以内ノ區域ニ之ヲ置クコトヲ得ス

第九十二條 休憩所其ノ他之ニ類似スル設備ハ選舉運動ノ爲之ヲ設クルコトヲ得ス

第九十三條 選舉委員及選舉事務員ハ議員候補者一人ニ付通シテ五十人ヲ超ユルコトヲ得ス

第九十條第二項及第三項ノ規定ハ選舉委員及選舉事務員ニ關シ之ヲ準用ス

第九十四條 選舉事務長選舉權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第九十九條第二項ノ規定ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得サル者ナルトキハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ直ニ其ノ解任

又ハ退任ヲ命スヘシ

第八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ選舉事務所ノ設置アリト認ムルトキハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ直ニ其ノ選舉事務所ノ閉鎖ヲ命スヘシ第九十條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選舉事務所ノ設置アリト認ムルトキハ其ノ超過シタル數ノ選舉事務所ニ付亦同シ

前條ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選舉委員又ハ選舉事務員ノ選任アリト認ムルトキハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ直ニ其ノ超過シタル數ノ選舉委員又ハ選舉事務員ノ解任ヲ命スヘシ選舉委員又ハ選舉事務員選舉權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第九十九條第二項ノ規定ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得サル者ナルトキ其ノ選舉委員又ハ選舉事務員ニ付亦同シ

第九十五條 選舉事務長故障アルトキハ選任者代リテ其ノ職務ヲ行フ

推薦届出者タル選任者モ亦故障アルトキハ議員候補者ノ承諾ヲ得スシテ其ノ推薦ノ届出ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外議員候補者代リテ其ノ職務ヲ行フ

第九十六條 議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演説又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ハ選舉運動ノ爲ニ要スル飲食物、船車馬等ノ



供給又ハ旅費、休泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得演説又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス者其ノ運動ヲ爲スニ付亦同シ

選舉事務員ハ選舉運動ヲ爲スニ付報酬ヲ受クルコトヲ得

第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス

何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

第九十九條 選舉權ヲ有セサル者ハ選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ト爲ルコトヲ得ス

選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

第一百條 内務大臣ハ選舉運動ノ爲頒布シ又ハ揭示スル文書圖畫ニ關シ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第十一章 選舉運動ノ費用

第一百一條 立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者、選舉委員又ハ選舉事務員ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ妨ケス

議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ハ選舉運動ノ費用ヲ支出スルコトヲ得ス但シ演説又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ノ費用ハ此ノ限ニ在ラス

第一百二條 選舉ノ運動費用ハ議員候補者一人ニ付左ノ各號ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ選舉人名簿確定ノ日ニ於テ之ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ

二 選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ選舉人名簿確定ノ日ニ於テ關係區域ノ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ四十錢ニ乘シテ得タル額

三 第三十七條ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ前號ノ規定ニ準シテ算出シタル額但シ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)必要アリト認ムルトキハ之ヲ減額スルコトヲ得

地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ選舉ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル後直ニ前項ノ規定ニ依ル額ヲ告示スヘシ

第一百三條 選舉運動ノ爲財産上ノ義務ヲ負擔シ又ハ建物、船車馬、印刷物、飲食物其ノ他ノ金錢以外ノ財産上ノ利益ヲ使用シ若ハ費消シタル場合ニ於テハ其ノ義務又ハ利益ヲ時價ニ見積リタル金額ヲ以テ選舉運動ノ費用ト看做ス



第四百四條 左ノ各號ニ掲クル費用ハ之ヲ選舉運動ノ費用ニ非サルモノト看做ス

- 一 議員候補者カ乗用スル船車馬等ノ爲ニ要シタル費用
  - 二 選舉ノ期日後ニ於テ選舉運動ノ殘務整理ノ爲ニ要シタル費用
  - 三 選舉委員又ハ選舉事務員ノ支出シタル費用ニシテ議員候補者又ハ選舉事務長ト意思ヲ通シテ支出シタル費用以外ノモノ但シ第一百一條第一項ノ規定ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
  - 四 第六十七條第一項乃至第三項ノ届出アリタル後議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ノ支出シタル費用ニシテ議員候補者又ハ選舉事務長ト意思ヲ通シテ支出シタル費用以外ノモノ但シ第一百一條第二項ノ規定ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
  - 五 立候補準備ノ爲ニ要シタル費用ニシテ議員候補者若ハ選舉事務長ト爲リタル者ノ支出シタル費用又ハ其ノ者ト意思ヲ通シテ支出シタル費用以外ノモノ
- 第四百五條 選舉事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ備ヘ之ニ選舉運動ノ費用ヲ記載スヘシ
- 第四百六條 選舉事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ選舉運動ノ費用ヲ精算シ選舉ノ期日ヨリ七日以内ニ第八十八條第五項ノ届出アリタル警察官署ヲ經テ之ヲ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ届出ツヘシ
- 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ前項ノ規定ニ依リ届出アリタル選舉運動ノ費用ヲ告

示スヘシ

第四百七條 選舉事務長ハ前條第一項ノ届出ヲ爲シタル日ヨリ一年間選舉運動ノ費用ニ關スル帳簿及書類ヲ保存スヘシ

前項ノ帳簿及書類ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四百八條 警察官吏ハ選舉ノ期日後何時ニテモ選舉事務長ニ對シ選舉運動ノ費用ニ關スル帳簿又ハ書類ノ提出ヲ命ジ、之ヲ検査シ又ハ之ニ關スル説明ヲ求ムルコトヲ得

第四百九條 選舉事務長辭任シ又ハ解任セラレタル場合ニ於テハ遲滞ナク選舉運動ノ費用ノ計算ヲ爲シ新ニ選舉事務長ト爲リタル者ニ對シ、新ニ選舉事務長ト爲リタル者ナキトキハ第九十五條ノ規定ニ依リ選舉事務長ノ職務ヲ行フ者ニ對シ選舉事務所、選舉委員、選舉事務員其ノ他ニ關スル事務ト共ニ其ノ引繼ヲ爲スヘシ第九十五條ノ規定ニ依リ選舉事務長ノ職務ヲ行フ者事務ノ引繼ヲ受ケタル後新ニ選舉事務長定リタルトキ亦同シ

第一百十條 議員候補者ノ爲支出セラレタル選舉運動ノ費用カ第一百二條第二項ノ規定ニ依リ告示セラレタル額ヲ超エタルトキハ其ノ議員候補者ノ當選ヲ無効トス但シ議員候補者及推薦届出者カ選舉事務長又ハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シ且選舉事務長又ハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テ選舉運動ノ費用ノ支出ニ付過失ナカリシトキ



ハ此ノ限ニ在ラス

第十二章 罰則

第百十一條 詐偽ノ方法ヲ以テ選舉人名簿ニ登録セラレタル者又ハ第二十五條第二項ノ場合ニ於テ虚偽ノ宣言ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ饗應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ

三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

四 第一號若ハ前號ノ供與、饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

五 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

第百十三條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル目的ヲ以テ議員候補者若ハ議員候補者タラムトスル者ニ對シ又ハ當選ヲ辭セシムル目的ヲ以テ當選人ニ對シ前條第一號又ハ第二號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

二 議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メタルコト、當選ヲ辭シタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ議員候補者タリシ者、議員候補者タラムトシタル者又ハ當選人タリシ者ニ對シ前條第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

三 前二號ノ供與、饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、前二號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第一號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

四 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ



第十四條 前二條ノ場合ニ於テ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス

第十五條 選舉ニ關シ左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 選舉人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選舉運動者又ハ當選人ニ對シ暴行若ハ威力ヲ加ヘ又ハ之ヲ拐引シタルトキ
- 二 交通若ハ集會ノ便ヲ妨ケ又ハ演說ヲ妨害シ其ノ他偽計詐術等不正ノ方法ヲ以テ選舉ノ自由ヲ妨害シタルトキ
- 三 選舉人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選舉運動者若ハ當選人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ利害關係ヲ利用シテ選舉人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選舉運動者又ハ當選人ヲ威逼シタルトキ

第十六條 選舉ニ關シ官吏又ハ吏員故意ニ其ノ職務ノ執行ヲ怠リ又ハ職權ヲ濫用シテ選舉ノ自由ヲ妨害シタルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

官吏又ハ吏員選舉人ニ對シ其ノ投票セムトシ又ハ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ表示ヲ求メタ

ルトキハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ表示シタルトキハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ表示シタル事實虛偽ナルトキ亦同シ

第十八條 投票所又ハ開票所ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選舉人ノ投票ニ關涉シ又ハ被選舉人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

法令ノ規定ニ依ラスシテ投票函ヲ開キ又ハ投票函中ノ投票ヲ取出シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 投票管理者、開票管理者、選舉長、立會人若ハ選舉監視者ニ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘ、選舉會場、開票所若ハ投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞若ハ奪取シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十條 多衆聚合シテ第十五條第一號又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ



三 附和隨行シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第百十五條第一號又ハ前條ノ罪ヲ犯ス爲多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍解散セサルトキハ首魁ハ二年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第百二十一條 選舉ニ關シ銃砲、刀劍、棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帯シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

警察官吏又ハ憲兵ハ必要ト認ムル場合ニ於テ前項ノ物件ヲ領置スルコトヲ得

第百二十二條 前條ノ物件ヲ携帯シテ選舉會場、開票所又ハ投票所ニ入りタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其ノ携帯シタル物件ヲ沒收ス

第百二十四條 選舉ニ關シ多衆集合シ若ハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ煙火、松明ノ類ヲ用ヒ若ハ鐘鼓、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用フル等氣勢ヲ張ルノ行爲ヲ爲シ警察官吏ノ制止ヲ受クルモ仍其ノ命ニ從ハサル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十五條 演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス第百十

二條、第百十三條、第百十五條、第百十八條乃至第二百二十二條及前條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ人ヲ煽動シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ新聞紙及雜誌ニ在リテハ仍其ノ編輯人及實際編輯ヲ擔當シタル者ヲ罰ス

第百二十六條 演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス新聞紙及雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル

一 當選ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ議員候補者ノ身分、職業又ハ經歷ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニシタルトキ

二 當選ヲ得シメサル目的ヲ以テ議員候補者ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニシタルトキ

第百二十七條 選舉人ニ非サル者投票ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

氏名ヲ詐稱シ其ノ他詐偽ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

投票ヲ偽造シ又ハ其ノ數ヲ増減シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス



選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ懲役  
若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條 立會人正當ノ事故ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ缺クトキハ百圓以下ノ罰金ニ  
處ス

第二百二十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル  
命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 第九十條第一項第二項ノ規定ニ依ル定數ヲ超エ若ハ第九十一條ノ規定ニ違反シテ  
選舉事務所ヲ設置シタル者又ハ第九十二條ノ規定ニ違反シテ休憩所其ノ他之ニ類似スル設備  
ヲ設ケタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十三條ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選舉委員又ハ選舉事務員ノ選任ヲ爲シタル者亦前項ニ  
同シ

第三百一十一條 第八十九條第一項、第九十九條又ハ第九十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下  
ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十二條 第八十八條第五項乃至第七項又ハ第八十九條第四項ノ届出ヲ怠リタル者ハ百圓  
以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者亦前項ニ同シ

第三百三十三條 選舉事務長又ハ選舉事務長ニ代リ其ノ職務ヲ行フ者第二百二條第二項ノ規定ニ依  
リ告示セラレタル額ヲ超エ選舉運動ノ費用ヲ支出シ又ハ第一百一條第一項但書ノ規定ニ依ル承  
諾ヲ與ヘテ支出セシメタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十四條 第一百一條ノ規定ニ違反シテ選舉運動ノ費用ヲ支出シタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ  
處ス

第三百三十五條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ  
處ス

一 第二百五條ノ規定ニ違反シテ帳簿ヲ備ヘス又ハ帳簿ニ記載ヲ爲サス若ハ之ニ虚偽ノ記入ヲ  
爲シタルトキ

二 第二百六條第一項ノ届出ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキ

三 第二百七條第一項ノ規定ニ違反シテ帳簿又ハ書類ヲ保存セサルトキ

四 第二百七條第一項ノ規定ニ依リ保存スヘキ帳簿又ハ書類ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタルトキ

五 第二百八條ノ規定ニ依ル帳簿若ハ書類ノ提出若ハ検査ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ説明ノ求ニ  
應セサルトキ



第三百三十六條 當選人其ノ選舉ニ關シ本章ニ掲クル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選  
 ヲ無効トス選舉事務長第百十二條又ハ第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ亦同シ  
 第三百三十七條 本章ニ掲クル罪ヲ犯シタル者ニシテ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ニ在リテハ其ノ  
 裁判確定ノ後五年間、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ在リテハ其ノ裁判確定ノ後刑ノ執行  
 ヲ終ル迄又ハ刑ノ時効ニ因ル場合ヲ除クノ外刑ノ執行ノ免除ヲ受クル迄ノ間及其ノ後五年間  
 衆議院議員及選舉ニ付本章ノ規定ヲ準用スル議會ノ議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セス禁錮以  
 上ノ刑ニ處セラレタル者ニ付其ノ裁判確定ノ後ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同シ  
 前項ニ規定スル者ト雖情狀ニ因リ裁判所ハ刑ノ言渡ト同時ニ前項ノ規定ヲ適用セス又ハ其ノ  
 期間ヲ短縮スル旨ノ宣告ヲ爲スコトヲ得  
 前二項ニ規定ハ第六條第五號ノ規定ニ該當スル者ニハ之ヲ適用セス  
 第三百三十八條 第百二十七條第三項及第四項ノ罪ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ因リテ完成ス  
 前項ニ掲クル罪以外ノ本章ノ罪ノ時効ハ六月ヲ經過スルニ因リテ完成ス但シ犯人逃亡シタル  
 トキハ其ノ期間ハ一年トス  
 第十三章 補則  
 第三百二十九條 選舉ニ關スル費用ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四百十條 議員候補者又ハ推薦届出者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ選舉區内ニ在ル選舉人ニ

對シ選舉運動ノ爲ニスル通常郵便物ヲ選舉人一人ニ付一通ヲ限り無料ヲ以テ差出スコトヲ得

公立學校其ノ他勅令ヲ以テ定ムル營造物ノ設備ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ演說ニ依ル選舉運動

ノ爲其ノ使用ヲ許可スヘシ

第四百十一條 選舉ニ關スル訴訟ニ付テハ本法ニ規定シタルモノヲ除クノ外民事訴訟ノ例ニ依

ル選舉ニ關スル訴訟ニ付テハ裁判所ハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第四百十二條 第十二章ニ掲クル罪ニ關スル刑事訴訟ニ付テハ上告裁判所ハ刑事訴訟法第四百

二十二條第一項ノ期間ニ依ラサルコトヲ得

第四百十三條 當選人其ノ選舉ニ關シ第十二章ニ掲クル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ又ハ選

舉事務長第百十二條若ハ第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ裁判所ノ長ハ其ノ旨

ヲ内務大臣及關係地方長官ニ通知スヘシ

第四百十四條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適

用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做



第四百四十五條 郡長ヲ置カサル地ニ於テハ本法中郡ニ關スル規定ハ島司又ハ北海道廳支廳長ノ管轄區域ニ、郡長ニ關スル規定ハ島司又ハ北海道廳支廳長ニ、郡役所ニ關スル規定ハ島廳又ハ北海道廳支廳ニ之ヲ適用ス

市制第六條ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ、町村役場ニ關スル規定ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第四百四十六條 交通至難ノ島嶼其ノ他ノ地ニ於テ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四百四十七條 第三十三條ノ規定ニ依ル投票ニ付テハ其ノ投票ヲ管理スヘキ者ハ之ヲ投票管理理者、其ノ投票ヲ記載スヘキ場所ハ之ヲ投票所、其ノ投票ニ立會フヘキ者ハ之ヲ投票立會人ト看做シ第十二章ノ規定ヲ適用ス

第四百四十八條 本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル

者ハ之ヲ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第四百四十九條 明治十三年第三十六號布告刑法第二編第四章第九節ノ規定ハ衆議院議員ノ選舉ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五百十條 本法ハ東京府小笠原島並北海道廳根室支廳管内占守郡、新知郡、得撫郡及色丹郡ニハ當分ノ内之ヲ施行セス

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

本法ニヨリ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ第十八條ノ規定ニ依リ難キトキハ勅命ヲ以テ別ニ總選舉ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル總選舉ニ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第十二條、第十三條、第十五條又ハ第十七條ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス

別表











第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

九百四十七

第二區	第一區	栃木縣	第三區	第二區	稻敷郡	北相馬郡	那珂郡	久那郡	多治郡	新治郡	筑波郡	眞壁郡	猿島郡	結城郡	宇都宮郡	河内郡	上野郡	鹽谷郡	那須郡	足利郡	芳賀郡	下野郡	
四人	五人	三人	四人	五人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人

千葉縣	第二區	第一區	群馬縣	第三區	北葛飾郡	南葛飾郡	北埼玉郡	南埼玉郡	前橋市	桐生市	勢多郡	利根郡	佐田郡	新田郡	山田郡	邑樂郡	高崎郡	群馬郡	多野郡	北甘野郡	碓氷郡	吾妻郡	
五人	四人	五人	四人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人

九百四十六







第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議

巖手縣																		
第一區			第三區				第二區											
和	稗	二	九	下	紫	巖	盛	相	雙	石	田	石	西	東	大	河	耶	北
賀	貫	戶	戶	閉	波	手	岡	馬	葉	城	村	川	白	白	沼	沼	麻	會
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
				三				三	四	三					五		四	
				人				人	人	人					人		人	

第四項 法律案 九百五十一

山形縣															
第二區					第一區			第二區							
北	南	中	西	弘	三	下	上	東	青	上	氣	東	西	江	膽
津	津	津	津	前	戶	北	北	津	森	閉	仙	磐	磐	刺	澤
輕	輕	輕	輕	市	郡	郡	郡	市	市	郡	郡	郡	郡	郡	郡
				三				三	三					四	
				人				人	人					人	

宮城縣																	
第一區			第四區				第三區										
黑	宮	名	互	伊	柴	刈	仙	北	南	東	西	松	下	上	諏	埴	小
川	城	取	理	具	田	田	臺	安	安	筑	筑	本	伊	伊	訪	科	縣
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	郡
								三	三	三				四		三	
								人	人	人				人		人	

福島縣																	
第一區					第二區												
南	岩	若	安	安	伊	信	郡	福	本	牡	桃	登	栗	玉	遠	志	加
會	瀨	松	積	達	達	夫	山	島	吉	鹿	生	米	原	造	田	田	美
津	郡	市	郡	郡	郡	郡	市	市	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
									三					三		三	
									人					人		人	

九百五十二



島 島 嶼					島 島 嶼					島 島 嶼						
第一區					第二區					第一區						
根 縣					取 縣					取 縣						
隱岐	簸原	大原	仁多	能義	八東	松江	西礪波	東礪波	水見	射水	高岡	婦負	下新川	中新川	上新川	富山
郡	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	市	市
三人					四人					三人						

岡 山 縣										岡 山 縣									
第三區										第二區									
久米	英田	勝田	勝田	勝田	眞庭	上道	邑久	和氣	赤磐	御津	岡山	鹿足	美濃	那賀	邑智	邇摩	安濃	飯石	
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	市	市	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	
五人										三人									

秋 田 縣										秋 田 縣									
第一區										第二區									
山北	鹿角	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	
郡	郡	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	
四人										三人									

富 山 縣										富 山 縣									
第二區										第一區									
珠洲	鳳至	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	
四人										三人									















堪ヘナイノデアリマス、去ル十九日ニハ政府ハ治安維持法ヲ突如トシテ、緊急動議トシテ出シタ  
 ノデゴザイマス、此法案ノ如キモ全ク國家ノ興廢ニ關係スルヤウナ重要問題デアアル、何故ニ政府  
 ハ斯ノ如キ重要ナルモノヲ、吾ミニ十分ナル審査ノ期間ヲ宛行ハナクシテ、恰モ臭イ物ニ蓋ヲス  
 ルヤウナ調子ニシテ居ルト云フコトハ、甚ダ政府ガ誠意ノ無イコトデアアル、此衆議院議員選舉法  
 改正法ニ於テモ、樞密院ニ於テハ六十日間程經過シテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク重要ナルモノ  
 ヲ審査スルニハ、十分ナル期間ヲ宛行ハナケレバナラヌニ拘ラズ、突如トシテ昨日五時ニ出シテ  
 本日日程ニ上ボスト云フヤウナコトハ、政治家トシテ甚ダ德義上忍ビナイ事デアラウト思フ、政  
 府ハ誠意ガアルナラバ、直ニ撤回シテ、來ルベキ本會議マデ之ヲ延期スルト云フコトガ至當ナル  
 事ト思フノデアリマス、何故ニ斯ノ如キ重大ナル法案ヲ突如トシテ提出シテ、吾ミニ何故ニ十分  
 ナル審査期間ヲ宛行ハナイカト云フコトヲ吾ミハ甚ダ疑フノデアリマス、曩ニ地租條例ノ改正  
 ノ時ニ斯ウ云フヤウナ先例モアルノデアリマス、第十二回ノ議會明治三十一年五月二十七日、此  
 條例ノ改正ノ時ニ、マダ四十八時間ヲ經過シナイト云フノデ、河野廣中君ガ緊急事件ノ要求ヲ取  
 消セト云フ緊急動議ヲ提出サレタノデアリマス、其際ニ末松遞信大臣ハ政府ヲ代表シテ、緊急事  
 件ト云フ要求ヲ取消シタコトガアリマス、地租條例ト本案トハ非常ナル差ガアリマス、地租條例  
 スラ斯ノ如ク緊急ノ要求ヲ取消シタ例ガアルデアリマセヌカ、斯ノ如キ重大ナル國家ノ大法  
 典ヲ議スル上ニ於テ、漸ク其日ニ出シテ其日ニ議スト云フヤウナコトハ、甚ダ議員ノ職權ヲ蹂躪  
 シ、議員ノ審査權ヲ蹂躪シタト言ウテモ宜シイノデアリマス、政府ハ速ニ反省シテ、次ノ本會議  
 マデ延期スルヤウナコトヲ十分ニ熟考セラレンコトヲ希望致シマス

原夫次郎君ハ之ニ賛成、小山松壽君ハ反對ノ意見ヲ述フ

原夫次郎君ノ賛成意見

只今議題ニ相成リシ成田君ノ動議ニ賛成ノ意見ヲ表スル者デアリマス、只今成田君ノ提出ニ係

ル動議ハ、我が憲法政治ノ爲ニハ非常ニ重大ナル問題デアアルノデアリマス、吾ミハ常ニ國民ノ代  
 表ト致シテ、諸君ト共ニ總テノ議案ヲ取扱フ上ニ於テ慎重審議ヲ爲サンコトヲ考ヘテ居ル者デ  
 アル、是ハ滿場ノ諸君モ皆同様デアアルト心得ル、議院規則ヲ通覽スルニ、一讀會トシテ日程  
 ニ掲ゲル場合ニハ、原則ト致シテ、議案ヲ少クトモ議員ノ手許ニ二日間曝シテ置カナケレバ  
 ナラヌト云フ原則ガアル、是モ時ト場合ニ依テ、事柄ガ緊急デアアル場合ニハ是ガ例外規定ヲ  
 認メテ居ルコトハ明デアアル、然ルニ拘ラズ何デ此普選案ト云フモノヲ、斯ノ如ク今日上程シ  
 ナケレバナラヌカト云フ其理由ハ何所ニ在ルノデアアル、政府ハ曩ニ樞密院ニ審議ヲ求メル  
 爲ニ上奏ヲ致シテ居ルノデアアル、其場合ニ於テハ總テノ議案ト云フモノハ、是ハ秘密ニ取扱ッテ  
 居ルノデアリマスガ、而シテ唯新聞デ吾ミハ拜見致シテ居ルダケノモノデアアル、然ルニ拘ラ  
 ズ此議案ト云フモノハ唯政府ト樞密院ノ精査委員間ニ彼此レ應酬致シ、而シテ確定致シタ  
 ノガ、ツイ昨日ノ事ニ屬シテ居ルノデアアル、然ルニ拘ラズ、議院ノ事務局ニ於テ——議長ノ御  
 手ニ於テ昨日吾ミガ退院致シテカラ、午後五時ニ始メテ吾ミノ文書函ニ之ヲ投ジタト云フコ  
 トデアアル、一體何タル事デアリマセウ、若シ事務局ニ於テ誠意ガアルナラバ、何故吾ミ議員ノ手  
 許ニ之ヲ送付セラレヌノデアリマセウカ、而シテ與黨ニ派諸君ガ政府ト盛ニ策應シ、而シテ此議  
 案ノ日程ノ如キ、總テ議院ノ全權ニ屬シテ居ル此事柄ヲ、與黨ノ諸君ト政府ト議長トガ、相互ニ  
 策應致シテ緊急ニ日程ヲ茲ニ掲ゲテ、而シテ吾ミノ言論ヲ抑壓セントスル所ノ行動ニ出デタル  
 コトハ、一體何タル事デアリマセウカ、私共ハ此點ニ於テハ諸君ト共ニ、此議員ノ言論ノ自由ヲ  
 發揮スル爲ニ、諸君モ蓋シ吾ミト同様ニ相當ノ御防衛權ヲ有スルモノデナケレバナラヌモノト  
 思フノデアリマス、此意味ニ於テ、諸君ハ自分等ノ持ッテ居ル所ノ言論ノ自由權ヲ自ラ縮小セン  
 トスルノハ、何タル事デアリマセウカ、吾ミハ此成田君ノ動議ナルモノハ、議院政治ノ根本問題  
 ニ屬シ、吾ミノ審議權ノ言論ノ自由ニ關シテ、重大ナル動議デアアルト心得ルノデアリマス、必ズ  
 ヤ諸君モ同意セラレテ斯ル小策ヲ弄スルコトナク、正々堂々ト此普選ナルモノガ、今日天下ノ輿  
 論デアアルナドト云フコトヲ諸君ハ常ニ申シテ居ルニ拘ラズ、斯ノ如キ大法官——法案ヲ提出ス



ルニ當ツテ、斯ノ如キ小策ヲ弄シテ、唯時間ヲ爭フコトヲ爲スノデアアルカ、一面ニ於テ諸君ハ諸君自身ノ言論ノ自由權ヲ自ラ縮小シ、而シテ諸君ハ政府ノ手先トナリ、斯ノ如キ策ヲ弄シテ、今日ノ上程ヲ爲スト云フコトハ何タル事デアリマスカ、吾々ハ斷ジテ斯ノ如キ惡例ヲ後日ニ貽シタクナイノデアアル、吾々ハ斷ジテ我が議院政治ノ爲ニ、斯ノ如キ惡例ヲ再ビ三タビスルコトヲ斷ジテ許サナイノデアアル、私共ハ前日ニ於テ既ニ此苦手ハ彼ノ治安維持法ナルモノニ於テ十分ニ嘗メサセラレタルデアアル、然ルニ今日更ニ又此手ヲ以テ吾々ノ言論ヲ抑壓シ、議員ニシテ議院法ヲ蹂躪セントスル所ノ遣方ニハ、斷ジテ首肯スルコトハ出來ナイ者デアアル、諸君ハ必ズ我が議院政治ノ爲ニ、憲法政治ノ爲ニ、此成田君ノ動議ナルモノニハ、滿腔ノ贊成ノ意ヲ表セラレルモノト考ヘルノデアリマス

小山松壽君ノ反對意見

只今成田君ノ日程ヲ延期スベシトノ動議、及原君ノ贊成ニ對スル御説ヲ承リマシタガ、本案ハ國民大多數ノ要望セル重大ナルモノデアリマス、之ヲ阻止セントスル不誠意ノ動機ニ基クモノナルガ故ニ、絶對ニ反對スル者デアリマス、而シテ緊急上程ハ是レ國民ノ要望ニ副フモノデアリ、且ツ衆議院規則第八十八條ノ但書ニ依ル緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズト規定サレタル所ニ依リ、吾々ハ六千萬國民ノ爲ニ此動議ニ反對シテ、速ニ議事ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

次テ採決ニ付テハ記名投票ノ要求アリシヲ以テ記名投票ニ依リ表決ノ結果二百六十四ニ對スル九十七ノ少數ニテ否決セラル仍テ加藤内閣總理大臣ハ左ノ如ク其ノ趣旨ヲ辯明セリ

諸君、恭ンデ考ヘマスルニ、先帝ガ維新ノ宏謨ヲ定メ給ヒタルヨリ、我國諸般ノ施設ハ實ニ驚クベキ速度ヲ以テ進ンダノデアリマス、明治五年ニハ學制ガ頒布セラレ、六年ニハ徵兵令ニ依リ國民皆兵ノ制ガ創始セラレ、八年ニハ元老院及地方官會議ガ設ケラレ、十四年ニ至ツテハ國會開設ガ宣布セラル、等、其革新ノ程度ハ眞ニ世界史乘類例ノ稀ナル所デアリマシテ、遂ニ明治二十二

年ヲ以テ大憲ガ制定セラレ、愈立憲ノ制ガ實施セラル、コト、ナツタノデアリマス、恭ク按ジマスルニ、憲法御制定終極ノ御趣旨ハ廣ク國民ヲシテ大政ニ參與セシメラレ、周ネク國民ヲシテ國家ノ進運ヲ扶持セシメラル、ニ在リト信ジマス、學制頒布以來實ニ五十餘年ヲ經マシタル今日ニ於キマシテハ、國民ノ知見モ大ニ進ミ國民教育ノ普及並ニ程度ニ至ツテハ、世界列強ニ比シテ別ニ遜色アリトモ考ヘラレナイノデアリマス、徵兵令ニ依ル國民皆兵ノ制ガ行ハレテ以來亦五十年、其間數回ノ對外戰爭ヲモ經、廣ク國民ハ義勇奉公ノ誠ヲ致シ、國家防護ノ責ヲ盡スノ實蹟ヲ舉ゲタト見ルニ十分ナリト信ズルノデアリマス、將又地方自治ノ創始以來、國民ガ政治的試練ヲ經タル事、是亦五十年ニ近イノデアリマシテ、政治的責任ノ自覺及其普及ニ至リマシテモ、洵ニ徹底セルモノアリト認ムルノデアリマス、近時ニ至リ普通選舉制ノ鬱然トシテ輿論ノ大勢ヲ爲スニ至リマシタコトハ、洵ニ偶然デナイト申サナケレバナリマセヌ、政府ハ此時代精神ノ趨向ニ鑑ミ、廣ク國民ヲシテ國家ノ義務ヲ負擔セシメ、周ネク國民ヲシテ政治上ノ責任ニ參加セシメ、以テ國運發展ノ衝ニ膺ラシムルガ、刻下最モ急務ナリト認メタノデアリマス、斯ル趣旨ヨリ致シマシテ、普通選舉制ヲ骨子トスル衆議院議員選舉法改正案ヲ提出致シタ次第デアリマス、偕又近時ノ選舉ヲ實見致シマスルニ、各種ノ惡弊百出シ殆ド其極ニ達シタカト見ラル、程デアリマス、斯ノ如クニシテ改ムル所ナクンバ、適才ハ候補タルコトヲ忌避スルニ至リ、隨テ議員全般ノ品位低落トナリ、憲政前途ノ爲メ寔ニ憂慮ニ堪ヘナイ所デアリマス、就中選舉費用ノ濫増ハ最モ著シキモノ、一ツデアリマス、政府ハ此等弊害ヲ矯正シテ選舉ノ公正ヲ期スルノ途ヲ樹テ、選舉費用ノ低下ヲ圖ツテ、選良ヲ衆議院ニ網羅スルノ方ヲ講ズルハ、立憲政治ヲシテ健全ナル發達ヲ遂ゲシムル所以ナリト信ジ、此等ニ關シ現制ニ對シ根本的的改革ヲ施スノ必要ヲ認メタノデアリマス、此等ノ趣旨ヲ以テマシテ、衆議院議員選舉法全般ニ渉ル改正案ヲ提出致シマシタ、何卒御審議ノ上御協賛ヲ乞フ次第デゴザイマス

若槻内務大臣ノ趣旨辯明



諸君、只今、本案提出ノ理由ハ總理大臣ヨリ述ベラレタノデアリマス、併ナガラ衆議院議員選舉法ノ改正ハ事甚ダ大切デアリマス、故ニ稍其内容ニ立至ッテ御說明ヲ申上ケルコトガ、全ク無用ノ業デナイト存ジマス、衆議院議員選舉法ハ、明治二十二年二月十一日帝國不磨ノ大典タル大日本帝國憲法ノ宣布セラレ、ト同時ニ、同日法律第三號トシテ初テ公布セラレタノデアリマス、次デ明治三十三年三月ニ至リ、其全部改正ガ行ハレ、爾來十有餘年ノ間明治三十五年、明治四十一年及明治四十三年一部ノ改正ガ行ハレマシタケレドモ、特ニ重要ナリト認ムベキ大改正ヲ加ヘラレタコトハ無カッタノデアリマス、大正改元初頭ノ頃ヨリ世運ノ推移ニ伴ヒ、選舉法改正ノ必要大ニ朝野ノ間ニ主張セラレ、ニ至リマシテ、遂ニ大正八年六月選舉權及選舉區制等ニ付テ、重要ナル改正ガ行ハレタノデアリマス、併ナガラ時勢ノ進運ト國民ノ政治的思想ノ發達トハ、更ニ選舉法ノ改正ヲ要求スルコトガ頗ル切實ナルモノガアルノデアリマス、仍テ政府ハ此際内外ノ情勢ニ鑑ミ、又從來ニ於ケル選舉ノ實蹟ニ徵シテ、衆議院議員選舉法ノ全部ニ涉ッテ其改正ヲ行ハントスルノデアリマス、惟フニ現行衆議院議員選舉法ニ付テハ、選舉資格、被選舉資格、及選舉區制ハ固ヨリ、其他選舉方法、選舉運動ノ取締及罰則等ニ關シテ、改正ノ必要ノアルモノガ少クアリマセヌ、政府ハ是等ノ諸點ニ關シ、本法案ニ於テ大體適當ナル改正ヲ圖リ得タト信ジテ居ルノデアリマス、本法案ニ於テ改正ヲ爲サントスル要點ハ、大凡次ニ述ベマスヤウナ所デアリマス、第一選舉權ニ付テ申上ゲマス、選舉資格中其納稅ニ關スル要件ヲ撤廢致シマシタ、是ハ所謂普通選舉ヲ施行セントスルモノデアリマシテ、蓋シ今回ノ選舉法改正ノ最大眼目デアアルノデアリマス、凡ソ立憲政治ノ運用ハ、成ベク多數ノ國民ヲシテ國政ニ參與セシメ、國民ノ意思ニ聽キテ政務ノ進展ヲ期スルヲ以テ其本義ト致シマス、而シテ其國民ヲシテ國政ニ參與セシメル途ハ、選舉ノ手段ニ依ルノガ根本デアリマス、併ナガラ國民ノ政治能力未ダ進マズ、憲法政治ノ運用尙ホ練熟ノ域ニ達シテ居リマセヌ時代ニ於テ、納稅ニ關スル選舉資格ノ制限ヲ設ケテ、以テ議會制度ノ穩健ナル運用ヲ期スルノハ、固ヨリ適當ノ處置デアリマスケレドモ、教育ノ普及及其他時勢ノ進運ニ伴ヒ、國民ノ政治的能力竝ニ訓練ガ亦相當ニ進歩セリト認メラルベキ今日ニ於キマシテ、

單ニ納稅ナル事實ヲ以テ國民參政能力ノ有無ヲ判斷スルノ標準ト致シマスコトハ、全ク其理由ヲ發見スルニ苦ム所デアリマス、隨テ本改正案ニ於テハ、特別ノ事由ニ基キテ缺格者タラシムベキ者ヲ除キマス外、苟モ帝國臣民タル滿二十五年以上ノ男子ハ、總テ選舉權ヲ有スルコト、致シテ、衆議院議員ノ選舉ニ關シテハ、各自其意思ヲ國政ノ上ニ述ブルノ機會ヲ與ヘタノデアリマス、是レ我が國情ニ照シ、最モ適切ナル處置デアルト信ジマス、其結果選舉有權者ノ數ハ、現行選舉法ニ依リマス所ノ有權者ハ、三百三十四萬餘人デアリマスノニ對シマシテ、約千四百十五萬人程トナリマス、其普及ノ割合ハ人口百人ニ對シテ、現行法ニ於テハ百人ニ對スル六人デアリマスモノガ、改正法ニ於テハ百人ニ對シテ二十五人トナルノデアリマス、世間往々所謂納稅要件ノ無條件撤廢ヲ以テ、急激ニ過グルノ改正デアルトシテ論議ヲ試ムル者ガ無イノデアアリマセヌケレドモ、其人口ニ對スル有權者ノ割合ハ、外國ノ事例ニ較ベテ見マスト、外國ニ於テハ尙ホモット多キモノガ多イノデアリマス、住所ニ關スル要件ハ、選舉資格中カラ除キマシテ「住所」ヲ「住居」ト改メテ、選舉人名簿ニ登載セラレ、場合ノ條件トスルコトニ致シマシタ、惟フニ住居ニ關スル要件ハ、選舉權享有ノ資格ト爲サズシテ、是ガ行使ノ要件トシマスコトガ、寧ロ其性質ニ合スルモノト認メラル、ノデアリマシテ、而シテ同一市町村内ニ六箇月以上ノ住居ヲ有シマスルコトヲ必要ト致シマシタノハ、選舉人名簿調製ノ正確ヲ期シ、延テ公正ナル選舉ノ實行ヲ望ムガ爲ニ、此程度ノ條件ヲ存スルノガ緊要デアルト認メタガ爲デアリマス、現行法ニ「住所」トアリマスノ「住居」ト改メマシタノハ、單ニ法律上ノ抽象觀念デアリマス所ノ、住所ヲ以テ名簿登錄ノ要件ト致シマスルヨリハ、住居ト云ヘル具體的ノ標準ヲ捉ヘテ、之ヲ以テ名簿登錄ノ要件ト致シマシタガ、却テ便宜デアルト爲スベキガ故デアリマス、學生生徒ニ對シテモ、亦此現行法ノ制限ヲ撤廢シテ、選舉權ヲ附與スルコト、致シマシタ、蓋シ年齢二十五年ニ達シ、相當ニ思慮智能ノ發達シマシタ者デアリマス限リハ、其學生生徒ナルガ故ニ選舉權ヲ制限スルノ理由ニ乏シイト存ジマス、普通ニ學歷ヲ經テ行キマス者ニ在ッテハ、年齢二十五年ニ達スレバ、既ニ多クハ學校ヲ卒業スルノデアリマス、且ツ特ニ夜學等ニ通學スル篤學ノ士ニ對シテ、其選舉權ヲ制限スル



ガ如キハ、普通選舉ノ趣旨ニ反スルモノトモ申スコトガ出來ルト思フノデアリマス、第二ニハ被選舉權ニ付テ申上ゲマス、被選舉權ニ付テモ亦相當ノ改正ヲ加ヘマシタ、即チ從來ノ被選舉資格者デアリマス所ノ學生生徒ニ對シテ、被選舉權ヲ與ヘルコト、致シマシタガ、其理由トスル所ハ是等ノ者ニ選舉權ヲ附與シマシタ理由ト略同一デアリマシテ、學生生徒デアアルノ故ヲ以テ、特ニ他ノ一般國民ト之ヲ區別ヲ致シテ、被選舉權ヲ與ヘザルノ理由ガ無イカラデアリマス、次ニ神官神職、僧侶、其他諸宗教師、小學校教員ニ對シテモ被選舉權ヲ與フルコトニ改正致シマシタ、從來是等ノ者ノ被選舉權ヲ制限シテ居リマシタ理由ハ、是等ノ者ヲシテ専心其職務ニ當ラシメントスルコト、其職務ニ隨伴スル不當勢力ヲ利用シテ、選舉ノ公正ヲ害スルガ如キコトナカラスル程ニマデ相成リマシタ今日ニ於テ、是等ノ者ノ不當ノ勢力ニ依テ選舉ノ公正ヲ害セラルベシトモ思ハレナイノデアリマス、且ツ職務ニ専心スベキ者ハ、必シモ神官僧侶等ニ限ラヌノデアリマスカラ、是等ノ者ノ被選舉權ヲ制限スル理由ハ、既ニ其根據ニ乏シイモノト申スコトガ出來ルデアラウト思ヒマス、ソレ故ニ選舉權ノ擴張ニ伴ウテ、被選舉權ノ範圍ニ付テモ、必要ナル程度ニ之ヲ擴張セントスル方針ニ基キマシテ、是等ノ者ニ對スル被選舉權ノ制限ハ之ヲ撤廢スルコト、致シマシタ、政府ニ對シ請負ヲ爲ス者ニ對シマシテモ、亦一般ノ者ト同様ニ被選舉權ヲ與フルコトニ改正ヲ致シマシタ、蓋シ政府ニ對シ請負ヲ爲シマス者ノ被選舉權ヲ制限致シマシタ理由ハ、是等ノ者ガ議員タルニ於テハ、其請負者タルノ立場上、或ハ公正ナル意見ヲ發表シ能ハザルコトガアルデアラウシ、或ハ議員タルノ地位ヲ利用シテ、不正ヲ圖ル等ノ事アラント慮タガ爲デアリマセウケレドモ、會計法規等ノ完備セル今日ニ於テ、斯ノ如キ危險ハ大ニ減少セリト信ジテ居リマス、隨テ是等ノ者ノ被選舉權ノ制限ハ之ヲ撤廢スルコトニ致シマシタ、選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ、在職中ニ限リ被選舉權ヲ有セシメザルコトニ改メマシタ、現行法ノ如ク職務ヲ罷メマシタル後ニ於テモ、尙ホ一定ノ期間是等ノ者ノ被選舉權ヲ制限致シマスコトハ、其必要ガ無イト認メテ居リマス、且ツ一面ニ於テ是等ノ者ガ在職ノ儘選舉運動ヲ致シマスコトハ、

之ヲ嚴禁スルコトニ致シマシタノデアリマスカラ、ソレ故ニ是ガ改正ヲ加ヘマシテモ、其間何等ノ弊害ナキモノト信ジマス、現行法第十五條ノ官吏ノ上ニ、植民地ノ司法官及陸海軍法務官等ヲ加ヘマシテ、是等ノ官吏ハ其在職中選舉權ヲ有タナイコトヲ明ニ致シマシタノデアリマスガ、是ハ單ニ現行法ノ規定ノ趣意ヲ明確ニ致シマスト共ニ、新ニ同性質ノ官吏ヲ加ヘテ其意義ヲ擴充セルダケデアリマス、其他ノ一般ノ官吏及待遇官吏ニ關シマシテハ、被選舉權ヲ奪ヒマス理由ハ無イト存ジマスケレドモ、法律ニ列舉致シマス所ノ政務官ヲ除クノ外ハ、議員トノ兼職ヲ許サザルコト、致シテ以テ、弊害ノ發生ヲ防止セントコトヲ期シマシタ次第デアリマス、然レドモ政務官ニ至ッテハ、其性質ニ鑑ミテ、特ニ議員トノ兼職ヲ認メル方ガ寧ロ必要デアリト認メタノデアリマス、第二ニハ選舉區ニ付テ申上ゲマス、選舉區ニ付テハ現行ノ小選舉區制ヲ廢シマシテ、府縣ヲ基礎トシテ、之ヲ議員定數三名乃至五名ノ選舉區ニ分割致シマシタコト、即チ所謂中選舉區制ヲ採用致シマシタコトハ、重大ナル改正ノ一點デアリマス、大小選舉區制ニ付テハ、既ニ屢議論セラレタルガ如ク、各利弊長短ヲ存シテ居リマス、而シテ既ニ我國ニ於キマシテハ、此兩者ヲ實施シタ經驗ヲ持ッテ居リマスケレドモ、何レモ適當且ツ十分デアリト謂ヒ難イト存ジマス、ソレ故ニ今回ノ改正ニ於テハ、兩者ノ長所ヲ採ッテ其短所ヲ除キ、新ニ中選舉區ノ制ヲ採用セントスルノデアリマス、而シテ其標準トシテ、一選舉區ニ相當スベキ議員ノ數ハ之ヲ三名乃至五名ト定メマシテ、二名以下又ハ六名以上ト云フガ如キ例外ノ選舉區ヲ設ケナカッタノハ、中選舉區ノ主義ヲ徹底センガ爲デアリマス、又人口ニ對スル議員ノ配當標準ヲ定メマスノニハ、現在ノ議員定數ニ成ベク増減ナカラシムルノ目的ヲ以テ、各府縣ニ付テ人口十二萬人ニ付キ議員一人ヲ配當スルノ割合ヲ定メマシタ、其結果議員定數ガ四百六十六名トナリマシテ、現在ニ較ベテ唯二人ノ增加ニナルノデアリマス、次ニ市及島嶼ノ獨立選舉區ノ制度ヲ撤廢致シマシタ、既ニ選舉區制ノ根本主義トシテ中選舉區制ヲ採用致シマシタ以上ハ、市及島嶼ノ獨立選舉區制ヲ存置スル理由ガ無イノデアリマス、又選舉區ハ原則トシテ地方代表、又ハ利益代表ノ意味ヲ持ッベキモノデナイノデアリマスガ故ニ、特殊ノ事情ノナイ限り、市部又ハ島嶼ノ特別ナル地位ヲ代表スルノ意味ア



ル選舉區制ヲ存置スベキモノニ非ズト考ヘタノデアリマス、且ツ假ニ或ル程度ノ利益代表ノ觀念ヲ認メルコトガ正當デアリト致シマシテモ、市及島嶼ノ獨立選舉區制ニ依テ、此目的ヲ達成シ得ルヤニ付テハ疑ガアルト存ジマス、第四ハ選舉ノ方法ニ付テ申上ゲマス、選舉ノ方法ニ付テハ新ニ選舉ノ期間ヲ短縮スルノ規定ヲ設ケマシタ、蓋シ斯ノ如キ規定ヲ設ケマシタノハ、長ク世間ヲ選舉競争ノ裡ニ置キマスコトノ弊ヲ少カラシムルコト、且ツ一面ニ於キマシテハ選舉期間ノ短縮ニ依リマシテ、選舉運動ノ費用ヲ減少セシメントスルノ趣意デアリマス、即チ解散ノ場合ニ在リマシテハ、解散ノ日ヨリ三十日以内ニ總選舉ヲ行フコト、致シ、其他ノ場合ニ在リマシテモ、是ト同一ノ趣旨ヲ採用シテ期間ノ短縮ヲ企テマシタ、開票區ニ關スル規定ヲ設ケマシタコトハ、普通選舉ヲ實施シテ且ツ中選舉區制ヲ設ケマシタル結果、各選舉區内ノ有權者數ガ大ニ増加致シマシテ、且ツ選舉會場ハ各投票所ト相當遠隔ノ地ニ設ケラルベキコトニナリマスニ付キマシテ、郡、市ヲ區域トスル所ノ開票區ノ制ヲ設ケマシテ、開票ニ關スル手續上ノ便宜ヲ圖ツタノデアリマス、立會人ノコトヲ申シマスガ、從來立會人ノ選任ニ付テハ、屢紛争ヲ醸シマシテ、選舉ノ公正ヲ疑ハシメルノ論議ヲ招イタコトデアリマスカラ、此度ハ投票立會人、開票立會人及選舉立會人ハ、議員候補者カラ之ヲ届出シメルコトヲ原則ト致シタノデアリマス、蓋シ是等ノ立會人ノ職務ハ選舉ノ公正ヲ期スルト共ニ、各議員候補者ト極メテ大ナル利害關係ヲ持ツテ居ルモノデアリマスルガ故ニ、議員候補者カラ之ヲ届出シメルコト、スルノガ最モ適切デアルト考ヘタノデアリマス、盲人ノ投票ニ付テ此度ハ點字ノ投票ヲ認メマシタ、又航海中ニ在リマスル者ノ如キ、不在者ノ投票ニ關シテ相當ノ方法ヲ設ケルコトガ、選舉權ノ行使上極メテ緊要ナル事ヲ感ジマシテ、新ニ之ガ規定ヲ設ケタノデアリマス、而シテ其投票ノ範圍及方法等ノ細目ニ關シテハ、勅令ヲ以テ之ヲ定ムル考デアリマス、又本當ニ當選ノ目的ヲ持タズシテ、漫然トシテ立候補ノ聲明ヲ爲シテ、當選ヲ萬一ニ僥倖セントスルヤウナ者ガアツタリ、又ハ他人ノ當選ヲ妨害セントスル等ノ目的ヲ以テ、選舉ヲ利用スルヤウナ者ガアリマスコトハ、近時往々選舉界ニ見ル所ノ弊害デアリマスルガ故ニ、新ニ議員候補者ニ關スル届出制度ヲ設ケテ、專ラ此弊ヲ矯正セントスルコト

ニ致シマシタ、又議員候補者ガ届出ヲ爲シマス同時ニ、二千圓又ハ之ニ相當スル額面ノ國債證書ヲ供託セシメマシテ、其供託物ハ當該議員候補者ノ得票數ガ其選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シマシテ得タル數ノ十分ノ一ニ達セヌトキニハ、之ヲ政府ノ所得ニ歸シテシマフコトニ致シマシタ、又當該議員候補者ガ、選舉期日前十日以後ニ於テ立候補ヲ辭シマシタトキモ、亦其供託物ハ之ヲ政府ノ所得ニ歸スルト云フコトニ致シマシタ、是モ亦立候補ヲシテ最モ慎重ナラシメ、所謂泡沫候補者ノ輩出ヲ防止セントスルノ趣意ニ外ナラヌノデアリマス、各選舉區ニ於キマシテ、議員候補者ノ數、選舉スベキ議員ノ數ヲ超エマセヌ時ニ於テハ、投票ヲ行ハズシテ直ニ其議員候補者ヲ以テ當選人トスル事ニ致シタノデアリマスガ、斯ノ如キ場合ニ於テハ、其候補者ガ當選人トナリマスコトハ寔ニ明カデアリマスカラ、成ベク選舉ノ手續ヲ簡略ニシテ、不必要ナル投票ノ手續ヲ省略セントスル趣意デアリマス、又法定得票數ノ計算方法ヲ改メマシテ、其選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一ヲ以テ、法定得票數ト致スコトニ致シタノデアリマス、是ハ選舉權ノ擴張ニ伴ヒマシテ、一時或ハ棄權者ノ率ノ増加スル虞ガアリマス、現行法ノ如ク棄權者ノ數ヲ度外視シテ居リマス法定得票數ノ計算ノ方法ハ、又適當トモ認メ難イノデアリマス、隨テ改正法ニ於キマシテハ、各選舉區ニ於ケル有效投票ノ總數ヲ基礎トスルノ主義ヲ取リマシテ、之ニ從來ニ於ケル選舉ノ實績ヲ考慮シテ有效投票ノ總數ヲ議員ノ定數ニテ除シテ、仍テ得タル數ノ四分ノ一ト致スコトニ致シタノデアリマス、補闕選舉又ハ再選舉ヲ行フ場合ニ關シマシテ、或種ノ制限ヲ設ケマシタ、即チ議員ノ闕員ガ二人ニ達スルマデハ補闕選舉ヲ行ハヌコトニ致シマシタ、又議員ノ任期終了前六箇月以内ニ、當選人又ハ議員ニ闕員ヲ生ジマシテモ、再選舉又ハ補闕選舉ヲ行ハナイコトニ致シマシタ、之ガ爲メ必シモ代議制度ノ運用ニ著シキ支障ヲ生ズルモノトモ認メ難イノデアリマス、又斯ノ如キ任期滿了ニ近イ期間ニ至リ選舉ヲ行ヒマシテモ、其效果ハ極メテ少イカラ、斯様ナ改正ヲ致シタノデアリマス、又當選承諾届出期限前ニ、當選人又ハ議員ニ闕員ヲ生ジマシタルトキハ、法定數以上ノ得票アル次點者ヲ以テ之ヲ補充スルノ制度ヲ設ケマシタルコトモ、亦成ベク選舉ノ煩



ヲ省略セントスルノ趣意ト、一面ニ於テハ此期間ハ選舉ノ結果ガ尙ホ未ダ十分ニ確定セナイ期間デアリマスガ故ニ、此期間ニ限ッテ次點者ヲ以テ補充ヲ致シマス制度ヲ認メマシテモ、敢テ不可デナイト考ヘタカラデアリマス、當選人ガ選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ失ヒマシタトキハ、其當選ヲ失ハシムルコト、致シマシタ、蓋シ被選舉權ナキ者ハ初メカラ當選人トナルコトガ出來ヌノデアリマスカラ、當選後被選舉權ヲ喪失シタル者ハ、之ヲ失格者ト爲シマスコトハ、洵ニ當然ノ次第デアルカラデアリマス、而シテ一定ノ期間内ニ失格シタル場合ニ於テ、別ニ選舉ヲ行フコトナクシテ、次點者ヲ以テ之ガ補充者タラシムルコトハ、弊害ガナクシテ却テ便宜ナル方法デアルト思フノデアリマス、第五ニハ訴訟ニ付テ申上ゲマス、選舉ノ結果ヲシテ成ベク速ニ確定セシメルコトハ、最モ望マシイ事デアアルデアリマス、仍テ現行法ノ二級審制ヲ改メマシテ、選舉訴訟及當選訴訟共ニ、第一審ニシテ終審トスルコトニ致シテ、之ヲ大審院ノ管轄ニ屬セシムルコトニ致シタノデアリマス、次ニ選舉運動費用ノ制限超過ノ爲ニ、當選人ノ當選ガ無効トナル場合ニ關スル訴訟ヲ認メマシタノハ、選舉運動費用制限ノ趣旨ヲ徹底センガ爲デアリマシテ、而モ運動費用ノ制限超過ノ爲メ當選人ノ當選ヲ無効トスルカ否ヤト云フコトハ、裁判ヲ以テ決定スルノガ最モ穩當ノ手續デアルト思ハレルカラデアリマス、第六ニハ選舉運動及其費用ノコトニ付テ申上ゲマス、選舉運動及其費用ニ付テハ、新ニ第十章選舉運動、第十一章選舉運動ノ費用ナル第二章ヲ設ケタノデアリマスガ、選舉犯罪ノ誘發ヲ未然ニ防止シ、選舉ノ公正ヲ保持セントスルト共ニ、選舉運動ノ費用ヲ制限シヤウトスル趣意カラ、此第二章ヲ設ケタノデアリマス、選舉ノ公正ヲ保持センガ爲ニハ、或ハ選舉事務所及選舉運動者ノ數ヲ限定シ、選舉運動員ノ資格ヲ制限シ、選舉ノ當日ニ投票所附近ニ休憩所ヲ設ケテ氣勢ヲ揚ゲルコトヲ禁止シ、或ハ奇矯ナル宣傳方法ヲ用ユルコトナカラシメンガ爲ニ、適宜ノ制限ヲ設ケ得ルノ途ヲ開キ、又選舉運動ハ主トシテ言論、文章ニ依ルノヲ以テ最モ適當ナリト認メラレルガ故ニ、此方面ニハ成ベク多クノ自由ヲ留保スルヤウニ致シ、並ニ戶別訪問ヲ全然禁止スルコトニ致シタノデアリマス、選舉運動ノ費用ハ選舉ノ回数ヲ加フル毎ニ著シク増加ノ傾向デアリマス、若シ現狀ノ儘デ推移シテ行キマスナラバ、將來選

舉運動ハ一層激甚トナリ、其爲ニ消費スル費用モ愈膨脹スルコトニナラウト思ハレマス、殊ニ資力ノ乏シイ候補者ハ、假令其人格、識見ニ於テ卓越スル所ガアリマシテモ、資力ノ富裕ナル候補者ニ壓倒セラレルニ至ルコトデアラウト思ハレマス、斯ノ如キ資力ノ競争ハ、決シテ公正ナル選舉競争ト申スコトガ出來ヌノデアリマス、ソレ故ニ新ニ規定ヲ設ケテ、選舉運動ノ費用ヲ直接間接ニ制限致シマシタ、其直接ニ之ヲ制限スル規定ト致シマシテハ、選舉運動ノ費用ニ最大限度ヲ定メタノデアリマス、其之ヲ間接ニ制限スルコトノ規定ト致シマシテハ、選舉事務所ノ數ニ制限ヲ設ケ、休憩所其他ノ設備ヲ禁止シ、選舉ノ當日ハ投票所附近ニ事務所ヲ設クルコトヲ禁止、及選舉運動員ノ資格並ニ數ヲ限定シタノデアリマス、而シテ法定ノ選舉運動員ニ限リマシテハ、選舉運動ノ爲ニ要スル實費ノ支給、又ハ報酬ヲ受クルコトガ出來ルヤウニ極メマシタ、又候補者及法定ノ選舉運動員以外ノ第三者ハ、演說ヲスルカ又ハ推薦狀ヲ出シマスコトハ、宜イノデアリマスルケレドモ、演說ト推薦狀ノ外ハ、選舉運動ヲ爲スコトモ、又選舉運動ノ費用ヲ出スコトモ、共ニ之ヲ嚴禁スルコトニ致シマシタ、而シテ法律ニ定メタル制限額ヲ超過シテ選舉運動ノ費用ヲ支出致シマシタトキニハ、場合ニ依テ其議員候補者ノ當選ヲシテ無効ナラシメテ、以テ選舉運動ノ費用ヲ制限セントスル目的ノ貫徹ヲ期シタノデアリマス、更ニ或ル範圍内ニ於テ、選舉運動ノ爲ニハ學校等ノ公共造營物ヲ使用スルコトヲ認メマシタシ、又郵便物ノ無料發送ヲ認メマシタコトモ、亦選舉運動費ヲ減少セントスルノ趣意デアアルデアリマス、而シテ選舉運動ノ費用ヲ制限致シマシタコト、其モノガ、一面ニ於テハ、又選舉犯罪ノ誘發ヲ未然ニ防止セントスルノ意ヲ含ンデ居ル次第デアリマス、第七ニハ罰則ニ付テ申上ゲマス、罰則ニ付テハ、現行法所定ノ罰則規定ハ全部之ヲ存置シテ居リマシテ、更ニ必要ナル追加ヲ之ニ加ヘマシタコト、並ニ必要ナル改正ヲ加ヘタノデアリマス、即チ近時選舉界ニ於ケル違法行爲ガ益多キヲ加フル傾向ノアルノニ對シマシテ、之ニ對スル現行法所定ノ刑罰ハ、輕キニ過ギル嫌ガアリマス、故ニ新法ニ於テハ、概シテ其刑ヲ重ク致シマシテ、取締ノ效果ヲ徹底セシメンコトヲ期シタノデアリマス、現行法第八十七條ハ條文煩瑣デアリマスカラ、之ヲ改正シテ其趣旨ヲ平易ニ規定致シマシタノミナラズ、新法實施ノ曉、議



員候補者ヲシテ利益ニ依テ其進退ヲ二三ニスルノ弊ナカラシメルガ爲ニ、特ニ此種ノ犯罪ヲ區別シテ條文ヲ設ケマシタ、次ニ利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲ス犯罪ニ付テハ、特殊ノ直接利害關係ト云フ文字ヲ使ヒマシテ、其意義ヲ明瞭ニ致シタノデアリマス、新法實施ノ曉ニ於テハ、選舉運動ハ專ラ言論ニ依ルコト、ナルノデアラウト存ジマスガ故ニ、言論ノ自由ヲ保護スルガ爲ニ、之ヲ妨害スル行爲ヲ嚴重ニ取締ルコトニ致シマシタシ、又一面從來ノ規定ニ加ヘテ、議員候補者ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ其資格、經歷ニ付テ虛偽ノ事項ヲ公ニシテ、選舉人ヲ欺クノ行爲ヲモ處罰スルコトニ致シタノデアリマス、現行法ハ當選人ガ其選舉ニ關シテ罰則違反ノ行爲ヲ致シマシテ刑ニ處セラレタルトキハ、其當選ヲ無効トスルコトニナツテ居リマスガ、改正案ニ於キマシテハ、更ニ選舉事務長ガ或種ノ選舉犯罪ニ依リ刑ニ處セラレマシタルトキハ、其當選人ノ當選ヲ失ハシムルコトニ致シマシタ、是ハ專ラ選舉行爲ノ公正ヲ庶幾セントスルノ趣旨ニ外ナラヌノデアリマス、選舉犯罪ニ依リマス所ノ選舉權、被選舉權ノ停止ニ關シマシテハ、單ニ衆議院議員ノ選舉權被選舉權ニ止メマセヌデ、廣ク道府縣會議議員、市町村會議議員等選舉ニ付テ、本法罰則ノ規定ヲ準用スル議會ノ議員ノ選舉權、被選舉權ニモ及ボスコトニ致シマシタ、是ト共ニ一面裁判所ハ情狀ニ依リ判決ニ於テ右禁止ヲ爲サナイト云フコトモ出來マス、又禁止ノ期間ヲ短縮スルト云フコトノ言渡ヲ爲スコトガ出來ルヤウニシタノデアリマスガ、之ニ依テ以テ選舉ニ關スル犯罪ノ剽滅ヲ期スルト共ニ、且ツ一面ニ於テハ各場合ニ付テ、時宜ニ適セル適切ノ判決ヲ爲サシメヤウトスルガ爲デアリマス、選舉犯罪ノ時効ノ期間ハ、現行法ニ於テハ、總テ六箇月ニナツテ居リマスガ、或種ノ犯罪、即チ投票ノ偽造、或ハ其數ノ増減ノ如キ、多クハ官吏ト共謀ノ上ニ行フ犯罪ニ付テハ、時効ノ期間ヲ一年ニ延バシマシタ、其他逃亡犯罪人ニ付テモ時効ノ期間ヲ一年ニ致シマシタ、併シ其他ノ選舉犯罪ノ時効ハ、總テ現行法通り六箇月デ以テ時効ニ係ルコトニナツテ居ルデアリマス、以上ノ外新法ニ於テハ、新ニ選舉運動ノ費用ノ二章ヲ設ケマシテ、是等事項ニ關スル各種ノ取締規定ヲ制定致シマシタルガ故ニ、其趣意ヲ受ケマシテ、是等取締規定ノ違犯者ヲ處罰スル規定數條ヲ設ケテ、以テ選舉取締ノ效果ヲ全カラシメルコトニ致シタノデアリマス、第八

ハ本法施行時期ニ付テ申上ゲマス、新法ハ之ヲ次ノ總選舉カラ施行セント考ヘテ居ルノデアリマス、既ニ時勢ノ進展ニ伴ヒ、且ツ現行法實施ノ經驗ニ徴シ、選舉法全部ニ互ルノ改正ヲ行ヒマシタ以上ハ、是ガ改正ノ根本精神ニ鑑ミマシテ、努メテ其施行ノ時期ノ速カナラシコトヲ期シマシテ、次ノ總選舉ヨリ直ニ之ヲ施行スルノガ、最モ必要ノ事デアルト信ジマス、但シ初メテ本法ニ依リ議員ヲ選舉致シマス場合ニ於テハ、必シモ本法ノ規定ニ依リ難イ場合ガアリマス故ニ、此場合ニ關シテハ、特ニ勅命又ハ勅令ヲ以テ適當ナル措置ヲ爲スコトニ致シテアルノデアリマス、之ガ附則第二項及第三項ノ規定アル所以デアリマス、改正案ノ大體ノ要項ヲ申上ゲレバ、以上陳述説明致シタ通りデアリマス、願ハクハ十分ニ御審議ノ上、本案ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ切望シテ已マザル所デアリマス

右ニ關シ松田源治君、山口義一君、鳩山一郎君、土屋清三郎君、禰苗代君、畔田明君、土屋興君、清水市太郎君、井上孝哉君、古林喜代太君及丸山浪彌君ハ質疑ヲ爲シ加藤内閣總理大臣、若槻内務大臣及鈴木政府委員之ニ應答ス

松田源治君ノ質疑

私ハ此重大法案ニ付テ數個ノ質問ヲ政府ニ致シタイノデアリマス、先ヅ第一ニ若槻内相ノ説明シタル通り、現今ノ有権者三百萬ガ一舉ニシテ千四百萬以上ニナルノデアリマス、即チ四倍以上ノ擴張デアルノデアリマス、立憲政治ナルモノハ、秩序アル發達ヲ平和ニ期スルノデアリマス、斯ル急激ナル、改革ヲシテ、今日思想ガ動搖シテ治安維持法ノ制定ヲ必要トシテ居ル政府ガ、果シテ責任ヲ以テ憲法政治ノ秩序アル發達ヲ爲スコトガ出來ルカドウカ、即チ本案ニ付テハ、第六條ニ、缺格者ヲ除ク以外ハ二十歳以上ノ男子ニ總テ選舉權ヲ附與シテ居ル無制限ノ普通選舉デアリマス、即チ加藤總理ハ私ガ施政方針ノ演說ニ對スル質疑ノトキニ、數年前マデハ獨立ノ



生計ヲ維持ナサレタノデアアル、今日之ヲ撤回シタル理由ハドウデアアルカト聽キマシタ所ガ、ソレハ意義ガ不明デアアルカラ過ヲ改メタノデアアルト稱シテ居ル、又政友會ハ二年前マデ納稅資格撤廢ヲ尙早ト致シテ居ッタデアアリマス、殊ニ小川法相ノ如キハ一年前マデ吾々ト法制審議會ニ於テ、納稅資格ノ撤廢ハ尙早デアアルト云フコトヲ論ジテ、而シテ倉富委員長ガ急速ニシテ之ヲ決スルコトヲ横暴トシテ、法制審議會ノ委員ヲ辭シタヤウナ態度ヲ取ッタデアアル、然ルニ同一内閣ニ列シテ、唯政權ヲ維持センガ爲ニ無條件ノ普選ヲ維持シテ居ルコトハ、私ハ此選舉權ノコトニ付テハ本案ハ餘リ權威ガナイ案デアアルト考ヘルノデアリマス、併シ唯政權維持ノ爲メニ提出サレタ以上ハ、無條件ノ普選、外國ニモ嘗テ無イ、即チ四倍以上ノ大擴張ヲスル此普選案ニ付キマシテ、政府ハ責任ヲ以テ秩序アル憲法政治ノ維持ガ出來ルカドウカト云フコトヲ第一ニ伺フノデアリマス、第二ニハ我國ハ外國ト違ヒマシテ、個人本位ノ國デハナイノデアリマス、即チ家族制度ノ國デアリマス、家族制度ノ國デアアルニ拘ラズ之ニ關スル制限ガ無イノデアリマス、即チ外國ハ個人本位、我國ノ國情國體ハ外國ト全ク違ッテ居ルノデアリマス、此個人本位ノ外國ノ立法例ニ倣テ、サウシテ我國ノ國情國體ニ適合スルヤウナ制限ヲ爲サズシテ、無條件ノ普選ニ爲シタルコトハ如何ナル理由デアアルカト云フコトヲ御尋シタイノデアリマス、申スマデモナク我國ハ忠孝一本ノ國體デアリマス、國體ノ基礎ハ家族制度デアアルノデアリマス、故ニ家族制度ヲ維持セントスルナラバ、之ニ向ッテ家長ナリ又ハ世帯主ノ制限ヲ加ヘルコトハ、最モ必要アリト考ヘルノデアリマス、殊ニ我國ノ淳風美俗ヲ尊重スルガ爲ニ、刑法民法ノ改正ヲ企圖シテ、我國ノ淳風美俗ヲ維持シテ、外國ニ模倣セントスルコトヲ防ガントスル今日デアアル、然ルニ此選舉法ニ於テ我國ノ國體ヲ維持スル基礎ニナッテ居ル家族制度ヲ破壞スルヤウナ、個人本位ノ立法ヲ爲スノハ如何ナル次第デアリマスカ、而シテ此結果一舉ニシテ選舉人ノ數ガ千四百萬ニナル、千四百萬ニナルト云フコトハ急激ノ擴張デアリマス、故ニ吾々ノ主張ノ如ク、漸進的ニ秩序アル所ノ憲法政治ノ發達ヲ期セントスルナラバ、我國ノ家族制度ヲ重ンジテ、家長トカ又ハ世帯主ニ選舉權ヲ與ヘルト云フコトガ、最モ當然デアアルト思フノデアリマス、是ハ家族制度ヲ維持スルノミ

ナラズ、立憲政治ノ基礎ハ責任政治デアアル、即チ義務ノ觀念ガ必要デアアル、責任ガ必要デアアル、世帯主ナル者ハ外ニ向ッテハ一戸ヲ代表スル所ノ責任ガアルノデアアル、内ニ向ッテハ子弟ヲ教養スル所ノ責任ガアルノデアアル、此責任、義務ト權利トヲ兩立セシメテ憲法政治ノ秩序アル發達ヲ期スルト云フ爲ニハ、世帯主ニ制限スルト云フコトガ最モ當然デアアルト思フノデアリマス、即チ今マデノ選舉法ニ於テハ納稅主義ヲ採ッテ居ル、納稅主義ヲ採ッテ居ル以上ハ、原則トシテ世帯主ガ稅ヲ納メテ居ルノデアアル、例外ハ無論アル、ケレドモ、大多數トシテハ家族制度ヲ維持シテ、世帯主ガ納稅シテ居ルト云フコトハ、今日明ナル事實デアアル、然ルニ納稅資格ヲ撤廢スル場合ニ、歐羅巴、亞米利加ノ物質文明——此行詰ッテ居ル所ノ物質文明ニ模倣シテ外國ノ立法ヲ眞似ヲシテ、個人本位ノ立法ヲ爲スト云フコトハ、是レ家族制度ノ破壞デアアルト云フコトヲ唱私ハヘルノデアアル、政府ハ果シテ我が國體ノ基礎タル所ノ家族制度ヲ維持スルニ付テ、如何ナル御考ヲ有シテ居ルノデアアルカ、此點ハ詳細ナル御説明ヲ私ハ望ムノデアリマス、ソレカラ第六條ニ「貧困ノ爲ニ公私ノ救恤ヲ受クル者」ト云フコトガアルノデアアル、是ハ政府ノ原案ニハ初メハ無カッタノデアアル、樞密院ニ於テ斯ル修正ヲ受ケテ政府ガ同意シタノデアリマスガ、頗ル不明ナル文字デアアル、之ガ廣ク解釋サルレバ、無制限ノ普通選舉ハ制限ノ普通選舉ニナルノデアアル、即チ廣ク解釋スレバ「獨立ノ生計」ト同一意味ニナルノデアリマス、此貧困ノ爲ニ公私ノ救恤ヲ受ケルト云フ文字ハ、頗ル不明ノ文字デアリマス、廣義ニ解釋スレバ、此無條件ノ普選ガ有條件ノ普選ニ變ルノデアリマス、此點ニ付テハ内相ノ説明モ詳細ニハアリマセヌデシタガ、果シテ貧困ノ爲ニ公私ノ救恤ヲ受ケルト云フコトハ如何ナル事デアリマセウカ、繼續シテ救恤ヲ受ケルト云フコトニナレバ、或ハ慈善團體カラ繼續シテ救恤ヲ受ケル者トカ、或ハ養育院ニ這入ッテ居ル者ガ缺陷者ニナル、ソレヨリモ廣ク解釋スレバ樞密院ノ初メノ修正ノ「自活シ得サル者」ト同一ニナルノデアリマス、是ハ餘程選舉權ニ關シテハ重大ナル問題デアリマス、之ガ不明ニナレバ選舉人名簿ヲ調製スル所ノ市町村長ガ、選舉人ヲ活スモ殺スモ自由ニナルト云フ所ノ不明ナル條項デアアルト私ハ考ヘ、又廣ク解釋スレバ、政府ノ出シタル無條件ノ普選ニ疵ガ付ク所ノ大缺陷ノアル條項デアアルト